

**令和4年度
ニーズ・シーズマッチング強化事業
事業報告**

令和5年3月

公益財団法人テクノエイド協会

はじめに

障害者の自立を支援する「**障害者自立支援機器**（以下「**支援機器**）」は、ノーマライゼーションの理念に基づき、障害者の活動や参加を促す極めて重要な役割を果たすものであり、障害者のニーズを捉えた製品開発と普及の促進が求められている。

一方、障害者福祉の現場において、真に必要とされる支援機器を開発するためには、機器開発の着想段階からユーザーや支援者の「**ニーズ**」と開発や研究者等の「**シーズ**」をマッチングすることが大切であり、決してシーズ志向型の開発とならないよう、障害者の置かれている状態は勿論のこと、現場の課題やニーズを的確に捉えた支援機器の開発に繋げる取り組みが重要である。

本事業では、ニーズとシーズのマッチングを目的とした支援機器に関する「**マッチング交流会**」を企画・開催し、実用的な支援機器が開発されるよう、試作機等を用いて想定するユーザーと開発側が膝を交えて意見交換できる場を設けるとともに、効果的なモニター評価を行う機会等を創出することを目的とした交流会を開催した。

今年度は、大阪及び東京会場に於いて会場開催を実施した。大阪会場は2019年以来、3年ぶりの開催となり出展者を含めた来場者は338名、東京会場では419名であり、昨年の259名よりも大きく来場者を増やす結果となった。

Web開催では「**Web交流プラットフォーム**」を4か月間設け実施した。出展機器についての紹介動画の視聴、問合せフォームや掲示板を使って出展者へ問い合わせできる仕組みを構築した。また、プラットフォームからは常時配信動画も掲載し、支援機器開発の助成金事業の紹介や、厚生労働科研費の研究報告も行い、交流の促進を図った。アクセス数は、1月末までに12,951回を記録し、多くの方々に来場いただいた。

地域交流会（ATAサテライト）では、本交流会に参加が容易でない、新潟、下関、鹿児島 の3か所にて実施した。地域交流会を通して、開発促進事業の特定種目としてのテーマや応募につなげることや、当協会HPでも地域交流会での成果を広く周知し、メーカーの開発意欲を喚起した。

今後も、こうした取り組みを継続的に実施し、ニーズを踏まえた支援機器開発の一助になれば幸いである。

本報告書は、事業結果を取り纏めたものであり、本事業の実施にあたり、ご協力いただいた障害当事者の団体、職能団体、出展企業等、多くの方々に心から御礼を申し上げます。

令和5年3月

公益財団法人テクノエイド協会

目次

第1部(本編)	1
1. 目的	1
2. 事業概要	1
(1) 企画委員会の設置.....	1
(2) ニーズ・シーズマッチング交流会の企画.....	2
(3) Web開催の内容.....	5
(4) ニーズ・シーズマッチング地域交流会の開催（新潟・下関・鹿児島）	6
(5) 交流会開催後のフォローアップ	6
(6) ユーザー側のニーズやシーズの情報収集・発信	6
(7) 実施スケジュール.....	6
3. 事業結果	8
(1) 企画委員会の開催結果	8
(2) 出展者の募集から決定までのプロセス	8
(3) 交流会の周知.....	11
(4) Web開催及び会場開催のイベント内容.....	15
(5) ニーズ・シーズマッチング地域交流会（ATAサテライト）の実施結果	23
(6) 意見交換会、アドバイス支援の実施結果.....	32
(7) 開催結果及びアンケート結果.....	36
(8) 今後の交流会の在り方について	45
第2部(資料編)	47
1. 併催イベント講演資料	47
2. 交流会関係資料	144
(1) 交流会チラシ.....	144
(2) 公式パンフレット.....	146
(3) 出展企業等出展要項.....	182
(4) 出展申込書	197
3. 意見交換会、アドバイス支援の実施.....	198

第 1 部（本編）

1. 目的

障害者及び障害児（以下「**障害者**」）の自立を支援する「**障害者自立支援機器**（以下「**支援機器**）」は、障害者の活動や参加を促すものとして、極めて重要な役割を果たすものである。

障害者福祉の現場において、真に必要とされる支援機器を開発するためには、着想の段階から障害者や支援者の「**ニーズ**」と、企業や研究者等の「**シーズ（技術）**」をマッチングすることが大切であり、シーズ志向型の開発とならないよう、障害者の置かれている状態は勿論のこと、現場の課題やニーズを的確に捉えた支援機器の開発を推進することが必要である。

本事業では、支援機器のユーザー側が持つニーズと開発側が持つシーズのマッチングを目的とした「**ニーズ・シーズマッチング交流会**（以下「**本交流会**）」を企画・開催し、実用的な支援機器が開発されるよう、試作機等を用いて、ニーズ側とシーズ側が膝を交えて意見交換できる場を設けるとともに、効果的なモニター評価等を行う機会を創出することとした。

2. 事業概要

(1) 企画委員会の設置

本委員会では「ニーズ・シーズマッチング交流会」の企画及び運営に係わる審議を行い、より良い交流会等の実現に向けた検討を行うこととした。

また、本委員会に構成する障害関係団体の皆様には、①支援機器に関する課題やニーズをご提供いただくとともに、②本交流会では、ニーズ側とシーズ側の交流が活性化するよう積極的にご参加いただくこととした。また、③交流会の成果を着実に支援機器開発に繋げるため、開発企業の希望に応じて相談やアドバイス支援を行うこととし、関係する障害者等をご紹介いただくこととした。

ニーズ・シーズマッチング交流会 企画委員会 委員名簿

(委員)

(五十音順・敬称略)

氏名	所属
逢坂 忠	社会福祉法人 日本視覚障害者団体連合
安藤 信哉	公益社団法人 全国脊髄損傷者連合会
小川 光彦	一般社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会
甲斐 義憲	株式会社 日刊工業新聞社
岸川 忠彦	一般社団法人 日本ALS協会
小磯さおり	川崎市社会福祉事業団 れいんぼう川崎
小山万里子	ポリオの会
佐藤 加奈	社会福祉法人 日本身体障害者団体連合会
園田 尚美	NPO法人 日本失語症協議会
橋間 信市	社会福祉法人 全国盲ろう者協会
増澤 高志	ASD（自閉スペクトラム症）生活環境研究会

(オブザーバー)

(敬称略)

氏名	所属
丸山 誠二	国立研究開発法人 情報通信研究機構 デプロイメント推進部門 情報バリアフリー推進室
下田 修	国立研究開発法人 科学技術振興機構 起業支援室
中村 美緒	厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 企画課自立支援振興室
辰巳 昌嵩	厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 企画課自立支援振興室

(2) ニーズ・シーズマッチング交流会の企画

障害当事者のニーズをよりの確に捉えた支援機器開発の機会を創出すべく、本交流会を開催した。

本交流会では、開発企業が試作中の支援機器等を会場へ持ち込み、障害者及び介護者をはじめ、企業、研究者、開発を支援する機関等が膝を交えて意見交換等を行う場を設けることとした。

本年度は、Web開催（4ヶ月間）、大阪会場及び東京会場（各3日間）で開催をした。Web開催では、出展企業及び機器の紹介動画を掲載すると共に、「問合せフォーム」、「掲示板」を使用してオンライン上での意見交換や、各種セミナー、講演の常時配信や定期配信が視聴できるようWeb交流プラットフォームを構築した。

会場開催では、開発中の試作機等の展示及びデモンストレーション、意見交換等を行った。また、併催イベントとして、基調講演、特別講演、基調報告、東京会場では、地域交流会（ATAサテライト）の成果報告、令和4年度障害者自立支援機器等開発促進事業採択企業による成果報告会、シンポジウム等を行った。

本交流会の対象者は以下とし、ニーズ側、シーズ側の分類とした。

- ※ニーズ側：障害者、家族、在宅・施設等の介護職員、医療・福祉の業務に従事し障害者の福祉や訓練に係わる者 等
- ※シーズ側：開発メーカー、地域の産業振興団体、新規参入を検討する企業・研究者、大学・研究機関 等

ニーズ・シーズマッチング強化事業は、次頁のとおり、「障害者自立支援機器等開発促進事業」の一環として実施されるものであり、ニーズに基づいた実用的な支援機器開発が促進されるよう、意見交換を行える場を提供するとともに、モニター評価を行う機会を得ることを狙いとするものでもある。

事業目的

障害者の自立や社会参加を支援する機器の開発においては、障害者が個別・特異的で多岐にわたるため障害者のニーズと開発者のシーズのマッチングが非常に難しい。またマーケットが小さく技術はあるが開発や製品化及び事業化が進まない状況にある。ニーズとシーズのマッチングを促進するために、開発企業が障害者等と連携して開発する取組に対して助成を行う。さらに、障害者等の多岐にわたるニーズを的確に捉え、事業化の視点を踏まえ開発を始める事で支援機器の製品化及び事業化を加速する人材を育成する取組に対して助成を行う。

事業内容

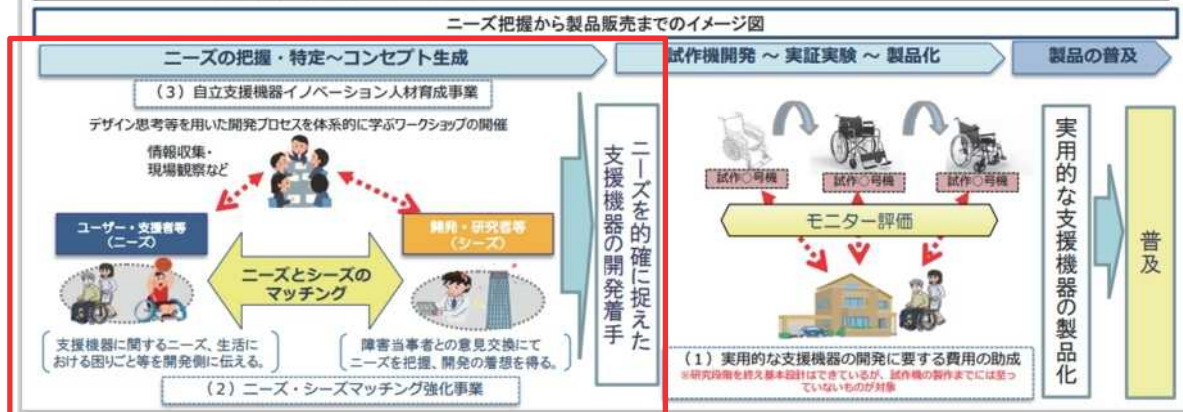
- (1) 障害者の自立支援機器の開発(実用的な支援機器の製品化)に対する助成
 - ①テーマ設定型事業、②製品種目特定型事業
- (2) ニーズ・シーズマッチング強化事業
- (3) 自立支援機器イノベーション人材育成事業

実施主体

民間団体(公募)

補助率

- (1)は、中小企業2/3(※(1)~②は初年度のみ10/10)、大企業・公益法人1/2。
(2)・(3)は、定額(10/10相当)



① 開催日程及び内容

- Web開催
 - 【開催日】令和4年10月1日(土)～令和5年1月31日(火)
 - 【配信会場】テクノエイド協会 Web交流プラットフォーム内
 - 【企画内容】
 - ・Webによる開発企業及び支援機器等の紹介動画の発信
 - ・問合せフォーム、掲示板を使用しての意見交換の実施
 - ・開発助成金事業の紹介及び調査研究方向等の動画配信の実施
- 大阪会場
 - 【開催日】令和4年11月28日(月)～30日(水)3日間
 - 【時間】初日13:00～17:00
9:00～17:00 ※最終日16時
 - 【会場】OMM(2階展示Aホール)
 - 【併催イベント】
 - ・Webによる開発企業及び支援機器等の紹介動画の発信
 - ・問合せフォーム、掲示板を使用しての意見交換の実施
 - ・開発中の試作機等の展示及体験、意見交換等
 - ・会場及びオンラインでの講演の実施
- 東京会場
 - 【開催日】令和4年12月14日(水)～16日(金)3日間
 - 【時間】初日13:00～17:00
9:00～17:00 ※最終日16時

【会場】東京都立産業貿易センター浜松町館（2階展示室）

【併催イベント】

- ・Webによる開発企業及び支援機器等の紹介動画の発信
- ・問合せフォーム、掲示板を使用しての意見交換の実施
- ・開発中の試作機等の展示及体験、意見交換等
- ・会場及びオンラインでの講演の実施

大阪会場

【大阪会場 外観】



【2F 展示ホール】

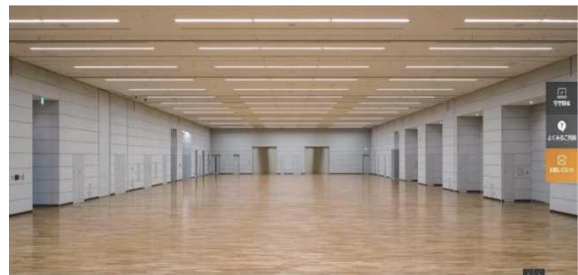


東京会場

【東京会場 外観】



【浜松町館 展示室】



② 出展企業等の募集

出展要項を作成のうえ、60か所程度、一般募集することとした。

Web開催の参加は必須とする。※Web開催のみの参加は認めないこととした。

- | | |
|--------|--------|
| ・Web開催 | 80企業程度 |
| ・大阪開催 | 50企業 |
| ・東京開催 | 60企業 |

③ 会場開催に伴う留意

会場での開催にあたっては、開催時の状況に応じて、基本的には国及び開催自治体の方針に従うこととし、以下の事項について原則遵守することとした。

- 三密を避ける。
 - ・会場内の換気を定期的に行う。
 - ・出展者の間隔を十分にあげる。
 - ・参加者の座席の間隔を十分にあげる。
- 手指の消毒やマスクの着用を要請する。
- 参加者を特定できるように、来場者の連絡先を記載した名簿を作成する。
- 出展者及び来場者の体温検査を行う。

会場開催では、感染症予防等の徹底を図るとともに、Web開催については、出展機器等の動画を作成し、期間中の交流を推進することとした。



(3) Web開催の内容

本交流会専用サイト内に、「Web交流プラットフォーム」を設け、出展事業・機器を紹介する動画の視聴、問い合わせフォーム及び掲示板を利用した出展者の意見交換、講演の常時配信が視聴できる仕組みを構築した。

また、Web交流プラットフォームは、ログインは不要とし、多くの方々がアクセスしやすい仕組みとした。

(交流会での動画配信)

- Web交流プラットフォーム（交流会の専用ページ）をWeb上に設け、作成した動画を出展企業等の個別ページで常時配信することとし、ニーズとシーズの交流を推進することとした。
- 出展企業等一覧は、Web交流プラットフォーム上で各障害分野別やフリーワードでの検索を可能とした。なお、動画はサーバー容量の都合上、YouTubeのサイトへ移動して動画の閲覧ができるようにした。
- Web開催期間中には、常時配信動画を掲載し、支援機器開発の助成金事業の紹介や、厚生労働科研費の研究報告の視聴を可能とした。
- 各会場で行われた講演はオンラインにてリアルタイムで配信することとした。
- セミナー等の資料については、講演者より資料提供が可となったものについてダウンロード可とした。

(基本的な考え方)

- 交流を深める方策として、10分以内の動画又は、音声や動画が入ったPowerPoint（以下「動画等」）を出展者自身で作成いただくこととした。（任意）
- 動画等には、開発中の製品紹介をはじめ、対象者、機器の使用方法、活用方法等の内容を盛り込んでいただくこととした。
- 障害者に対する情報保障は、各社にて対応していただいた。
- 作成した動画等は、当協会のYoutubeアカウントで公開した。
- 本交流会は、ニーズとシーズのマッチングを目的としているため、販売を促進する内容の動画等は認めないこととした。
- 障害当事者団体・開発支援機関等の動画についても、基本的には任意とした。

(動画の目途)

- 出展企業 約80本
- 障害当事者団体・開発支援機関 約10本

(4) ニーズ・シーズマッチング地域交流会の開催（新潟・下関・鹿児島）

東京や大阪など、会場へ容易に参加できない地域に出向き、支援機器に係わる地域の関係者が集う「ニーズ・シーズマッチング地域交流会」、通称「ATAサテライト」を開催した。ATAサテライトでは、地域の障害者と家族・介護者をはじめ、産業振興団体や開発企業等が参集し、障害者が置かれている状況等を共有化し、課題解決に向けた具体的な支援機器のイメージを協議した。

実施にあたり、地域の自治体及び団体・企業等のご協力をいただくことともに、「自立支援機器イノベーション人材育成事業」と連携を図ることとし、その成果は、令和5年度の開発促進事業の応募に繋げることとした。ATAサテライトは、平成31年度（令和元年度）に北海道、佐賀県、高知県、令和2年度に秋田県、栃木県で実施している。

(5) 交流会開催後のフォローアップ

担当職員による相談窓口を設置し、交流会開催後の成果を支援機器の開発に繋げるため、企画委員や関係団体等と協力しながら、開発企業等に対して継続的に必要な支援を行った。

具体的には、以下の取り組みを予定することとした。

(相談窓口の設置)

開発側やユーザー側からの相談に応じる専用窓口を設け、常時対応することとした。

(モニター評価実施にあたっての支援・協力)

開発企業の要望に応じ、関係団体等と連携を図りモニター評価の実施施設や想定するユーザー等を紹介することとした。

具体的には、「福祉用具ニーズ情報収集・提供システム」を活用して、開発中の機器や実用化して間近な機器に対して、モニターやアドバイザーにご協力いただける機関（施設や事業所など）を募り、開発企業へ繋ぐこととした。

(意見交換会やアドバイス支援の実施)

交流会の成果を着実に支援機器の開発に繋げるため、開発企業の希望に応じて、相談やアドバイスの開発支援を行うこととした。

具体的には、企業等から要望を個別にうかがい、関係する障害者等との意見交換会やアドバイス支援等の機会を設けた。

また、その成果については、協会HPから各方面へ発信し、ニーズとシーズのマッチングを推進するとともに、来年度以降の開発促進事業の応募を喚起した。

訪問及び状況に応じてオンライン会議を行うこととし、意見交換会等への参加については、地域を限定しないこととした。

(その他)

その他、必要な支援を関係団体等と連携して行った。

(6) ユーザー側のニーズやシーズの情報収集・発信

「福祉用具ニーズ情報収集・提供システム」を活用することにより、支援機器に係るニーズとシーズの収集・提供を行った。また、Web交流プラットフォーム内にて、障害当事者団体へインタビューを行い、その様子を動画にまとめ、当事者ニーズについて発信を行った。

(7) 実施スケジュール

次ページを参照のこと。

令和4年度 ニーズ・シズマツチング強化事業 実施スケジュール(年間)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
委員会			企画委員会の設置	★第1回企画委員会 (7/21)		
交流会	会場の検討・選定・仮予約	委託先の公募・決定 出展要項の作成・配布 出展者募集 (6/1~30) 出展者の選定・決定 出展者説明会(7/11)		併催イベント演者検討・内諾 正式の講演依頼 ATAサイトの企画検討	ATAサイトの開催周知、広報	動画納切 (8/19)
ホームページ			交流会専用HPの設置、PR			
交流会フォローアップ						ATAサテライト下関 (9/13-14) ATAサテライト新潟 (9/16-17) ATAサテライト鹿児島 (9/20-21)
委員会	10月	11月	12月	令和5年1月	2月	3月
交流会	オンラインテスト 公式パンフレット作成及び配布	Web開催 10/1-1/31 Web交流プラットフォームを活用したオンライン交流 大野会場 11/28-30 東京会場 12/14-16 ニーズ・シズマツチング交流会の開催				★第2回企画委員会 (3/3)
交流会フォローアップ	交流会の成果を着実に支援機器の開券に繋げるため、開券企業の希望に応じて、相談やアドバイスの開券支援を行う 意見交換・アドバイス支援の実施 (オンライン又は対面)					
その他						事業報告の作成

3. 事業結果

(1) 企画委員会の開催結果

「ニーズ・シーズマッチング交流会」の企画及び運営に係わる審議を行い、より良い交流会等の実現に向けた検討を行った。ニーズ側とシーズ側の交流が活性化するように積極的に交流に関与するとともに、多くの当事者の方々が本交流会に参加いただけるよう呼びかけをお願いした。

① 第1回ニーズ・シーズマッチング交流会 企画委員会

【日時】：令和4年7月21日（木）10：00～11：30

【場所】：オンライン開催（テクノエイド協会・会議室）

【実施内容】：

（実施計画）

- ・本事業の概要について
- ・出展者の募集及び選定状況について
- ・併催セミナーのプログラム（案）

（Webによる交流の実施）

- ・Web交流プラットフォームの構築・運用
- ・出展参加登録票の提出について

（交流の活性化方策）

- ・訪問インタビューの実施
- ・地域交流会（ATAサテライト）の開催
- ・意見交換会、アドバイス支援の実施について
- ・今後のスケジュール

② 第2回ニーズ・シーズマッチング交流会 企画委員会

【日時】：令和5年3月3日（金）14：00～15：50

【場所】：オンライン開催（テクノエイド協会・会議室）

【実施内容】：

（報告事項）

- ・本事業の実施について
- ・実施結果の報告について
 - ・出展者の選定及び開催の周知
 - ・交流会の企画及び併催イベントについて
 - ・地域交流会の実施結果
 - ・意見交換会、アドバイス支援の実施結果
 - ・開催結果及びアンケート結果

（検討事項）

- ・マッチング交流会を終えて（意見交換）

(2) 出展者の募集から決定までのプロセス

① 企業等の募集について

募集は「出展要項」を作成のうえ、郵送又はホームページへの掲載を行い、周知を行った。

② 申込方法

Google Formを使用したWeb上での申し込み方法とした。

③ 募集の期間

令和4年6月1日（水）～6月30日（木）16時必着

④ 周知の方法、周知先

1、郵送

・ 発送数 : 1,661カ所

・ 主な送付先 :

- 過去の開発促進事業応募企業
- 過去の交流会出展及び来場企業
- 福祉用具情報システム（TAIS）登録企業（抽出）
- 介護ロボット関連企業 都道府県・政令市 報道機関、地方産業組織 等

⑤ 出展企業の選定及び選定結果について

事務局では、応募のあった企業の中から、以下の観点及び障害の種別等を勘案して、全84者の選定を行った。

全89者の応募があり、84者を決定した。選考にあたっての観点は以下のとおり。

（選考にあたっての観点）

- ・ 交流会の目的及び要件に合致しているか
- ・ 新規あるいは交流を踏まえて改良する意思があるか
- ・ 採択又は推薦があるか
- ・ 動画等を作成することができ、希望する交流の内容が明確となっているか

a. 出展機器の障害種別（大阪会場及び東京会場）

障害種別	応募	決定
身体障害（肢体不自由）	54	51
視覚障害	7	7
聴覚障害	7	7
高次脳機能障害（失語症等）	4	4
知的障害（身体介護が必要ないケースを含む）	4	3
精神障害（発達障害を含む）	4	4
その他	9	8
合計	89	84

b. 各会場の募集定員及び決定（当事者団体、開発支援団体等を除く）

会場	定員	決定
大阪会場	60	51
東京会場	60	62

c. 障害種別、分野、会場別の出展者数

障害種別、分野毎のゾーン	大阪会場 出展者数	東京会場 出展者数
身体障害（肢体不自由）	28	38
視覚障害	2	4
聴覚障害	5	6
高次脳機能障害（失語症等）	4	4
知的障害（身体介護が必要ないケースを含む）	4	0
精神障害（発達障害を含む）	4	2
その他	4	5
障害当事者団体・開発支援団体等	9	12
合計	60企業・団体	71企業・団体

※東京会場にて出展辞退の申出が3者からあった。

また、今年度は日本リハビリテーション工学協会と連携し、同協会が主催する「福祉機器コンテスト2022」で受賞した作品の展示を大阪会場にて行った。

⑥ その他（出展企業等を対象とした説明会）

出展企業等を対象として、本事業の目的、出展要項の説明、交流会参加にあたってのお願い等、オンライン説明会を実施した。なお、原則、出展企業等は参加を必須とし、参加できなかった企業には本説明会を録画した動画を視聴していただくこととした。

○出展企業等を対象にしたオンライン説明会

【実施日】令和4年7月11日（月）13時30分～

【内容】

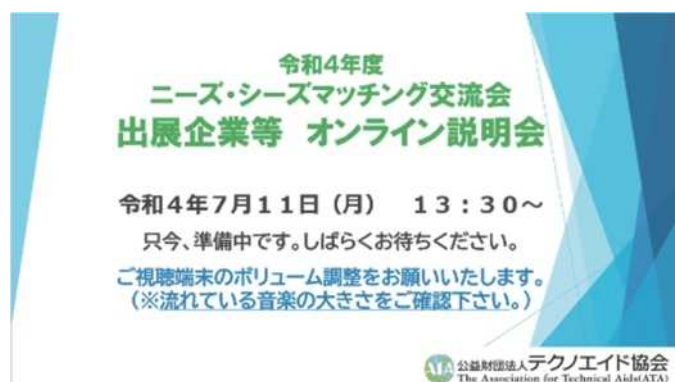
（重要なお知らせ）

- （1）障害者自立支援機器等開発促進事業の全体像
- （2）出展企業等の募集要項
- （3）交流会参加にあたっての重要なお知らせ
- （4）意見交換会、アドバイス支援の実施について

（報告事項）

- （5）出展申込の状況及び会場レイアウト（予定）について
- （6）併催セミナーの開催（予定）と周知のお願いについて
- （7）地域交流会の開催（予定）と参加の募集について

（質疑応答）



(3) 交流会の周知

① 交流会専用ホームページの開設

【期間】

令和4年5月27日（金）～

【周知方法】

協会ホームページより、順次最新情報になるよう更新を行った。

テクノエイド協会にアクセスすると、上部に交流会のバナーを表示させ、バナーをクリックすると交流会専用サイトに移る仕組みとした。

【協会トップページ】

The screenshot shows the homepage of the Association for Technical Aids (ATA). The main banner for the 'Needs・Seasons Matching Exchange Meeting 2022' is highlighted with a red box. The banner includes the following information:

- Web開催:** 令和4年10月1日(土)～令和5年1月31日(火)
- 大阪会場:** 令和4年11月28日(月)・29日(火)・30日(水)
初日 13:00～17:00/9:00～17:00(最終日のみ16:00)
- 東京会場:** 令和4年12月14日(水)・15日(水)・16日(金)
初日 13:00～17:00/9:00～17:00(最終日のみ16:00)

Below the banner, there is a 'お知らせ NEW!' section. A red box highlights the following news items:

- 2022.11.22 大阪会場併催セミナー資料を掲載しました。 NEW!!
- 2022.11.04 東京会場、大阪会場の事前申し込みを開始しました。 NEW!!
- 2022.11.04 支援関係者向けに開催するワークショップの募集を開始しました。 NEW!!
- 2022.11.02 公式パンフレットおよびチラシを掲載しました。 NEW!!

Other sections on the page include '福祉用具・介護ロボット活用化支援事業 (厚生労働省)', '福祉用具・介護ロボット全国フォーラムの開催について', and '福祉用具情報システム (TAIS) 最新情報'.

【交流会専用ページ】

> 障害者自立支援機器 ニーズ・シーズマッチング強化事業

2021年 2020年 2019年 2018年 2017年 2016年 2015年 2014年

みんなで考えよう! 障害者自立支援機器 「ニーズ・シーズマッチング交流会2022」 ～使う人と作る人の交流会～

お知らせトピックス [ページの先頭へ](#)

- 障害者自立支援機器「ニーズ・シーズマッチング交流会2022」の目的
- ニーズ・シーズマッチング交流会2022 開催概要 **NEW!!**
- 公式パンフレットおよびチラシ **NEW!!**
- Web交流プラットフォーム **NEW!!**
- Web開催のアンケートにご協力ください(アンケートフォームに移ります) **NEW!!**
- デザイン思考プロセスを用いた支援機器開発ワークショップ
- 障害者自立支援機器に係る意見交換会、アドバイス支援の実施
- ニーズ・シーズマッチング地域交流会(ATAサテライト)の開催
- 出展申し込みをご希望される企業の方

● 障害者自立支援機器「ニーズ・シーズマッチング交流会2022」の目的 [ページの先頭へ](#)

本交流会は、自立支援機器の開発を促進することを目的に、障害当事者をはじめ、ご家族や福祉・医療従事者などの「機器を使う側(ニーズ)」の方々と、開発企業や大学、研究機関、産学官交流振興組織などの「機器を作る側(シーズ)」の方々が、じっくり膝を交えて交流することを目的とするものです。

- ※ニーズ側：障害者、家族、在宅・施設等の介護職員、医療・福祉の業務に従事し障害者の福祉や訓練に係わる者 等
- ※シーズ側：開発メーカー、地域の産業振興団体、新規参入を検討する企業・研究者、大学・研究機関 等

各都道府県等障害保健福祉主管課宛 厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部企画課自立支援振興室(令和4年6月6日)

- 「障害者自立支援機器 ニーズ・シーズマッチング交流会2022」の開催について (PDF形式:214KB)

● ニーズ・シーズマッチング交流会2022 開催概要・事前申し込みの開始 **NEW!!** [ページの先頭へ](#)



【Web開催】

令和4年10月1日(土)～
令和5年1月31日(火)

【大阪会場】

令和4年11月28日(月)～30日(水)
初日 13:00～17:00/9:00～17:00
(最終日のみ16:00)

【東京会場】

令和4年12月14日(水)～16日(金)
初日 13:00～17:00/9:00～17:00
(最終日のみ16:00)

【大阪会場】

事前申し込みはこちら

事前申し込みをしておくとお受け付けがスムーズに入場できます。

【東京会場】

事前申し込みはこちら

事前申し込みをしておくとお受け付けがスムーズに入場できます。

会場：テクノエイド協会4F内
[Web交流プラットフォーム]

場所：QMM(2階展示ホール)

アクセス：京阪電車「天寿橋」駅東口
Osaka Metro谷町線「天寿橋」駅北出口
からQMM地下2階まで連絡

場所：東京都立産業総合センター浜松町館
(2階展示室)

アクセス：JR浜松町駅(北口)より徒歩5分
ゆりかもめ竹芝駅より徒歩2分
東京モノレール浜松町駅(北口)
より徒歩5分
都営浅草線大門駅より徒歩7分
都営大江戸線大門駅より徒歩7分



② 公式パンフレット及びチラシの作成、配布

本交流会開催の周知として公式パンフレット及びチラシを作成し、過去の来場者、障害者団体、開発企業、職能団体、行政など5,867カ所に送付した。また、公式パンフレットとは別に基調講演、特別講演が記載されているチラシ、日本リハビリテーション工学協会と連携し、同協会が主催する「福祉機器コンテスト2022」のチラシも同封し、周知することとした。

【パンフレット】



【講演用チラシ】



【福祉機器コンテスト2022チラシ】



【期間】：令和4年10月上旬～

【周知方法】：郵送、メール等

【送付物】：公式パンフレット、交流会チラシ

【主な送付先】

- 障害団体（日本障害者協議会会員、全国の障害当事者団体 等）
- 開発企業（過去の採択企業、TAIS登録企業、過去の交流会出展企業 等）
- 行政（都道府県、市町村の障害主管課）
- 過去の交流会一般来場者
- 職能団体（都道府県の理学療法士協会、作業療法士協会事務局）
- 介護実習・普及センター
- 全国のリハビリテーションセンター
- 全国の更生相談所
- 介護ロボット関連企業または施設
- 義肢製作所
- 特別支援学校等
- 報道機関
- その他（賛助会員、個人あて）

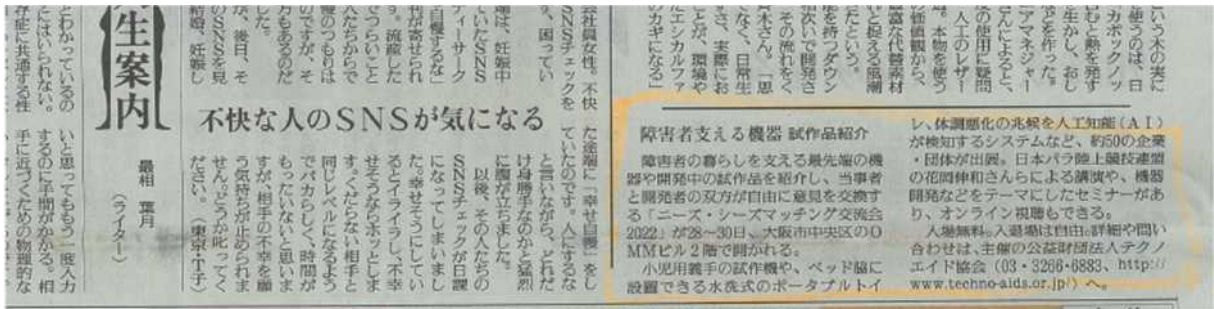
関係団体への周知及び周知依頼

厚生労働省及び関係機関・団体の協力のもと、多くの団体等へ本交流会開催を周知した。主な周知先は以下のとおり。

- 日本作業療法士協会：会員向けHPに掲載
- 静岡県作業療法士協会：HPへの掲載
- 神奈川県作業療法士協会：HPへの掲載
- 日本言語聴覚士協会：機関紙、HPへの掲載
- 独立行政法人福祉医療機構（WAM）：イベントセミナーHPに掲載
- 日本障害者リハビリテーション協会：会員へ周知のお願いを実施
- JASPA：会員へ周知のお願いを実施
- バリアフリー展：会員へメルマガの送信、HPに掲載
- 日刊工業新聞：関係者各位へメールングリストにて周知のお願いを実施
- 福祉新聞：開催情報を掲載

③ その他の広報

【令和4年11月19日（土曜）読売新聞（朝刊）掲載 抜粋】



【ポリオの会ニュースでの掲載 抜粋】

ニーズ・シーズマッピング交流会の展示を見て
田中 昇

神奈川県に住む私は、約2時間を掛けて会場のある浜松町駅へたどり着きました。駅より歩いて約10分間ではあるが、昨年より歩行が楽な、3 回ほど休憩してやっと産業貿易センターにたどり着きました。

今年も何か参考になる展示品があるだろうかと、期待して見始めました。私は左足に下肢装具を着けていますが、特に振り出し時の力の無さと歩行が不安定な為、柱に頼る事が多く、歩くのが遅い、歩行が不安定で転ぶ、直ぐ疲れる。の三重苦です。これらを改善すべく展示会を見に来ました。

展示会で見た展示品を紹介します。

例1: ロバの耳KK トゥーウェイ 足底支持具
私の歩行時の右足は、振り出しに必要な親指から小指にかけて力が入るので、歩けるが、左足は、人差し指、中指、薬指の関節が固直したままなので、力が入らず力が持ち上がりません。従って足が前に出なくて歩行障害になっています。

トゥーウェイの足底支持具は、指先がシリコンガイドで、伸びる構造です。試しに付けて歩いて見た所、指がずれて熱帯が上手く出ませんでしたので、後日指をとって再調整することになりました。

例2: 株式会社 YAMADA e-foot(イーフット)
ゴムの方で歩行支援
イーフットを紹介します。これは履(コルセット)をしてそこから長いゴムベルトを巻くと足の力か及びつま先に

光ゴムを固定して、ゴムが筋肉を補助して歩行を支援してくれます。
特に左足の踵がゴムで持ち上げられるので、今まで出来なかった短距離動作が出来たので、今後リハビリ運動に役立てたいです。

例3: (株)コーポレーションハイムスター
座ら(クッション(指圧代用器))は、いつも椅子に座っていることが多いので、クッションが初にずれると座り心地が悪いので色々試してみました。

※おの命をさがさんが楽なクッション(指圧代用器)を使用しているのを発見したので試しに買ったけれど、好印象を持っていました。

早速お話し、汚れた場合は洗濯可能な構造を待たので、購入決定しました。今では我が家では、お気に入りのクッションです。

例4: 株式会社 YAMADA e-foot(イーフット)の展示品
例5: 株式会社 YAMADA e-foot(イーフット)の展示品
例6: 株式会社 YAMADA e-foot(イーフット)の展示品
例7: 株式会社 YAMADA e-foot(イーフット)の展示品
例8: 株式会社 YAMADA e-foot(イーフット)の展示品
例9: 株式会社 YAMADA e-foot(イーフット)の展示品
例10: 株式会社 YAMADA e-foot(イーフット)の展示品

(4) Web開催及び会場開催のイベント内容

OWeb開催

【開催期間】：令和4年10月1日（土）～令和5年1月31日（火） 4ヵ月間

【会場】：テクノエイド協会 Web交流プラットフォーム内

【開催イベント内容】：

- ・Webによる開発企業及び支援機器等の紹介動画の発信
- ・問合せフォーム、掲示板を使用しての意見交換の実施
- ・セミナーの常時配信の実施

常時配信の内容

【事務局からの挨拶】

- ・交流会の目的、オンラインによる交流方法等

【支援機器開発に係る助成金について】

- ・障害者自立支援機器等開発促進事業の概要
- ・NICT情報バリアフリー通信・放送役務提供・開発推進助成金制度の案内
- ・JST産学連携事業と福祉機器開発事例について

【支援機器の開発・普及に係わる厚生労働科学研究の動向について】

- ・障害者の支援機器開発に携わる医療・福祉・工学分野の人材育成モデル構築に資する研究
- ・障害者の支援機器開発におけるモニター評価手法の開発及びモニター評価を実践する人材の育成プログラム開発のための研究
- ・リハビリテーション関連職等が支援機器の適切な選定・導入運用時に用いるガイドラインの開発
- ・新技術を利用した支援機器の開発及び選定・導入時の指針作成のための調査研究
- ・障害者の支援機器開発における開発支援体制ネットワークモデルの構築

【障害等当事者・支援団体へインタビュー】

- ・特定非営利活動法人日本失語症協議会
- ・公益社団法人全国脊髄損傷者連合会
- ・ポリオの会
- ・ASD（自閉スペクトラム症）生活環境研究会

【Web交流プラットフォームについて】：

出展企業等や出展機器情報の掲載、掲示板・問い合わせフォームからの意見交換、併催セミナーの視聴、セミナー資料のダウンロードを可能にしたプラットフォームを構築した。

出展企業等や出展機器情報は、「カテゴリー」、「フリーワード」より検索を可能とし、出展企業ごとに出展者のページを作成し、「掲示板」もしくは「問合せフォーム」を使って意見交換ができるよう仕組みとした。本プラットフォームは、Web開催開始日の令和4年10月1日から令和5年1月31日までを公開期間とした。

〈Web交流プラットフォームの画面〉

● Web交流プラットフォーム（出展機器を調べたり、交流したい企業等を探すことができます。）NEW ページの先頭へ

出展企業等と交流

閲覧数
11819

こちらでは、出展企業を検索することができます。「もっと見る」をクリックすると出展者一覧を見ることが可能です。「会場」、「カテゴリ」、「フリーワード」より検索が可能です。製品名をクリックすると出展者・出展機器の詳細を見ることができます。

会場： 東京会場に出展する機器 大阪会場に出展する機器
※それぞれ会場で実機を見ることができます。

カテゴリ： A.身体障害（肢体不自由） B.視覚障害
 C.聴覚障害 D.高次脳機能障害（失語症等）
 E.知的障害（身体介護が必要ないケースを含む） F.精神障害（発達障害を含む）
 G.その他

フリーワード：

検索

クリア

ニーズ・シーズマッチング交流会2022 出展企業一覧（PDF形式：2.13MB）

[Web開催のアンケートにご協力ください（アンケートフォームに移ります）](#)

出展者	製品名	製品概要	製品画像	カテゴリ	会場	掲示板	問合せ
シズネット株式会社	聴覚視覚発話刺激システム_SAI(仮称) 令和4年度 開発促進事業採択	失語症当事者を対象とし、口型動画・音声並びに絵カードを提示し、斉唱、復唱、独唱を行い、訓練としての利用の他に、「ことばづくり機能」により、当事者の身の回りの固有名詞（駅名・スーパーの名前・家族の名前）等を生成する機能を搭載しており、コミュニケーション支援にも繋げることが出来る製品です。		高次脳機能障害（失語症等）	大阪 D-01 東京 D-02	掲示板	問合せ

+ もっと見る

当事者団体・開発支援機関等と交流

企業・団体名	交流したい内容	カテゴリ	会場	掲示板	問合せ
社会福祉法人 日本視覚障害者団体連合	-	障害当事者団体	東京	掲示板	問合せ
公益社団法人 全国脊髄損傷者連合会	-	障害当事者団体	東京	掲示板	問合せ
一般社団法人 全日本聴聴者・中途失聴者団体連合会	聞こえない、聞こえにくい方の情報アクセシビリティやコミュニケーションに求められる内容は多様かつ幅広いです。交流の中で私たちのニーズや率直な希望をお話しし、自助機器だけでなく、	障害当事者団体	大阪 東京	掲示板	問合せ

+ もっと見る

〈出展者詳細ページ〉

● 高次脳機能障害（失語症等） ページの先頭へ

シスネット株式会社 シスネットカプシネガイシャ 今までの閲覧数
61

聴覚視覚発話刺激システム SAT(仮称)

出展者情報

大阪会場に出展 東京会場に出展 会場では実機を見ることができます。



住所： 〒530-0051 大阪府大阪市北区太融寺町2-18 9F

担当部署： ヘルスクア事業部

氏名： 諸藤 久

TEL： 080-253

FAX： 06-6364

メールアドレス： morofuji

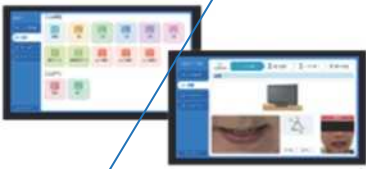
企業HP： <https://>

その他： 令和4年

★問い合わせ★
 来場者が1対1で個別に出展者と交流したい場合に使用する。
 問合せフォーム内の「問い合わせ種別」から電話やオンラインで交流等、交流内容を選択することができる。

出展機器

出展機器	聴覚視覚発話刺激システム SAT(仮称)
型番	
障害種別	高次脳機能障害（失語症等）
機器の概要	失語症当事者を対象とし、口型動画・音声並びに絵カードを掲示し、斉唱、復唱、独唱を行い、訓練としての利用の他に、「ことばづくり機能」により、当事者の身の回りの固有名詞(駅名・スーパーの名前・家族の名前)等を生成する機能を搭載しており、コミュニケーション支援にも繋げることが出来る製品です。
参考資料	



交流したい内容
 失語症当事者との交流や意見交換並びに、言語聴覚士等の医療従事者との意見交換などの実施を行いたいです。

この機器について、問い合わせする (交流を希望する)

交流を希望するの活用方法
 当該機器について、メーカーにうかがいたこと、意見交換や交流したことがあれば、クリックすることにより、問い合わせフォームが開きます。

[交流会開催期間中の併催セミナーを視聴](#) ▶

★掲示板★
 来場者がオープン（来場者に公開）で出展者と交流したい場合に使用する。匿名でも投稿は可能で、投稿内容は蓄積される。

掲示板

この機器について、新しく投稿する (掲示板)

掲示板の活用方法
 ニーズ征集、当該機器に対する要望やアイデア、課題を、シーズ例（出展者を含む）は、交流したい具体的な内容や機器の特性、会場出展に向けてのPRをそれぞれ記載してください。

〈セミナー視聴〉

● セミナー視聴（リアルタイムで配信します）

[ページの先頭へ](#)

日程は併催セミナープログラムをご覧ください。

[【Zoom】アプリのPC・スマートフォンへのインストール方法はこちら](#)

[音声認識アプリ（UDトーク）を使用した字幕配信の設定方法はこちら](#)

Web開催期間中 セミナー視聴 常時配信

令和4年10月1日（土）～令和5年1月31日（火）

※期間中であれば、何時でも視聴できます。

大阪会場のセミナー視聴 リアルタイム配信

令和4年11月28日（月）～11月30日（水）

東京会場のセミナー視聴 リアルタイム配信

令和4年12月14日（水）～12月16日（金）

※各会場のセミナーの内容をwebから、視聴することができます。


※見逃し配信は行いません。プログラムに記載された時刻になりましたら配信いたします。


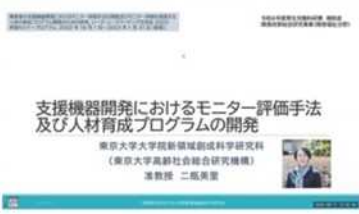
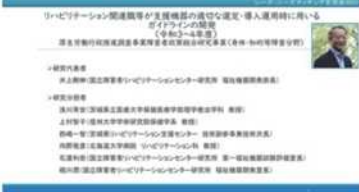

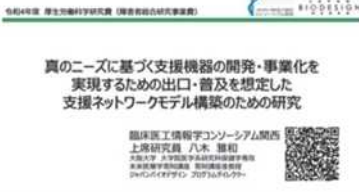
[Web開催のアンケートにご協力ください（アンケートフォームに移ります）](#)

● 常時配信の視聴

[ページの先頭へ](#)

Web開催セミナー 常時配信

講演情報	動画	資料
<p>令和4年10月1日（金）～令和5年1月31日（火） 【ご挨拶】 1. ニーズ・シーズマッチング交流会の目的、オンラインによる交流方法など</p> <p>公益財団法人テクノエイド協会 宇田川 竜吾</p>		
<p>令和4年10月1日（金）～令和5年1月31日（火） 【自立支援機器における現状と課題】 2. 障害者自立支援機器開発促進事業の概要など</p> <p>厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部 企画課自立支援振興室 福祉工学専門官 中村 美緒 氏</p>		-
<p>令和4年10月1日（金）～令和5年1月31日（火） 【通信・放送関連事業支援】 3. NICT 情報バリアフリー通信・放送役務提供・開発推進助成金制度について</p> <p>NICT情報バリアフリー推進室 室長 丸山 誠二 氏</p>		-
<p>令和4年10月1日（金）～令和5年1月31日（火） 【支援機器の開発支援】 4. JST 産学連携支援事業と福祉機器開発事例について</p> <p>JST企業支援室 下田 修 氏</p>		-

<p>令和4年10月1日（金）～令和5年1月31日（火） 【支援機器の開発・普及に係わる国家プロジェクト】 5. 障害者の支援機器開発に携わる医療・福祉・工学分野の人材育成モデル構築に資する研究</p> <p>東北大学大学院医工学研究科 教授 出江 紳一 氏</p>		-
<p>令和4年10月1日（金）～令和5年1月31日（火） 【支援機器の開発・普及に係わる国家プロジェクト】 6. 障害者の支援機器開発におけるモニター評価手法の開発及びモニター評価を実践する人材の育成プログラム開発のための研究</p> <p>東京大学大学院新領域創成科学研究科 人間環境学専攻人間支援環境学講座 准教授 二瓶 美里 氏</p>		-
<p>令和4年10月1日（金）～令和5年1月31日（火） 【支援機器の開発・普及に係わる国家プロジェクト】 7. リハビリテーション関連職等が支援機器の適切な選定・導入運用時に用いるガイドラインの開発</p> <p>国立障害者リハビリテーションセンター研究所 福祉機器開発部長 井上 剛伸 氏</p>		-
<p>令和4年10月1日（金）～令和5年1月31日（火） 【支援機器の開発・普及に係わる国家プロジェクト】 8. 新技術を利用した支援機器の開発及び選定・導入時の指針作成のための調査研究</p> <p>国立障害者リハビリテーションセンター研究所 福祉機器開発室長 硯川 潤 氏</p>		-
<p>令和4年10月1日（金）～令和5年1月31日（火） 【支援機器の開発・普及に係わる国家プロジェクト】 9. 障害者の支援機器開発における開発支援体制ネットワークモデルの構築</p> <p>大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻 寄附講座 准教授 八木 雅和 氏</p>		-

東京会場併催セミナー資料

【令和4年12月14日（水）～16日（金）3日間】

講演情報	資料
<p>12月14日（水） 13:30～14:30 【基調講演】 1. 支援機器の可能性と開発にあたって ～アクセシビリティとは？～ 東京慈恵会医科大学 先端医療情報技術研究部 准教授 高尾 洋之</p>	
<p>12月14日（水） 15:00～16:00 【特別講演】 2. 歩けない私と支援機器 一般社団法人 日本パラ陸上競技連盟 常任理事 花岡 伸和</p>	
<p>12月15日（木） 10:00～10:40 【基調報告】 3. 盲ろう者向け支援機器の開発に期待すること 全国盲ろう者団体連絡協議会 藤鹿 一之</p>	
<p>12月15日（木） 11:00～11:40 【基調報告】 4. 内部障害者とサポーターをつなぐスマホアプリ『心の輪』の開発 『見えない障がい者』に対する支援から まず 第一歩 株式会社自分楽 崎山 みゆき</p>	

○大阪会場

【開催期間】：令和4年11月28日（月）～30日（水） 3日間

【時間】：初日13:00～17:00／9:00～17:00（最終日のみ16:00）

【会場】：OMM（2階展示Aホール）

【開催イベント内容】：

- ・Webによる開発機器業等及び支援機器の紹介動画の発信
- ・問合せフォーム、掲示板を使用しての意見交換の実施
- ・会場及びZoomウェビナーを使用したリアルタイムによる講演の配信

【併催セミナータイトル】：

【基調講演】『支援機器の可能性と開発にあたって、アクセシビリティとは』

【特別講演】『歩けない私と支援機器』

【基調報告】

- ・障害者ニーズに見合った用具や機器の見つけ方
- ・アザラシ型ロボット「パロ」によるポーランドでのウクライナ避難民の心の支援について
- ・ニーズに基づく機器開発に失敗しないために

【利用者らのメッセージ】

- ・盲ろう者に必要とされる支援機器、開発にあたり協力できること
- ・ALSについて、支援機器の利用事例と開発を望むこと

【支援機器の開発と現状の課題、利用者への要望】

- ・ゴムの収縮力を筋肉に見立て、筋肉をサポートする歩行アシスト「e-foot」
- ・「食べる力」を鍛える嚥下カトレーニングボトル「タン練くん」

【ワークショップ】

- ・デザイン思考プロセスを用いた支援機器開発

〈大阪会場の様子〉



○東京会場

【開催期間】：令和4年12月14日（水）～16日（金） 3日間

【時間】：初日13：00～17：00／9：00～17：00（最終日のみ16：00）

【会場】：東京都立産業貿易センター浜松町館2階展示室

【開催イベント内容】：

Webによる開発機器業等及び支援機器の紹介動画の発信
問合せフォーム、掲示板を使用しての意見交換の実施
会場及びZoomウェビナーを使用したリアルタイム配信

【併催セミナータイトル】：

【基調講演】『支援機器の可能性と開発にあたって、アクセシビリティとは』

【特別講演】『歩けない私と支援機器』

【基調報告】

- ・ 盲ろう者向け支援機器の開発に期待すること
- ・ 内部障害者とサポーターをつなぐスマホアプリ『心の輪』の開発『見えない障がい者』に対する支援から第一歩

【ニーズ・シーズマッチング地域交流会の成果（みんなで考えた支援機器）】

- ・（新潟市）「視覚障害者のITサポート支援機器を考える～地域支援体制の構築～」
- ・（下関市）「統合失調症など精神障害者の支援機器を考える～生活管理から就労継続～」
- ・（鹿児島市）「重度障害者の覚醒のタイミングを知らせる支援機器を考える」

【開発促進事業採択企業による成果報告】

- ・ 令和4年度開発促進事業採択6事業者

【特別シンポジウム】3Dプリンタで製作する自助具の今後の展望

- ・ 3Dプリンタを活用して製作する自助具情報の在り方に関する研究報告
- ・ 3Dプリンタで製作する自助具とその可能性について
- ・ 当センターの取り組み、医療機関における自助具製作の可能性
- ・ TRF、TRF+Hの特長について
- ・ 自助具製作の展開について

NHKによる取材（本交流会を取り上げた番組作製への協力）

東京会場では、NHKにて放映されている「みんなのバリアフリー・バラエティ」の撮影が行われた。会場では、障害当事者やドラッグクイーンがリポーターとなり、出展機器の体験・デモ、出展者との意見交換を行った。その撮影内容は以下で配信された。

➤ 【チャンネル】 NHKEテレ1東京

令和5年3月10日（金）・17日（金）22時30分～ 放映

※17日の放送にて本交流会が大体的に取り上げられた。

詳しくは【公式サイト】[バリバラ-NHK](#)

〈バリバラにて放送された内容の一部〉



〈東京会場の様子〉



(5) ニーズ・シーズマッチング地域交流会（ATAサテライト）の実施結果

① 目的

障害者及び障害児（以下「障害者」。）の自立を支援する「障害者自立支援機器（以下「支援機器」）」は、障害者の活動や参加を促進する極めて重要なものである。

一方、障害福祉の現場において、真に必要なとされる、実用的な支援機器を開発するためには、開発の早い段階から、利用者や支援者の「ニーズ」と企業や研究者の「シーズ」をマッチングすることが不可欠といえる。

支援機器の開発企業においては、技術志向型の開発とならないよう、障害者の置かれている状況を的確に把握し、課題や要望を解決する機器開発に着手することが求められる。こうしたなか、この度、当協会では、厚生労働省から補助を受けて「ニーズ・シーズマッチング地域交流会（通称「ATAサテライト」。）」を全国3地域で開催することとした。

このATAサテライトでは、地域の障害者や家族・支援者をはじめ、産業振興団体や開発企業等が参集し、障害者の課題等を解決する支援機器の具体的なイメージを協議することとし、厚生労働省が行う「令和5年度・障害者自立支援機器等開発促進事業」の応募等に繋げることとした。

※ニーズ側：障害者、家族、在宅・施設等の介護職員、医療・福祉の業務に従事し障害者の福祉や訓練に係わる者 等

※シーズ側：開発メーカー、地域の産業振興団体、新規参入を検討する企業・研究者、大学・研究機関 等

② 主催

公益財団法人テクノエイド協会

③ 協力

開催地域の自治体及び関係者団体

自立支援機器イノベーション人材育成事業に係るメンバーにも本会へ同席いただいた。

④ 開催内容

開催地域	新潟市	下関市	鹿児島市
日 時	9月16日(金)～17日(土)	9月13日(火)～14日(水)	9月20日(火)～21日(水)
会 場	新潟ユニゾンプラザ 小研修室1	海峽メッセ下関 804 会議室	(株)カクイックスウィング 加治屋町介護用品館 3階会議室
テ ー マ	視覚障害者のITサポート 支援機器を考える ～地域支援体制の構築～	統合失調症など精神障害 者の支援機器を考える ～生活管理から就労継続 ～	重度障害者の覚醒のタイ ミングを知らせる支援機 器を考える
座 長	新潟大学・名誉教授 新潟市障がい者ITサポ ートセンター顧問 林 豊彦 氏	NPO法人 メッセージ花くじら 理事長 石田 眞 氏	鹿児島大学医学部保健学 科 助教 鹿児島県作業療法士協会 会長 吉満 孝二 氏
事務局等	テクノエイド協会	テクノエイド協会	テクノエイド協会

	(主)宇田川、(副)五島	(主)五島、(副)宇田川	(主)根石、(副)五島
	・厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部企画課 2名 ・記録)インターリスク総研 1名、イラストレーター(都内からオンライン)1名		
内 容	第1日目(14時～17時) ①ATAサテライトの目的とねらいの共通理解 ②障害者の置かれている状況の把握 ・障害者や支援者のお困り事、実現したことなど ③検討テーマにかかわる支援機器の開発状況の把握 ・開発状況や現状の課題・要望 ④課題解決に向けた機器やシステム ・あってほしい技術や構造、仕様など		
	第2日目(9時～12時) ⑤開発を希望する具体的な支援機器のイメージ ・解決する課題 ・機器やシステム、仕様や構造、機能、実現可能になることなど		
成果報告	<u>ニーズ・シーズマッチング交流会(東京会場)において成果報告</u> 開催:12月15日(木) 場所:東京都立産業貿易センター浜松町館		

なお、検討するテーマは座長と協議の上、決定した。進行は座長が行うこととし、参加者は、座長の指示に従い発言することとした。

また、会期中はイラストレーターもオンライン（Zoom）で参加し、議論が活性化及び機器のイメージが参加者で共有できるよう、イラストレーターが作成するイメージ図をスクリーン上に出力させ議論を進めた。

⑤ 開催結果

○ATAサテライト新潟

座長：林 豊彦 氏（新潟大学名誉教授、新潟市 IT サポートセンター顧問）

検討テーマ：「**視覚障害者の IT サポート支援機器を考える～地域支援体制の構築～**」

参加者：計 20 名（ニーズ側：7 名、シーズ側：6 名、事務局他：7 名）

※オンライン（Zoom）でも障害当事者にご参加いただいた。

新潟開催では、視覚障害者の支援機器について協議した。新潟県では、社会福祉協議会、視覚障害者情報センター、障害者施設、盲学校、大学、病院、ITサポートセンターが集まり、視覚障害者が取り残されない独自のネットワークを組んで支援を継続に行っている。

県の補助金にて、大学、ITサポートセンター、企業、社会福祉協議会でコンソーシアムを結成し、視覚障害者が簡単な操作のみでインターネット上の分散した情報を入手できるスマホアプリの開発を進めている。必要な情報、信頼できる情報に絞って配信され、欲しい情報を簡単且つ安心して入手できる。情報のコンテンツは、自治体・公共団体、病院、支援団体・企業、家族や支援者などから発信することを想定している。

市内の障害者を対象に支援機器に係る利用実態アンケートを行った結果では、視覚障害者は拡大読書器を除き、視覚障害者向けの機器を使用していない、もしくは知らない方がほとんどであった。また、従来型携帯電話（押しボタン式）を使用している視覚障害者は多く（特に後天的）、スマートフォンを使いこなしている方は IT リテラシーが高い方々であり、ごくわずかな状況である。

ニーズに基づき、障害者が使いやすくなるための改良は今後も必要ではあるが、IT 機器を使用するにはスキルが必要であり、障害者自身も IT 機器に歩み寄り、しっかりと障害者が機器を使えるようにサポートを受けられる体制作りが今後も求められる。

【議論の経過をイラストにしながら具体的な機器のイメージを考えた (抜粋)】

パネル討論

山口さん・伊藤さん
 (NTT クラウド) ノコン リモテでの 仕事が多い。
 当事者 情報アクセスがむずかしい！
 通称サイトでの買物もできて
 いる
 アクセシビリティはまだ「まだ」なかつ
 世界では共通にもしくはなっている

「検索」
 デジタルでもできて今はチャンス

「検索」
 フレームワークで「きくは」
 らせるとして
 当事者もいっしょにやっていく。

「検索」
 新潟市のサービスはよいが、他の地域がまだ...
 他の地域とのつながりは

「検索」
 大々くできている
 自治体の情報のアクセシビリティ
 企業・行政の改善

「アンケート」

「検索でのさかし方」→ 検索で「グーグルなどで」さかしもの
 音声と視覚での差 選取 と「何か」音がきこえるか
 必要で情報 必要で情報
 ・音がなると「つけない」
 ・ボタンも「つけない」(アクセス)
 ・どうに「つけない」の不安。

スマートフォン
 の物理的ボタンかな
 とおととまね 見えないうちがある

・Siri を使うが 人がいると「さかし」はつかえない
 Siri 短い返答 ができていない。

山口さん 使用支援年齢対象で「さかし」はつかえない。70代なら仕事で
 メール、写真ができる。使になせると。PCもつかっている経験が
 ある。ラインさえできれば「さかし」で「さかし」の人いる
 ・1つのものに「さかし」して「さかし」
 ・漠然 としいる人には全体的な
 ・1時間くらいは面談時間前半 雑談 (相手のリテラシーを)
 さかし「さかし」
 つく。

「検索」
 自身の生かせる「さかし」
 「さかし」
 「アメリカ - コンピュータアクセスセンター 障がい者へのサポートしている
 20年前2000万円 所がある
 も支援があった(企業)」

・日本の社会に「さかし」している機能。他の人と
 ・教育・医療も、必要 大車 (同じ仕事ができる機器)



「検索」
 いろいろ「さかし」のかかたり
 ・「さかし」部分「さかし」する機能
 どういう患者さんと「さかし」するか？
 なんでも「さかし」に「さかし」かという人もいるが「さかし」
 「さかし」して「さかし」

「さかし」
 「さかし」

「検索」
 ・自分カスタマイズしていかないと「さかし」
 いけない
 ・「さかし」の「さかし」が必要 福祉と「さかし」の「さかし」
 医療の場 - 「さかし」にかかると「さかし」
 自分の生活がよくなる「さかし」。

「伊藤さん」
 技術は
 作って「さかし」から「さかし」
 利用しやすいかは当事者が「さかし」するか
 判断のスキルが必要
 さかし「さかし」スキルが「さかし」
 れ「さかし」当事者も「さかし」ように「さかし」
 ・色「さかし」か「さかし」いい。天気「さかし」か「さかし」いいから
 ↓
 スマートフォン「さかし」使「さかし」
 努力も「さかし」いといけない。

「さかし」
 「さかし」か「さかし」
 「さかし」。

12月15日(木)3:00~ かつ今回の内容「さかし」発表か。
 オンラインでも「さかし」になります。

【ATAサテライト新潟まとめ】

ニーズベースマッピング研究会が21年度委員会、東京独立行政法人高齢者センター共同開発 21/02/12/15

1. アンサーワンの概要と背景

視覚障害者情報支援アプリ「アンサーワン」



- **情報提供**：視覚に障害をおもちの方、目が見えにくくなってきた方へ**必要な情報を音声で届ける**スマホアプリです。
- **情報提供の仕組み**：視覚障害者向けの情報をおもちの方へ、**情報を必要としている方へ簡単・確実に届ける**ことができる仕組みを提供します。
- **情報の選択**：インターネット上に無数に散らばる情報から、**信頼性の高いもの**に絞って配信します。

© 2022 Fujitsu Japan Limited

ニーズベースマッピング研究会が21年度委員会、東京独立行政法人高齢者センター共同開発 21/02/12/15

視覚障害者情報支援アプリ「アンサーワン」：まとめ



- ・視覚障害者支援に関する地域の専門家と企業が協働して開発を行った。
- ・ニーズ調査・専門家の意見に基づいて、プロトタイプを開発した。
- ・インタビュー調査を実施し、その結果からプロトタイプを改良した。
- ・改良型の操作性・機能性に対して第1次アンケート調査を実施し、今後の課題について明らかにした。

【新潟開催の様子】



○ATAサテライト下関

座長：石田 眞 氏 (NPO 法人メッセージ花くじら 理事長)

検討テーマ：「統合失調症など精神障害者の支援機器を考える～生活管理から就労継続～」

参加者：計15名 (ニーズ側：6名、シーズ側：3名、事務局他：6名)

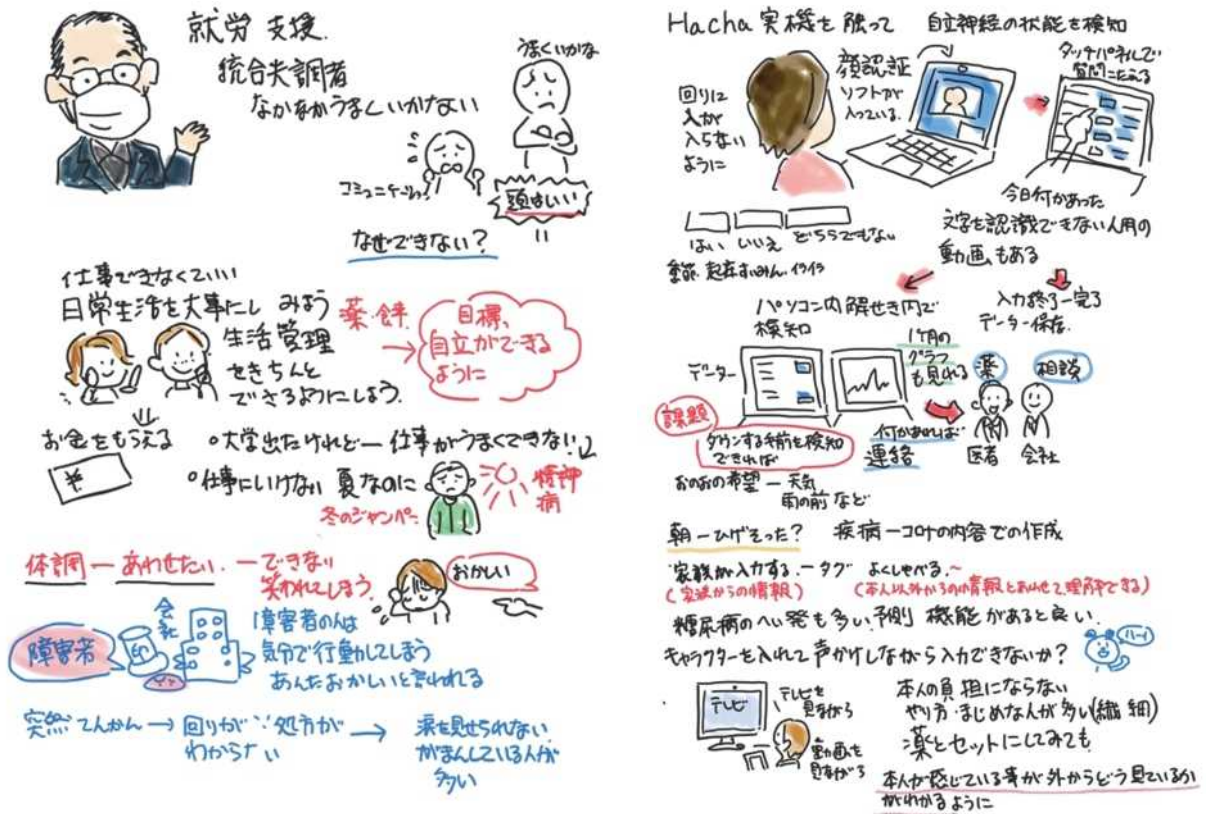
下関開催では、統合失調症、精神障害者の支援機器について協議した。統合失調症、精神障害者は仕事につけたとしても、夜型の人が多く生活リズムを安定させることが難しく、パニックになったり、季節によって体調の変動があったり、服薬を忘れてたりして継続的に仕事を続けることができないことが多い。また、順序だてて物事を進めていくことや、不安感を常に感じていることが多い。

HaCha は、Webカメラを使って脈拍、自律神経の状態をお知らせし、メンタルの不調の兆候をAIが判断して知らせてくれる。問診で服薬情報や睡眠の情報を記録する機器である。

今後の、機器やシステムのイメージとしては、生活管理を当事者自身で簡単に入力でき、生活の状況や体調なども可視化され、振り返りができるとよい。また、電話機能等も付加されることで、本人とやり取りができると本人の安心にもつながるのではないかと。異変が起きた場合には、家族や病院などの関係者へメール通知される仕組みがあるとよい。それを実現するには、機器のみでの解決は難しく、行政や病院などが一丸となってサポートする体制が必要である。

開催後の状況として、どのような機器の仕様であれば当事者本人が不安なく使えるものなのか引き続きニーズのヒアリングを続けている。また、座長より行政への働きかけを継続に行っており、精神科の病院で協力していただける機関を探しているところである。

【議論の経過をイラストにしながら具体的な機器のイメージを考えた (抜粋)】



【ATAサテライト下関まとめ】

統合失調症など精神障害者の支援機器を考える
～生活管理から就労継続～

2.当日のディスカッションの中で確認されたニーズと課題

解決すべき課題・ニーズ

安定した就労継続には、**毎日の生活管理が重要。**
(例えば、朝起きて準備する。髪を剃る。身だしなみを整える。)

➡ **精神障害のある方の場合、夜型の人が多く、朝起きれないことがある**

➡ **機器やシステムのイメージ**

生活管理を当事者自身で簡単にできるもので、操作が簡単で、生活の状態や体調なども可視化され本人が振り返りができるもの
またサポートする組織・人が同じアプリ(システム)を共有し使えるもの
当事者や関係者への通知機能(メールは△、振動刺激などで知らせるのが有効か?)
当事者から取得した生体情報を医師・医療機関などと連携できること

統合失調症など精神障害者の支援機器を考える
～生活管理から就労継続～

2.当日のディスカッションの中で確認されたニーズと課題

解決すべき課題・ニーズ

働かなければいけない時間は分かっている。
ただ出勤するまでに色々と考えてしまう。
例えば、発作が起きた場合、誰か助けてくれる人はいるかなど。
そうして**本来の仕事を忘れてしまう。**

➡ **機器やシステムのイメージ**

生活管理と共に、次のタスクについて通知してくれるようなシステム

統合失調症など精神障害者の支援機器を考える
～生活管理から就労継続～

2.当日のディスカッションの中で確認されたニーズと課題

解決すべき課題・ニーズ

まずは**当事者の思いをきちんと受け止めることが必要。**
思いや目的とその周辺で困っていることを
きちんと**アセスメントした上で、**
それを**マッチングするアプリやシステムがあると良い。**

➡ **機器やシステムのイメージ**

当事者が望む条件ややりたいこと(できること)と求人をマッチングする
アプリ

生活管理から就労継続を目指し現在準備中の取り組み



【下関開催の様子】



○ATAサテライト鹿児島

座長 吉満 孝二 氏（鹿児島大学医学部保健学科 助教）

検討テーマ：「統合失調症など精神障害者の支援機器を考える～生活管理から就労継続～」

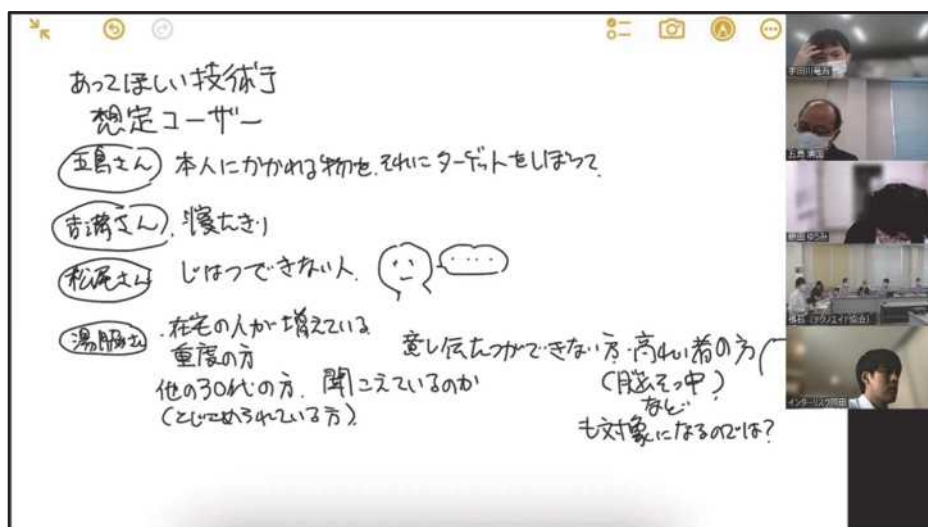
参加者：計19名（ニーズ側：4名、シーズ側：9名、事務局他：6名）

鹿児島開催では、重度障害者の覚醒のタイミングを知らせる支援機器について協議した。重度障害者には、自発的な意思表示ができない方もいる。Aさんは、筋ジストロフィーの診断を受け、低酸素脳症となり寝たきり時の状態である。覚醒時には喀痰吸引を必要とし、定期的な体位変換や給水が必要となる。そのため、家族は頻繁に当事者の状況を把握しておくことが求められ、頻繁な介護によって家事や睡眠時間の確保ができず、生活に支障が出ることも少なくない。

今回は、上記の課題を解決し、機器によって当事者の状態の変化を察知し、適切な時間に適切な介護を提供できること、ご家族が休める時間を確保できるようにつながる機器を検討した。

なお、本会には「自立支援機器イノベーション人材育成事業」に係るメンバーにも同席いただいたり、地域及び現場のニーズを共有し、議論を深めることとした。

【鹿児島開催の様子】



【議論の経過をイラストにしながら具体的な機器のイメージを考えた（抜粋）】

有馬さん お母さん

電気スイッチ
エアコン
せんぱつで
呼吸器のアラームの音が... 照る。

アラームが鳴る前
お知らせがわかるもの

給水時間かわかるもの
他の作業をしていると
給水時とわかり忘れやすい。

入浴
入浴時呼吸器を
はずせない。シャワーなど
お湯がつかせたい。

筋肉のおとろえで姿勢や意思がわからない。
本人の意しかわかんない。

弟の枕をいかにして
モニターをスマホで
見られるものか
あきらめたい

家族は急に状態が
おかしくなったり呼吸が
止まることが多いので
心配

母は夜中も起きて
ごはんを食べると
お母さんが
いらいらすると
アラームが鳴る

介護して
睡眠時間が少ない
自分の介護技術への不安
自分の体調面 腰や体の痛み
(つねに痛み止めが手はかせない)

弟はほかの兄弟が
生まれた時も名前をいしに
考案した。
今は弟をいっしょに
いるというところが
幸せ。
弟の事や介護の
言も聞いてもらう。

将来にわたしの
不安があるか。大丈夫だが
年とともにどうなるか
コロナ 肺炎 事故 経済的なもの

吉澤先生
ホジニアで前向きな介護をしているから、いつまでか
壊れることが不安になる

有馬さん
本人からの発信要望がとれればいいのでは？(欲はせなど)
今は受身の介護なので(現在表情で確認のみ)

家電機器
センサー機器を使用してリアルタイムに介護は楽になるのか？

有馬さん
本人が押しこめるようにできたら
アラーム音一呼吸器音は下げられるか、音も小さくすること
下げられるか アラーム
何かのときのため小さくでき
にしている

有馬さん
アレクサやスマートスピーカー
どうにも解決したい事は？
忘れてしまう恐怖心と不安
があるのでは？

有馬さん
そういうものはあればいい
仕事もして介護給水
には前準備に時間か
かかるとおっしゃる機能か
あきらめたい(他のことと
一緒かあるの？)

10時から参加
東京大学 研究者
柿花隆昭先生

吉澤先生 課題解決に向けたセンサーシステム

○認知症 ○脳卒中 ○筋失調 ○ALS 中核筋
失調 知覚・運動失調 筋力低下
加齢 筋力低下

機器を必要とする当事者

【ATAサテライト鹿児島まとめ】

～ みんなで考えよう支援機器の開発～

障がい当事者の置かれている状況（課題・ニーズ）	
<p>■想定するユーザー（状態像） 【在宅で生活する重度障がい者】</p> <ul style="list-style-type: none"> > 自発的な意思表示がほとんどできない方 > 喀痰吸引を要する方 > 体位変換や給水を要する方 <p>【介護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> > 頻回な介護によって、家事や睡眠時間が確保できない等、生活に支障がある方 	<p>■解決すべき課題・ニーズ 【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> > 当事者がいつ覚醒したのかわからない > 介護者が喀痰吸引や体位変換、給水のタイミングを計らなければならない > 介護者が常に当事者に対し注意を配分しなくてはならず、気が休まらない <p>【ニーズ】</p> <ul style="list-style-type: none"> > 当事者の貯痰や体の痛みで即座に気づき、適切な介護を提供したい > ゆっくりと休める時間が欲しい
課題解決に向けた提案・アイデア（シーズ）	
<p>■機器やシステムのイメージ 【画像データの活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> > ベッドにカメラを設置することで、表情の変化（眼瞼の動き、ニュートラルからネガティブな表情への変化）をセンシング > 上記の機器で収集した画像データを解析し、覚醒を把握することで、喀痰吸引や体位変換、給水の最適なタイミングを知ることができる <p>【音声データの活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> > 喉に咽喉マイクを設置することで、喉の音をセンシング > 上記の機器で収集した音声データを解析し、喀痰吸引のタイミングや痰が十分に取れたかを知ることができる 	<p>■満たすべき仕様・構造</p> <ul style="list-style-type: none"> > 当事者の表情を常に撮影し、解析を行う。表情と状態の結び付けは困難であるため、補助的なデータとして扱う。どのデータを優先するか等は設定が必要 ⇒データごとの閾値を設定すれば、学習で調整できる可能性あり > 機器の取りこぼしや停止にリスクがある。故障率を下げる必要がある > 咽喉マイクを当事者の喉に装着し、喉の音をセンシングする。装置はずれる可能性があるため、設置位置を指定するなど運用面で課題がある > 喉の音+表情画像+αのデータを解析し、喀痰吸引のタイミングや吸引が十分に取れたかなどを示す

実現可能性について(覚醒や快不快の弁別)

自験例

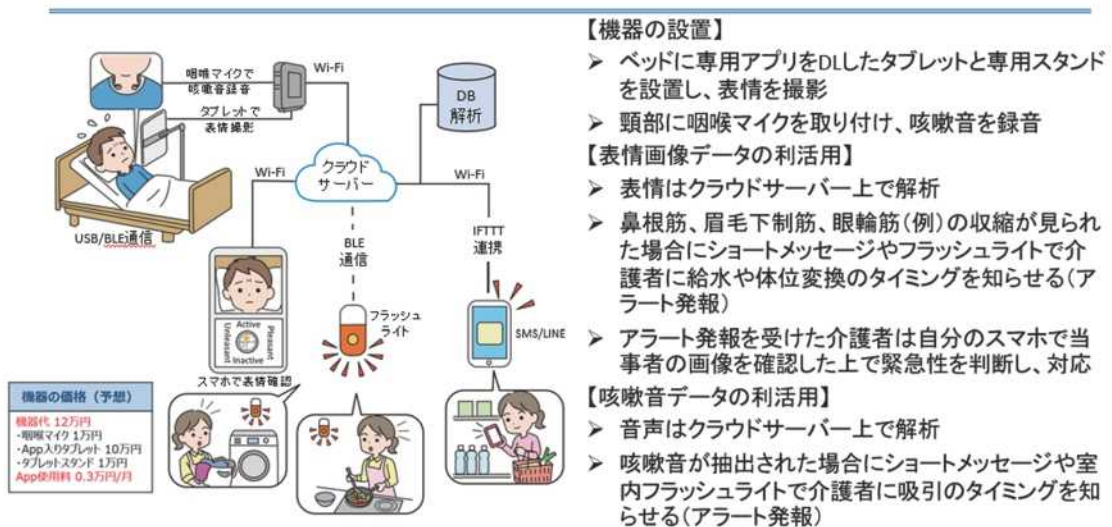
項目	概要
シミュレーションの方法	表情解析ソフトによる表情解析と医療介護専門職と表情弁別の一致度を検証 対象：介護、看護、リハ職、その他の専門のエキスパートスタッフ101名 機材：ルダス社「FaceReader™」 方法：FaceReader™を用いて不活発高齢者A氏の表情を解析し、「喜び（幸せ）」「悲しみ」「怒り」の3表情と「Positive」「Negative」の2気分が高い強度で出現した場面を抽出し、被験者にその表情を見せ、3表情のうちどれかを答えさせた。
シミュレーションの結果	表情解析ソフトと医療介護専門職による表情弁別において ■ 「喜び（幸せ）」の表情は高率で一致 ■ 「positive」「Negative」の表情弁別は高率で一致 ■ 「悲しみ」「怒り」の一致は低率
シミュレーションの結果から明確になった事項	知見：表情解析ソフトによる不活発高齢者の7表情の弁別には課題がある 一部表情とPositive-Negativeの弁別は可能 不活発高齢者であっても最新の表情解析技術によって表情の理解がある程度可能

実現可能性について(喀痰吸引のタイミング)

自験例

項目	概要
シミュレーションの方法	咽喉マイクで貯痰を検知できるのか検討 対象：要排痰ケア患者4名 機材：南豆無線電機社製 マイクSH-12jKL 方法：周波数解析は被験者の頸部に設置したマイクから取得した吸引直前、最中、直後、平常時の音声データから、排痰直前のデータにあらわれる貯痰時の副雑音と吸引時のバキューム音の特徴音の抽出を試みた。
シミュレーションの結果	■ 気管切開していない患者で、吸引前の呼吸音に特徴音が検出 * 周波数帯域には若干の個人間差、週レベルで若干の個人内差あり ■ 気管切開している患者では、特徴音は不検出 ■ 気管切開の有無によらず、バキューム音に特徴音が検出
シミュレーションの結果から明確になった事項	知見：気管切開していない患者の貯痰検知は可能(1回/数日の再測定が必要) 気管切開している患者のマイクによる貯痰検知は困難 音声データより吸引時間や回数は判別可能 改善点：気管切開していない患者の貯痰検知のために、定期的にキャリブレーション機能が必要

支援機器のイメージ



(6) 意見交換会、アドバイス支援の実施結果

①開催のねらい、目的

交流会の成果を着実に支援機器の開発に繋げるため、開発企業の希望に応じて、相談やアドバイス等の開発支援を行うこととした。

具体的には、企業等から要望を個別にうかがい、関係する障害者等との意見交換会やアドバイス支援等の機会を設けた。

また、その成果については、協会のHP等を通じて広く周知し、ニーズとシーズのマッチングを活性化するとともに、来年度以降の開発促進事業の応募を喚起することとした。

意見交換等の具体的な内容は、開発改良中の支援機器について、コンセプトや利活用の場面、想定利用者の適用範囲、機能・性能等の在り方について、シーズ・ニーズ対等の立場にたって自由な意見交換等を行い、もって障害者現場のニーズに即した開発改良を推進することとした。

②期間

令和4年10月24日～

③実施方法

交流会の出展企業等に対して、開発改良中の機器について、意見交換会やアドバイスしてほしい内容等を個別にうかがい、想定するユーザーの団体等へ繋ぐこととした。

実施は、訪問又は状況に応じてオンライン会議にて行うこととし、意見交換会等への参加については、地域を限定しないこととした。なお、東京会場の場面についても積極的に活用することとした。

1) 実施予定数

5件程度

原則、先着順とする。応募内容が本事業の趣旨に合致するものか、当協会にて確認のうえ実施の可否を決定した。

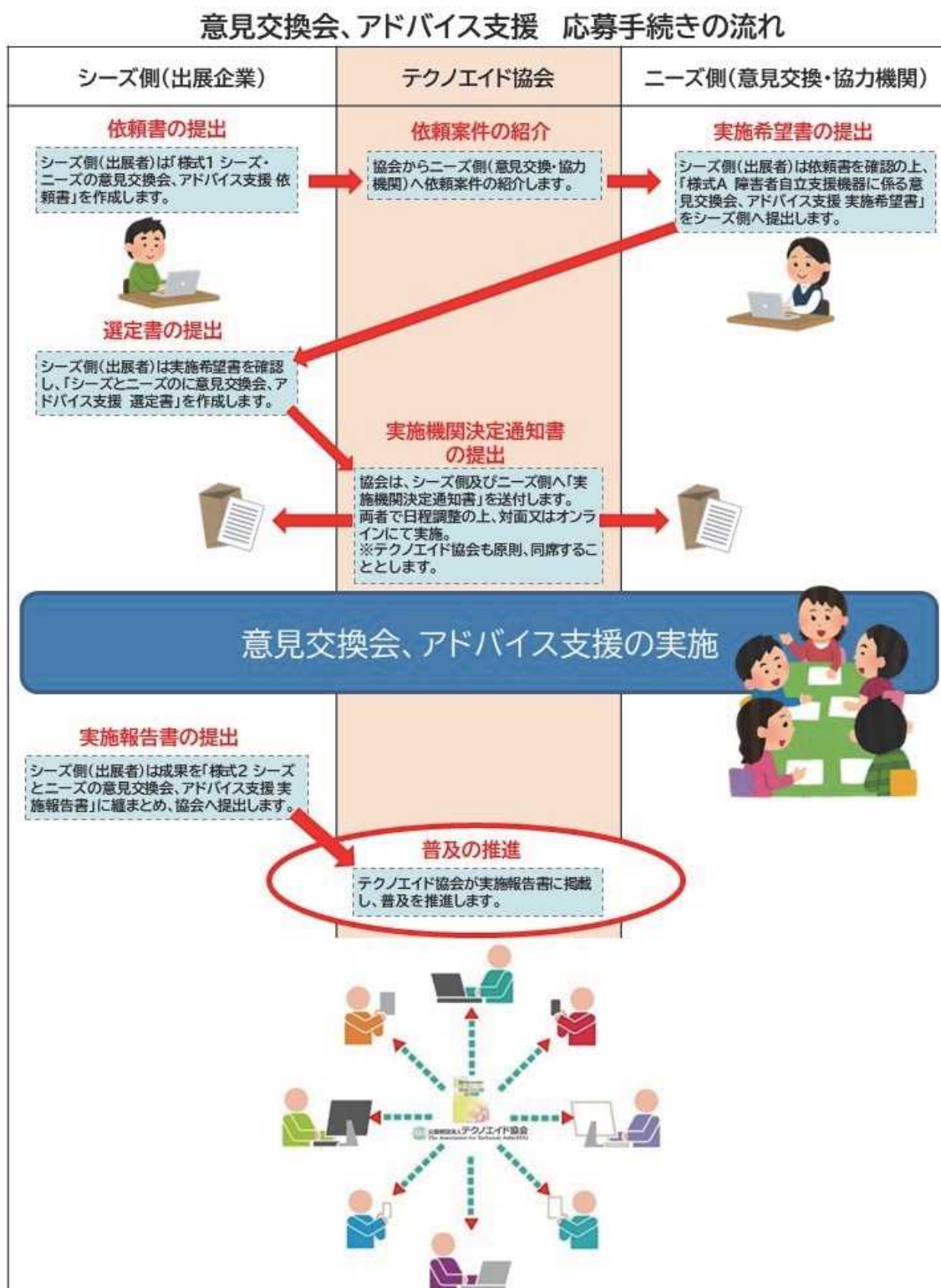
不明瞭な記載や内容に不備がある場合、本事業の趣旨に反する案件等については、受付しないこととした。

2) ニーズとシーズのマッチング

企業からの個別の要望に対し、ご協力いただく障害者等の団体については、企画委員会のメンバーが所属する団体又は当該団体が紹介する団体等を基本とした。

適切な団体等が見当たらない場合には、当協会において関係機関・有識者等と協議のうえ、マッチング先を探すこととし、どうしてもマッチング先が見つからない場合もあり得ることとした。）

- 3) 応募の手続き及び流れについて
以下の図の流れに従い、実施した。



④実施結果

結果として3社の依頼があり、3社が希望のニーズ側とマッチングすることができ、全4件の意見交換・アドバイス支援を実施することができた。

【意見交換会、アドバイス支援 実施結果】

案件番号	機器名称・画像	応募開発企業等	交流先
04-01	平面画像の立体認識技術・製品	株式会社一心助け	社会福祉法人 日本視覚障害者団体連合
			
04-02	To walk	株式会社口バの耳	川崎市社会福祉事業団 れいんぼう川崎
			
04-03	オゾン+電解水生成器-移動式オゾン+電解微細気泡水床上入浴ユニット	株式会社アクアエコテック	一般社団法人 日本 ALS 協会 公益社団法人 全国脊髄損傷者連合会
			

【実施報告書】

協会では、提出された実施報告書をもとに、マッチング成果の事例集を作成することとした。事例集のイメージは、以下のとおりである。

公益財団法人テクノエイド協会
http://www.techno-aid.or.jp

障害者自立支援機器のニーズとシーズの意見交換、アドバイス支援
実施事例集

公益財団法人テクノエイド協会
〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1セントラルプラザ4F
HP: http://www.techno-aid.or.jp
TEL: 03-3266-6883

本事業は「令和4年度ニーズ・シーズマッチング強化事業」の一環として行なわれます。

障害者自立支援機器 ニーズとシーズの 意見交換会、アドバイス支援 実施事例集

身体障害 <small>身体等に障害のある者の更生支援（福祉活動の推進）</small>	機器名称 To walk	企業名 株式会社ロバの耳	型番 定型型・カスタム型
	連絡先 電話 022-346-6117		

交換先

川崎市社会福祉事業団
れいんぼう川崎

理学療法士 小嶋 さおり
理学療法士 安本 海生
理学療法士 宮本 麻美
理学療法士 山岸 保樹
リハビリテーション科医師 青藤 真輝
スタッフの方 3名

川崎市リハビリテーションセンター 南都・中部・北部センターの各館

実施結果	実施方法等
12月12日	訪問設置及び、Web参加
1月10日	訪問対応
1月31日	訪問対応予定

交換のねらい

当社の足置式器具「To walk」は、腰痛等により足の指が変形した方の動作改善を目的として開発された自動装置です。2次の障害者として取り扱われるケースも多く、リハビリの専門機関に依り、製品評価を実施して頂く事が非常に困難な状況でした。

今回、多くのリハビリテーションに携わる専門の職員の皆様、実際に足の指が変形している皆様のご意見やアドバイスを頂く機会を幸甚に感謝申し上げます。

抽選者の方、3名の内、2名の方が「To walk」を使用した状態で、従来より立位や歩行時の安定感を得るというご意見を頂きました。

また、1名の方は、カスタム製のモニター着脱を頂き、フィッティング調整を行っております。

交換の成果

カスタム製のモニター着脱を申し出て頂いた方のフィッティング調整を通じて、足の指を指一本の長さで支えるのではなく、肩でも調整する必要が存在する事を確認できました。

足の指の幅が第一指（第一～第四指）は、高さ10mm、小指（第五指）は7mmでデザインした製品をご提供する予定です。

採買的に可能なデザイン実装で、より指先に効果の高い製品をお届けする事が可能となる事に気づかされる貴重な機会となりました。

調整色糸の着脱に深く関心、申し上げます。

開発者、今後の見直し

様々なご意見をお伺いする事により、To walkを必要とされる皆様への生活動作の改善に寄与する製品として開発を進めたいと考えております。

その他

当日は、テクノエイド協会企業部 宇田川 竜馬様にご同席頂きました。

身体障害	機器名称 オゾン・電解水生成器-移動式オゾン・電解菌滅気泡水床上下浴ユニット	企業名 株式会社アクアエコテック	型番 AQUA-BBU50
	連絡先 電話 045-334-8984		

交換先

一般社団法人 日本ALS協会
協会本部 常務理事 岸川 宏康
ALSの患者様 岸川 宏康
非会員の方

実施結果	実施方法等
令和4年12月12日	日本ALS協会事務局をご訪問して対面交流
令和4年12月15日	ニーズ・シーズマッチング交流会にて足浴を体験実施

交換のねらい

ALSという難病の特性や日常生活の状況の理解も含めて支援機関についてアドバイスや意見を頂きたい。また、ALS患者や介護者のおかれた現状なども理解した上で、どのような製品を開発すればお役に立つのかを確認したい。

交換の成果

● ALSは中絶障害がほとんどであり、長い期間経て手足や口の不自由から全身へ病気が進行していく。
● 寝たきりの患者さんはそのほとんどが高齢者ということだ。
● ペットが必須は非常に多く飼育されているというニーズが強い。
● 貴社は、奥2層ほど信頼感で訪問入浴サービスを展開している。
● ペット入浴は、寝たきりになると全身を動かすことが困難であり、気管切開口に繋がらないうちに浴室内の尿の臭いも悪化する。
● 訪問入浴は非常に多いが、訪問入浴を行うサービス会社が少ないのが現状であり、貴社に入浴を利用できるとよい。

交流会での実施体験

会場では移動式電解オゾン菌滅気泡水床上下浴ユニットから生成した電解水湯を体験してALS患者様に足浴を体験していただいた。

患者様からは「昔年からは暑い生活になって足が冷たくなっていくことも多かった。足浴後、おかげで足が冷たくなることも減りました」とご意見を頂きました。また、石臼の漉り、電解水湯の泡に汚れが付きやすくなるのを見てびっくりしてました。足浴後、展示中のエアお湯（お湯入浴用）を見て「できたのがお風呂に入っていない」といふ感想もいただきました。

開発者、今後の見直し

ニーズ・シーズマッチング交流会での体験実施を通じて、新しい生活まで病状が進行してしまつた患者様に足浴が役立つような商品が実現に役立つことがありました。今後協会のイベント等により多くの方に体験して頂き、より具体的なご意見やアドバイスを伺いできればと思います。

(7) 開催結果及びアンケート結果

①Web開催の結果

(令和5年1月31日時点の集計結果)

公開期間（4か月）	令和4年10月 1日（土）～ 令和5年 1月31日（火）
Web交流プラットフォーム アクセス数（トップ画面）	12,951回

※昨年は、9,781回

出展者数	83社・団体
------	--------

出展者ページ閲覧 回数上位5者	①	ベッドの上で入浴企画株式会社	312回
	②	株式会社 Ubitone	268回
	③	神奈川工科大学	264回
	④	株式会社 YAMADA	260回
	⑤	シスネット株式会社	233回

出展機器紹介動画 再生回数上位5者	①	ベッドの上で入浴企画株式会社	1908回
	②	株式会社 Ubitone	115回
	③	ユニチカトレーディング株式会社	99回
	④	株式会社 YAMADA	79回
	⑤	神奈川工科大学	73回

常時配信動画再生 回数上位5者	①	障害者自立支援機器開発促進事業の概要 (厚生労働省)	135回
	②	リハビリテーション関連職等が支援機器の適切な選 定・導入運用時に用いるガイドラインの開発(国立 障害者リハビリテーションセンター 井上氏)	69回
	③	NICT 情報バリアフリー通信・放送役務提供・開発 推進助成金制度について(NICT)	64回
	④	障害者の支援機器開発におけるモニター評価手法の 開発及びモニター評価を実践する人材の育成プログ ラム開発のための研究(東京大学 二瓶氏)	62回
	⑤	障害者の支援機器開発に携わる医療・福祉・工学分 野の人材育成モデル構築に資する研究(東北大学 出江氏)	56回
アンケート回収数			8件

アンケート回答者は、障害当事者、家族、施設関係者、一般の方々であった。どのように開催を知ったかについては、「協会からの案内」、「協会ホームページ」であった。また、来場目的については、「支援機器の紹介をみて意見交換を行いたかった」、「どのようなイベントなのか知りたかった」、「どのような支援機器が出展しているのか見たかった」であった。

②会場開催（大阪、東京）の来場者数の結果

来場者の属性や人把握、受付を円滑に実施することを目的として、Web交流プラットフォーム内に事前登録をしていただくボタンを設けた。また、事前登録を実施していない場合であっても会場では、名刺や受付票に記載してご来場いただくこととした。

○事前登録者（出展者は任意とした）

会場	合計
大阪会場	139名
東京会場	250名
合計	389名

※昨年の東京会場の事前登録者数は、出展者を含めて419名であった。

○事前登録者の属性内訳

属性	大阪会場	東京会場	全体
障害当事者	12	13	25
家族・支援者	13	19	32
施設・病院等の医療福祉従事者	21	38	59
開発企業	46	86	132
産業振興団体	1	9	10
大学・研究機関	18	27	45
障害当事者団体	0	2	2
行政	4	19	23
その他	24	37	61
合計	139名	250名	389名

※「その他」として、福祉用具卸業者、商社、医療機器販売業者、コンサル業者、サービス業者等があった。

○来場者数と内訳

事前登録者	使う人	作る人	出展者	合計
大阪会場	118	94	126	338名
東京会場	131	180	108	419名
合計	249	274	234	757名

※昨年は一般来場者、出展者を含めて259名の来場であった。

③会場開催（大阪、東京）のアンケート結果

1) 来場者アンケート調査結果 【会場別】

○アンケートの回答件数と回収率

会場	回答件数	回収率
大阪会場	82件	38.7%
東京会場	108件	34.7%
合計	190件	

○アンケート回答者の基本情報

選択肢	大阪	東京	全体
一般企業（今後、支援機器の開発を目指す企業を含む）	24 (29.3%)	30 (27.8%)	54 (28.4%)
障害者家族	13 (15.9%)	7 (6.5%)	20 (10.5%)
障害者	8 (9.8%)	9 (8.3%)	17 (8.9%)
研究機関・団体	6 (7.3%)	11 (10.2%)	17 (8.9%)
学校・教育関係者	6 (7.3%)	2 (1.9%)	8 (4.2%)
医療関係者	4 (4.9%)	11 (10.2%)	15 (7.9%)
施設関係者	5 (6.1%)	3 (2.8%)	8 (4.2%)
支援機器開発企業	2 (2.4%)	12 (11.1%)	14 (7.4%)
行政	0 (0.0%)	13 (12.0%)	13 (6.8%)
その他	9 (11.0%)	9 (8.3%)	18 (9.5%)
無回答	5 (6.1%)	1 (0.9%)	6 (3.2%)
合計	82 (100%)	108 (100%)	190 (100%)

○開催の情報収集元について（複数回答） 大阪：n=82、東京：n=108

No.	選択肢	大阪	東京	全体
1	テクノエイド協会からの案内	30 (36.6%)	42 (38.9%)	72 (37.9%)
2	テクノエイド協会のホームページ	8 (9.8%)	14 (13.0%)	22 (11.6%)
3	所属する障害団体からの案内	2 (2.4%)	6 (5.6%)	8 (4.2%)
4	経済振興団体からの案内	4 (4.9%)	3 (2.8%)	7 (3.7%)
5	所属する職能団体からの案内	6 (7.3%)	3 (2.8%)	9 (4.7%)
6	自治体などからの案内・広報誌など	2 (2.4%)	6 (5.6%)	8 (4.2%)
7	友人・知人からの紹介	16 (19.5%)	19 (17.6%)	35 (18.4%)
8	新聞・テレビ・ラジオなど	3 (3.7%)	1 (0.9%)	4 (2.1%)
9	その他	11 (13.4%)	16 (14.8%)	27 (14.2%)

○交流会来場の目的について（複数回答） 大阪：n=82、東京：n=108

No.	選択肢	大阪	東京	全体
1	機器の閲覧や体験をしながら意見交換を行いたかった	51 (62.2%)	73 (67.6%)	124 (65.3%)
2	普段困っていることについて相談したかった	12 (14.6%)	10 (9.3%)	22 (11.6%)
3	特定の企業または団体に対して直接伝えたいことがあった	10 (12.2%)	0 (6.5%)	17 (8.9%)
4	具体的に作って欲しい要望やアイデアがあり、企業に伝えたいことがあった	3 (3.7%)	4 (3.7%)	7 (3.7%)
5	その他	15 (18.3%)	30 (27.8%)	45 (23.7%)

※その他の内容としては、「情報収集のため」、「見学」、「勉強のため」等

○展示についての満足度について

No.	選択肢	大阪	東京	全体
1	大変満足している	30 (36.6%)	41 (38.0%)	71 (37.4%)
2	ある程度満足している	38 (46.3%)	51 (47.2%)	89 (46.8%)
3	どちらとも言えない	8 (9.8%)	13 (12.0%)	21 (11.1%)
4	あまり満足していない	3 (3.7%)	1 (0.9%)	4 (2.1%)
5	全く満足していない	0 (0.0%)	1 (0.9%)	1 (0.5%)
	無回答	3 (3.7%)	1 (0.9%)	4 (2.1%)
	合計	82 (100%)	108 (100%)	190 (100%)

○来年も参加したいと思うか

No.	選択肢	大阪	東京	全体
1	ぜひ参加したい	40 (48.8%)	46 (42.6%)	86 (45.3%)
2	参加したい	32 (39.0%)	45 (41.7%)	77 (40.5%)
3	どちらともいえない	5 (6.1%)	15 (13.9%)	20 (10.5%)
4	参加したくない	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
5	全く参加したくない	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	無回答	5 (6.1%)	2 (1.9%)	7 (3.7%)
	合計	82 (100%)	108 (100%)	190 (100%)

2) 来場者アンケート調査成果 【属性別】

属性別の集計方法として、「当事者・家族」、「施設・医療従事者」、「企業（一般企業及び支援機器開発企業を合算）」にそれぞれに分けて分析した。

○開催の情報収集元について（両会場、複数回答）

当事者、家族：n=37、施設・医療従事者n=23、企業n=68

No.	選択肢	当事者、家族	施設・医療関係者	企業
1	テクノエイド協会からの案内	12 (32.7%)	8 (34.8%)	22 (31.4%)
2	テクノエイド協会のホームページ	3 (8.1%)	2 (8.7%)	13 (18.6%)
3	所属する障害団体からの案内	5 (13.5%)	0 (0.0%)	2 (2.9%)
4	経済振興団体からの案内	1 (2.7%)	0 (0.0%)	4 (5.7%)
5	所属する職能団体からの案内	1 (2.7%)	1 (4.3%)	2 (2.9%)
6	自治体などからの案内・広報誌など	0 (0.0%)	2 (8.7%)	3 (4.3%)
7	友人・知人からの紹介	5 (13.5%)	6 (26.1%)	15 (21.4%)
8	新聞・テレビ・ラジオなど	2 (5.4%)	1 (4.3%)	1 (1.4%)
9	その他	8 (21.6%)	3 (13.0%)	8 (11.4%)

※「企業」は、支援機器開発企業及び今後、支援機器開発を目指す企業を指す
「その他」は、バリアフリー展から、出展企業からの案内等

○交流会来場の目的について（両会場、複数回答）

当事者、家族：n=37、施設・医療従事者n=23、企業n=68

No.	選択肢	当事者、家族	施設・医療関係者	企業
-----	-----	--------	----------	----

1	機器の閲覧や体験をしながら意見交換を行いたかった	22 (48.9%)	17 (60.7%)	34 (54.0%)
2	普段困っていることについて相談したかった	6 (13.3%)	7 (25.0%)	3 (4.8%)
3	特定の企業または団体に対して直接伝えたいことがあった	5 (11.1%)	0 (0.0%)	4 (28.6%)
4	具体的に作って欲しい要望やアイデアがあり、企業に伝えたかった	4 (8.9%)	0 (0.0%)	8 (12.7%)
5	その他	8 (17.8%)	4 (14.3%)	14 (22.2%)

○展示についての満足度について（両会場）

当事者、家族：n = 37、施設・医療従事者 n = 23、企業 n = 68

No.	選択肢	当事者、家族	施設・医療関係者	企業
1	大変満足している	9 (24.3%)	9 (38.1%)	28 (41.2%)
2	ある程度満足している	20 (54.1%)	10 (43.5%)	29 (42.6%)
3	どちらとも言えない	5 (13.5%)	4 (17.4%)	8 (11.8%)
4	あまり満足していない	1 (2.7%)	0 (0.0%)	2 (2.9%)
5	全く満足していない	2 (5.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	無回答	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.5%)
	合計	37 (100%)	23 (100%)	68 (100%)

○来年も参加したいと思うか（両会場）

当事者、家族：n = 37、施設・医療従事者 n = 23、企業 n = 68

No.	選択肢	当事者、家族	施設・医療関係者	企業
1	ぜひ参加したい	15 (40.5%)	13 (56.5%)	27 (39.7%)
2	参加したい	18 (48.6%)	10 (43.5%)	28 (41.2%)
3	どちらともいえない	3 (8.1%)	0 (0.0%)	12 (17.6%)
4	参加したくない	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
5	全く参加したくない	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	無回答	1 (2.7%)	0 (0.0%)	1 (1.5%)
	合計	37 (100%)	23 (100%)	68 (100%)

来場者アンケートの回答者は、一般企業の回答が一番多く、次いで障害当事者の回答が多かった。開催の情報収集源については、「テクノエイド協会からの案内」、次いで「友人知人からの紹介」が多く、回答者別にみると、概ね傾向は変わらないが、当事者・家族では「所属する障害者団体からの案内」も多いことが分かった。

来場の目的については、「機器の閲覧や体験をしながら意見交換を行いたかった」が多く、回答者別でも傾向は変わらなかった。

展示についての満足度については、8割以上が「満足している」の結果であり、回答者別にみても差は見られなかった。来年も参加したいかの問いに対しては、8割以上が「参加したい」、回答者別にみても傾向は変わらなかった。

○来場者アンケート『どのような交流ができたか』（自由記述） ※一部のみ抜粋

- 当事者（脳性マヒ）の息子が今必要としている機器を実際に体験ができ、企業や団体を超えて繋いでいただき体験や案内を頂けた。
- カタログではわからないナマの情報が聞けて参考になった。
- 作品を体感させていただいて、こうすればと意見を言えてよかった。
- 具体的商品化について相談できた。

- 開発者の方から制作上の工夫などを直接聞けました。体験もできた。
- 実際に機器に触れて意見交換が出来たので、良い交流ができた。
- コミュニケーションツールがいろいろ開発されて使いやすくなっていた。患者さんにもお勧めしたいと思うものがいくつもあった。 等

3) 出展者アンケート調査成果

○アンケートの回答件数と回収率

会場	回答件数
大阪会場	58件
東京会場	69件
合計	127件

○過去の参加状況について

No.	選択肢	大阪	東京	全体
1	過去全て参加している	9 (15.5%)	10 (14.5%)	19 (15.0%)
2	過去5度以上参加している	8 (13.8%)	13 (18.8%)	21 (16.5%)
3	過去4度参加している	2 (3.4%)	2 (2.9%)	4 (3.1%)
4	過去3度参加している	4 (6.9%)	4 (5.8%)	8 (6.3%)
5	過去2度参加している	6 (10.3%)	4 (5.8%)	10 (7.9%)
6	過去1度のみ参加している	6 (10.3%)	9 (13.0%)	15 (11.8%)
7	今回初めて参加した	23 (39.7%)	27 (39.1%)	50 (39.4%)
	合計	58 (100%)	69 (100%)	127 (100%)

○過去の交流会について、その後の機器開発や団体の活動において有意義な交流ができたか (上記の問いに対し、1～6にかけて回答した方について)

No.	選択肢	大阪	東京	全体
1	大変参考になった	14 (24.1%)	24 (15.5%)	38 (29.9%)
2	ある程度参考になった	28 (48.3%)	26 (13.8%)	54 (42.5%)
3	どちらともいえない	5 (8.6%)	3 (3.4%)	8 (6.3%)
4	あまり参考にならなかった	1 (1.7%)	0 (3.4%)	1 (0.8%)
5	参考にならなかった	0 (0.0%)	0 (3.4%)	0 (0.0%)
	無回答	10 (17.2%)	16 (3.4%)	26 (20.5%)
	合計	58 (100%)	69 (100%)	127 (100%)

○交流会参加を通して「障害者自立支援機器等開発促進事業」など、国の開発補助事業に応募してみたいと思ったか

No.	選択肢	大阪	東京	全体
1	是非、応募したい (応募を検討したい)	13 (22.4%)	20 (29.0%)	33 (26.0%)
2	応募してみたい (応募を検討してみたい)	23 (38.7%)	26 (37.7%)	49 (38.6%)
3	どちらともいえない	22 (37.9%)	23 (33.3%)	45 (35.4%)
4	補助事業に関心はない	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	合計	58 (100%)	69 (100%)	127 (100%)

○交流を行った概ねの人数

No.	選択肢	大阪	東京	全体
1	20人未満	18 (31.0%)	12 (17.4%)	30 (23.6%)
2	20人～50人未満	29 (50.0%)	44 (63.8%)	73 (57.5%)
3	50人～100人未満	10 (17.2%)	12 (17.4%)	22 (17.3%)
4	100人以上	1 (1.7%)	1 (1.4%)	2 (1.6%)
	合計	58 (100%)	69 (100%)	127 (100%)

○交流の具体的な内容（複数回答）

大阪：n=58、東京：n=69

No.	選択肢	大阪	東京	全体
1	機器に対する要望や改善点が聞けた	31 (26.1%)	38 (23.3%)	69 (24.5%)
2	日常の困りごとやニーズに関する話が聞けた	35 (29.4%)	47 (28.8%)	82 (29.1%)
3	今後の具体的な開発協力や連携に関して話ができた	21 (17.6%)	35 (21.5%)	56 (19.9%)
4	自社や自団体の活動や取り組みについて理解が深められた	28 (23.5%)	33 (20.2%)	61 (21.6%)
5	その他	4 (3.4%)	10 (6.1%)	14 (5.0%)

○交流会の満足度

No.	選択肢	大阪	東京	全体
1	大変満足している	17 (29.3%)	24 (34.8%)	41 (32.3%)
2	ある程度満足している	31 (53.4%)	37 (53.6%)	68 (53.5%)
3	どちらとも言えない	8 (13.8%)	1 (1.4%)	9 (7.1%)
4	あまり満足していない	1 (1.7%)	7 (10.1%)	8 (6.3%)
5	全く満足していない	1 (1.7%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)
	合計	58 (100%)	69 (100%)	127 (34.8%)

○会場の立地や利便性

No.	選択肢	大阪	東京	全体
1	大変満足している	30 (51.7%)	40 (58.0%)	70 (55.1%)
2	ある程度満足している	25 (43.1%)	29 (42.0%)	54 (42.5%)
3	どちらとも言えない	3 (5.2%)	0 (0.0%)	3 (2.4%)
4	あまり満足していない	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
5	全く満足していない	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	合計	58 (100%)	69 (100%)	127 (100%)

○展示ブースの配置

No.	選択肢	大阪	東京	全体
1	大変満足している	16 (27.6%)	26 (37.7%)	42 (33.1%)
2	ある程度満足している	26 (44.8%)	32 (46.4%)	58 (45.7%)
3	どちらとも言えない	7 (12.1%)	9 (13.0%)	16 (12.6%)
4	あまり満足していない	7 (12.1%)	1 (1.4%)	8 (6.3%)
5	全く満足していない	2 (3.4%)	1 (1.4%)	3 (2.4%)
	合計	58 (100%)	69 (100%)	127 (100%)

○来年の出展について

No.	選択肢	大阪	東京	全体
1	ぜひ出展したい	27 (46.6%)	28 (40.7%)	55 (43.3%)
2	出展したい	21 (36.2%)	26 (37.7%)	47 (37.0%)
3	どちらとも言えない	9 (15.5%)	13 (18.8%)	22 (17.3%)
4	出展したくない	0 (0.0%)	2 (0.0%)	2 (0.6%)
5	全く出展したくない	1 (1.7%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)
	合計	58 (100%)	69 (100%)	127 (100%)

○来年も出展を希望する場合、どの様な参加方法を希望するか

No.	選択肢	大阪	東京	全体
1	会場開催に参加	20 (34.5%)	25 (36.2%)	45 (35.4%)
2	Webのみ参加	2 (3.4%)	2 (2.9%)	4 (3.1%)
3	会場開催とWebの両方に参加	34 (58.6%)	40 (58.0%)	74 (58.3%)
4	その他別の参加方法	2 (3.4%)	2 (2.9%)	4 (3.1%)
	合計	58 (100%)	69 (100%)	127 (100%)

○出展者アンケート『交流の具体的な内容や成果について』（自由記述） ※一部のみ抜粋

- 来場の試作機に関係する材料企業の方や研究者の方を会場でご紹介してもらい、充実した交流ができた。
- コーディネーターの方々から、貴重なアドバイスを頂戴し、詳細な開発の課題や改善点を把握できた。
- 毎年、新しい出会いがあり交流が広がっている。とても有意義な交流会に参加させてもらった。
- 自社機器に関する意見を聞くことができた上に、他製品の開発技術などを知ることができてとても有意義であった。
- 開発協力の依頼につながった。
- 関連団体と繋がりができ、詳細なニーズを把握する機会を得る事ができた。 等

(8) 今後の交流会の在り方について

① 交流会の成果等について

今年度は、大阪と東京の会場開催及び昨年同様にWeb開催を実施した。

Web開催では、令和4年10月から翌年の1月までの4か月間を交流期間とし、「Web交流プラットフォーム」からアクセスを可能とした。Web交流プラットフォームでは、出展企業等の出展者情報、機器情報を動画やPDFで確認することができ、「問い合わせフォーム」、「掲示板」を準備した。また常時配信として、国の助成金制度の紹介や福祉用具開発に係る厚生労働科学研究の動向、ニーズの発信として障害当事者団体のインタビューの動画を掲載した。

結果、プラットフォームのトップ画面アクセス数は12,951回（前年9,781回）となり、前年よりもアクセス数が3,000回以上増大した。また、一部の出展者の機器動画では1,900回以上の再生数となった。これは大きな成果と言えるのではないかと。しかしながら、「問い合わせフォーム」、「掲示板」は積極的に使用されるまでには至らなかった。Web開催のアンケートでは、来場目的として「支援機器の紹介を見て意見交換したかった」、「具体的に作ってほしい要望やアイデアがあり、企業へ伝えたかった」などであった。来年も来場したいとの声が多かった。

会場開催では、出展者を含めた来場者数は大阪会場で338名、東京会場で419名（前年259名）であった。大阪会場は2019年以来、3年ぶりの開催となり、東京会場は前年の来場者数を大きく増やす結果となった。また、日本リハビリテーション工学協会と連携し、協会が主催する「福祉機器コンテスト2022」で受賞した作品の展示を大阪会場にて行った。今後も連携を推進していきたい。東京会場では、NHKの取材が入り、番組リポーター（障害者及び健常者）による支援機器体験のロケが行われ、交流会に出展されている支援機器が特集され全国放送されることとなった。少しずつではあるが、交流会の活気が戻り、来場者も増えてきている状況である。会場内では、機器展示以外に講演やセミナーを実施した。講演は会場及びオンラインによるリアルタイム配信を行った。しかしながら、オンラインでの視聴者数は想定よりも少ない状況であった。リアルタイムでないと視聴できないため、講演内容をアーカイブ化して一定期間はWeb交流プラットフォーム上で視聴できるような体制も検討していきたい。

今年度新たに、「自立支援機器イノベーション人材育成事業」が設立された。この事業は開発促進事業の一部として本交流会同様に位置づけされている。東京会場では、当協会が仲介となり、ワークショップ参加者へ当事者団体を紹介し、当事者ニーズを収集するためのインタビューの場を設けることで連携を図った。また、地域交流会（鹿児島）にも参加いただき、現場ニーズを共有し参加者で議論を深めることができた。

交流会の成果として、来場者アンケートでは、8割以上が交流会に満足しており、来年も参加したいという結果であった。ニーズ側（当事者や家族、施設・医療関係者で集計）においても全体の結果との差異は見られなかった。来場の目的についても「機器の閲覧や体験をしながら意見交換を行いたかった」が多く、会場開催が引き続き求められる結果となった。出展者アンケートでは、「障害者自立支援機器等開発促進事業などの国の開発補助事業に応募してみたいか」の質問については両会場共に6割以上が応募してみたいという回答であった。来場者と同様に交流会の満足度は8割以上が満足している結果であった。交流内容については、「ユーザーや支援者から生活に関する話やニーズを聞くことができた」、「実際の体験を通じて今後の要望について当事者を中心に多くの方から意見をいただくことができた」等、会場ならではの収穫があった声が多くみられた。

地域交流会（ATAサテライト）では、本交流会に参加が容易でない、新潟、下関、鹿

児島の3か所にて実施した。参加者は、地域の当事者、ご家族関係者等、現地の方々を中心にご参加いただき、ニーズ側はほとんどが本交流会へ参加された経験が無い方々であった。地域交流会を通して、開発促進事業の特定種目としてのテーマや応募につなげることや、当協会HPでも地域交流会での成果を広く周知し、メーカーの開発意欲を喚起していきたい。

フォローアップとして、交流会出展者と意見交換会、アドバイス支援のテーマが開発促進事業の募集に関連しているかを確認した。結果、令和4年度の1次、2次公募に結び付いた件数は3件、令和5年度の公募に結び付いたのは同じく3件（うち、2件は令和3年度実施した意見交換会、アドバイス支援でのテーマであった）。また、ニーズとシーズの情報収集・発信方法について、「福祉用具ニーズ情報収集・提供システム」を使用して、ニーズ側の要望・アイデア・課題、シーズ側の新製品、新技術を発信しているところであるが、新技術・新製品の投稿をした企業が開発促進事業へ応募していることが分かった。本システムから助成事業へつながることを確認した。

② 支援機器の開発とニーズ・シーズマッチングの活性化に向けて

Web開催では、閲覧数が前年に比べて増加したものの、オンラインでの交流が積極的に行われなかった点は今後の課題である。しかしながら、交流会会場へ直接行けなくてもWeb開催期間を通して連絡できる体制は必要だと考える。また、障害当事者にとってアクセシビリティの面でも本サイトへアクセスしやすい環境か等は企画委員に確認しながら改良を進めていきたい。

来場者アンケート結果から、開催の情報収集源については、「テクノエイド協会からの案内」、次いで「友人知人からの紹介」が多く、回答者別にみると、概ね傾向は変わらないが、当事者・家族では「所属する障害者団体からの案内」も多い結果から、協会からの案内はもとより、引き続き企画委員の所属する団体から周知をお願いすること、また、交流会を知ってもらうため、協会としてTwitterやInstagramなどを通じて交流会の開催の告知や出展者の紹介などを行って新規来場者、出展者を増やす仕組みなども前向きに検討したい。また、大阪会場では、開催地の大学生が企業とコラボレーションを行い支援機器を開発しており、開発機器を大会に出すため、当事者団体・支援団体に意見を求める事例もあった。医療福祉系や工学系の学生にも支援機器開発に興味をもつていただくことで、今後のこの領域に関する認識、参画を促進し、強いては機器開発の人材の確保等にもつながるのではないかと。

出展者アンケートでは、大阪会場で58者のうち、23者、東京会場が69者のうち27者が初めて交流会に参加している。また、出展者の6割が国の開発補助事業に応募してみたいという結果であったため、会場内にて助成金事業説明の講演時間を設ける等、助成金事業についてPRすることで、助成金の応募件数も増加するのではないかと。引き続き、開発助成の実施団体には出展及び助成金の周知をお願いしたい。

第 2 部（資料編）

障害者のニーズに見合った用具や機器の見つけ方

日本ライトハウス情報文化センター
サービス部 林田 茂

3つのポイント

① お話を聴く

その方が、不安や不便に思っていたり、困っていたりしていること
その方が、やりたいこと
その方の生活の環境 など
見えにくさや見え方は、人それぞれです。

② 実際に体験してもらう

触ってもらう
使って（操作して）もらう
見ってもらう（その方の見たいものを見ってもらう）
音を聴いてもらう
※別の用具と組み合わせて、さらに用具を活用することもできます。

③ 情報のネットワークを使う

適正な人やグループ、場所につないでいく

- 別紙：1. 情報文化センター エンジョイ！グッズサロン 案内
2. ニポラチャンネル
3. スマートサイト『大阪あいねっと』



アザラシ型ロボット「パロ」によるポーランドでの
ウクライナ避難民の心の支援について



国立研究開発法人 産業技術総合研究所
柴田崇徳

1

パロとは



3

コンテンツ

- z アザラシ型ロボット・パロ
- z パロによるセラピー効果とそのエビデンス
- z 国内外での事例
- z ウクライナ避難者の「心の支援」等



2

アニマル・セラピーの利点

3つの利点

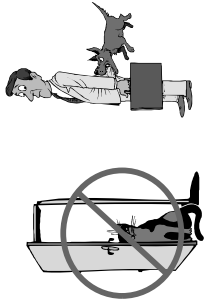
- z 心理的利点
 - y うつの改善、元気付ける、動機の増加
- z 生理的利点
 - y ストレスの減少、血圧の安定化
- z 社会的利点
 - y コミュニケーションの増加



4

動物の問題点

- z アレルギ一体質
- z 噛みつき、引っかき
- z 人畜感染症
- z 住居問題
- z 長期的に高コスト等
- z コンパニオンロボットの潜在的需要は大きい



5

アザラシ型メンタルコミットロボット 「パロ」第9世代

CPU
32bit RISC
省電力・高速化
人工知能
バッテリー-8-5h

サイズ
L:550 x W:290
x H:180 mm
重量
2.6kg

聴覚
マイクアフォン×3
海外医療機器版は
ISO13485
ISO14971
IEC60601-1
IEC60601-1-2
IEC62133-2等に適合

視覚
光センサ
×2

姿勢センサ
温度センサ(体温制御)

触覚
・ユビキタス面触覚センサ × 12
・ひげ触覚ステレオセンサ
・人工毛皮
(制菌加工・Ag+・銀イオン)

静穏アクチュエータ×7
首(2), 左右前ヒレ(1), 後ろヒレ(1),
左右まぶた(1)

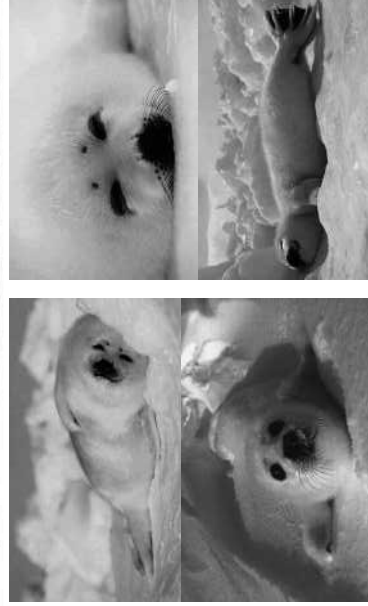
7

アザラシ型ロボット: PARO 1993年から研究開発



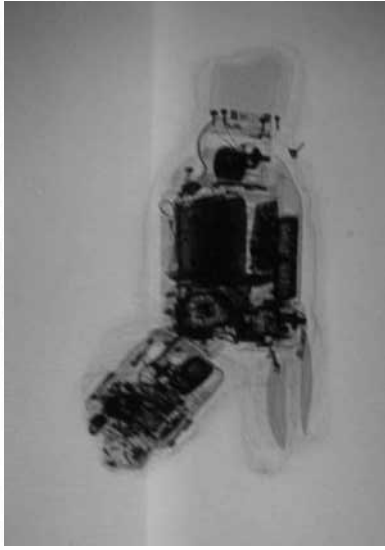
6

タテゴトアザラシの赤ちゃん カナダ・マドレーヌ島沖45分の流水上



8

パロのX線写真
(X-ray in NY, 2006)



9

パロの工房



11

パロの芸術性(1体ずつハンドメイド)



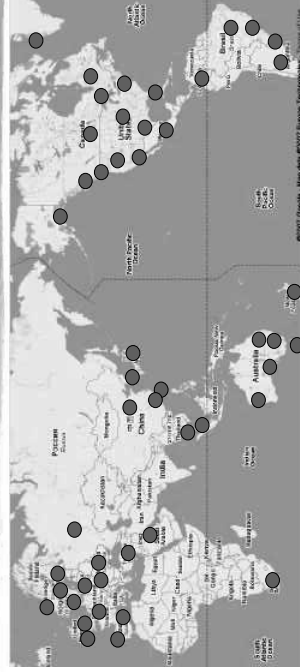
まつげの取り付け



トリミング

10

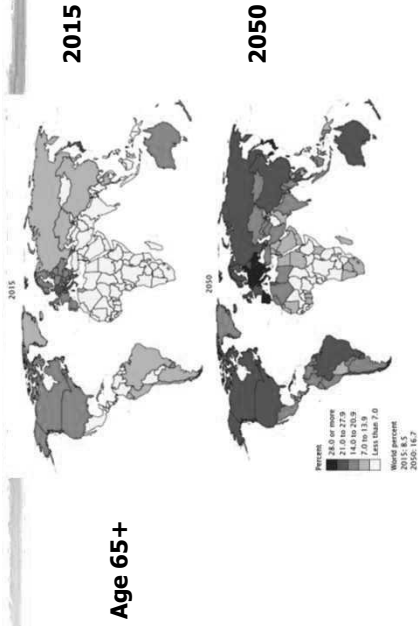
PARO on the World Map
30か国以上で利用されている



● Place where PARO has been used

12

高齢化する世界 US Census Bureau



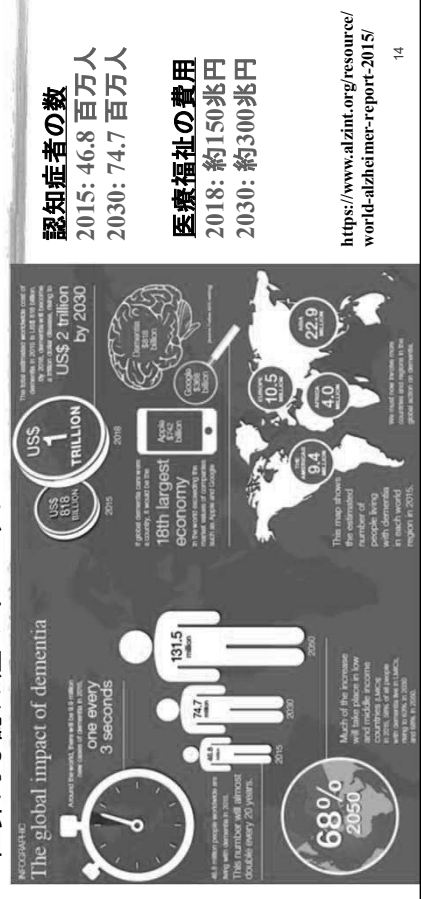
13

株式会社三菱総合研究所ヘルスケア・ウェルネス事業本部、国際的潮流を踏まえた認知症対策に関するエビデンス創出のための基盤に関する動向調査報告書、2020年3月

RCT 治験研究	臨床研究、産科 治験研究	診断機器、電機機器 機器	医師/医 療従事者	前項による患者 への影響	社会への 影響	その他
スリーピング (予防効果)	・ FTD/FTS 薬 ・ 認知症予防薬 ・ Integrated Cognitive Assessment (ICA) ソフトウェア ・ 認知症 ・ 痴呆症	・ 認知症の早期発見 ・ 認知症予防薬 ・ 認知症治療薬 ・ 認知症リスク 評価	・ DTMR ・ ALZ (認知 症専用 画像 診断 装置)	・ 認知症予防薬 ・ 認知症治療薬 ・ 認知症リスク 評価	・ 認知症予防薬 ・ 認知症治療薬 ・ 認知症リスク 評価	・ ORPHE TRACK ・ 痴呆症 ・ 認知症治療薬 ・ 痴呆症 ・ 痴呆症
ソリコーン (進行抑制)	・ 痴呆症 ・ 痴呆症	・ 痴呆症の早期発見 ・ 痴呆症予防薬 ・ 痴呆症治療薬 ・ 痴呆症リスク 評価	・ DTMR ・ ALZ (認知 症専用 画像 診断 装置)	・ 痴呆症予防薬 ・ 痴呆症治療薬 ・ 痴呆症リスク 評価	・ 痴呆症予防薬 ・ 痴呆症治療薬 ・ 痴呆症リスク 評価	・ 痴呆症 ・ 痴呆症 ・ 痴呆症
ソリコーン (予防効果)	・ FTD/FTS 薬 ・ 認知症予防薬 ・ Integrated Cognitive Assessment (ICA) ソフトウェア ・ 認知症 ・ 痴呆症	・ 認知症の早期発見 ・ 認知症予防薬 ・ 認知症治療薬 ・ 認知症リスク 評価	・ DTMR ・ ALZ (認知 症専用 画像 診断 装置)	・ 認知症予防薬 ・ 認知症治療薬 ・ 認知症リスク 評価	・ 認知症予防薬 ・ 認知症治療薬 ・ 認知症リスク 評価	・ ORPHE TRACK ・ 痴呆症 ・ 認知症治療薬 ・ 痴呆症 ・ 痴呆症

15

World Alzheimer Report 2015 世界的な認知症のインパクト



14

パロの現況について：日本では「福祉用具」と「ペット」 米国、欧州、豪州、シンガポール、香港で「医療機器」

- 2005年～日本国内外、30カ国以上で、約7,500体
- 2009年～デンマークで、セミナーによる免許制度で各種施設へ、自治体普及率80%以上
- オランダ、ノルウェー、ドイツ、スウェーデン、フィンランド、スペイン、スイス、フランス、イギリス等でも同様に導入を開始
- ドイツ：在宅介護でパロの訪問セラピーを健康保険適用。介護者の負担の軽減を目的
- 2009年9月、アメリカ・FDAがパロを医療機器（バイオフィードバック機器、クラス2）承認、年末から販売。18年～公的医療保険で償還。19年～CMSファンド「100%助成」。21年～グループ導入へのCMSファンドの適用。
- フランス地域政府、香港政府、高齢者向け医療福祉サービス「100%助成」
- シンガポール政府、高齢者向けサービス「85%助成」
- オーストラリア政府、「在宅介護者向け」及び「障害者向け（65歳未満）」に「100%助成」
- 日本、パロは「福祉用具」として、厚生労働省「介護ロボット導入支援補助金」により、各都道府県が、高齢者向けや障害者向けサービス事業者に75～50%の補助金

16

ペットとしてのパロと「ウェルビーイング」 パロと暮らして、1.5年後の様子(2006年9月)



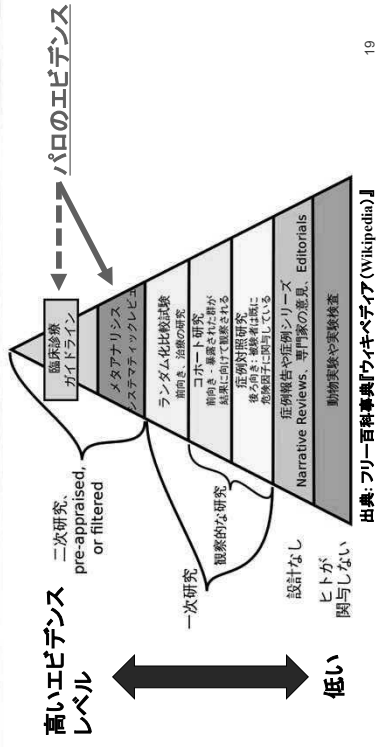
パロのセラピー効果(海外で「医療機器」のパロの場合) 欧米と制度が異なる日本では、パロは「福祉用具」

- z 痛み、抑うつ、不安、孤独感、不眠、QoLなどの改善
- z 興奮(暴力、暴言、徘徊等)の抑制・減少
- z ストレスの低減、血圧の安定化
- z 動機付、特にリハビリ(嚥下、言語、半側空間無視、歩行等)
- z コミュニケーションや社会性の向上
- z これらにより、向精神薬(副作用と依存が問題)の投薬を低減
- z 介護者・看護者の負担の軽減
- z 転倒リスクを低減

<https://www.mdpi.com/2071-1050/13/20/11502>

18

セラピー効果のエビデンスと、そのレベル



19

NICE Guideline (イギリス・国立医療技術評価機構)

National Institute for Health and Care Excellence	13.2.2 Evidence review
Dementia	13.2.2.16 Robotic pet therapy
Assessment, management and support for people living with dementia and their carers	13.2.4 Evidence statements
NICE Guideline 87 Methods, evidence and recommendations June 2018	13.2.4.16 Robotic pet therapy

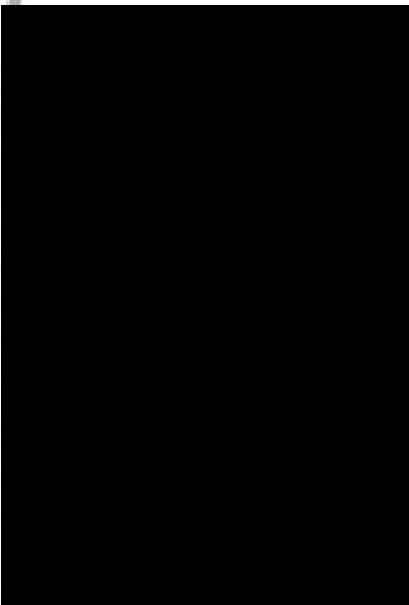
One paper was identified during the search stage and was included in the review. This paper evaluated the effectiveness of robotic pet therapy using PARO (personal robot, a FDA-approved device designed to look like a baby/harp seal. Individual interaction by the user is required to activate the robot). The results for the included studies are given in appendix E, and GRADE profiles in appendix G.

High quality evidence from 1 RCT confirms RCT participants found a clinically meaningful improvement in depressive symptoms in people living with dementia offered robotic pet therapy versus usual care.

「国民保健サービス(NHS)が用いる医療技術(新薬や普及薬の使用、治療法、手順)、「臨床適用」(疾患および徴候別ごとの手法、治療法の適応)、「健康づくりと防疫の公的機関向けガイドライン」効果性と費用対効果を評価

20

イタリア・ピアセンツァ：ロボット・セラピー・セラピー：シエナ大学
不安(アルツハイマー：薬物の代わりにパロ)



21

Patients with Parkinson's Disease
(Santa Lucia, Rome, Italy, Nov. 2018)



Without PARO

With PARO

23

Walking Person with Dementia
(Univ. of Siena, Italy, Feb. 2005)



22

Recovery of Speech by Biofeedback
through interaction with PARO

An immigrant from the eastern EU who lost speech in Danish by dementia



Patient talks to PARO in Danish

She can talk with others in Danish

24

フランス



Hospital Broca, Paris

ASSISTANCE
PUBLIQUE
HÔPITAUX
DE PARIS



EHPAD Villa du Tertre, France
EHPAD Valle Longa (Corsica)

PARO in France



Credits: Caroline Baudouin



Credits: Nana Leva



Credits: Olivier Gaudin



Credits: Laurence Gagnepain

Patient's Trophy by AP-HP, 2015 高齢患者の非薬物療法のイノベーション(フランス)



2018年フランス保健省がアルツハイマー型認知症治療薬の保険償還を「医療上の利益が不十分」(効果が不十分、副作用が問題)として、2018年8月1日から停止(ドネペジル(アリセプト)、ガランタミン(レミニール)、リバスチグミン(イクセロン/リバスタッチ)、メマンチン(メモリー))

今後は、「患者に対する包括的なケアを強化する」⇒ PARO

イギリス・オックスフォード大学高齢化研究所 (2010年～現在)

- z Oxford Institute of Population Ageing
- z Oxfordshire County Council since 2016
- z Visit of PARO to Elderly Facilities



オックスフォード大学副学長がPAROを紹介
(同窓生向けニュース)



Grenoside Grange Hospital National Health Service, the UK



例えば、OTが認知症セラピーで活用
Sheffield Health and Social Care
NHS Foundation Trust, the UK

29

Swab and ATP Tests for Irregular Surfaces Sussex Partnership NHS Foundation Trust & University of Brighton

Area of PARO 10 x 10 cm fur tested	Initial score (>30 = fail) RLU	After 1 min clean RLU	After 2 min clean RLU
Head fur	26		
Right Flipper	57	28	0
Left Flipper	60	56	0
Bottom (where on/off switch is)	30		
Top Left back area	29		
Top right back area	162	59	16
Stomach (underneath)	79		
Head	39		

Clinell wipes
(green)



against COVID-19
Virus in 30 Sec.

<https://gammahealthcare.com/universal-range>

31

NHS meeting on PARO in Brighton, UK on March 4th, 2016

PARO: ROBOTIC SEAL

Therapeutic Benefits of Robotic Prevention Control in Long-term Care
Professor Takamori Shibata, Penny Dodds, Kathy Martyr

SEMINAR
Friday 4th March 2016

VENUE
Wick Rooms 403
Brighton Convention Centre,
100 Trafalgar Street,
Brighton BN1 1QF, UK

9.30-4.30 FREE

BOOKING & INFO
01323 556000
01323 556000@brighton.ac.uk

Sussex Partnership NHS Foundation Trust
University of Brighton

30

Chelsea & Westminster Hospital NHS in London, the UK, Sep. 2019



Faculty of Medicine
Imperial College
London

32

**PARO at C&W Hospital NHS in London
Elderly Care Ward in Aug. 2020**



**Against COVID-19, MD (left) was required
to put on PPE (Mask, Apron and Globes)**

33

The Simpsons in 2011



35

**アメリカでのパロ
News Papers in the US in 2010**



34

アメリカでの導入事例



**高齢者向け施設
VCSピッツバーグ**



**VAメデイカルセンター
ワシントンDC**

36

Vinson Hall, McLean, VA, US 2008年～



37

Innovative Elderly Care ホワイト・ハウスにてJune 13, 2014



VADM John Cotton (元海軍中尉、
Chairman of the Board of
Trustees, Vinson Hall Retirement
Community)も同行



Rear Admiral Kathy Martin (Ret.)
元海軍少将

39

Rear Admiral Kathy Martin (Ret.): 元海軍少将、海軍副軍医総長、 医学外科局副長官、国立海軍医療センター司令官等歴任



38

オバマ大統領もパロを良いねと！(2010年)



40

アメリカ・ホワイト・ハウスでの招待講演(2015.3)

- z PCAST(大統領科学技術諮問委員会)等
- z 高齢者の在宅医療・介護等でパロの利用に興味




41

米国, Biofeedback Therapy with PARO (BFT with PARO)

S. Petersen, PARO: An Important Solution for Symptom Control, Proc. of the 10th Int'l Symp. on Robot Therapy with Seal Robot, PARO, pp. 10-14, 2018

- z 患者: 認知症、ガン、PTSD、脳損傷、統合失調症、パーキンソン病等
- z 痛み、不安、うつ、不眠、興奮(暴力、暴言、徘徊等の問題行動)等
- z CPT codesを用いて、BTF with PAROを処方
- z 65歳以上向けの医療保険「メディケア」や民間医療保険会社
- z 在宅医療でも、施設医療でも、保険償還
- z 例えば、「うつ」の診断に対して、20分間の「BFT with PARO」、週3回、3か月で処方
- z 20分間の処置で、処方者は約125ドル、その他、セラピストやLCSW等は約85ドルで、通常の2倍近い支払いになる(コロナ禍前、TX州の例)
- z 脳卒中等の後のリハビリテーション: 処方(CPT)コードは異なる

43



Healthy Aging Summit

July 27-28, 2015 • Washington, DC

Presenter Disclosures

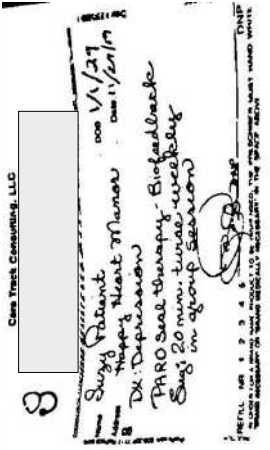
Takanori Shibata

The following personal financial relationships with commercial interests relevant to this presentation existed during the past 12 months:

- z I have been developing the seal robot, PARO
- z CTO of Intelligent System, Co., Ltd. that produce and sell PAROs

July 27-28, 2015 Washington, D.C.

「抑うつ」の診断に対する「BFT-PARO」の処方箋



うつ (Depression) の診断
PARO Seal Therapy BFT-PARO
1回20分間、週3回、グループセッションでの処方

44

「不眠」の診断に対する
「BFT-PARO」の処方箋

8
 Case Track Consulting, LLC
 Name: Susan Bennett on 1/12/17
 Address: Happy Heart Manor on 1/21/17
 B: TX: 75061
 DX: Insomnia
 PARO Seal Therapy: Bidulnik
 Sig: 20 min. sessions q HS.
 Individual interactive session
 REFILL: 1 2 3 4 5
 Susan Bennett
 Case Track Consulting, LLC
 10000 Katy Fwy, Suite 1000, Houston, TX 77054
 (281) 415-8411
 www.case-track.com

不眠 (Insomnia) の診断
 PARO Seal Therapy BFT-PARO
 就寝の際に1対1で20分間行う処方

「一過性脳虚血発作、右半身マヒ」の診断に対する
「パロを用いる運動スキル(リハビリ)」の処方箋

Case Track Consulting, LLC
 Name: Susan Bennett on 1/12/17
 Address: Happy Heart Manor on 1/21/17
 B: TX: 75061
 DX: TIA, Right Hemiplegia
 - PT/OT to eval gtx
 - PARO Seal therapy for fine motor skills
 Susan Bennett
 Case Track Consulting, LLC
 10000 Katy Fwy, Suite 1000, Houston, TX 77054
 (281) 415-8411
 www.case-track.com

一過性脳虚血発作、右半身マヒと診断された患者
 PTまたはOTにより、フライン・モーター・スキルのため、
 パロを用いるセラピーの処方

「認知的コミュニケーション障がい」の診断に対する
「BFT-PARO」の処方箋

Case Track Consulting, LLC
 Name: Susan Bennett on 3/13/25
 Address: Happy Heart Manor on 1/21/17
 B: TX: 75061
 DX: R 41.841
 PARO Robotic Seal
 Sig: 20 min treatment BID
 PRN
 Susan Bennett
 Case Track Consulting, LLC
 10000 Katy Fwy, Suite 1000, Houston, TX 77054
 (281) 415-8411
 www.case-track.com

認知的コミュニケーション障害と診断された患者
 1回20分間、1日2回と、必要に応じて (PRN)
 パロとふれあう治療を処方

「認知的コミュニケーション障がい」の診断に対する
「パロを用いる言語(リハビリ)」の処方箋

Case Track Consulting, LLC
 Name: Susan Bennett on 3/13/25
 Address: Happy Heart Manor on 1/21/17
 B: TX: 75061
 DX: R 41.841
 ST to eval gtx
 PARO Seal therapy
 Susan Bennett
 Case Track Consulting, LLC
 10000 Katy Fwy, Suite 1000, Houston, TX 77054
 (281) 415-8411
 www.case-track.com

R41.841 (ICD-10 code)
 Cognitive Communication Deficit
 ST to evaluation and treatment with PARO Seal Therapy

VA Palo Alto Health Care System (退役軍人省病院、スタンフォード大医学部)

- PARO Study**
- Clinical Test at Four Locations
 - Development of Protocol of Usage

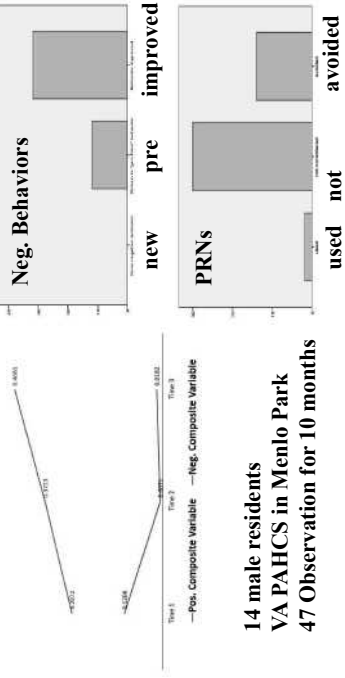
PARO EXPANSION IN SAN FRANCISCO BAY AREA



49

Results at VA 問題行動と抗精神薬等 (PRNs)

Lane, G. W., et al., Effectiveness of a social robot, "Paro," in a VA long-term care setting, Psychological Services, 13(3), 292-299, 2016



51

PARO Robot Tracking Sheet – per contact by VA

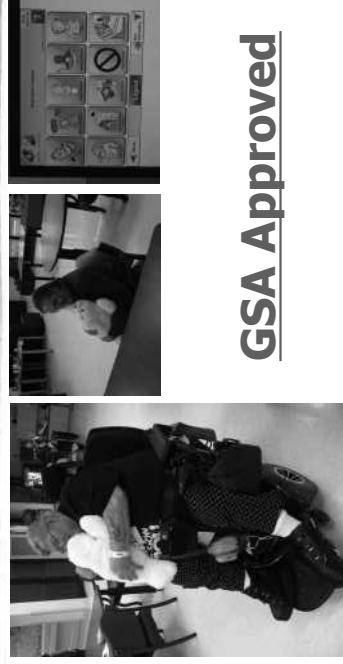
Lane, G. W., et al., Effectiveness of a social robot, "Paro," in a VA long-term care setting, Psychological Services, 13(3), 292-299, 2016



PATIENT INITIALS: _____ DATE (mm/dd/yy): _____ TIME (24hr): _____ DEMONSTRATED (Y/N): _____ STAFF (Initial / last name): _____ DURATION OF CONTACT: _____
BASIS/RECENT BASELINE BEHAVIOR (PRE PARO) (Circle all that apply)
Anxious <input type="checkbox"/> Sad <input type="checkbox"/> Isolated <input type="checkbox"/> (U/Pain (unrelieved)) <input type="checkbox"/> Pacing <input type="checkbox"/> Wandering <input type="checkbox"/> Yelling <input type="checkbox"/> Crying <input type="checkbox"/> Sleeping <input type="checkbox"/> Talking/interacting with others <input type="checkbox"/> Bright affect <input type="checkbox"/>
INTERACTIONS/REACTIONS/OBSERVED PARO: (Circle all that apply)
Anxious <input type="checkbox"/> Sad <input type="checkbox"/> Isolated <input type="checkbox"/> (U/Pain (unrelieved)) <input type="checkbox"/> Pacing <input type="checkbox"/> Wandering <input type="checkbox"/> Yelling <input type="checkbox"/> Crying <input type="checkbox"/> Sleeping <input type="checkbox"/> Talking/interacting with others <input type="checkbox"/> Bright affect <input type="checkbox"/> Ignored Paro <input type="checkbox"/> New negative behavior (describe: _____)
POST-INTERACTIONS BEHAVIOR (15 MIN AFTER PARO)
Anxious <input type="checkbox"/> Sad <input type="checkbox"/> Isolated <input type="checkbox"/> (U/Pain (unrelieved)) <input type="checkbox"/> Pacing <input type="checkbox"/> Wandering <input type="checkbox"/> Yelling <input type="checkbox"/> Crying <input type="checkbox"/> Sleeping <input type="checkbox"/> Talking/interacting with others <input type="checkbox"/> Bright affect <input type="checkbox"/> New negative behavior (describe: _____)
PRNs (Circle all that apply) _____ PRNs considered pre-Paro _____ PRNs given (pre or post) _____ PRNs avoided _____
ADDITIONAL COMMENTS FOR THIS SESSION: _____

50

VA Reno (March, 2014) Dementia and PTSD



GSA Approved

52

がん患者の化学療法時(RCTではない)
Chemotherapy with PARO



20 Women with Ovarian Cancer (49-71: ave. 67)
Chemotherapy for 3 – 5 hours

- Interaction with PARO reduce Pain ($P = .04$), Fatigue ($P = .034$), Anxiety ($P = .036$)
 - Improve 9 factors of Quality of Life on Health ($P = .03$)
- UC Irvine and Long Beach Memorial Hospital, CA, USA
(Society of Gynecologic Oncologists (SGO) 44th Annual Meeting on Women's Cancer, 351, 2013)⁵³

カリフォルニア州立大学サンフランシスコ校
小児病院小児集中治療室(2019・4月～)



気分の向上、不安、痛み、
疲れ、不眠等の改善を目的
感染症対策が最も厳しく求
められている
PAROは使用が許可された

PARO at Pediatric Intensive Care Unit
ネブラスカ大学附属病院小児集中治療室



- Infection Prevention and Control was a Key
- Swab and ATP tests
- PARO™ Laboratory Testing Results
- PARO™ Intensive Care Unit Research Cleaning Protocol

Clinical Trial on PARO at
Acute Care Hospital (Nov. 2019-)



ペンシルベニア大学付属病院
高齢者急性期病棟

スウェーデン・ストックホルムのカロリンスカ研究所付属病院
 ロボット・セラピーの実験(2003・10～)



Astrid Lindgrens Pediatric Hospital
 Karolinska Hospital



57

イタリア・シエナ大学附属病院
 2004・3月～

- z Children with Autism (自閉症)
- z Down-syndrome Children (ダウン症)



59

Lucile Packard Children's Hospital
 スタンフォード大学付属小児病院



S. Okita, CYBERPSYCHOLOGY, BEHAVIOR, AND
 SOCIAL NETWORKING, Vol. 16, Number 6, 2013

58

タイ王国3つの病院での自閉症の子供
 2006・12月～シリントーン王女のプロジェクト

- z 0.6M people with autism out of 64M people
- z Three Hospitals: 5 – 10 children at each hospital
- z Single Session and Group Session



60

アメリカ・ボストンの自閉症児向け学校 (寄宿制)
 Boston Higashi School (Feb. 26, 2009 -)



61

工科大学心理学部
 健常な子供を対象にしたランダム化比較試験



- z Prof. Alan E. Kazdin, John M. Musser Professor of Psych & Child Psychiatry
- z In 2008, he was the president of the American Psychological Association (APA): アメリカ心理学会の元会長
- z Crossman, M. K., Kazdin, A. E., & Kitt, E. R., The influence of a socially assistive robot on mood, anxiety, and arousal in children. Professional Psychology: Research and Practice, 49(1), 48–56, 2018

63

発達障害と認知障害がある大人
 アメリカ、コネチカット州、Sep. 2016



Certified Recreational
 Therapist uses PARO

62

PARO for infants with paralysis
 in Uruguay on Nov. 06, 2019



Asociación Nacional para el Niño Lisiado
 Escuela Roosevelt

64

Cancer Children (out-patient) in Uruguay, Sep 2018



Before Treatment

During Chemotherapy

がん患者等の精神状態を維持・改善するバイオフィードバック治療アザラシ型ロボット「パロ (PARO)」の治験と医療機器化の準備

国立研究開発法人 産業技術総合研究所 人間情報インテラクション研究部門 柴田崇徳



図1 小児がん治療中、副反応の軽減を図るためにパロを用いたフィードバック治療



図2 がんの化学療法中、パロとふれあう患者。米国カリフォルニア州ロサンゼルス市に設置された病院

対象症種：がん患者等の不安、疼痛、抑うつ、興奮、不眠、ストレス等の改善・緩和
カテゴリー：医療機器 (バイオフィードバック医療機器、クラス2)

目録：がん患者を対象に、化学療法時や緩和ケアでの痛み、不安、抑うつ、嘔吐、ストレス、不眠の改善・緩和効果やQoLの向上等について、治験を準備、実施。国内でも「バイオフィードバック医療機器」の承認を得て、実用化を目指す。

背景：パロは、2009年に米国FDAが「バイオフィードバック医療機器 (クラス2)」に承認。2020年に日本で初めて医療機器化。パロには副作用や依存性が無く、化学療法でも認められ安全である。

適合可能性：米国では、公的医療保険や民間医療保険が、がん、認知症、PTSD、脳損傷、パーキンソン病等の患者が、痛み、不安、抑うつ、興奮、徘徊等の問題行動を診断され、「パロ」を用いるバイオフィードバック治療が処方され、セラピスト等により処方されると、その費用が、在宅医療でも、病院やホスピス等の施設医療でも保険償還される。また、チームホーム等がパロを導入する費用については、米国医療福祉省CMSのリアリティの「認知症」の「非薬物療法」の中で、パロは高い質のエビデンスがある療法と記載されている。これまでに10件以上のRCTとメタアナリシスの結果がある。「第二種医療機器製造業」許可を有する「株式会社知能システム」がパロを製造する。

日本において、パロの医療機器化のための治験準備現状は、③臨床試験開始前、4thステージ

医療機器開発マネジメント ステージゲート



①コンセプト決定時 ②最終仕様確定時 ③臨床試験開始前

ロシアによるウクライナ侵攻20220224



ウクライナ国内外での避難民の概数(4月18日現在)
上図のほか、ロシアに52万人、ベラルーシに2,300人の方が避難
(認定NPO法人ジャパン・ブラットフォームのホームページより)

ウクライナへの国際的支援：軍事的支援と人道的支援



トルコ：ドローン・バイラクタルTB2



アメリカ：対戦車砲・ジャベリン



日本からは人道的支援として、
難民向け支援物資

心の支援：折り鶴？

ウクライナ避難民の子供達1 (2022年6月)

パロの名前「Fryderyka」(Fryderyk Chopinの名前の女性形)

Mazovian Center of Neuropsychiatry(精神・神経医療センター)に通院中



ウクライナ避難民の「心の支援」のためパロを贈呈(大使公邸、20220601)

在ポーランド日本国大使館・宮島特命全権大使から各2体のパロを
マゾヴィエツキ工県神経精神医学センターとワルシャワ医科大学へ



ウクライナ避難民の子供達2 (2022年6月)

Mazovian Center of Neuropsychiatry(精神・神経医療センター)に通院中



4か所目の医療機関に、6体目のパロが贈呈
Mazowiecki Specialist Health Centre in Pruszków



2022年8月4日ポーランド・Pruszków

73

神経精神医療センター・ワルシャワに通院する子供達
PTSD、不安、ストレス、興奮等と、発達障害も含む



75

2022年10月6日、7日にポーランド・ワルシャワ
写真：神経精神医療センター・ワルシャワにて



74

アメリカ退役軍人省病院でPTSDの元軍人
PTSDは、何十年も続く長期的な障害



76

いつか、ロシアも笑顔に！
写真：メドベージェフ大統領とSP（2010年当時）



77

“AI for Older Persons”
United Nations Headquarters in NY (Apr 18, 2019)



79

Ryman Prize 2018

高齢者の医療・福祉・健康分野で世界最高峰の賞
(ノーベル生理学・医学賞とブリツカー賞を参考)

ジャシнда・アーダーンNZ首相から



NZ\$250,000
(約2千万円)



78

The Global Partnership on Artificial Intelligence
(GPAI) Summit in Paris, Nov. 2021



Side event on “AI and societal/social SDGs”
パロについて招待講演とパネルディスカッション



80

第10回ロボット大賞・記念特別賞を受賞 2022年10月

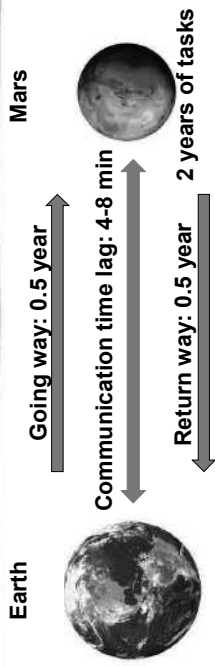


共催：
経済産業省(幹事)、一般社団法人日本機械工業連合会(幹事)
総務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、国土交通省

記念特別賞：
第10回を記念して、第1回～第9回までの受賞案件の中から、大きな社会的インパクトを与え、業界の変革につながったロボット等について記念特別賞を授与

81

Mission to Mars: Three Years Project



- Stressful for Astronauts, especially in the Spaceship
- Increase Risk of Mistakes (= possible Human Error)

83

長期有人宇宙旅行

- z 月旅行(片道): 約4日(60年代・アポロ計画)
- z ISS(国際宇宙ステーション): 約6か月滞在
- z 火星旅行(片道): 約6~7か月、滞在2年
 - y MER-A「Spirit」- 2003年6月10日打ち上げ、2004年1月3日に火星表面に着陸
 - y MER-B「Opportunity」- 2003年7月7日打ち上げ、2004年1月24日に火星表面に着陸

82

これまでのパロに関する宇宙関連の活動

- z NASA本部(ワシントンDC)で、パロのデモ・説明・意見交換(在米大と共に)
- z ケネディ宇宙センターで、スペースシャトル打ち上げ見学(在米大と共に)
- z JAXAの紹介で、南極「昭和基地」で、閉鎖空間における越冬隊員とパロの生活の実験を1年間



2008年5月
スペースシャトル
ケネディ宇宙センター
フロリダ州

84

Space Symposium 2016-2019 (コロラド・スプリング、CO)

- z パロ展示、宇宙応用を提案
 - y 長期有人宇宙旅行時の宇宙飛行士のコンパニオン
 - y ストレスの低減
 - y コミュニケーションの活性化
- z 参加者から大好評
- z ロッキード・マーチン社から、有人火星探査時にパロを活用を提案
 - y 人工毛皮の抜け毛について、エアークロウターへの安全性評価と対策が必要



85

JAXA-Ames Workshop, 2019年4月 NASA Ames Research Center, CA



上: 巨大風洞実験場
左: 量子コンピュータ
下: アストロビー



宇宙用のパロについて講演⁸⁷

「SpaceCom」で日本の宇宙産業の展示 ヒューストン, TX, US, Nov. 2016



86

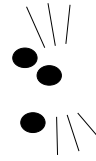
Space Analog Missionにおいて、パロによるクルーのメンタル・ヘルスケアの評価実験を開始

- z 2022年11月中旬、「Mission 1」として、Mars Societyが運営するアメリカ・ユタ州のspace analog facilityのMDRS (Mars Desert Research Station)において、2週間の疑似実験において、クルーの「ストレス」と「孤独」の改善についての評価実験に、パロが招待された
- z 2023年5月、アリゾナ州の「Biosphere 2」で開催される会議Analog Astronaut Conf. (第2回AAC2023)で結果の発表と、パロの展示
- z 2023年6月、「Mission 2」として、ポーランドの「Lunares」で、別のCrewで同様の実験
- z 2023年11月、「Mission 3」として、南太平洋(オーストラリアの近く)で船に滞在して水中で作業する実験⁸⁸

Analog Missions: Mars Desert Research Station



The End



パロ・ハンドラー研修会
オンライン・毎月2回・無料


Nov. 29th, 2022

ニーズ・シームスマッチング 交流会 2022


BIODESIGN JAPAN OSAKA

ニーズに基づき機器開発に失敗しないために

必要な人の手元に必要なものを
サステイナブルに早期に届けることを可能にするために



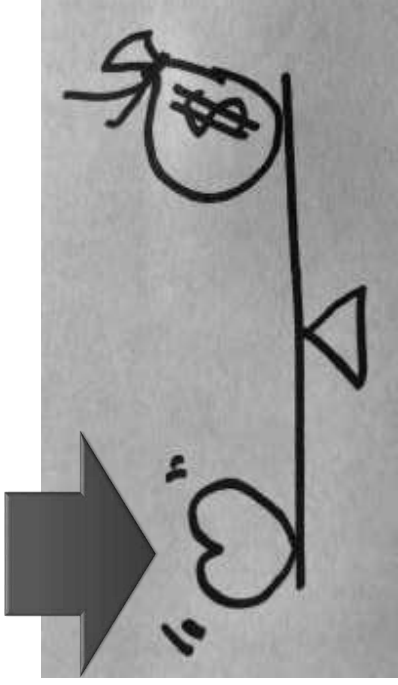
M Yagi
Consortium Kansai
Osaka Univ
Japan Biodesign



ニーズ・シームスマッチング 交流会2022

Value♥first

BIODESIGN JAPAN OSAKA



ニーズ・シームスマッチング 交流会2022

*"If I had an hour to solve a problem,
I'd spend 55 minutes thinking about the problem
and 5 minutes thinking about solutions."*

-Albert Einstein



What the world needs now
are
'Execution', not 'Just Ideas'

なぜ難しい？

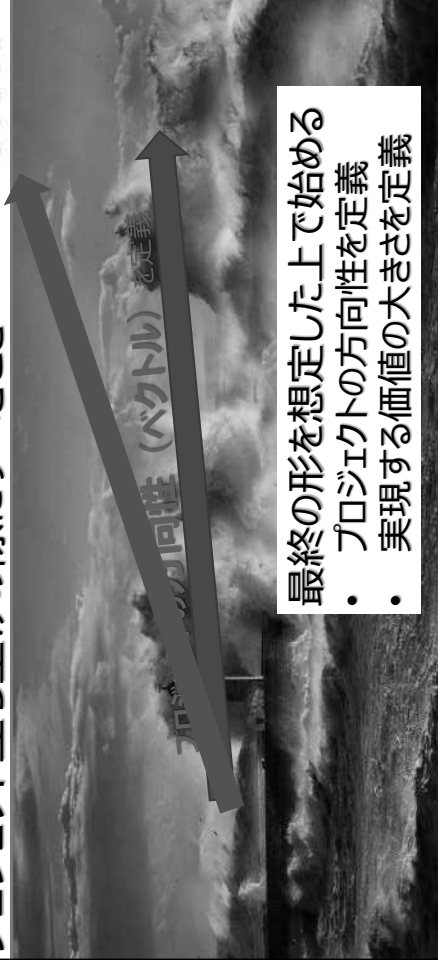
BIODESIGN JAPAN OSAKA



開発者 ≠ ユーザー

ニーズ・シームスマッチング 交流会2022

プロジェクト立ち上げの際にすべきこと



最終の形を想定した上で始める
 ・ プロジェクトの方向性を定義
 ・ 実現する価値の大きさを定義

令和3年度 障害者総合福祉推進事業

「真のニーズに基づいた支援機器の事業化・普及に資する出口を想定した開発プロセスに関する調査研究」

現在、開発の現場で何が起こっているのかを
 バイオデザインの視点で分析・明確化



- ・ 53 スタートアップ+68 スタートアップ by alum
- ・ 診療の恩恵を受けた患者 760万+人以上
- ・ 新規雇用 2,000+名
- ・ 資金調達 1,200億+円

<https://biodesign.stanford.edu/>

Since 2001



Founder: Dr. Paul Yock

2群の差を特徴づける項目



ニーズ視点

- ・ 問題発生のメカニズム
- ・ 既存の解決策との差別化
- ・ 機器選定に関わるステークホルダーの影響
- ・ 市場規模等

コンセプト視点

- ・ ユーザ視点での要求事項の達成度の度合い (特に) ユーザビリティ

事業化視点

- ・ 製品の普及戦略
- ・ 適切な開発コスト設定
- ・ 自社リソースの効果的活用に関する検討

J A P A N
B I O D E S I G N
C O S M E T I C A

共感により本当のペインを見つける



See what they see,
Hear what they hear,
Feel what they feel.

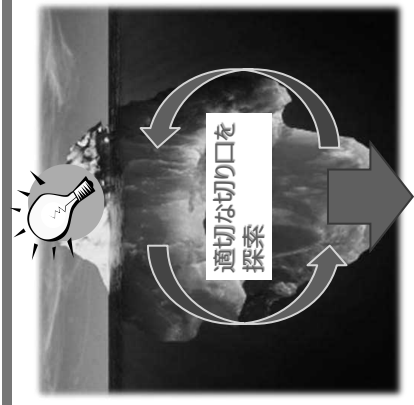
Fact-based Pain



ニーズ・シーズマッチング 交流会2022

J A P A N
B I O D E S I G N
C O S M E T I C A

ニーズの探索・深堀



多様な視点で議論
視点を要するフレームワーク適用

ニーズ特定に役立つ4つの鍵

- ・問題発生のメカニズム分析
- ・既存の解決策分析
- ・ステークホルダー分析
- ・市場分析

インタビュー、再観察

インサイト


ニーズ・シーズマッチング 交流会2022

J A P A N
B I O D E S I G N
C O S M E T I C A

頭の整理

現状

Why crying?




問題

どんな変化を起こせば理想的な状態になるか?

あるべき状態

What will happen?



解決策

How?

価値

問題解決されて起こるうれしいこと

ニーズ・シーズマッチング 交流会2022

J A P A N
B I O D E S I G N
C O S M E T I C A

プロジェクトの方向性の定義

ニーズステートメント NS (X,Y,Z)

[X : 問題解決のためにすべきこと] する方法
[Y : 問題に困っている人] にとって、
[Z : 価値をうみだす] ために

1つのニーズについて、1文におさめる事

ニーズ・シーズマッチング 交流会2022

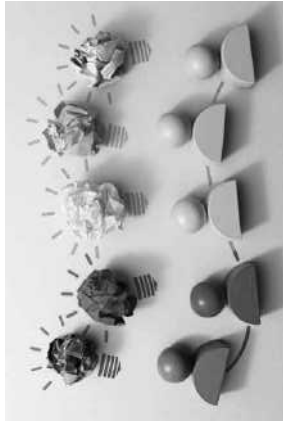
コミュニケーションツールとして

ニードステートメントとは？

未解決（アンメット）ニーズを明確に、かつ、簡潔な表現に落とし込んだもの

目的

ニーズの内容(価値)が誰でも
明確に理解でき、共有できる
相互比較を可能にする



ニーズ・シーズスマッチング 交流会2022

人工肛門患者にとって

安心して生活するために

パウチのにおいや便もれを防ぐ方法？

ニーズ・シーズスマッチング 交流会2022

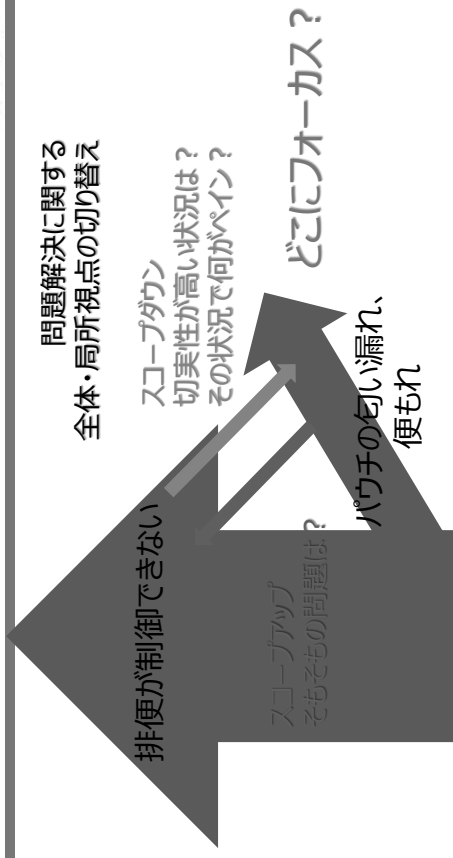
事例紹介



バイオデザイン大阪第6期フェロー・アルムナイ 谷先生提供

ニーズ・シーズスマッチング 交流会2022

スコープアップ&ダウンによる視点の切替



ニーズ・シーズスマッチング 交流会2022

J A P A N
B I O D E S I G N
C O S A K A

ニーズ・サイズマッチング 交流会2022

人工肛門患者にとって
生活の質を向上させるために
排便を制御する方法

J A P A N
B I O D E S I G N
C O S A K A

ニーズ・サイズマッチング 交流会2022

仕事をしている人工肛門患者にとって
生活の質を向上させるために
排便を制御する方法

J A P A N
B I O D E S I G N
C O S A K A

ニーズ・サイズマッチング 交流会2022

対象 (Y) の多様性に関する取扱い

対象数

多様性

ニーズに対する切実性

**‘One Fits All’ or
‘Precision approach’?**

J A P A N
B I O D E S I G N
C O S A K A

実現する価値の大きさの定義

どの程度解決するのか (価値の大きさ) を定義

- 有効性 (これくらいできないと)
- 安全性 (これくらい安全じゃないと)
- コスト (これくらい安くはないと)
- ユーザビリティ (これくらい便利じゃないと) etc...

Must have (ないと製品にならない)
/Nice to have (あればいいよね)

MVP (Minimum Viable Product)

ニーズ・サイズマッチング 交流会2022

[X: 問題解決のために起こすべき変化]する方法

[Y: 問題に困っている人]にとって,

[Z: 価値をみたす]ために

J A P A N
B I O D E S I G N
C O S A K A

価値の大きさ

ユーザビリティ 有効性

ユーザビリティ ニーズ・サイズマッチング 交流会2022

J A P A N
B I O D E S I G N
C O S A K A

令和4年度 厚生労働科学研究費 (障害者総合研究事業費)

真のニーズに基づく支援機器の開発・事業化を 実現するための出口・普及を想定した 支援ネットワークモデル構築のための研究

ニーズ・サイズマッチング 交流会2022

J A P A N
B I O D E S I G N
C O S A K A

到達すべきところ

っ ！ハハハ、ハハっ おもしろいかどうか？

なぜ、問題？ 本当に問題？
なぜ、あなただけが解決できる？
なぜ、今？

ニーズ・サイズマッチング 交流会2022

J A P A N
B I O D E S I G N
C O S A K A

行なうこと&想定される成果

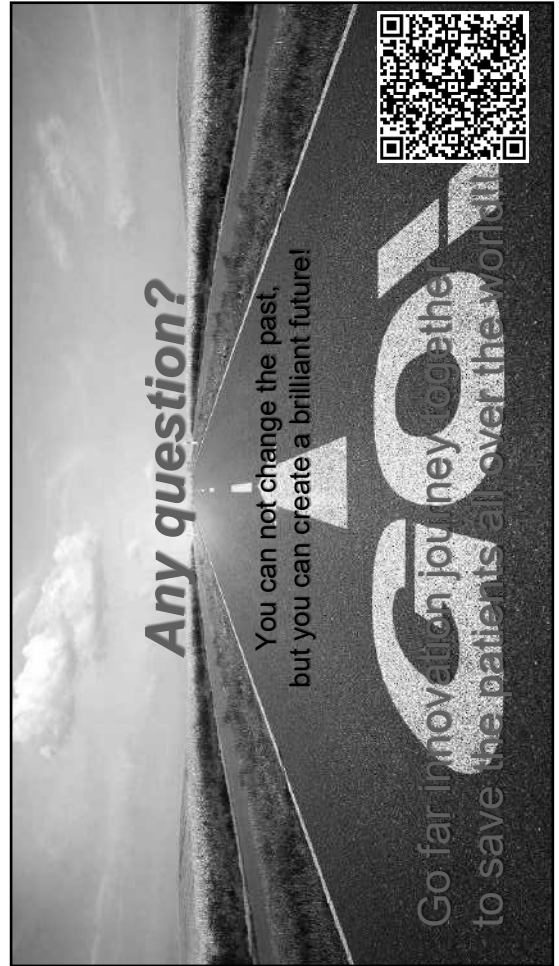
- > ガイドブック作成
支援機器を開発する新規/既存企業等が、開発・事業化を進める中で生じた困難に関して、独力で何が問題なのかを把握して適切なアクションを早期に取ることでリスクを低減しながら問題解決を行うことができるようになることが期待される。
- > 開発支援ネットワークモデル
企業独自の努力で解決できない困難等が生じた際に、ガイドラインに基づいて支援することで効率的なコミュニケーションを実現して問題解決に必要で利用可能な社会的資源を明確化することで、企業によるアクションを可能にすることが期待される。

➡

企業は、プロジェクトリスクを低減しながら効率的にプロジェクトを推進することで、真に必要な支援機器が障害者の手元に早期に提供することが可能になる

支援機器の開発・事業化が自立的に展開される
フレームワーク構築の一助になる

ニーズ・サイズマッチング 交流会2022



見えにくさで、困っていませんか？



見えない・見えにくい方のための

エンジョイ! グッズサロン

日本ライトハウス 情報文化センター

〒550-0002 大阪市西区江戸堀 1-13-2 5階

大阪メトロ四つ橋線「肥後橋駅」2番出口すぐ

TEL : 06-6441-0039 FAX : 06-6441-1126

営業時間 : 午前10時～午後4時30分

休業日 : 日曜・月曜・第2木曜・祝日ほか

Eメール enjoy@lighthouse.or.jp

ホームページ <http://www.lighthouse.or.jp/iccb>



見えない・見えにくいことでお困りの方へ

見えない・見えにくいといっても、その症状は様々で、お困りごとも一人ひとり違います。お話を伺いながら、その方に合った補助具をご紹介しますり、福祉制度・サービスや関係団体、支援施設などの情報もご提供します。
どこに相談したらよいか分からないという方もお気軽にお尋ねください。

送られてきた
郵便物を
読みたい

まぶしさを
軽減したい

メモを
取りたい

時刻を
確認したい



「見る」をサポートする用具について

ルーペや拡大読書器など、活字を大きくする用具があります。
実際にお試しいただいて、見やすく、使いやすい用具を見つけていきます。



単眼鏡



活字を読み上げる
メガネ型読書器



ルーペ
(2倍～14倍程度)



様々な拡大読書器

便利な用具・機器について

見えない・見えにくい方が使いやすいように設計された便利な用具がたくさんあります。200点以上の用具やグッズ、電子機器、パソコンなどを常設展示していますので、実際に手に取ってお試しいただけます。お困りごとに合わせて、どの用具が向いているかなど選ぶお手伝いをさせていただきます。



ご存じですか？

『補装具費の支給・日常生活用具の給付』

各市町村では、視覚に障害をお持ちの方が必要な補装具や日常生活用具等の給付・貸与を行っています。視覚障害者手帳をお持ちの方には白杖や拡大読書器、主に1級～2級の方には、上記に加えてデイジー図書録音再生機、点字器、音声・触読時計、体温計、情報通信支援用具（パソコンソフト）などが給付対象です。詳しくは、お住まいの福祉担当窓口へお尋ねください。



ICT機器の紹介・講習について

パソコンやiPhone・iPadなど情報機器の利用方法、操作方法の紹介・講習をおこなっています。

便利なソフトやアプリによって様々な便利グッズの代用にもなります。

●パソコンQ&A 電話 06-6441-1191

パソコン以外にも、iPhoneや録音再生機（プレクストーク）など情報機器の操作方法、購入に関する相談にもお応えしています。



●サピエサポート 電話 06-6441-1171

サピエ図書館に関する質問にお応えしています。

●有料の個人講習（要予約）90分 2,000円

パソコンやiPhone（アプリを含む）、プレクストークなど、ご希望にあわせてマンツーマンで講習します。※オンライン可



プレクストーク PTR3



パソコンやiPhoneの操作、アプリに関する情報は、ホームページまたは『ニポラチャンネル』がおすすめです。

🔍 **ニポラチャンネル** 検索



YouTube
ニポラチャンネル一覧表

お役立ち情報

商品カタログ

墨字版、点字版、録音（音声デージー）版の3種類があります。ホームページからも、閲覧・ダウンロードが可能です。

月刊情報誌『読書』

点字・録音図書の新刊案内を中心に、イベントや講習会情報、便利グッズの紹介など、様々な情報を掲載している情報誌です。

メールマガジン

エンジョイ！グッズサロンから最新の商品情報や各種講習会など、毎月上旬にお届けしています。ご希望の場合は mag@iccb.jp へお問い合わせください。



SNS : @iccb2020

墨字版、点字版、デージー版
Eメール（テキスト、点字データ）の4種類。

見えづらさで

読書や映画鑑賞を あきらめていませんか？

読書に関する様々なサービスを無料で提供しています

●見えなくても楽しめる図書や映画の貸出

点字図書のほか、音声で聴くことができる図書や雑誌、音声ガイド付きで映画を楽しめるシネマデイジーの貸出をしています。

●読書に関するご相談

ご希望の本があるかどうかなど、職員が一緒にお調べします。

●プライベートサービス

個人でお持ちの本や専門書・活字資料を、読みやすい形式（点訳・音訳・テキスト化）で製作します。

※製作費は無料ですが、点字用紙やCD代は実費負担となります。

●対面リーディングサービス

お持ち頂いた本や手紙などを、その場で読み上げます。（代筆可）
利用には事前予約が必要です。



読書（映画）を音で楽しめる様々な機器やアプリがあります

プレクストーク

- ・（左）リンクポケット
- ・（右）PTR3



スマホでも
再生可能！

- ・ボイスオブデイジー5
映画鑑賞アプリ
- ・HELLO! MOVIE
- ・UDCast

パソコンソフト
「My Book」など



日本ライトハウス情報文化センター
図書・情報係 06-6441-0139



利用登録するには？

大阪府下に在住・在勤・在学されている方

- 電話で登録ができます。
- 身体障害者手帳がなくても、見えにくい、本が読みにくい状況をご相談下さい。
- 登録された方には様々な情報を盛り込んだ情報誌『読書』を毎月無料でお届けします。



墨字版・点字版・録音版

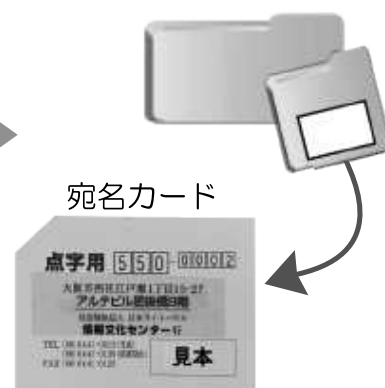
図書や雑誌を借りるには？

①電話などでご希望をお知らせ下さい。



②郵便でご自宅などにお送りします。
貸出期間は2週間です。

③返却の際は宛名カードを裏返してお送りください。(カードの裏面は情報文化センター宛になっています。)※郵送料は往復無料です



どんな本がありますか？

小説、文芸書、医学、語学、自然科学、社会科学、専門書、週刊誌や月刊誌、映画(テレビ番組)など数十万冊の図書がございます。



厚生労働省補助事業「視覚障害者情報提供ネットワークシステム整備事業」
(事業受託 日本点字図書館)

サピエ図書館

資料の検索

1. 点字データ検索

点字データが登録されている資料を検索します。

2. デイジーデータ検索

デイジーデータが登録されている資料を検索します。



サピエ図書館は、読書が困難な方のための国内最大のインターネット図書館です。点字・録音(デイジー)図書を直接ダウンロードすることができます。利用するには登録が必要です。詳しくは図書・情報係までお問い合わせください。

ニポラチャンネル をご存知ですか？



日本ライトハウス情報文化センターは、YouTubeで
「ニポラチャンネル」を開設しています！



スマホをお持ちの方は右上の
QRコードからアクセス！

<http://www.lighthouse.or.jp/iccb/informations/informations-31014/>

ニポラチャンネルは「見えない方、見えにくい方のためのチャンネル」です。
これまでに、iPhoneの基本設定や基本操作、アプリなどを紹介しています。

映像では、実際にiPhoneを使いながら、合成音声の画面読み上げも流れますので、
iPhoneに不慣れな方はもちろん、まだ使ったことのない方も、わかりやすく聴いて
もらえるようになっています。

また、拡大読書機などの関連機器、グッズの使い方の説明、白杖の使い方なども
配信しています。



ツイッターとインスタグラムも
はじめています！

アカウント名『iccb2020』



日本ライトハウス
情報文化センター
twitter



日本ライトハウス
情報文化センター
Instagram



見えない・見えにくい方のための

**エンジョイ！
グッズサロン**

日本ライトハウス 情報文化センター

- 第1回 iPhoneの基本設定
- 第2回 iPhoneの基本操作
- 第3回 iPhoneの文字入力について
- 第4回 iPhoneの文字入力 パート2
- 第5回 iPhoneのアプリ紹介 ①Seeing AI ②OCR
- 第6回 iPhoneでサピエを活用アプリ『ボイス オブ デイジー5』
- 第7回 iPhone 電話の発着信について
- 第8回 iPhone アプリ『らじるらじる(NHKラジオ)』
- 第9回 iPhone アプリ『ものたぐ』
- 第10回 zoom ミーティングの受け方(iPhoneとパソコン)
- 第11回 拡大読書器の紹介(据え置き型編)
- 第12回 拡大読書器の紹介(携帯型編)
- 第13回 iPhoneアプリ ICカードリーダー by マネーフォワード
- 第14回 新型コロナウイルス接触確認アプリ
- 番外編 日本ライトハウス盲導犬訓練所の紹介
- 第15回 iPhoneアプリ らくらじ
- 第16回 白杖の紹介
- 第17回 音声ガイドアプリの紹介「HELLO! MOVIE」「UDCast」
- 第18回 白杖を使って歩いてみよう
- 第19回 iPhoneアプリ Envision AI
- 第20回 ルーペの紹介
- 第21回 Envision Glassesの紹介
- 第22回 点字・録音(デイジー)図書の借り方について
- 第23回 音声・触知式時計の紹介
- 第24回 iPhoneアプリ サリバン+ (視覚補助アプリ)
- 第25回 みずいろクリップ(水の量や色をお知らせ)
- 第26回 音声拡大読書器を比べてみました ①スキャン型編
②カメラ型編 ③ウェアラブルデバイス編 ④アプリ編 ⑤番外編(追加)
- 第27回 遮光眼鏡(東海光学)
- 第28回 PTR3とPTN3 基本編(デイジー図書の卓上型録音・再生機)
- 第29回 リンクポケット 基本編(デイジー図書の携帯型録音・再生機)
- 第30回 プレクストーク 録音の仕方や追加オプション機能について
- 第31回 ロービジョン向け拡大アプリ「明るく大きく」
- 第32回 Zoomを使ったオンライン講習について
- 第33回 iPhoneローター操作のやり方
- 第34回 iPhoneアプリ paypay(キャッシュレス決済アプリ)
- 第35回 エンジョイ! グッズサロンってどんなところ?
(機器や用具、サービス内容、福祉制度についてご紹介します)
- 第36回 視覚障害者のガイド(手引き)の仕方
- 第37回 GRUSボイス電波腕時計 時刻合わせのやり方(初期受信について)
- 第38回 スマートスピーカーのセットアップと使い方
- 第39回 アプリLINEのセットアップと基本的な使い方
- 第40回 ショートカットアプリで、簡単に電話をかける
- 第41回 iPhoneアプリ Googleレンズ(カメラ機能でモノや活字文書を読ませる)
- 第42回 iPhoneとキーボードを繋いでみた。文字入力が楽々簡単に!
- 第43回 iPhoneのホーム画面をボイスオーバーを使って簡単整理術
- 第44回 iPhone ジェスチャー(指の動き)の操作説明まとめ!
- 第45回 パソコンを音声で読み上げさせて操作する(スクリーンリーダー PC-Talker)
- 第46回 Siriを使って簡単にアプリを起動! パッと読ませる(Seeing AI、Envision AI)
- 第47回 iPhoneで簡単にスケジュール管理
- 第48回 音声タイマーの紹介
- 第49回 読書支援ソフト『My Book Neo』録音図書や点字図書を快適に楽しめます
- 第50回 ラジオも聞けるニュース検索ソフト『My News Neo』
- 第51回 ゲストトーク① 神戸アイセンター・ビジョンパーク情報マスターわきちさん
- 第52回 iPhoneアプリBe My Eyes(ボランティアが目の代わりに)
- 第53回 ひとりで学べる点字触読テキストの紹介



このリーフレットは、「みえにくい」「みえない」ことでお困りの方が、適切な指導や訓練などの紹介を受けられるように、大阪府内の施設や団体をご案内する目的で作成しました。

本が読みにくい、まぶしくてみえにくい、仕事を続けるのが難しい、気持ち落ち込む、などどんなことでもまずこのリーフレットにある連絡先までご連絡ください。ご相談内容に応じて適切なロービジョンクリニックスや施設、団体をご紹介します。



眼科の先生へ

このリーフレットは、視覚障害でお困りの方が、その悩みに応じて次のステップを踏み出せることを企図して作成されました。

本リーフレットにはどんなことでも相談できる窓口となる団体や施設の連絡先を掲載しています。

各団体・施設のQRコード

日本ライighthouse



大阪府
視覚障害者福祉協会



大阪市
視覚障害者福祉協会



堺市

視覚障害者福祉協会



大阪府
網膜色素変性症協会



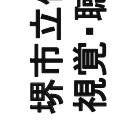
大阪北視覚支援学校



大阪南
視覚支援学校



きんぎビジョン・
サポート



堺市立健康福祉プラザ
視覚・聴覚障害者センター



大阪あいねっと

見えにくさを
感じている
すべての方へ

視覚障害について相談
できる大阪府内の施設
を掲載しています

このような方にお渡し下さい

- 矯正視力が両眼とも0.4以下の方
- 視野が狭い方、視野に見えない部分がある方
- まぶしくて困っている方
- 目のことで学業や仕事、家事、育児などに不安や不自由がある方



発行：大阪 あいねっと
後援：一般財団法人 大阪府眼科医会

見えにくい・見えにくい人の団体

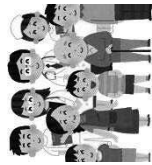
目の見えにくい方の地域に根ざした当事者団体です。少しでも生活しやすい環境を目指して、交流と情報交換が出来ます。同じ障害のある仲間、わいわいがやがややりましょう！



一般財団法人 大阪府 視覚障害者福祉協会 <small>〔大阪府(大阪市、堺市除く)に在住の方〕</small>	06-6748-0615
一般社団法人 大阪市 視覚障害者福祉協会 <small>〔大阪市内に在住または在勤の方〕</small>	06-6765-5600
特定非営利活動法人 堺市 視覚障害者福祉協会 <small>〔堺市に在住の方〕</small>	072-233-7170

〔網膜色素変性症と診断された方々へ〕
本会は公益社団法人日本網膜色素変性症協会の大阪府協会です。

患者・医師・支援者が一体となり「治療法の確立」と「生活の質の向上」をめざして様々な活動を行っています。

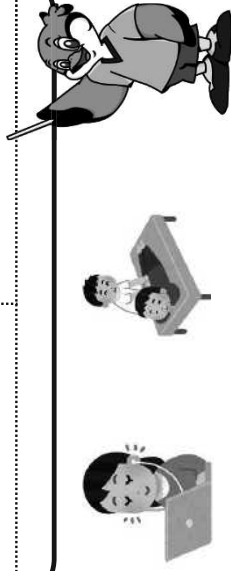


大阪府 網膜色素変性症協会 <small>(JRPS大阪)</small>	080-8502-9545 <small>(平日:18時~21時)</small>
---	--

教育関連

幼稚部から高等部まで、視覚障がいのある方のための学校です。高等部専攻科に国家資格取得をめざす保健療科・理療科・理学療法科・柔道整復科を設置。見学・入学・教育についてのご相談はお気軽にご連絡ください。

大阪府立 大阪北視覚支援学校	06-6328-7000
大阪府立 大阪南視覚支援学校	06-6693-3471



ボランティア団体

見えにくく悩んでいる方が沢山います。相談したい、こんな事はどうするのと思ったりその時に、一歩を踏み出すお手伝いをいたします。交流会、医療関係者向けの講習会の開催、電話やメールでは相談・情報提供もいたします。

きんきビジョン・サポート <small>(KVS)</small>	070-5504-2539
--------------------------------------	---------------

福祉関連

堺市内在住・在勤の見えにくい・見えにくい方を対象に生活相談・訓練を実施しています。今後の生活が不安など、まずは電話でご相談ください。また、点字・音声図書の出貸、対面朗読も実施しております。利用料無料。

堺市立健康福祉プラザ 視覚・ 聴覚障害者センター	072-275-5024
--------------------------------	--------------



日本ライイトハウスは、大阪府内で4施設を運営する総合福祉施設です。録音図書や電子書籍、便利な用具や電子機器、リハビリテーション、盲導犬など、お困り事やご要望に応じて多様なサービスをご利用いただけます。

社会福祉法人 日本ライイトハウス <small>(相談窓口、情報文化センター7F6部)</small>	06-6441-0039
---	--------------

お気軽にご相談ください。



ニーズ・シーズマッチング交流会2022(大阪会場)

令和4年11月29日(火)15:00~15:20

「盲ろう者に必要とされる支援機器、開発にあたり協力できること」

社会福祉法人 全国盲ろう者協会
常務理事・事務局長 橋間 信市

<盲ろう者について>

1. 盲ろう者(deafblind)とは

ヘレン・ケラーと言うとご存じの方も多いただろうか。

視覚と聴覚の両方に障害を併せ持つ人。

2. 盲ろう者の人数

全国に盲ろう者が約1万4千人

身体障害者手帳に、視覚と聴覚の両方の障害が明記されている人の数。

約8割が65歳以上の高齢者。

(2012年度「盲ろう者に関する実態調査」)

3. 盲ろう者の状態・程度

一口に「盲ろう」といっても、その見え方や聞こえ方の程度によって、大きく分けると、以下の四つのタイプがある。

全盲ろう : 見えない・聞こえない

全盲難聴 : 見えない・聞こえにくい

弱視ろう : 見えにくい・聞こえない

弱視難聴 : 見えにくい・聞こえにくい

4. 盲ろうになるまでの経緯

障害の発症の順序などによっても、以下の四つのタイプに分けられる。

先天性の盲ろう児者 : 言語獲得以前の幼少期から、視覚と聴覚に障害が発生した方。

「盲ベース」の盲ろう者 : 視覚障害がベースにあって、のちに聴覚障害が発生した方。

「ろうベース」の盲ろう者 : 聴覚障害がベースにあって、のちに視覚障害が発生した方。

上記のいずれでもない成人期の盲ろう者 : 「健常」の状態から視覚と聴覚に障害が発生した方。

5. 盲ろう者のコミュニケーション方法

手書き文字：

盲ろう者の手のひらに文字を書いて伝える方法。「手のひら書き」とも言う。

音声：

盲ろう者の耳元や補聴器のマイク等に向かって話す方法。

点字：

「ブリスト」という点字タイプライターと、盲ろう者の指を点字の6点に見立てて直接たたく「指点字」という二つの方法がある。

手話：

手話の形を盲ろう者が触って読み取る「触手話」と、盲ろう者の見え方に合った範囲で手話を表す「弱視手話」という二つの方法がある。

筆談：

通訳者が紙やタブレットなどに書いた文字を、盲ろう者が読む方法。

指文字：

日本語式(五十音式)、ローマ字式があり、盲ろう者は見たり触ったりして読み取る。

パソコン：

通訳者がパソコンで入力した文字を、盲ろう者が画面で読む方法。

先天性盲ろう児者のコミュニケーション：

上記のような言語的な方法と同様に、オリジナルサイン、視覚的・触覚的シンボルや物などの非言語的な方法を使用している盲ろう児者もいる。

6. 盲ろう者のニーズと通訳・介助

(1)「盲ろう」という障害の特徴と三つの困難

①他者とのコミュニケーション：

人と話をしたり、集まり(会議)に参加したり、店で店員とやりとりをしたりする等、人とのコミュニケーションが困難。

②情報の入手&周囲の状況把握：

新聞、テレビ、ラジオ、インターネット等からの情報だけでなく、自分の身の回りには誰がいて何をしているのか、何があってどういう状況になっているのか、といった基本的な環境情報を自力で得ることが困難。

③移動：

一人で自分の行きたいところへ自由に外出することが困難。

(2)通訳・介助員とは

盲ろう者に適したコミュニケーション方法で情報保障(会話の通訳、周りの状況説明など)をし、移動の支援(介助)を行う。これを業務とするのが通訳・介助員。

<盲ろう者のICT機器等の活用について>

盲ろう者と言っても前述の通り、視覚・聴覚の障害の状態はさまざまである。

視覚の活用ができる人：

スマホ・タブレット・パソコン等を画面拡大機能、配色の変更機能等を工夫して、自分の見やすい方法で利用している。

聴覚の活用ができる人：

スマホ・タブレット・パソコン等の読み上げ機能を工夫して、自分の聞こえる状態で利用している。

全盲ろうの人：

スマホ・タブレット・パソコン等を利用するには、点字のみが頼りとなる。点字ディスプレイ一体型の「ブレイルセンス」、スマホ・タブレット・パソコンと点字ディスプレイを接続して、点字ディスプレイを頼りに利用している。

一般的に、盲ろう者の場合、視覚障害者向け、あるいは聴覚障害者向けに開発、提供されているものを、その人が使える範囲で(全ての機能は使えなくても)利用しているという実態がある。

盲ろう者の場合、視覚活用、聴覚活用が難しい場合は、点字に代表される触覚によるインターフェースが必要となる。

<コロナ禍におけるニーズ>

特に全盲ろう者の場合、簡単に独力で使える体温計が存在せず、そのニーズは非常に高い。

体温計をスマホやタブレットとBluetooth接続することで、点字ディスプレイに表示させる方法はあるが、これらを使いこなすにはハードルが高い。

したがって、全盲ろう者でも容易に触覚(バイブレーションによる振動パターンや点字等の仕組みを利用した)により体温を計ることのできる体温計が求められている。

誰でも使えるユニバーサルデザインの体温計を開発していただきたい。

その際には、当事者によるモニターテスト等の協力をさせていただけるとありがたい。

※ 体温計にとどまらず、あらゆる機器開発に、「誰でも使える」というコンセプトをお願いしたい。

以上

障害者自立支援機器

ニーズ・シーズマッチング 交流会2022

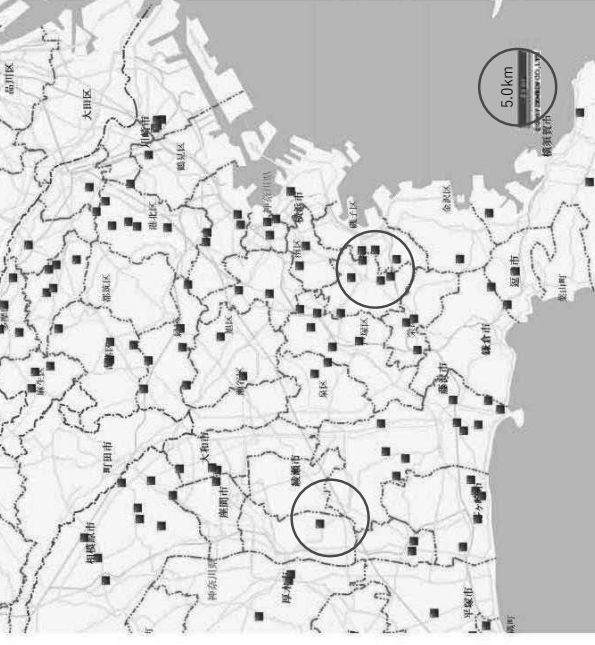
ALSについて、支援機器の利用事例と
開発に望むこと

シーズへのヒント

2022年11月29日
(一社) 日本ALS協会
岸川忠彦

1

患者は案外と身近にいます：神奈川県の場合



神奈川県支部

患者・家族の会員数
：約100名

加入率が約20%
なので点の数は
5倍になる

直径5キロの範囲
■ 1個→5名

直径5キロの範囲
■ 7個→35名



筋萎縮性側索硬化症 (ALS) について

Amyotrophic筋萎縮性 Lateral側面 Sclerosis硬化(症)

◆特徴 : 運動神経が変性して命令が伝わらなくなると筋肉が動か
せず廃用になり委縮する進行性・原因不明の疾患

◆大まかに二つのタイプ

約75% : はじめに、手足が動きにくくなるタイプ

約25% : はじめに、しゃべったり飲み込んだり出来なくなるタイプ

最終的には手足と口の両方、全身に障害が進みます

◆発症年齢 : 50～74歳が多い→中途障害者(障害が進行する)

◆遺伝性等 : 95%が孤発性、約5%が遺伝性

◆患者数 : 全国で約10,000人の患者

◆発症数 : 毎年約2,300人が発症

◆男/女比 : 1.3～1.4対1.0 男性が多い

◆治療法・薬 : リルテックとラジカット

共に発症初期の進行抑制効果が確認されている

治療研究は医療の進歩で加速度的に進んでいる

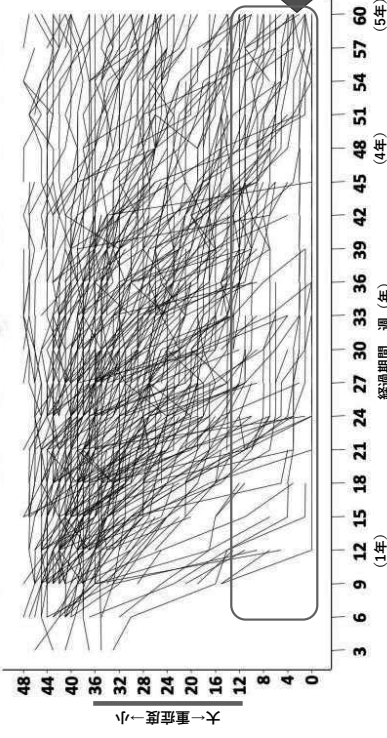


2

筋萎縮性側索硬化症 (ALS) について

Amyotrophic筋萎縮性 Lateral側面 Sclerosis硬化(症)

障害が進行するが、、進行の様相は一人一人違う(進行の個別性が大きい)



障害が進行 →呼吸筋が動かかせない→死に至る病気 →人工呼吸器等医療機器の発展

→死には至らない病気 →死ななければ良い →自立支援機器の発展 →生活の質の向上

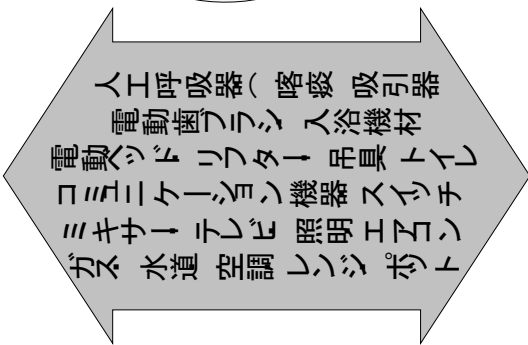
→患者・家族は個別性に合わせた自立支援機器の発展に期待を寄せている



普段の生活、それを支えているもの

電気/電子機器(ハード)

操作・運用(ソフト)



操作 運用は人間
 だけど... 自動で
 出来たらいいな

昼	中活動(仕事)	夕食(薬) 歯磨き トイレ 訪問入浴
---	---------	-----------------------------

普段の生活: 文字盤でのコミュニケーション

日常会話は文字盤で 込入った内容は伝は伝の心(パソコン)で

初めは指差し方式で、慣れたら
 アイコンタクトで言葉を紡ぐ



読み取った文字を忘れてしま
 まうので自動記録して後で
 音声に変換できなければ

透明文字盤

普段の生活: アラームスイッチでのコミュニケーション

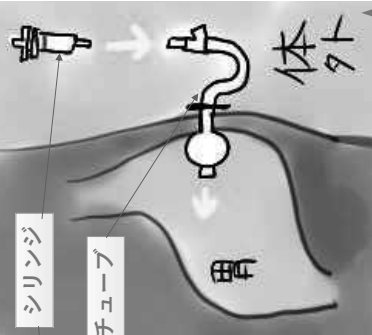
体が動かず、声も出ない: アラームで呼び出す



症状の進行状況に合わせ
 て色々なスイッチを
 使い分ける必要があるよ

普段の生活: 胃ろうからの食事(経管栄養)

- ・口からの飲込みが出来ないので胃ろうから注入して食事
- ・好物は口からでも大丈夫など、不思議な例外はありますケド、)



半固形栄養剤を注入する加
 圧バッグはあるけど
 ミキサー食の注入装置は難
 しいのかな?

普段の生活：ミキサー食

家族と同じメニューをミキサー食にする



ミキサーは空気を噛みこんで食材が酸化しやすいので味が変わるけど栄養成分はどうかかな



9

普段の生活： 歯磨き（口腔ケア）



- ・歯磨き（口腔ケア）は、誤嚥性肺炎のリスク回避でもあります
- ・胃ろうからの食事の場合でも、口腔ケアは大事です

- ・口が動かなくなったら顎の関節が拘縮しないようなケアも必要

移乗（最近ではリフトが主）

支えていれば立っていられる時期がありました。最近では足の力が弱くて立つことが難しいです



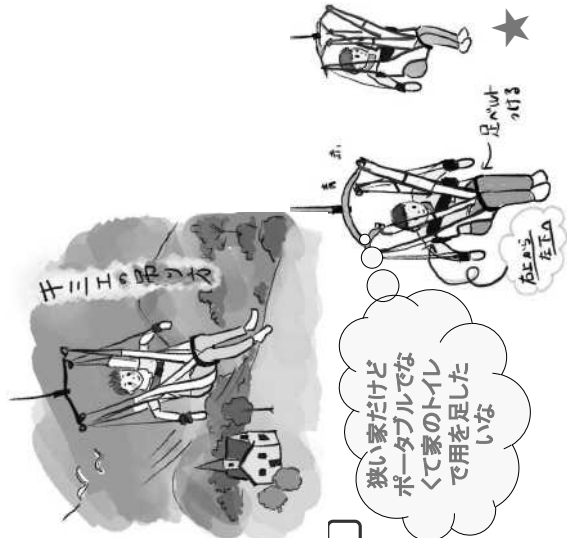
体幹保持機能がなくなると吊り具からずり落ちそうになるので、...リフトだけでなく吊り具にも工夫がほしい



トイレ



狭い家だけどポータブルでなくて家のトイレで用を足したいな



パソコン（伝の心） メール・執筆・ネット・SNS



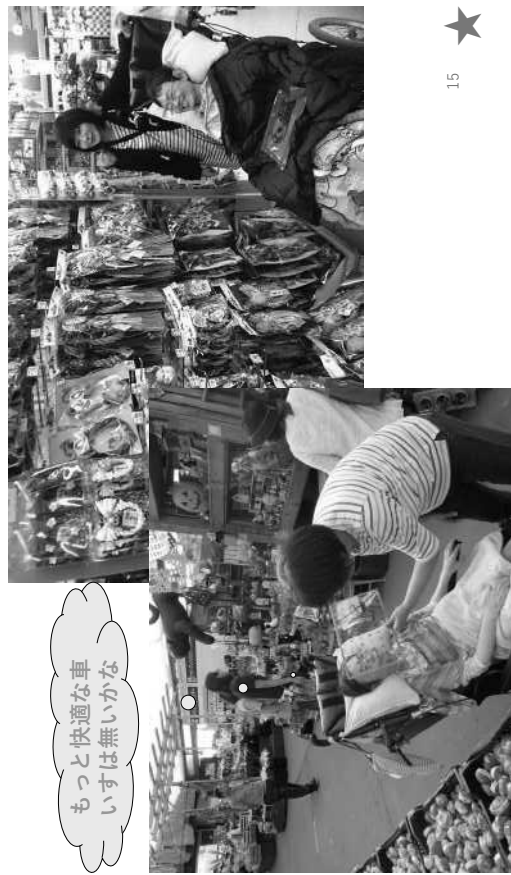
視線入力も魅力だけど、
手で入力も得意がたい
この先、視線入力やスイッチ操
作が出来なくなったらどうし
ようかな？

普段の生活：訪問入浴

体が全く動かないので家のお風呂は入れない。2-3人体制で入浴



普段の生活： ヘルパーさんと買い物



もっと快適な車
いすは無いか？

普段の生活：電車で外出

事前に連絡すれば駅員さんが目的の地までサポートしてくれます



うっかり手が離れた時
に自動でストッパーが
かかると安心だけど

その他

- 鼻をかむ
- テレビのチャンネル・音量
- 手を揉んで欲しい
- お茶を飲みたい
- かゆい所をかいて欲しい
- 本を読みたい
- 吸引

何とか機械で簡単に
出来ないかな、、、



★
17

普段の生活：気管切開部からの吸引

いつ、痰がたまるとはわからない



常時吸引できる
機器があるけど、
もっとライン
ナップがあると
助かる

常時、見守りが必要

★
19

就寝

- 寝返り→就寝中は2時間に1回、ときどき吸引。
11時30分～7時の間に3、4回

体幹の機能が落ちたときの寝返り
は人手でやるのが一番だけど、、、
でも、自動できると助かる



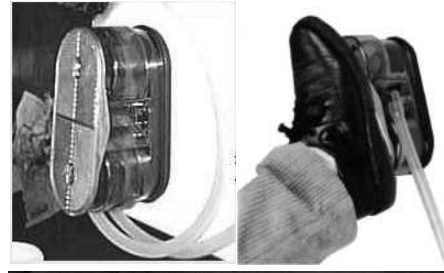
★
18

普段の生活：吸引機

吸引器は必需品



メインの吸引器 (AC電源)



非常用吸引器 (足踏み式)

障害者自立支援機器

ニーズ・シーズマツチング 交流会2022

ALSについて、支援機器の利用事例と
開発に望むこと

シーズへのヒント

ご静聴ありがとうございました

2022年11月29日
(一社) 日本ALS協会
岸川忠彦

25

※ アシスト
世界初ゴムの力で歩行支援

e-foot

イーフット

※当社調べ

医療

リハビリのサポート

介護

歩行訓練、e-体操

スポーツ&レジャー

ランニング、トレッキング

健康長寿

ウォーキング、旅行のお伴

足が軽く、歩きやすい!

歩行訓練・リハビリがしやすくなります。

●特許出願中 ●「e-foot」「イーフット」は商標登録出願中

株式会社 YAMADA

<https://yamada4970.amebaownd.com>



〒432-8051 静岡県浜松市南区若林町75-1
TEL.053-447-4970 FAX.053-555-6310

お問い合わせ ※メールでお願いいたします
[MAIL] efootyamada@gmail.com

アルク
歩行研究所



装着紹介動画

Instagram



希望小売価格33,000円(消費税込み)

装着が
簡単

効果が
実感できる

安価

e-foot装着時の体への作用

ゴムが筋肉をサポートし、歩行を支援。



①姿勢改善

コルセットにより腹圧を高め腰の安定性を図る



②躓き予防

股関節とかかとを引き上げる



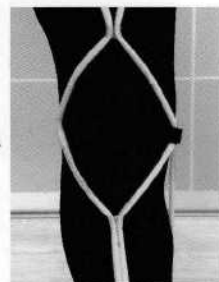
③躓き予防(踵接地)

つま先を上げる。殿筋を補助し前方傾斜を防ぐ



④前方推進力

四頭筋を補助し膝を安定させ脚を振出す



⑤膝の安定性

膝崩れを防ぎ階段・坂道もスムーズ

e-footはゴムの収縮力を筋肉に見立て、歩行動作のあらゆる場面で歩行をサポートします。

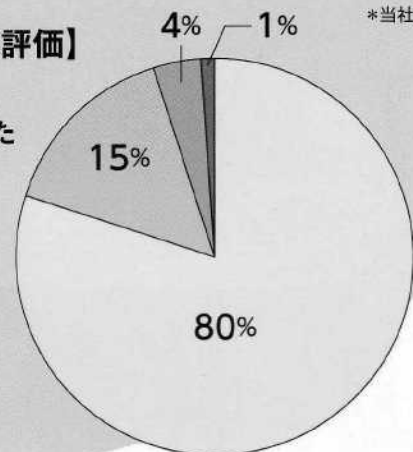
前後左右のゴムが伸縮を繰り返すことにより、一歩前に出すと次の一歩が自然に出るというアシスト機能が働きます。

一日も早い回復のために *e-foot* が、リハビリのサポートをします。

- 早期社会復帰に繋がります。
- 姿勢が良くなり・躓きが減り、歩きやすくなります。
- 歩き方を忘れた方の歩行を助けます。
- 脚が軽く、疲れが少なくなることで歩行距離が伸び、歩行訓練が容易になります。
- スムーズに歩けるようになります。

【装着者評価】

- 最高
- 良かった
- 普通
- 不満



*当社調べ

施設メリット

利用者様の笑顔のために!

- 早期から使うことにより回復を早めます。
- 歩行訓練が簡単になり、人手不足解消に繋がります。
- 歩けることでリハビリが積極的になります。
- ランニングコストがかかりません。
- 安価で効率が良く、経費削減に繋がります。
- 指導を受ければ本人や補助者でもリハビリが可能になります。

歩行訓練だけでなく、集団体操にも使用できます。

一般医療機器
(口腔嚥下機能訓練器具)



「食べる」チカラを鍛える

嚥下カリハビリ用ボトル | タン練くん[®]

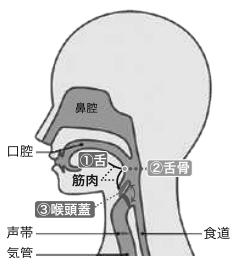
人間が持つ本能

赤ちゃんがミルクを飲む 飲み込む時、舌が必ず上あごにつく
この2つを活用して生まれたのが「タン練くん」です。

舌の力を鍛えて嚥下力UP

舌の力はとても早いスピードで鍛えることができます。
健康な舌の力(30キロパスカル)に到達するスピードが早いほど
口からの栄養補給を早く行えます。

舌の筋肉が弱ると
器官にしっかりフタ(喉頭蓋)が
できず危険な誤飲の原因に!



使用方法



お茶や飲料を嚥下カリハビリ用ボトルに入れて舌を上下に動かす運動をしながら飲むことで、飲み込みに関する筋肉を鍛えるようにいたしました。

ニップル素材に
白金触媒採用で
洗いやすい!
※当社従来品と比較



一般医療機器クラス1

製造販売届出番号
30B3X10004000001

製造販売業許可番号
30B3X10004

意匠登録済
意匠番号 第1579721号

特許取得済
特許証番号 第6333487号

お電話からのご注文は

073-460-9805

受付時間/9:00~17:00 (土日祝休)

WEBからの
ご注文はコチラ



Re HEARTTEK[®]

(株)リハートテック
https://rehearttek.com/
MAIL:info@rehearttek.com
FAX:073-460-3242

(株)リハートテックは

ごえん

誤嚥を予防する

トレーニング器具 タン練くん[↑]を

製造している会社です。

ゴホッ!
むせた



舌の力を
強化して

誤嚥の症状

ごえん
誤嚥による疾病の危機に
負けない元気な毎日を!!

- ムセる
- 飲み込みにくい

哺乳瓶の原理を応用した
画期的なトレーニング器具

一般医療機器
(クラス1)

一日1回
えんげりよく
嚥下力を
訓練

赤ちゃんがミルクを飲む時に、舌が上あごに
付くという、人間が本来持っている機能を応
用して作られたボトル型の訓練用具。飲み物
を入れて一日1回使うことで、舌の力を強化で
き、誤嚥対策に役立ちます。

えんげりよく
嚥下カリハビリ用ボトル

タン練くん[↑]



嚥下カリハビリ用ボトル

70歳以上の肺炎患者の
実に7割以上は、
誤嚥性肺炎です。
(厚生労働省発表資料による)

ReHEARTTEK

『盲ろう者向け支援機器の開発に期待すること』(2022年12月15日)
全国盲ろう者団体連絡協議会、副会長 藤鹿一之

1、盲ろう者って どんな人？

盲ろう者とは、視覚と聴覚の両方に障害のある人のことで、
少し見えて、少し聞こえる『弱視・難聴』から、
全く見えず、全く聞こえない『全盲ろう』まで、
障害の程度は盲ろう者によって異なります。

また、コミュニケーション手段も、触手話、弱視手話、
指点字、手書き文字、音声、文字筆記等、
障害の程度や受障期によって様々です。

2012年に行った実態調査によると、全国に1万4千人ほど居るといわれています。

2、盲ろう者の3大困難。

- ・コミュニケーションの困難。
- ・情報入手(社会的情報、身の周りの情報)困難。
- ・単独での移動の困難。

3、盲ろう者の情報機器の活用法

・少し資料の残っている盲ろう者はパソコンやスマートフォンの
画面拡大機能等を活用して利用。

・少し聴力の残っている盲ろう者はパソコンやスマートフォンの
音声 読み上げ機能を活用して利用。

・全盲ろうの盲ろう者はパソコンやスマートフォンに
点字ディスプレイを繋げて利用。

4、盲ろう者が使える体温計の必要性。

コロナ禍で体温を測る必要がある機会が増えてきました。
しかし、特に全盲ろうの盲ろう者が独力で体温を確認することは
非常に難しいです。

多くの盲ろう者が独力で体温の確認ができる
『振動式の体温計』が必要です。

体温計にとどまらず、誰もが使えるユニバーサルデザインの
機器の開発をしていただけることを願っています。

「内部障害者とサポーターをつなぐスマホアプリ『心の輪』の開発」

～「見えない障がい者」に対する支援 第一歩～

1 目的 当事者の視点から

- (1) 内部障害者の自立を就労・社会参加支援を通じ促進すること。
- (2) デジタル技術を活用し「助けてほしい」「助けてあげたい」という「心の輪」を広げること。
- (3) 外見からわからない「内部障がい者」の存在を伝えることにより、障がい者の多様性を認める社会にすること。
- (4) 心臓病に対する予防意識を高め、高齢社会における介護予防、福祉人材の削減を図ること。
(令和3年厚労省調査 50・60・70代死因第二位 心疾患)

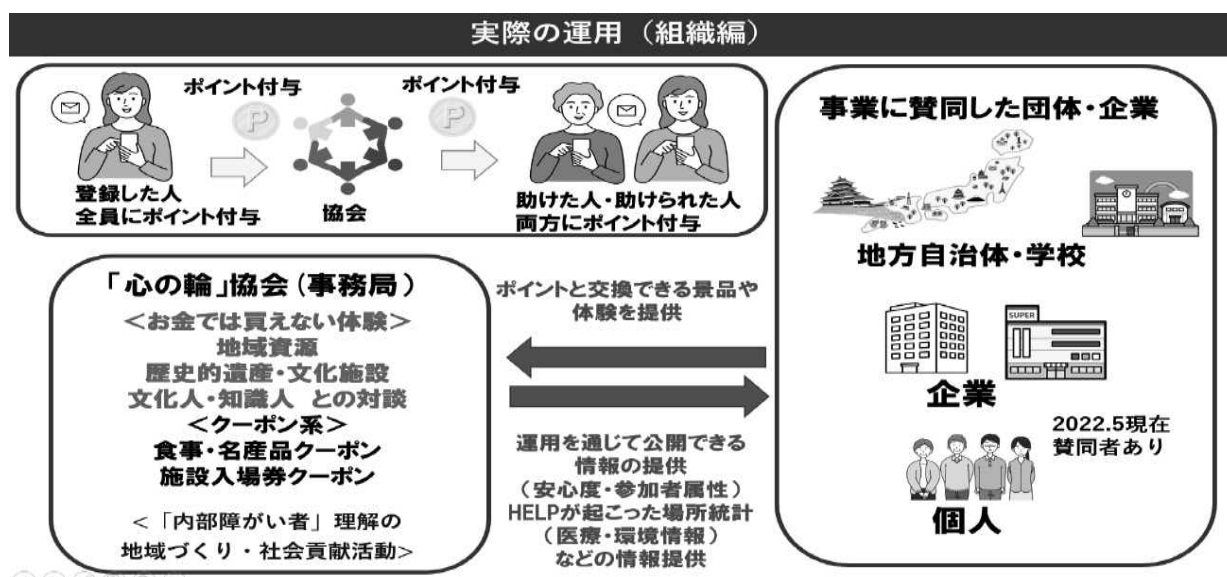
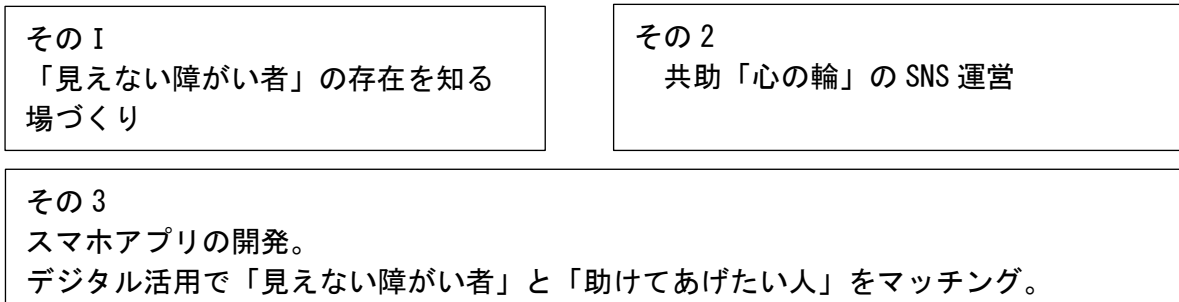
2 ニーズ

- (1) 開発技術を持っている法人・個人
- (2) 資金援助、あるいはその仕組みを作ることができる法人・個人
- (3) 「心の輪」の活動賛同者・SNS 登録者



崎山みゆき 中途・内部障がい(一級)

3 事業概要



5 メンバー (その他 応援団員 20名)

崎山みゆき(株式会社自分楽代表取締役・令和4年度 内閣府障がい者理解促進事業入賞)
御友重希(デジタル田園都市国家構想応援団)

連絡先 info@jibungaku.com <http://www.jibungaku.com>

御連絡お待ちしております。

視覚障害者のITサポート支援機器を考える ～地域の支援体制の構築～

林 豊彦
新潟大学・名誉教授
自然科学系（工学）フェロー

視覚障害者情報支援アプリ「アンサーワン」

1. アンサーワンの背景と概要
2. 地域の視覚障害者支援の現状
 - ・新潟県視覚障害者福祉協会
 - ・新潟県視覚障害者情報センター
 - ・障害者自立支援センター・オアシス
 - ・新潟市障がい者ITサポートセンター
3. アンサーワンの開発と検証
 - ・（株）富士通システムズ
 - ・新潟医療福祉大学・視機能科学科

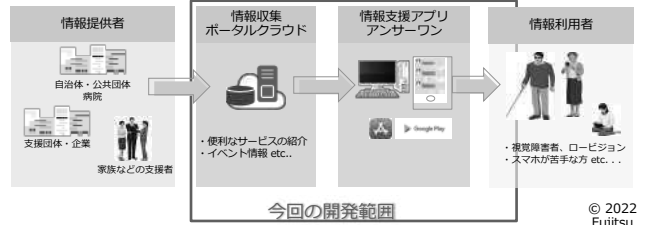


1. アンサーワンの概要と背景

視覚障害者・情報支援アプリケーションのニーズ

- 情報提供者：情報を必要としている人にどうしたら届けられるか？
- 視覚障害者：必要とする情報をどうしたら効率的に集められるか？

情報提供者が登録した情報を集約し、情報を必要としている人に配信



コンテンツ(アプリ)利用は無料とし、
コンテンツ提供団体は有料(利用料課金)で提供することを予定。

© 2022
Fujitsu
Japan
Limited

1. アンサーワンの概要と背景

視覚障害者情報支援アプリ「アンサーワン」



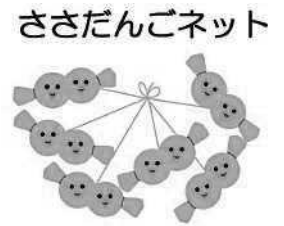
- 情報提供：視覚に障害をおもちの方、目が見えにくくなってきた方へ必要な情報を音声で届けるスマホアプリです。
- 情報提供の仕組み：視覚障害者向けの情報をおもちの方へ、情報を必要としている方へ簡単・確実に届けることができる仕組みを提供します。
- 情報の選択：インターネット上に無数に散らばる情報から、信頼性の高いものに絞って配信します。

© 2022 Fujitsu Japan Limited

2. 地域の視覚障害者支援の現状

新潟県視覚障害リハビリテーションネットワーク「ささだんごネット」(2013～)：

- にいがたアイサポートセンター(新潟県視覚障害者福祉協会、新潟県視覚障害者情報センター)
- 障害者自立支援センターオアシス
- 新潟よつば学園(旧県立新潟盲学校)
- 新潟大学医学総合病院眼科・ビジョンサポート外来
- 新潟市障がい者ITサポートセンター



継続的な協働体制

2. 地域の視覚障害者支援の現状

新潟県視覚障害リハビリテーションネットワーク「ささだんごネット」(2013～)

リーフレット：患者の困りごとへの機関が対応できるか表形式でわかりやすく提示
→ 新潟県内の眼科医療機関に配布

どの機関に患者から連絡が行っても、その個人の要望に対して最適な機関を互いに紹介

機関名	視覚障害者からの問い合わせに対応しているか	「ささだんごネット」参加団体は、連携しながら、お互いの得意分野を伸ばし、患者さんへの支援を充実させようとするか
新潟県視覚障害者福祉協会	●	●
新潟県視覚障害者情報センター	●	●
障害者自立支援センターオアシス	●	●
新潟よつば学園	●	●
新潟大学医学総合病院眼科	●	●
新潟市障がい者ITサポートセンター	●	●

2. 地域の視覚障害者支援の現状

協働とはなにか？

協働とは collaboration

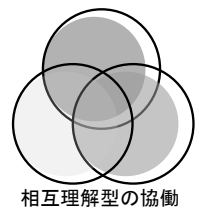
創造／革新を目的とした異分野の人たちの協業

相互補完、多視点の交錯

創出 creation or innovation

専門用語の共有 → 相互理解型協働

深い議論による創出の加速・深化



相互理解型の協働

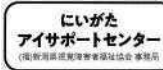
2. 地域の視覚障害者支援の現状

にいがたアイサポートセンター #1

新潟県視覚障害者福祉協会 常任理事 関川憲司
新潟県視覚障害者情報センター 指導員 山口史明

地域活動支援：

- ・点訳・音訳
- ・点訳・音訳図書
の利用、ICT訓練
- ・購買事業
- ・自立支援
- ・交流の場



本部事業

印刷事業 (点訳・音訳)
TEL 025-381-8258
生活用具の購買に関すること
TEL 025-381-8130

情報センター

音訳・点訳図書の利用、
ICT訓練等に関すること
TEL 025-381-8111

自立支援室

自立訓練や
相談に関すること
TEL 025-381-8118

日だまり

地域活動支援センター
「日だまり」に関すること
TEL 025-385-7712



2. 地域の視覚障害者支援の現状

にいがたアイサポートセンター #2

新潟県視覚障害者福祉協会 常任理事 関川憲司
新潟県視覚障害者情報センター 指導員 山口史明

視覚障害者のニーズの変遷：

音声情報 (人伝て) → 点字情報 → ネット情報 (PC・携帯端末)

視覚障害者支援の現状：

- ・眼科に福祉情報が届いていない、眼科から情報提供がない
- ・支援のニーズが高いのはスマホ操作 (画面の呼び上げ機能アプリ、OCR機能のアプリ、カメラを通して音声案内など)
- ・高齢者は新技術にチャレンジしない傾向 → 情報格差

今後の課題：

- ・潜在的ニーズの顕在化 → 支援情報をどう届けるか？
- ・個人ニーズに合わせた情報機器・アプリの情報提供

2. 地域の視覚障害者支援の現状

視覚障害者の自立支援の現場から、情報入手の現状・変化・課題 #1

障害者自立支援センター オアシス代表 小島紀代子

当事者の声：

- ・よく使う機器：ブレックストーク (音楽CD、聴く読書)、よむベエスマイル (印刷物の読み上げ)、みずいろクリップ (色の音声化)
- 利点：人手を借りずに自分でできる。
- 欠点：色の検出誤差 (微妙な色の判定など)
- ・携帯電話：スマホとガラケーの両方を所有するが、ガラケーが中心。



ブレックストーク RTR3 (シナノケンシ)



よむベエスマイル (Amedia)

2. 地域の視覚障害者支援の現状

視覚障害者の自立支援の現場から、情報入手の現状・変化・課題 #2

障害者自立支援センター オアシス代表 小島紀代子

支援者の声：

- ・オアシス利用者は中途視覚障害者がほとんどで、60歳以上が80%以上 (平均68歳)
- ・携帯電話：スマホは高齢者であることを理由にあきらめることが多い。
- ・利用者の問題点：「見えなくなることへの不安・喪失感」「精神疾患を引き起こしやすい」「白杖に対する抵抗」「点字が分からない」→ 心のケアが重要



ブレックストーク RTR3 (シナノケンシ)



よむベエスマイル (Amedia)

2. 地域の視覚障害者支援の現状

視覚障害者の自立支援の現場から、情報入手の現状・変化・課題 #3

障害者自立支援センター オアシス代表 小島紀代子

当事者の声：

- ・PCの利用：視覚障害者から教えてもらったため、緊張せずに学べた/世の中の一員になったという安心感があった。
- ・心の問題：友だちや近所の人との付き合いが喪失し、心が塞いでしまった/病院では病気しか診てもらえず、心のケアはなかった/オアシスで障害者仲間と交流できるようになったが、出会うまで15年もかかった。



PC-Talker^R (高知システム開発)

2. 地域の視覚障害者支援の現状

視覚障害者の自立支援の現場から、情報入手の現状・変化・課題 #4

障害者自立支援センター オアシス代表 小島紀代子

当事者の声：

- ・スマホの問題点：平面なので手がかりがなく感じる → 取組む意欲の喪失
- ・障害者も積極的に支援を求める勇気が必要

支援者の声：

- ・スマホ操作を視能訓練士による訓練プログラムに入れてもらいたい。
- ・現代の街・モノは元気な若者を中心に作られているが、超高齢社会では。高齢者・障害者にも使いやすくしないと売れない。《もっとわかりやすく、もっと使いやすく》



PC-Talker^R (高知システム開発)

2. 地域の視覚障害者支援の現状
視覚障がい者のICT支援の立場からみた携帯情報端末の現状と課題#1 新潟市障がい者ITサポートセンター長 山口俊光

- ・視覚障害者の支援件数は全体の20%
- ・訪問支援が原則で、2021年度は165回（特別支援学校41%、病院39%など）
- ・視覚障害者の支援例：新潟病院眼科ビジョンサポート外来での中間的アウトリーチ支援（1-2回/月）／学校学習におけるiPad®活用／スマホのAI視覚支援アプリ／AIアシスタント機能付きスピーカー／高齢者向けの携帯電話アクセシビリティ設定



2. 地域の視覚障害者支援の現状
視覚障がい者のICT支援の立場からみた携帯情報端末の現状と課題#2 新潟市障がい者ITサポートセンター長 山口俊光

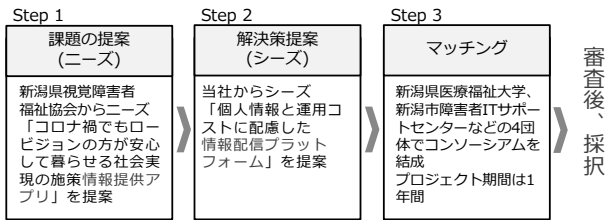
直接支援の限界：

- ・支援員ひとりでは直接支援できる人数に限界がある。
- ・2016年度から教員・コメディカルなどの中間ユーザに対する講座・研修に重点を移行：37件（2015）→ 62件（2016）
- ・YouTube配信（ATティービー）：毎週金曜日20:00に定期配信／1回1テーマ／直接支援の補助教材、研修の予習・復習用の教材



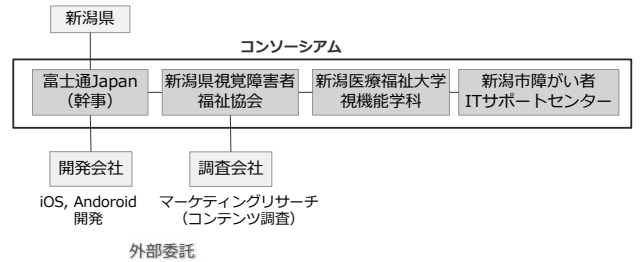
3. アンサーワンの開発と検証
視覚障害者情報支援アプリ「アンサーワン」の開発#1 (株) 富士通システムズ 渡辺 準

2020年度補助金事業：
 「新潟県アフターコロナを見据えたイノベーション創出支援事業」



3. アンサーワンの開発と検証
視覚障害者情報支援アプリ「アンサーワン」の開発#2 (株) 富士通システムズ 渡辺 準

4者でコンソーシアムを形成して推進



3. アンサーワンの開発と検証
視覚障害者情報支援アプリ「アンサーワン」の開発#4 (株) 富士通システムズ 渡辺 準

ニーズ調査の結果：

医療と福祉との連携不足

- 医療は視覚障害の診断まで：
 - 患者の症状の回復・緩和まで
 - その後は障害者福祉の範疇
- 市区町村窓口：ロービジョン支援の知識・ノウハウ不足
- ヒアリング結果：患者は口々に「支援施設にたどり着けるのは運」と回答

3. アンサーワンの開発と検証
視覚障害者情報支援アプリ「アンサーワン」の開発#5 (株) 富士通システムズ 渡辺 準

環境変化による不安：

- これまで施設などから情報を得ていた人たちも、コロナ禍で思うように情報を得られなくなった。→ 孤立化の恐れ
- ガラケーの廃止決定
 - 物理ボタンのないスマホに対する障壁や支障



3. アンサーワンの開発と検証

視覚障害者情報支援アプリ「アンサーワン」の開発#5
(株) 富士通システムズ 渡辺 準

課題1

視力が低下して間もない方はどうすればよいかわからず、不安。

対策1

視力が低下直後の方には心のケアに関する情報を提供/長時間経過した方には生活の円滑化のための情報を提供。

課題2

支援施設・団体にたどり着くことができない。

対策2

アプリ利用者の居住地から最適な情報を提供。

課題3

物理ボタンがないスマホへの利用に支障を感じる人が多い。

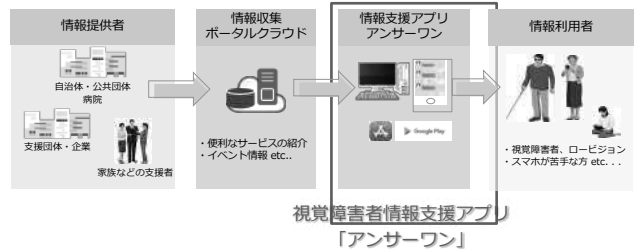
対策3

アプリ利用者が画面を見ずとも操作できるような画面デザイン/音声操作も可能。

3. アンサーワンの開発と検証

視覚障害者情報支援アプリ「アンサーワン」の開発#6
(株) 富士通システムズ 渡辺 準

情報提供者が登録した情報を集約し、情報を必要としている人に配信



視覚障害者情報支援アプリ「アンサーワン」

3. アンサーワンの開発と検証

視覚障害者情報支援アプリ「アンサーワン」の開発#7
(株) 富士通システムズ 渡辺 準

インターネット上に分散した情報を本アプリで一元化

視覚障害者、スマホに慣れていない人も利用しやすいインタフェース設計

- ・ 装飾やアニメーションの抑制
- ・ 利用者の見え方に合わせた設定
- ・ 音声読み上げの徹底
- ・ 音声による操作
- ・ 利用者に合わせて情報の絞り込み



画面上下に固定機能ボタンを設置

3. アンサーワンの開発と検証

視覚障害者情報支援アプリ「アンサーワン」の開発#8
(株) 富士通システムズ 渡辺 準

C-Talkerを用いた情報入手

●アンサーワンによる情報入手



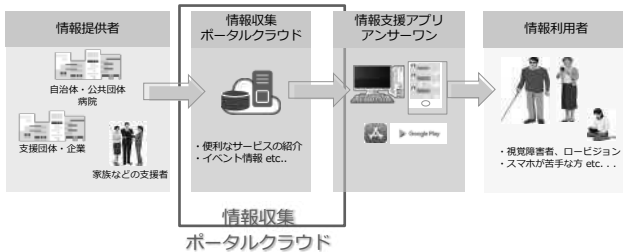
大量の検索結果の読み上げ → 必要な情報がどうか

必要な情報、信頼できる情報で配信しているため、欲しい情報が簡単に安心して入手可能。

3. アンサーワンの開発と検証

視覚障害者情報支援アプリ「アンサーワン」の開発#9
(株) 富士通システムズ 渡辺 準

情報提供者が登録した情報を集約し、情報を必要としている人に配信

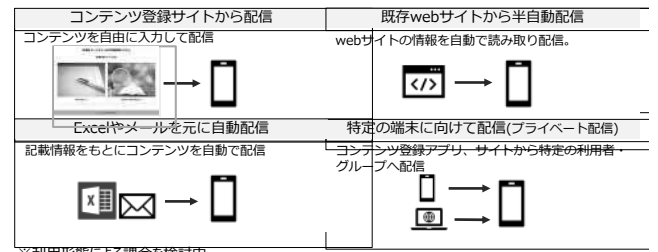


情報収集ポータルクラウド

3. アンサーワンの開発と検証

視覚障害者情報支援アプリ「アンサーワン」の開発#10
(株) 富士通システムズ 渡辺 準

担当者自身で簡単かつリアルタイムに情報を送れるように、4つの配信方法を提供



※利用形態による課金を検討中

3. アンサーワンの開発と検証

視覚障害者情報支援アプリ「アンサーワン」の検証#1
新潟医療福祉大学・視機能科学科 教授 石井雅子

インタビュー調査:

- 対象：スマホの操作を不得意とする視覚障害当事者およびサポーター（新潟県内の視覚障害関連施設4施設、視覚障害関連団体6団体）
- 項目：見えにくくなってからの相談相手、スマホの利用状況・機種・プラン、福祉情報の入手手段などに関する62項目
- 分析：アプリの想定利用者およびコンテンツについてテキストマイニングを用いて検討

3. アンサーワンの開発と検証

視覚障害者情報支援アプリ「アンサーワン」の検証#2
新潟医療福祉大学・視機能科学科 教授 石井雅子

結果の総括#1:

コンテンツについて:

- ・未認知のサービスの存在にたどり着くまでの橋渡しを期待。
- ・情報提供に加え、罹患初期における心のケア・不安感の緩和が重要



3. アンサーワンの開発と検証

視覚障害者情報支援アプリ「アンサーワン」の検証#2
新潟医療福祉大学・視機能科学科 教授 石井雅子

結果の総括#2:

ニーズについて:

- ・ITリテラシーが高く、既にスマホを利用している人は、自ら情報を得ているため、アプリの対象者とはなりにくい。
- ・ITリテラシーが低すぎるとスマホの利用までたどりつかない。
- ・支援団体（オアシス・日だまり）に通っている人はそこで情報を得られている。
- ・家族から支援を受けられる人は、情報の不足を訴える人は少ない。

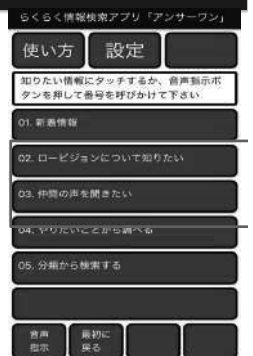


3. アンサーワンの開発と検証

視覚障害者情報支援アプリ「アンサーワン」の検証#3
新潟医療福祉大学・視機能科学科 教授 石井雅子

アプリの改良:

- ・心のケアに関するコンテンツを追加し、トップ画面に配置
- ・居住地域パーソナライズ機能を実装
 - 対象はコンテンツと連絡先
 - 並び順をカスタマイズ



3. アンサーワンの開発と検証

視覚障害者情報支援アプリ「アンサーワン」の検証#4
新潟医療福祉大学・視機能科学科 教授 石井雅子

第1次実証実験:

対象：視覚障害当事者16人

年齢：40～70歳代

性別：男性9人 女性7人

障害の状況：先天8人、中途8人

携帯端末の利用状況：スマホ13人、ガラ携とスマホの両方2人、利用していない1人

支援団体とのつながり：あり10人、なし6人

方法：対面にてアプリをデモした後、開発エンジニアが対象者と1対1で操作性と機能性について聞き取り調査

3. アンサーワンの開発と検証

視覚障害者情報支援アプリ「アンサーワン」の検証#5
新潟医療福祉大学・視機能科学科 教授 石井雅子

第1次実証実験のアンケート結果#1:

- 「アプリケーションのコンセプト・目指しているものはわかりましたか？」
よくわかった (68.8%) だいたいわかった (31.3%)
- 「上記に共感できましたか？」
大変共感できた (56.3%) だいたい共感できた (43.8%)
- 「操作はわかりやすかったですか？」
わかりやすかった (37.5%) ややわかりやすかった (43.8%)
- 「音声操作は使いやすかったですか？」
使いやすかった (68.8%) 使いにくかった (12.5%)

3. アンサーワンの開発と検証

視覚障害者情報支援アプリ「アンサーワン」の検証#6
新潟医療福祉大学・視機能科学科 教授 石井雅子

第1次実証実験のアンケート結果#2:

- 「アプリの使い方説明機能は試してみて、わかりやすかったですか？」
わかりやすかった (68.8%) わかりにくかった (6.3%)
- 「アプリの音声は、聞きやすかったですか？」
聞きやすかった (93.8%) 聞きにくかった (0.0%)
- 「画面を見ることができる方、画面の文字は読みやすいですか？」
読みやすかった (75.0%) 読みにくかった (25.0%)
- 「このアプリがあると、生活が便利になると思いますか？」
とても便利になると思う (37.5%) いくらか便利になると思う (50.0%)
- 「このアプリがリリースされたら使いたいですか？」
積極的に使いたい (50.0%) 機会があれば使いたい (43.8%)

3. アンサーワンの開発と検証

視覚障害者情報支援アプリ「アンサーワン」の検証#7
新潟医療福祉大学・視機能科学科 教授 石井雅子

第1次実証実験のアンケート結果(記述) #3:

良かった点:

- ・目が疲れずに操作できる。
- ・欲しい情報が一発で検索できるため便利。
- ・「眼科」など、音声で該当コンテンツが出てきた。

悪かった点:

- ・認識精度が悪い(4)。
- ・画面遷移後の音声がなかった。
- ・音声による操作に慣れていない。
- ・検索しているのが少しわかりにくかった。Siriのように音でフィードバックがあるとよい。



3. アンサーワンの開発と検証

視覚障害者情報支援アプリ「アンサーワン」の検証#7
新潟医療福祉大学・視機能科学科 教授 石井雅子

第1次実証実験の考察:

アプリのリリース後、積極的に使用したいのは50%:

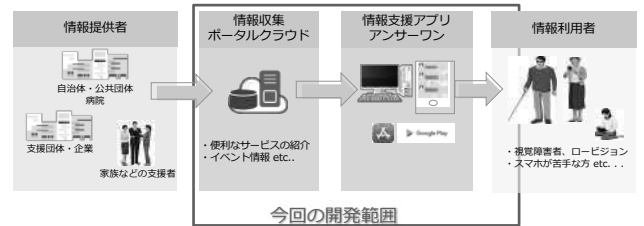
- ・定期的ヒアリングの実施/カテゴリ・コンテンツ内容の更新
- ・居住地域パーソナライズ機能の付与
- ・操作性と機能性の満足度の向上

音声認識精度に問題あり:

- ・既にVoice OverないしSiriを用いてスマホを操作しているユーザーの満足度の向上



視覚障害者情報支援アプリ「アンサーワン」:まとめ



- ・視覚障害者支援に関する地域の専門家と企業が協働して開発を行った。
- ・ニーズ調査・専門家の意見に基づいて、プロトタイプを開発した。
- ・インタビュー調査を実施し、その結果からプロトタイプを改良した。
- ・改良型の操作性・機能性に対して第1次アンケート調査を実施し、今後の課題について明らかにした。

A T A サテライトin下関

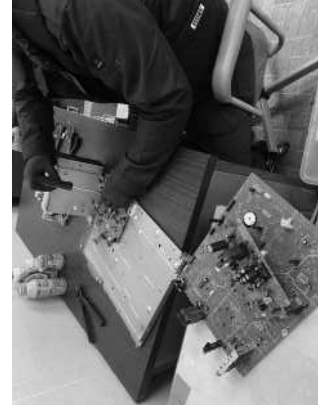
統合失調症など精神障害者の支援機器を考える
～生活管理から就労継続～

N P O 法人メッセージ花くじら 理事長 石田 眞

N P O 法人メッセージ花くじら紹介

事業所紹介

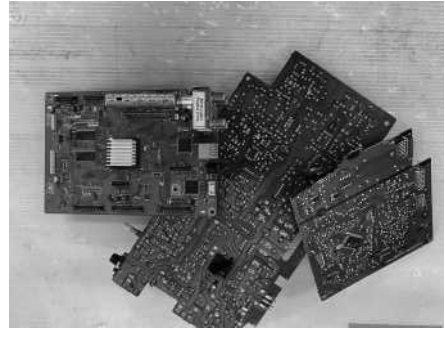
◇下関◇下関海峡マラソンでは花くじらで、小型家電から抽出された金メッキから制作された金メダルが贈呈される



N P O 法人メッセージ花くじら紹介

事業所紹介

◇下関◇就労育成事業所 花くじら (就労継続B型)
住所：下関市田中町17-13
作業内容：使用済み小型家電解体作業



N P O 法人メッセージ花くじら紹介

事業所紹介

◇下関◇下関市長にメンバーと一緒に贈呈 報道陣も多数



NPO法人メッセーシ花くじら紹介

事業所紹介

◇下関◇下関海峡マラソンの優勝者へ



統合失調症など精神障害者の支援機器を考える ～生活管理から就労継続～

1. 参加者

当事者代表として就労を望んでいる精神障害のある方（統合失調症など）

○Aさん（統合失調症・当事者）、OBさん（自閉症・家族）さんにご参加いただいた

その他参加者○座長 石田真（就労育成事業所 花くじら）

○吉田瑞恵（就労育成事業所 花くじら、元・特別支援学校教員）、

○田中風（よしみず病院神経センター）、

○末田耕藏（太閤の家事業所）、

○佐川亞希、佐藤宗都子・川瀬英路（支援機器開発・研究者）



NPO法人メッセーシ花くじら紹介

事業所紹介

◇北九州◇

就労育成事業所 花くじら

(B型施設外事業所)

住所：北九州市門司区東港町1-24

旧門司税関内

作業内容：

ブルーウィング門司港跳ね橋開閉作業



統合失調症など精神障害者の支援機器を考える ～生活管理から就労継続～

2. 当日のディスカッションの中で確認されたニーズと課題

解決すべき課題・ニーズ

安定した就労継続には、毎日の生活管理が重要。

(例えば、朝起き、朝起きて準備する。髪を剃る。身だしなみを整える。)

精神障害のある方の場合、夜型の人が多く、朝起きられないことがある

機器やシステムのイメージ

生活管理を当事者自身で簡単にできるもので、操作が簡単で、生活の状態や体調なども可視化され本人が振り返りができるもの

またサポートする組織・人が同じアプリ（システム）を共有し使えるもの

当事者や関係者への通知機能（メールは△、振動刺激などで知らせるのが有効か？）

当事者から取得した生体情報を医師・医療機関などと連携できること

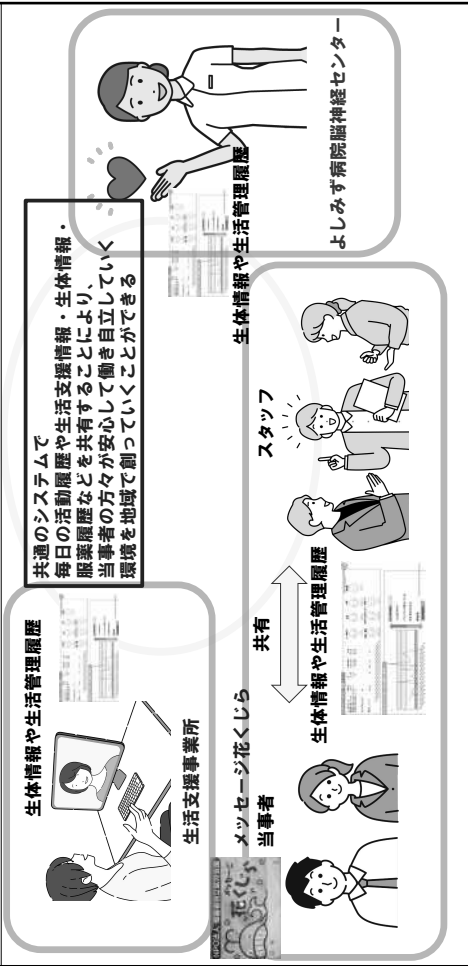
統合失調症など精神障害者の支援機器を考える
～生活管理から就労継続～

2. 当日のディスカッションの中で確認されたニーズと課題

解決すべき課題・ニーズ
働かなければいけない時間は分かっている。
ただ出勤するまでに色々と考えてしまう。
例えば、発作が起きた場合、誰か助けてくれる人はいるかなど。
そうして本来の仕事が忘れてしまう。

↑
機器やシステムのイメージ
生活管理と共に、次のタスクについて通知してくれるようなシステム

生活管理から就労継続を目指し現在準備中の取り組み



統合失調症など精神障害者の支援機器を考える
～生活管理から就労継続～

2. 当日のディスカッションの中で確認されたニーズと課題

解決すべき課題・ニーズ
先ずは当事者の思いをきちんと受け止めることが必要。
思いや目的とその周辺で困っていることを
きちんとアセスメントした上で、
それをマッチングするアプリやシステムがあると良い。

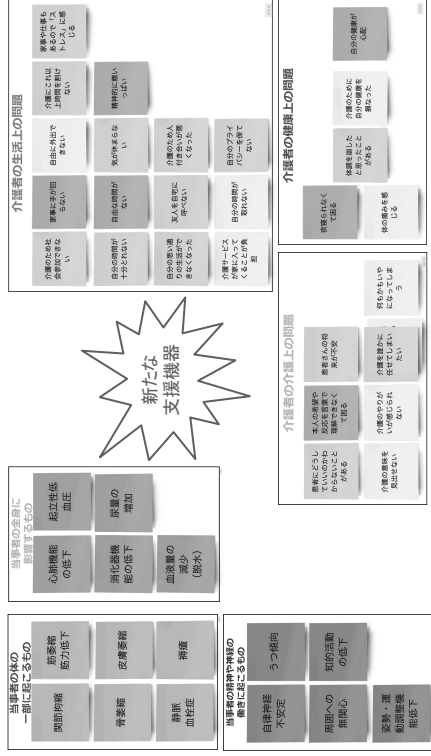
↑
機器やシステムのイメージ
当事者が望む条件ややりたいこと（できること）と求人マッチングする
アプリ

【ニーズ・シーズマッチング地域交流会の成果（みんなで考えた支援機器）】

7. 重度障がい者の覚醒のタイミンを知らせる支援機器を考える

鹿児島大学医学部保健学科 作業療法学専攻 助教
鹿児島県作業療法士協会 会長
吉崎 孝二

重度障がい者と介護者の問題



重度障害者を介護する家族の困りごと

- CASE) Aさんについて
- 22歳男性、2歳で筋ジストロフィーの診断を受ける。
 - 16歳で吸を詰らせ心肺停止、低酸素脳症となり、以降は寝たきり（機能障害程度st. viii, mRS判定基準5）
 - 介護は娘と2交代制で体位交換、食事や給水、清拭、手足浴、痰の吸引、エアマットや人口呼吸器、吸引機の管理等
 - 喀痰吸引は入さん覚醒時に随時、その他はほぼ定時で遂行
 - 介護のタイミングはわずかに変化する表情と痰が詰まる口言
 - 困りごととして「息子がいつ起きるか分からない」「痰のつまりが気になる」「家事の最中でもずっと気が張っている」「ゆっくりの眠りたい」

時間	Aさんのタイムスケジュール	Bさんのタイムスケジュール
8:00 - 7:30	体位交換 (左右)	家事準備
7:30 - 8:30	給水 (白濁20cc)	自由時間
8:30 - 9:30	体位交換 (左右)	自由時間
9:30 - 10:30	体位交換 (左右)	自由時間
10:30 - 11:10	体位交換 (左右)	自由時間
11:10 - 12:30	体位交換 (左右)	自由時間
12:30 - 13:00	体位交換 (左右)	自由時間
13:00 - 14:00	体位交換 (左右)	自由時間
14:00 - 15:00	体位交換 (左右)	自由時間
15:00 - 15:30	体位交換 (左右)	自由時間
15:30 - 17:00	体位交換 (左右)	自由時間

～みんなで考えよう支援機器の開発～

障がい当事者の置かれている状況 (課題・ニーズ)

- 想定するユーザー (状態像)
 - 【在宅で生活する重度障がい者】
 - 目的意識がほとんどできない方
 - 喀痰吸引を要する方
 - 体位交換や給水に要する方
 - 【介護者】
 - 頻りに介護によって、家事や睡眠時間が確保できない等、生活に支障がある方
 - 当業者の肝臓や体の痛みが即座に気つき、適切な介護を提供したい
 - ゆっくと休める時間が欲しい

課題解決に向けた提案アイデア (シーズ)

- 機器やシステムのイメージ
 - 【画像データの活用】
 - ヘッドカメラを設置することで、表情の変化（瞳孔の動き、コトラルからネガティブな表情への変化）をセンシング
 - 上記の機器で収集した画像データを解析し、覚醒を把握することで、喀痰吸引や体位交換、給水の最適なタイミングを知ることができる
 - 【音声データの活用】
 - 喉に呼吸マイクを設置することで、喉の音をセンシング
 - 喉に呼吸マイクを設置した音声データを解析し、喀痰吸引のタイミングや痰が十分に取れたかを知ることができる

解決すべき課題・ニーズ

- 【課題】
 - 当事者がいつ覚醒したのかわからない
 - 介護者が喀痰吸引や体位交換、給水のタイミングを計らなければならない
 - 介護者が常に当事者に対して注意を配らなくてはならず、気が休まらない
- 【ニーズ】
 - 機器の取こぼしや停止にリスクがある。故障を減らせることが必要
 - 機器の取こぼしや停止にリスクがある。故障を減らせることが必要
 - 機器の取こぼしや停止にリスクがある。故障を減らせることが必要
 - 機器の取こぼしや停止にリスクがある。故障を減らせることが必要

実現可能性について(覚醒や快不快の弁別)

自験例

項目	概要
シミュレーションの方法	表情解析ソフトによる表情解析と医療介護専門職と表情弁別の一致度を検証 対象：介護、看護、リハ職、その他の専門のエキスパートスタッフ101名 機材：リダス社「FaceReader™」 方法：FaceReader™を用いて不活発高齢者A氏の表情を解析し、「喜び」「悲しみ」「怒り」の3表情と「Positive」「Negative」の2気分が高い強度で出現した場面を抽出し、被験者にその表情を見せ、3表情のうちどれかを答えさせた。
シミュレーションの結果	表情解析ソフトと医療介護専門職による表情弁別において <ul style="list-style-type: none"> ■ 「喜び(幸せ)」の表情は高率で一致 ■ 「positive」「Negative」の表情弁別は高率で一致 ■ 「悲しみ」「怒り」の一致は低率
シミュレーションの結果から明確になつた事項	知見：表情解析ソフトによる不活発高齢者の7表情の弁別には課題がある 一部表情とPositive-Negativeの弁別は可能 不活発高齢者であっても最新の表情解析技術によって表情の理解がある程度可能

支援機器のイメージ

【機器の設置】

- ▶ ベッドに専用アプリをDLしたタブレットと専用スタンドを設置し、表情を撮影
- ▶ 頭部に咽喉マイクを取り付け、咳嗽音を録音

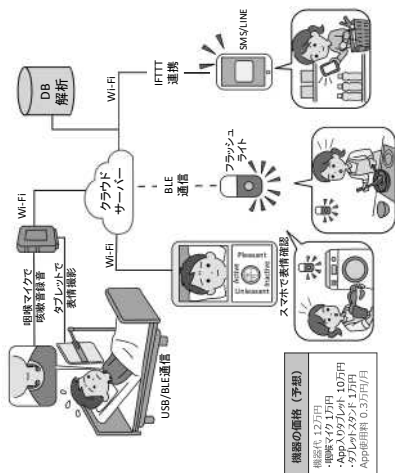
【表情画像データの利活用】

- ▶ 表情はクラウドサーバー上で解析
- ▶ 鼻根筋、眉毛下制筋、眼輪筋(例)の収縮が見られた場合にシヨートメッセージやフラッシュライトで介護者に給水や体位変換のタイミングを知らせる(アラート発報)

- ▶ アラート発報を受けた介護者は自分のスマホで当事者の画像を確認した上で緊急性を判断し、対応

【咳嗽音データの利活用】

- ▶ 音声はクラウドサーバー上で解析
- ▶ 咳嗽音が抽出された場合にシヨートメッセージや室内フラッシュライトで介護者に吸引のタイミングを知らせる(アラート発報)



機器の価格(予想)
 本体A 12万円
 ・本体B約 1万円
 ・クラウド約 1万円
 ・2人用約 2万円
 ・アプリ開発 0.3万円/月

実現可能性について(喀痰吸引のタイミング)

自験例

項目	概要
シミュレーションの方法	咽喉マイクで貯痰を検知できるのか検討 対象：要排痰ケア患者4名 機材：南豆無線電機社製 マイクSH-12JL 方法：周波数解析は被験者の頭部に設置したマイクから取得した吸引直前、直中、直後、平常時の音声データから、排痰直前のデータに分けられる貯痰時の副雑音と吸引時のバキューム音の特徴音の抽出を試みた。
シミュレーションの結果	<ul style="list-style-type: none"> ■ 気管切開していない患者で、吸引前の呼吸音に特徴音が検出 * 周波数帯域には若干の個人間差、週レベルで若干の個人内差あり ■ 気管切開している患者では、特徴音は不検出 ■ 気管切開の有無によらず、バキューム音に特徴音が検出
シミュレーションの結果から明確になつた事項	知見：気管切開していない患者の貯痰検知は可能(1回/数日の再測定が必要) 気管切開している患者のマイクによる貯痰検知は困難 音声データより吸引時間や回数は判別可能 改善点：気管切開していない患者の貯痰検知のために、定期的にキャリブレーション機能が必要

3Dプリンターを活用して製作する自助具情報の普及方策について

I. 自助具製作の整理

◆既製品

- ・比較的多くのニーズに基づいて企業が一般商品として開発・販売
- ・製品安全に関するリスクアセスメント有り
- ・使用者が製品に合わせる必要がある
- ・利益が少ないため製作企業が少ない
- ・比較的迅速に商品を手に入れる



◆工房などで製作されたもの（オーダーメイド）

- ・個別のニーズを聞き取り、身体機能に応じ、その人に適合するよう一品ずつ製作
- ・ボランティア等の工房で製作
- ・試作と評価を繰り返しながら製作するケースが多く、製作に時間を要する場合もある
- ・製作者の知識、技術、経験に左右される
- ・複製が容易ではなく、真似て粗悪品が製作されることがある



◆3Dプリンターで製作されたもの

- ・複製が容易
- ・素材、色、サイズ変更が可能
- ・製作データの共有、保存が可能
- ・製作には3Dプリンターや3CADの知識や取扱いに関するスキルが必要



II. 自助具製作の現状と課題

◆製作者の高齢化、制作場所や工具・設備等の確保の課題

ボランティア等の工房で製作するオーダーメイドの自助具は、製作者の高齢化が進み、いくらか良いものを作っても伝承が難しく、複製も容易ではない。

◆3Dプリンターに関する基礎知識取得の課題

3Dプリンターを使いこなすためには3DCAD等の専門知識や技術が必要だが、それを得る場が少ない。

III. 3Dプリンターで製作する自助具の普及方策

◆3Dプリンターに関する基礎知識の普及

3Dプリンターを使いこなすための基礎知識は必要不可欠である。
3Dプリンターを活用した自助具製作を普及させるためには、3DCADでの設計をはじめ、基礎知識を取得できる講習プログラムの策定と研修会の実施が、一定の質を担保する人材を育成していくうえで必要である。

◆3Dプリンターで製作した自助具の情報提供

3Dプリンターで製作した自助具の可能性を広げるためには、利用者本人、工房や医療・福祉の関係者及び学生等、多くの関係者へ情報提供する必要がある。情報提供項目としては、使用した機器や材料・素材・サイズ、取扱い方法、製作時における機能評価や利用者ニーズ、フィッティング評価等も合わせて情報提供してはどうか。また、情報提供にあたっては、先行機関と連携する。

◆3Dプリンターの活用を促す自助具工房の設置

3Dプリンターを活用した製作を行うとともに、製作アドバイザーや講習会の企画・開催、製作したもののデジタル化を推進する機能をもった工房の設置

3Dプリンタで製作する自助具と その可能性について

林 園子
Sonoko Hayashi



自助具

林 園子 (ハヤシ ソノコ)

作業療法士
ファブラボ品川 ディレクター
一般社団法人ICTリハビリテーション研究会 代表理事
慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 博士課程



<https://youtu.be/nA3gJ0tH8WE>



TRF+H

2019

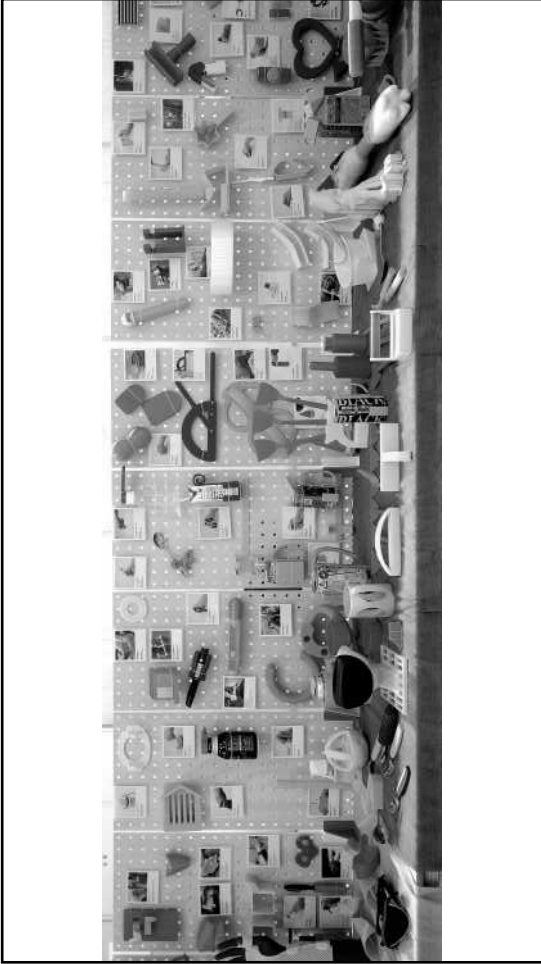
2021



自助具 x 3 D Printer

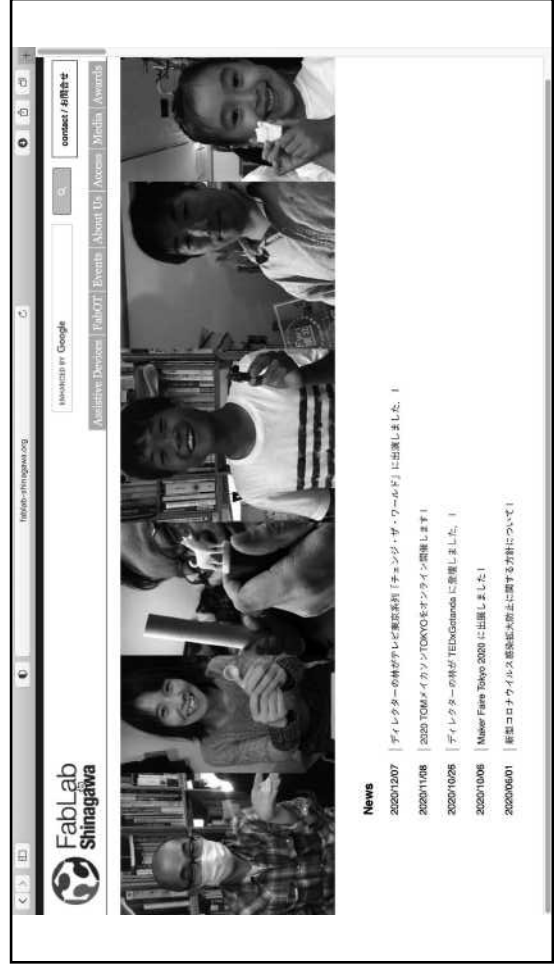
「道具」に人が合わせる

Make the most effective life for instrument



一人一人に「道具」を合わせる

Make the most suitable design for the person



寸法調整サービス



スプーンの幅(mm): 13

スプーンの厚さ(mm): 5

スプーン挿入口深さ(mm): 140

グリップ太さ(最大径対角線)(mm): 23

グリップ長さ(mm): 76

アップデート リセット 自動アップデート

Material data and QR codes for various 3D printed items:

- ICD-リング POWER RING
- フルサイズ FINGER RING
- アイソメトリック KNIFE ASSISTANT
- フルサイズ KNIFE ASSISTANT
- フルサイズ FINGER RING
- フルサイズ KNIFE ASSISTANT

QRコードのリンク裏から3Dデータをダウンロードして3Dプリントするだけ
無料印刷できる!!
※各アイテムは4000円/3Dプリンタ代(送料別)です

Makers Making Change (Canada)

世界中で

Rehab-Lab (フランス)

TOM (イスラエル)

ASSISTIVE DEVICES

Rehab-Lab (フランス)

Makers Making Change (カナダ)

TOM (イスラエル)

全21種類の
自働具ハラムメトリックサービス

21 types of self-adjusting prosthetic services:

- Hand Holder
- Hand Holder
- Hand Holder
- Hand Holder
- Hand Holder
- Hand Holder
- Hand Holder
- Hand Holder
- Hand Holder
- Hand Holder
- Hand Holder
- Hand Holder
- Hand Holder
- Hand Holder
- Hand Holder
- Hand Holder
- Hand Holder
- Hand Holder
- Hand Holder
- Hand Holder
- Hand Holder



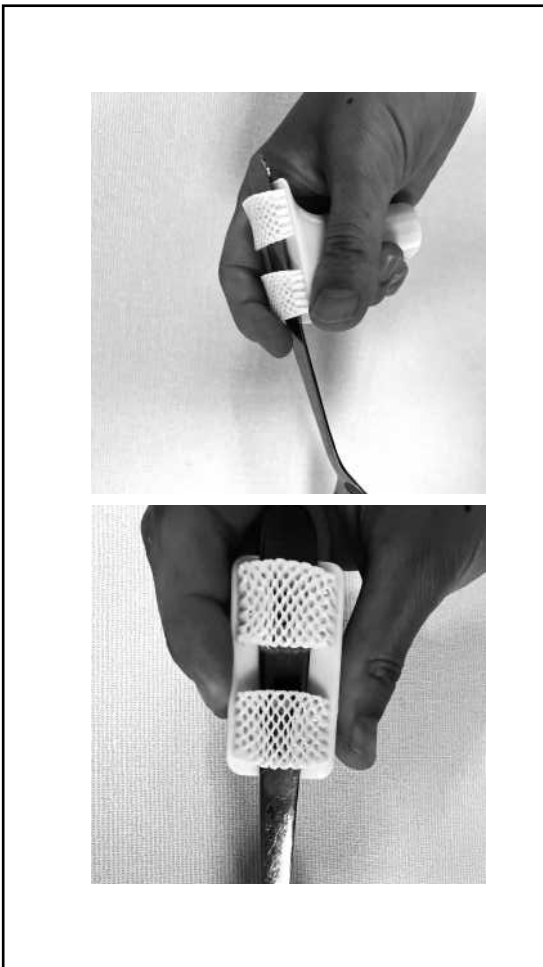
一人一人に最適な環境を創造できる

パラメトリック (寸法調整) サービス

このサービスは杉浦記念財団の助成により開発しました



Single material, multiple functions



インクルーシブ・メイカソン



Make-a-thon with Need Knowers



Fabble

Search

ABOUT

NEWS



ABOUT

Fabble (ファブル) はIoTプロダクトの共同開発・共同販売のプラットフォームです。大企業から、スタートアップ、個人で活動するものまで、世界中のIoTプロダクト開発者で共有のプラットフォームです。

特徴

①IoTプロダクトの開発・共同販売のプラットフォーム
②共同開発・共同販売のプラットフォーム
③共同開発・共同販売のプラットフォーム
④共同開発・共同販売のプラットフォーム

人になる

①共同開発・共同販売のプラットフォーム
②共同開発・共同販売のプラットフォーム
③共同開発・共同販売のプラットフォーム
④共同開発・共同販売のプラットフォーム

Fabrikarium 東京 *TYO 2023

ファブリカリウム東京2023

2023年5月4日(水) - 6日(土)

会場 日本科学未来館

観覧料 9,000円

入場料 1500円

観覧時間 10:00 - 17:00

観覧人数 1500名

観覧料金 1500円

観覧時間 10:00 - 17:00

観覧人数 1500名

観覧料金 1500円

観覧時間 10:00 - 17:00

観覧人数 1500名

観覧料金 1500円

観覧時間 10:00 - 17:00

観覧人数 1500名

観覧料金 1500円

Fabrikarium 東京 2023



観覧料 9,000円

入場料 1,500円

観覧時間 10:00 - 17:00

観覧人数 1,500名

観覧料金 1,500円

観覧時間 10:00 - 17:00

観覧人数 1,500名

観覧料金 1,500円

観覧時間 10:00 - 17:00

観覧人数 1,500名

観覧料金 1,500円

観覧時間 10:00 - 17:00

観覧人数 1,500名

観覧料金 1,500円

観覧時間 10:00 - 17:00

観覧人数 1,500名

観覧料金 1,500円

観覧時間 10:00 - 17:00

観覧人数 1,500名

観覧料金 1,500円



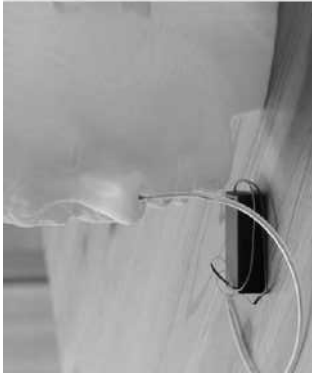
その他国内ケア分野での活用事例



1. 3Dプリンタで**ケアの教材**をつくる (Fab Nurse)
2. 3Dプリンタで**リハビリ用具**をつくる
3. 3Dプリンタを活用した**創作活動をケア**として用いる
4. 3Dプリンタで**遊びの道具**をつくる
5. 3Dプリンタで**道具と道具をつなぐ**
6. 3Dプリンタで作ったものを販売し、**就労支援**に活かす



1. 3Dプリンタでケアの教材をつくる (Fab Nurse)



吸引練習用モデル



摘便練習 直腸モデル



2. 3Dプリンタでリハビリ用具をつくる



訓練用コーンの土台をつくる



2. 3Dプリンタでリハビリ用具をつくる



訓練用コーン



ペットボトルダンベル



3. 3Dプリンタを活用した創作活動をケアとして用いる



PLAでいちごを出かし、アクリル製の皿で整る



いちご作り



3. 3Dプリンタを活用した創作活動をケアとして用いる



3Dプリンタで作成した版



2Dだけで3D版画



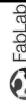
5. 3Dプリンタで道具と道具をつなぐ



タッチセンサー+クーラーノライナー



ジェリーピーンズスイッチ+どっちもクリップ



4. 3Dプリンタで遊びの道具をつくる



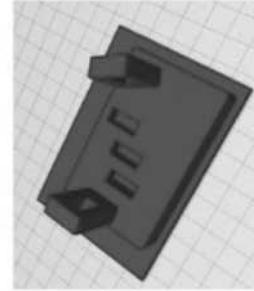
スタンプ



スイッチで光るおもちゃなど



5. 3Dプリンタで道具と道具をつなぐ



わずかな指の動きで複数のスイッチを押すことができる土台

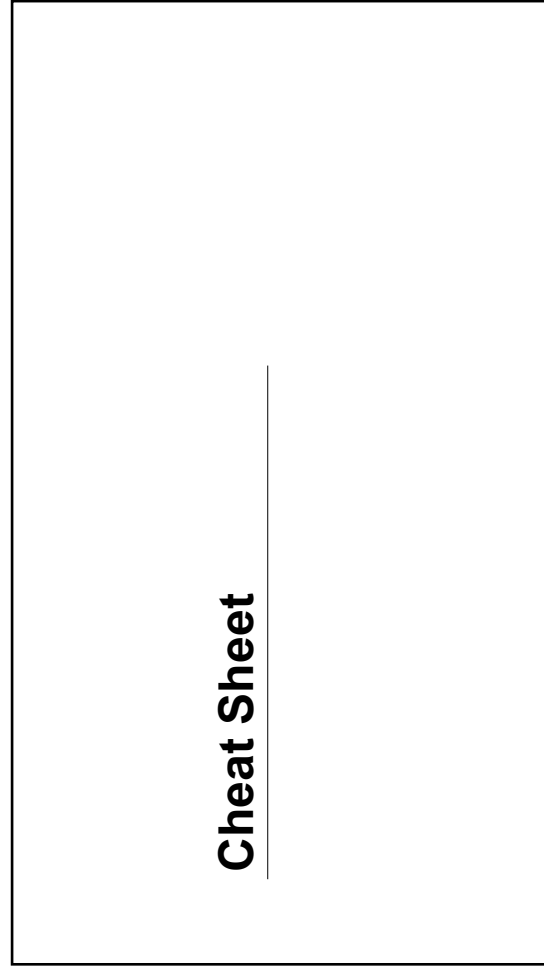


6.3Dプリンタで作ったものを販売し、**就労支援**に活かす



Good Job! Center KASHIBA (奈良県香芝市)

親子の製作



01 製作の流れ

1.1 3Dモデルの作成
1.2 3Dモデルの検証
1.3 3Dモデルの修正
1.4 3Dモデルの最終確認
1.5 3Dモデルの出力設定
1.6 3Dモデルの印刷
1.7 3Dモデルの検査
1.8 3Dモデルの完成

02 フィラメントごとの特徴 おすすめ用途・出力設定

フィラメント	特徴	おすすめ用途	出力設定
PLA	生分解性、硬さ、安定性	教育、アート、プロトタイプ	180°C / 100°C
TPU	柔軟性、弾力性	プロトタイプ、工業部品	230°C / 100°C
PETG	強度、耐熱性	プロトタイプ、工業部品	230°C / 100°C
PP	耐熱性、耐油性	プロトタイプ、工業部品	230°C / 100°C
TPE-H	柔軟性、弾力性	プロトタイプ、工業部品	230°C / 100°C

03 安全性や耐久性を高める工夫

3.1 3Dモデルの最適化
3.2 3Dモデルの検証
3.3 3Dモデルの修正
3.4 3Dモデルの最終確認
3.5 3Dモデルの出力設定
3.6 3Dモデルの印刷
3.7 3Dモデルの検査
3.8 3Dモデルの完成

04 〈作業〉をつくるための工夫

4.1 作業の効率化
4.2 作業の安全性
4.3 作業の品質向上
4.4 作業の環境改善
4.5 作業のコミュニケーション

道具をつくるのではなく 「作業」をもにつくる

料理ができる/
家族に作ってあげることができる/
再び厨房に立てる/
Etc...

【特別シンポジウム「3Dプリンタで製作する自助具の今後の展望」】

当センターの取り組み、医療機関における自助具製作の可能性



Mail: hirakegoma33@gmail.com

北海道医療センター
作業療法士 田中栄一

様々な用具が利用されています



用具の活用によって、活動を可能にしてきた

オンライン環境の普及で選択肢の幅が広がる



講義



ゲーム実況配信

しかし、課題も多かった！

- ・作るのに時間がかかる
：たくさん作れない！
- ・ちよっと直すのは一苦労。
- ・やはり、汚い・壊れやすい。
- ・作った本人しか、修理や再度の製作が難しい。



在宅者へは、入手しやすい市販製品を導入。
個別性が高い自助具製作ができない

個別製作と市販製品の使い分けは？

■ 個別製作

長所 : 迅速さ ・ 経済面 ・ 個別性
短所 : 支援者に依存

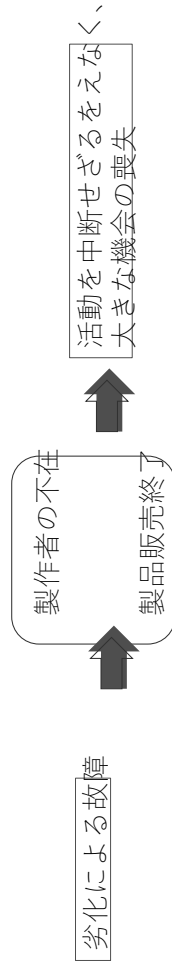
■ 市販製品

長所 : 入手のしやすさ ・ 製品の安全性
誰でもが同じ対応の恩恵に
短所 : 個別対応の困難さ

2015年から作業療法室に導入。現在4台稼働中



障害当事者が自助具に抱える不安



「自助具は、単なる道具ではない身体の一部」

分身を失う危機と隣合わせ

ダンボールを利用した評価用スティック

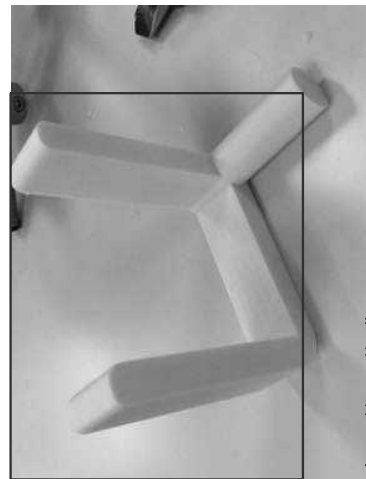


手首で操作がしやすいように、スティックの形状を変更

評価用スティックを参考に3Dプリンタで製作



評価用アームレストを参考に3Dプリンタで製作



完成までに、何度も修正作業

事例：力がはいるように、手の支えがほしい

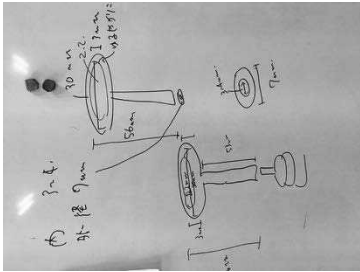


手首の支えを評価用に取り付けてみる。



お気に入りのハンカチで、おしゃれに

3Dプリンタの活用で製作時間が短縮！



自助具の耐久性やデザインも工夫可能

3Dプリンタ導入の有用性

- ・迅速さ：製作時間短縮
 - ・修正と複製が容易
 - ・耐久性・デザイン性が改善。
 - ・素材変更が可能：色・素材弾性の変更
 - ・再現性
 - ：データの共有で製作者でなくとも支援が可能
- 工作が得意でなくとも、仕上がりが綺麗で、手作り品にはない耐久性を提供できるようになる。

予備を複数個渡すことも容易に！



3Dプリンタ導入の有用性



破損時の交換も行いやすい

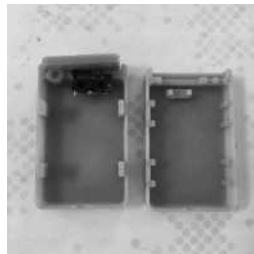
3Dプリンタ導入の有用性



複雑な機構を伴うものも、3Dプリンタであれば作成可能

3Dプリンタ導入の有用性

- データの共有



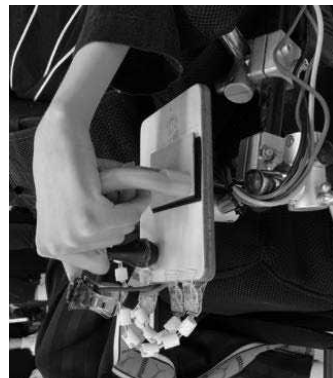
他の人も利用可能に

3Dプリンタ導入の有用性

- 個別製作品のアーカイブ



スプリントデータの個人情報の保存
データの加工が容易に



3Dプリンタ導入の有用性

- デジタルデータがもたらす効果
- ・ データを共有して利用できる
 - ・ 複雑な構造のデザインも可能に
 - ・ 素材の種類や、サイズの変更が容易
 - ・ 患者の身体データの保存（デジタルアーカイブが可能）

3Dプリンタ導入の安全性

- 利用用途を考慮
- 構造上の耐久性
 - ・ 完成品として、販売するレベルにはしない
 - ・ 破損を前提で、複数品用意
- 法的課題
- 安全面に対する予見義務

3Dプリンタ × 障害者

事例：マウスのクリックをもっと軽くしたい！！



3Dプリンタを使って私もやってみたい

「自分で作れると、もっと可愛いデザインでいいかも」



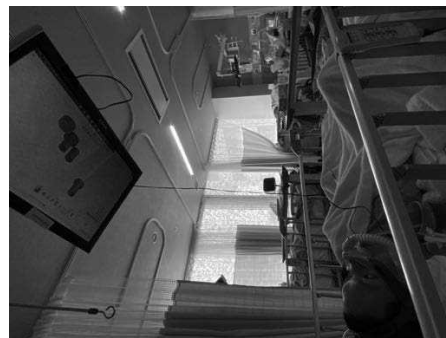
「これまで支援者に頼んでいたけど、あれこれと、修正をお願いするのは、正直気兼ねしていた。」

「何より、ものって、壊れるから、いつでも予備がつくれると安心。私にとって、それが、一番大事」



てこの長さや作用点の位置を、フォースゲージで測りながら適切な位置を探索

自分のものは自分でつくるように

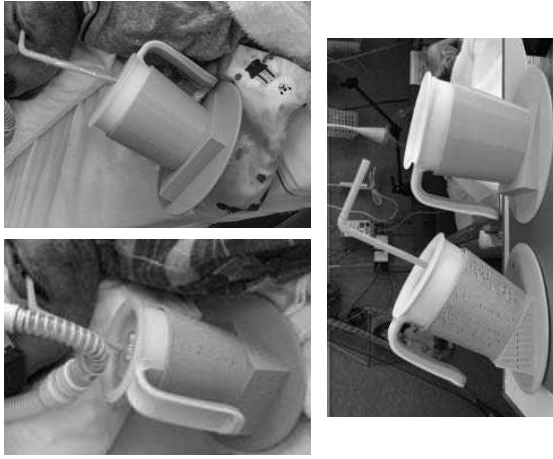


設計から工作までの一連の作業過程
での試行錯誤の大切さ

エンパワーメントを高める機会に

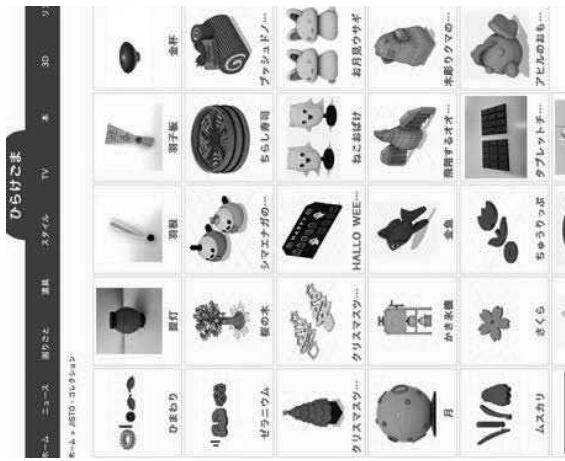
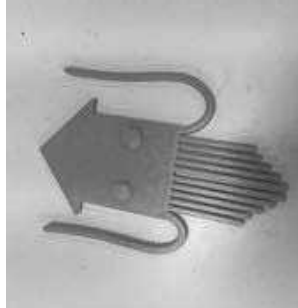
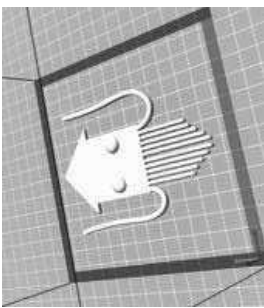
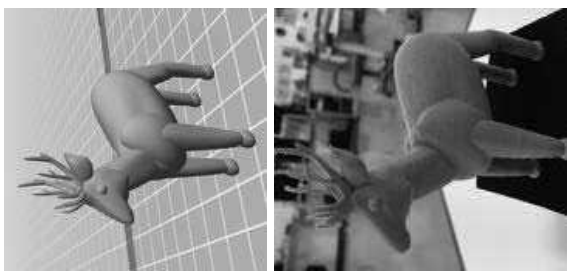


3Dモデリングメンバーが増えてきた



わかって確かめられる機会！

3Dモデリングでイメージをカタチに！



3Dプリンタチーム活動 : お仕事受託

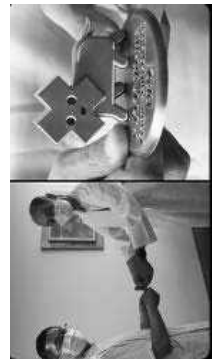
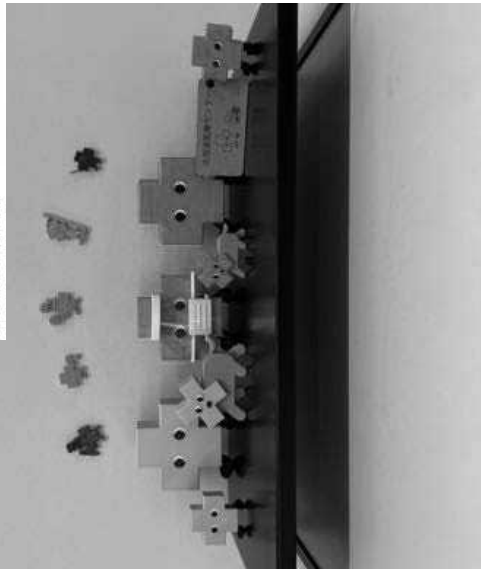


まいにちから、
まんいちまで。



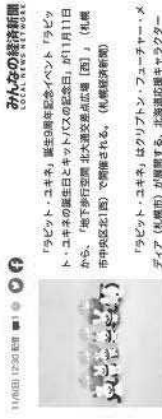
独立行政法人 国立病院機構

北海道医療センター





札幌で「ラビット・ユキネ」イベント オリジナルキットバリエーションも



「ラビット・ユキネ」誕生30周年記念イベント「ラビット・ユキネの誕生日とキットバリエーション」が11月11日から、「地下歩行空間 北大通交差点広場（西）」（札幌市中央区北1条）で開催される。（札幌経済新聞）

「ラビット・ユキネ」はシリコン・フェーザー・メーリア（札幌市）が開発する、北海道産産物キャラクター「ラビット・ユキネ」の誕生日とキットバリエーションをテーマにしたイベント。イベントでは「ラビット・ユキネ」のイラストを使ったオリジナルキットバリエーションを製作。イベントではオリジナルキットバリエーションの発表と2023年2月から発売のキットバリエーションの発表も行う。会場では当日購入したオリジナルキットバリエーションを贈る「ユキネの贈り物」も開催する。

この他、北海道産物センターに入館中の数スタロアフェーザーが活躍する3Dプリンターチーム「3DIT（ジスト）」のメンバーが製作したラビット・ユキネのフィギュアを展示に入れた「ユキネが子ちゃん」も設置。「ユキネの贈り物」に除菌除菌した除菌60人が「ユキネが子ちゃん」に除菌する。

ミーティングで聞いてみました

○良かったこと

- ・自分で考えたもの、思いついたモノが作れる
- ・他の人のスキルが知れる
- ・プレゼントして喜ばれた嬉しい。
- ・褒められる・期待される。頼られる。

○課題

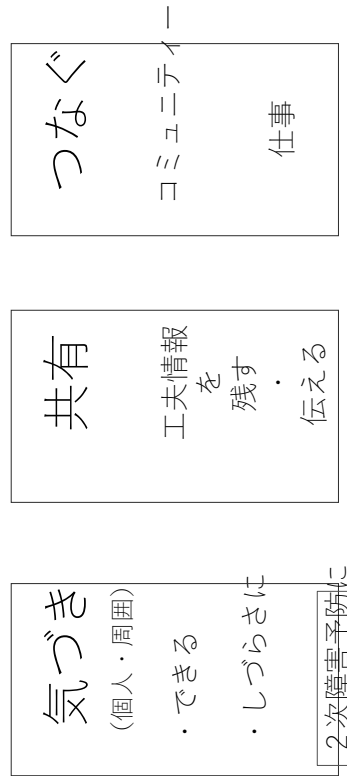
- ・スキルを伴う依頼
- ・期限がタイトな依頼

○展望

- ・他の障害のある方に、もっと知ってもらいたい
- ・印刷キレいに早く・安く



当事者参加の3Dプリンタ活動がもたらすものは？



エンパワーメントを高める機会に

当事者参加の3Dプリンタ導入の留意点

■ 課題の明確化

- ・何を作ってよいかわからない
- ：問題点の抽出をサポート
- ：既成品メーカーの出力から

■ 安全性

- ・技術的アドバイス
- ・身体に及ぼす課題へのアドバイス

■ 迅速な対応

- ・いつでもメーカー出力して確かめられる体制

3Dプリンター用フィラメント 「TRF」「TRF+H」の特長について



ユニチカ株式会社 繊維資材営業部
木下 将克

TRF+H

事業紹介

高分子事業 Polymers



ユニチカの本ノゾづくりの後に残っているのが高分子技術です。事業としては、フィルム、樹脂の2分野で展開。他事業、関連会社とも連携し、グローバルな活動を行っています。

機能資材事業 Performance Materials



不織布、活性炭繊維、ガラス繊維、ガラス繊維、ガラス繊維、ガラス繊維などの製品を展開しています。独自の高い製品群によって、展開領域を幅広く拡大した活動を進めています。

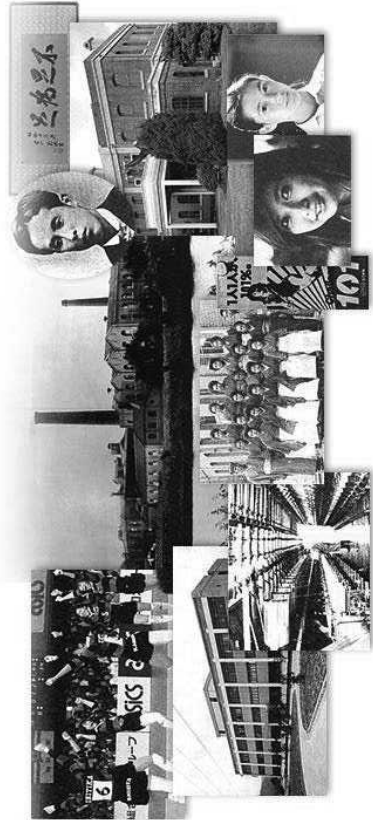
繊維事業 Industrial Fibers & Textiles



衣料や包装用品用途の繊維素材、製品を展開しています。ユニチカレーディングをはじめとする各社の連携により、原材料から製造販売に至る一貫体制で取り組んでいます。

ユニチカの歴史

1889年「尾崎紡績」の創業に始まりました。
1918年以降は「大日本紡績」として日本の繊維産業を1969年「日本レイヨン」との合併によって、ユニチカ(株)が誕生しました。



提供する価値

選ばれ続ける企業を目指し、
持続可能な社会づくりに貢献していきます

安全で
安心な
暮らし

社会のグローバル化に伴い、デジタル化、多国籍化、働き方改革、環境問題、SDGsなど、様々な課題が浮き彫りになり、企業は多岐にわたる課題を解決する必要があります。

ユニチカは、社会の課題を解決し、持続可能な社会づくりに貢献していきます。

便利で
快適な
暮らし

人々の暮らしの中で重要な役割を果たしている繊維事業は、社会の発展と共に進歩しています。ユニチカは、社会の発展と共に進歩し、人々の暮らしをより快適にするために、様々な製品を開発しています。

環境と
共生する
暮らし

世界中の人々の生活レベルの向上と共に、気候変動の緩和と持続可能な開発のための取り組みが求められています。ユニチカは、環境と共生する暮らしを実現するために、様々な取り組みを行っています。

「TRF+H」のご紹介

UNITIKA
We Realize It!



3D Printer Filament

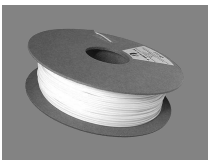
3D プリンター用「感温性」フィラメント

TRF+H
Thermo Reactive Filament

「TRF+H」の用途展開

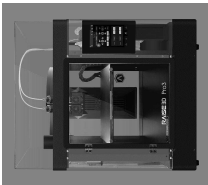
UNITIKA
We Realize It!

「TRF+H」



+

3Dプリンター



=

主な用途(例)

- 自助具 (自分で使いやすいように調整できる)
- 工業用治具 (現場で形状を変形できる)
- フィギュア (関節部に使用し、角度調整ができる)
- バストイ

「TRF」はRise3D日本OFFPの取り扱いが開始されました。

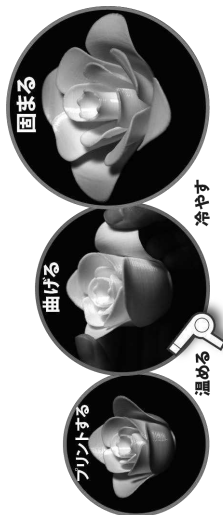
「TRF+H」のご紹介

UNITIKA
We Realize It!

3D Printer Filament
3Dプリンター用「感温性」フィラメント
TRF+H

造形後に加熱して形状変更できる。

- ドライヤーや温水などで加温してソフト化。
- 温めた状態で形状を自由に変更可能。(冷やすとその形状で留まります。)
- 高度処理を施しているため、造形中に軟化せずにフィードすることが可能。



3D Printer Filament
Thermo sensitive filament
感温性フィラメント

UNITIKA
We Realize It!

ニース・シーズマツチング奨励会 2022

感温性フィラメント「TRF」の作品例

ユニチカ(株)は、3Dプリンター用「感温性」
フィラメントの開発・生産で、
自助具の開発をサポートします。



ニース・シーズマッチング 交流会 2022

UNITEKA
We Realize It!

自助具製作の展開について 形状変更可能な自助具 「くうぽの」

- ① 会社紹介
- ② 3Dプリンターで作る自助具の事業化に取り組んだきっかけ
- ③ なぜ自助具なのか
- ④ 事業の概要
- ⑤ 目指す目標

ユニチカトレディング株式会社
新事業開発室
髙橋 淳一



UNITEKA
We Realize It!

ニース・シーズマッチング 交流会 2022

UNITEKA
We Realize It!

UNITEKA U.T.C. ユニチカトレディング株式会社

① 会社紹介

ユニチカ株式会社（100％）の子会社（メーカー系商社）

主な事業内容：

- ・繊維原料、各種繊維製品の製造、加工、販売及び輸出入
- ・フィルム、樹脂、不織布製品の製造、加工、販売及び輸出入
- ・資材等の製造加工及び販売
- ・生活関連用品の製造販売

本社：大阪 / 支社：東京

② 3Dプリンターで作る 自助具の事業化に取り組んだきっかけ ①

ユニチカ(株)が開発した3Dプリンター用特殊フィラメント「TRF+H」で自助具を企画・製作している方がいることを知り、お話を伺う中で介助を取り巻く環境についての課題があることを学びました。



- ・ファブラボ品川（林 様、濱中 様）
- ・公益財団法人テクノエイド協会「福祉機器開発普及等事業報告書」

② 3Dプリンターで作る 自助具の事業化に取り組んだきっかけ ③

これらの理由から作業療法士やボランティアの方、ご家族が作業の合間をぬって使う方に合わせて自助具を作るケースも多く過重労働の原因の一つとなっています。

② 3Dプリンターで作る 自助具の事業化に取り組んだきっかけ ②

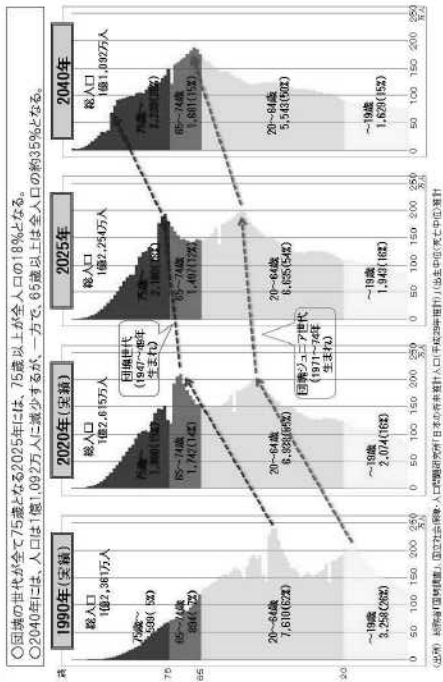
一般的な樹脂成形は形が決まってしまうので、多くの方が使えるようにするには難しいという現実を知りました。



② 3Dプリンターで作る 自助具の事業化に取り組んだきっかけ ④

既に日本は高齢化社会を迎えており、介助を必要とされる方が増加する一方老々介護や介護業界の人手不足など様々な問題を抱えています。今後さらに顕著化する課題に、企業として取り組まなければならない事を改めて認識し何ができるかを考えるに至りました。

日本の人口ピラミッドの変化



③ なぜ自助具なのか

自分に合った自助具を使う事で、
自分でできる事の喜び、楽しさを
より多くの人に感じて頂きたいと思った。



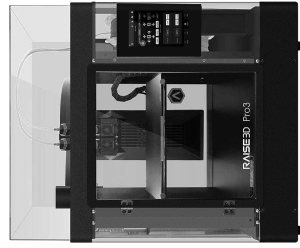
③ なぜ自助具なのか

先行して3Dプリンターでの自助具製作に取り組んでいた
ファブラボ品川様から感温性フィラメント「TRF+H」で
作った自助具の優位性を伺い、もっとたくさんの人に知っ
てもらいたいとの思いから事業化して製品や情報の発信を
担いたいと考えました。



③ なぜ自助具なのか

3Dプリンターを活用する事で、
小ロットでものづくりが可能であること、
また製品の改良もしやすく、
使う方のニーズに応える商品を
作ることができ点が大きな魅力でした。



③ なぜ自助具なのか ④

3Dプリンターを導入している
就労支援施設に生産をお願いすることで
新たな仕事を創出し、作る、使うの両面から
サポートを行うことができます。商材だと考えています。



Good Job! Center
KASHIBA

④ 事業の概要

kūpowo
くうぽの

● コンセプト

【自立した生活が生きる力を生みます】

私たちが提供する価値は、身体を思うように動かかせない高齢者や障がい者の方が、身の回りの動作をなるべく自分でできるように補助し可能な限り自分のことは自分でできるよう、体の一部となって日常生活をサポートする自助具の提供です。
今までできなかったことができるようになって、笑顔が増やせる。そんな風に「くうぽの」は自助具が必要な全ての方々の「生きる力」を引き出し、生活の質の向上に貢献する事を目標として活動をしています。

「くうぽの」は、ハワイ語で「ナチュラル」や「ありのまま」という意味。
手作り感覚の優しい自助具です。

④ 事業の概要

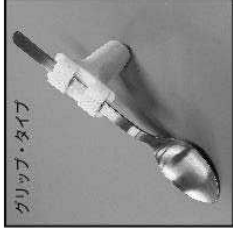
- ① 変形可能な自助具「くうぽの」ブランド・コンセプト
- ② 商品企画について(ファブラボ品/川様との取り組み)
(製品の使い易さ、安全面を考慮した製品の企画・設計など)
- ③ 生産について
Good Job!センター香芝様との取り組みについて
(作る、使うの両面で協力をしている、実装モニターなど)
- ④ 専用サイト立ち上げについて
各所とリンクし、製品情報を発信するだけでなくコミュニティサイトとして
機能するようサイトを目指す。

kūpowo
くうぽの

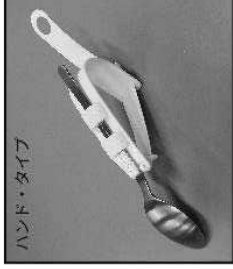
④ 事業の概要

変形可能な自助具「くうぽの」3タイプ

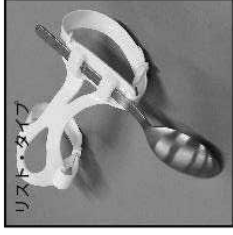
■ 食専用 3 タイプ



グリップ・タイプ



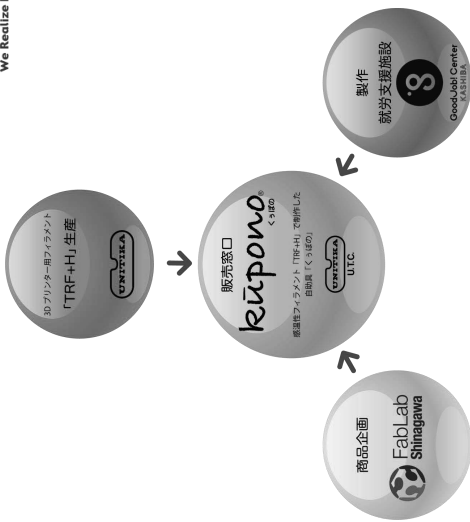
ハンド・タイプ



リップ・タイプ

チーム「くうぼの」

- 「TRF+H」フィラメント生産
(ユニチカ)
- 商品企画
(ファブラボ品川)
- 生産・実装モニター
(Good Job!センター香芝)
- 「くうぼの」情報発信・販売
(ユニチカトレーディング)



UNITCHIKA
We Realize It!

⑤ 目指す目標

- ① 障害をもつ方の自立を支援し、「できるを楽しむ」を広く浸透させたい。
- ② 3Dプリンタで作る自助具の可能性をさらに深堀し、使う人がより使い易い商品を生み出していく。
- ③ 当社の取り組みを広く発信する事で、同様の課題認識を持つ企業に参画してもらい社会的な取組みへと発展させたい。

ニーズ・シーズマッチング

交流会 2022

使う人と作る人の交流会

みんなで考えよう！

入退場自由
入場無料

ニーズ・シーズマッチング交流会とは？

障害当事者の思いや要望をよりの確にとらえた支援機器の開発に繋げるため、支援機器の障害当事者（ニーズ側）と支援機器の開発者（シーズ側）が自由に意見交換を行う場です。

Web開催

令和4年10月1日(日)～令和5年1月31日(火)
テクノエイド協会Web交流プラットフォーム内

出展者
83社

大阪会場

令和4年11月28日(月)・29日(火)・30日(水)
開催時刻:初日13:00-17:00 / 9:00-17:00 (最終日のみ16:00)
OMM

出展者
50社

東京会場

令和4年12月14日(水)・15日(木)・16日(金)
開催時刻:初日13:00-17:00 / 9:00-17:00 (最終日のみ16:00)
東京都立産業貿易センター浜松町館

出展者
62社

Web開催イベント内容

オンラインで出展者や障害当事者の全国組織、開発支援機関等と交流が行えます。
また、最新の調査研究報告等の視聴ができます。
(無料・事前登録不要)

大阪・東京会場イベント内容

会場では開発改良中の機器展示、機器を体験しながら出展者と意見交換が行えます。また、会場から基調講演、特別講演、基調報告等の講演を見ることができます。
(無料・入退場自由)

過去の
交流会の様子



対象者

ニーズ側 障害者、家族、在宅・施設等の介護職員、医療・福祉従事者 等

シーズ側 開発メーカー、産業振興団体、行政、新規参入を検討する企業・研究者、大学関係者、研究機関 等



公益財団法人テクノエイド協会
The Association for Technical Aids(ATA)



厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

本事業は「令和4年度 ニーズ・シーズマッチング強化事業」の一環で行うものです。

詳しくはテクノエイド協会Web交流プラットフォームまで

Web交流
プラットフォーム



基調講演 & 特別講演

入場無料

会場での聴講、オンラインによるリアルタイム配信（入場無料）

2回講演 11月28日（大阪）・12月14日（東京）

大阪
会場

令和4年11月28日（月）
13時30分より

- 会場で聴講→OMM（2階展示Aホール）
- オンラインによる視聴



→ <https://us06web.zoom.us/j/83295180896?pwd=dyttMmRoQWwhoY0l0cXVnMnIndHRIUT09>

東京
会場

令和4年12月14日（火）
13時30分より

- 会場で聴講→東京都立産業貿易センター
浜松町館（2階展示室）
- オンラインによる視聴



→ <https://us06web.zoom.us/j/81419433146?pwd=cIF2eXMONXpndVYzekE0KzNlcUk1dz09>

基調講演

13:30～14:30

支援機器の可能性と開発にあたって ～アクセシビリティとは？～

東京慈恵会医科大学 先端医療情報技術研究部 准教授 高尾洋之
「アクセシビリティ」という考え方のない価値観だと、人々の様々な障害は「不便であり不幸」です。一見この2つの言葉は不可分で正しいかのように思えます。しかし私自身も病気をして実感しましたが、そんなことは決してありません。不便であることが解消できないと勝手に思い込み、当事者も周囲の人も諦める、あるいは諦めさせることが不幸を生んでいるのです。
障害者、健常者関係なく全ての人が、不便であることを不幸にせず、マネージメントする方法を考える。これがアクセシビリティの基本だと考えています。



2015年4月より東京慈恵会医科大学脳神経外科および先端医療情報技術研究部を兼務、准教授。

同大学のICT推進プロジェクトリーダーになる。臨床において脳血管障害と網膜芽細胞腫の希少疾患治療などに取り組む一方、ICT医療の推進による臨床効果・医療経済効果などを研究。2018年8月14日にギラン・バレー症候群に罹患し障害者となり、現在リハビリ回復中であるが、いろいろなデジタル機器によるアクセシビリティ技術を使って仕事をしている。

厚生労働省と内閣官房での経験もあり、大学でもICTの講座を任せられ、東京都医師会のデジタル委員にも引き続き従事。障害者になってもアクセシビリティ技術を活用してICTの様々な方面の経験を積んでいる。

特別講演

15:00～16:00

歩けない私と支援機器

一般社団法人 日本パラ陸上競技連盟 常任理事 花岡伸和

17歳で脊髄損傷により歩けなくなった私は、車いすマラソンと出会い、スポーツを手段として人生を切り開いてきました。それは特別な事ではなく、生きるために支援機器を使う日常生活の延長線上に「動作の精度を高める」ための身体と機器のマッチングを重ねる事だったのです。

支援機器はできないことを補う単なる道具でなく、人生を豊かにするパートナーであると考えます。



1976年3月13日 大阪府雷田村生まれ
1993年11月3日 バイク事故により脊髄を損傷、車いす生活スタート
1995年4月 車いすマラソンを始める
1999年1月 フェスピックバンコク大会出場
5000m銅メダル獲得
2003年 マラソン日本最高記録、トラック1500m日本記録樹立（当時）
アテネパラリンピック出場
2004年9月 マラソン6位入賞
2010年12月 アジアパラゲームス広州大会出場
1500m銅メダル獲得
2012年9月 ロンドンパラリンピック出場
2013年 マラソン5位入賞
陸上競技を引退
パラサイクリング競技（自転車競技）に転向
2015年6月 パラサイクリング日本選手権大会優勝
2017年3月 早稲田大学大学院スポーツ科学研究科修士課程（コーチング領域）修了
2019年11月 世界選手権大会テレビ中継解説
2021年8月 東京パラリンピックテレビ中継解説

大阪会場 OMM（2階展示Aホール）



< 公共交通機関のご案内 >

- Osaka Metro谷町線「天満橋」駅北改札口
- 京阪電車「天満橋」駅東改札口
→ OMM地下2階に連絡（改札を出るとすぐに案内表示があります）

< 駐車場のご案内 >

第一及び第二駐車場があります。なお、割引券の配布は行いませんのでご了承ください。

東京会場 東京都立産業貿易センター浜松町館（2階展示室）



< 公共交通機関のご案内 >

- JR浜松町駅（北口）から徒歩5分
 - 東京モノレール 浜松町駅（北口）から徒歩5分
 - ゆりかもめ 竹芝駅から徒歩2分
 - 都営浅草線 大門駅から徒歩7分
 - 都営大江戸線 大門駅から徒歩7分
- 車いすで来場される方は、ゆりかもめ「竹芝駅」を利用してください。

ニーズ・シーズマッチング

交流会 2022

使う人と作る人の交流会

みんなで考えよう！

入退場自由
入場無料

ニーズ・シーズマッチング交流会とは？

障害当事者の思いや要望をよりの確にとらえた支援機器の開発に繋げるため、支援機器の障害当事者（ニーズ側）と支援機器の開発者（シーズ側）が自由に意見交換を行う場です。

Web開催

令和4年10月1日(日)～令和5年1月31日(火)
テクノエイド協会Web交流プラットフォーム内

出展者
83社

大阪会場

令和4年11月28日(月)・29日(火)・30日(水)
開催時刻:初日13:00-17:00 / 9:00-17:00 (最終日のみ16:00)
OMM

出展者
50社

東京会場

令和4年12月14日(水)・15日(木)・16日(金)
開催時刻:初日13:00-17:00 / 9:00-17:00 (最終日のみ16:00)
東京都立産業貿易センター浜松町館

出展者
62社

Web開催イベント内容

オンラインで出展者や障害当事者の全国組織、開発支援機関等と交流が行えます。
また、最新の調査研究報告等の視聴ができます。
(無料・事前登録不要)

大阪・東京会場イベント内容

会場では開発改良中の機器展示、機器を体験しながら出展者と意見交換が行えます。また、会場から基調講演、特別講演、基調報告等の講演を見ることができます。
(無料・入退自由)

過去の
交流会の様子



対象者

ニーズ側 障害者、家族、在宅・施設等の介護職員、医療・福祉従事者 等

シーズ側 開発メーカー、産業振興団体、行政、新規参入を検討する企業・研究者、大学関係者、研究機関 等



公益財団法人テクノエイド協会
The Association for Technical Aids(ATA)



厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

本事業は「令和4年度 ニーズ・シーズマッチング強化事業」の一環で行うものです。

詳しくはテクノエイド協会Web交流プラットフォームまで

Web交流
プラットフォーム



基調講演 & 特別講演

入場無料

会場での聴講、オンラインによるリアルタイム配信（入場無料）
2回講演 11月28日（大阪）・12月14日（東京）

大阪
会場

令和4年11月28日（月）
13時30分より

- 会場で聴講→OMM（2階展示Aホール）
- オンラインによる視聴

→ <https://us06web.zoom.us/j/83295180896?pwd=dyttMmRoQWQhY0l0cXVuMnlnRHRIUT09>



東京
会場

令和4年12月14日（火）
13時30分より

- 会場で聴講→東京都立産業貿易センター
浜松町館（2階展示室）
- オンラインによる視聴

→ <https://us06web.zoom.us/j/81419433146?pwd=clF2eXM0NXpndVYzEkE0KzNlUk1kdz09>



基調講演

13:30～14:30

支援機器の可能性と開発にあたって ～アクセシビリティとは？～

東京慈恵会医科大学 先端医療情報技術研究部 准教授 高尾洋之
「アクセシビリティ」という考え方のない価値観だと、人々の様々な障害は「不便であり不幸」です。一見この2つの言葉は不可分で正しいかのように思えます。しかし私自身も病気をして実感しましたが、そんなことは決してありません。不便であることが解消できないと勝手に思い込み、当事者も周囲の人も諦める、あるいは諦めさせることが不幸を生んでいるのです。
障害者、健常者関係なく全ての人が、不便であることを不幸にせず、マネージメントする方法を考える。これがアクセシビリティの基本だと考えています。



2015年4月より東京慈恵会医科大学脳神経外科および先端医療情報技術研究部を兼務、准教授。

同大学のICT推進プロジェクトリーダーになる。臨床において脳血管障害と網膜芽細胞腫の希少疾患治療などに取り組む一方、ICT医療の推進による臨床効果・医療経済効果などを研究。2018年8月14日にギラン・バレー症候群に罹患し障害者となり、現在リハビリ回復中であるが、いろいろなデジタル機器によるアクセシビリティ技術を使って仕事をしている。

厚生労働省と内閣官房での経験もあり、大学でもICTの講座を任せられ、東京都医師会のデジタル委員にも引き続き従事。障害者になってからもアクセシビリティ技術を活用してICTの様々な方面の経験を積んでいる。

特別講演

15:00～16:00

歩けない私と支援機器

一般社団法人 日本パラ陸上競技連盟 常務理事 花岡伸和

17歳で脊髄損傷により歩けなくなった私は、車いすマラソンと出会い、スポーツを手段として人生を切り開いてきました。それは特別な事ではなく、生きるために支援機器を使う日常生活の延長線上に「動作の精度を高める」ための身体と機器のマッチングを重ねる事だったのです。
支援機器はできないことを補う単なる道具でなく、人生を豊かにするパートナーであると考えます。



1976年3月13日 大阪府富田林市生まれ
1993年11月3日 バイク事故により脊髄を損傷、車いす生活スタート
1995年4月 車いすマラソンを始める
1999年1月 フェスピックパナコク大会出場
5000m銅メダル獲得
2003年 マラソン日本最高記録、トラック1500m日本記録樹立（当時）
アテネパラリンピック出場
2004年9月 マラソン6位入賞
2010年12月 アジアパラゲームス広州大会出場
1500m銅メダル獲得
2012年9月 ロンドンパラリンピック出場
マラソン5位入賞
2012年 陸上競技を引退
2013年 パラサイクリング競技（自転車競技）に転向
2015年6月 パラサイクリング日本選手権大会優勝
2017年3月 早稲田大学大学院スポーツ科学研究科修士課程（コーチング領域）修了
2019年11月 世界選手権大会テレビ中継解説
2021年8月 東京パラリンピックテレビ中継解説

大阪会場 OMM（2階展示Aホール）



< 公共交通機関のご案内 >

- Osaka Metro谷町線「天満橋」駅北改札口
- 京阪電車「天満橋」駅東改札口
⇒ OMM地下2階に連絡（改札を出るとすぐに案内表示があります）

< 駐車場のご案内 >

第一及び第二駐車場があります。なお、割引券の配布は行いませんのでご了承ください。

東京会場 東京都立産業貿易センター浜松町館（2階展示室）



< 公共交通機関のご案内 >

- JR浜松町駅（北口）から徒歩5分
 - 東京モノレール 浜松町駅（北口）から徒歩5分
 - ゆりかもめ 竹芝駅から徒歩2分
 - 都営浅草線 大門駅から徒歩7分
 - 都営大江戸線 大門駅から徒歩7分
- 車いすで来場される方は、ゆりかもめ「竹芝駅」を利用してください。

併催セミナープログラム

ニーズ・シーズマッチング交流会 2022
使う人と作る人の交流会

大阪会場

令和4年11月28日月～30日水 3日間

●会場で聴講→OMM(2階展示Aホール)

●オンラインによる視聴→<https://us06web.zoom.us/j/83295180896?pwd=dyttMmRoQWwhoY0l0cXVuMnlnRHRIUT09>



セミナーの日時		内容等	
11月28日 (月)	13:30~14:30	基調講演	
		1 支援機器の可能性と開発にあたって ～アクセシビリティとは?～ 東京慈恵会医科大学 先端医療情報技術研究部 准教授 高尾 洋之 氏	
11月29日 (火)	15:00~16:00	特別講演	
		2 歩けない私と支援機器 一般社団法人 日本パラ陸上競技連盟 常務理事 花岡 伸和 氏	
11月29日 (火)	10:00~10:40	基調報告	
		3 障害者のニーズに見合った用具や機器のを見つけ方 社会福祉法人 日本ライトハウス 情報文化センター サービス部長 林田 茂 氏	
		4 アザラシ型ロボット「パロ」によるポーランドでのウクライナ避難民の心の支援について 産業技術総合研究所 上級主任研究員 柴田 崇徳 氏	
	15:00~15:20	利用者からのメッセージ	
		6 盲ろう者に必要とされる支援機器、開発にあたり協力できること 社会福祉法人 全国盲ろう者協会 常務理事・事務局長 橋間 信市 氏	
15:30~15:50	7 ALSについて、支援機器の利用事例と開発を望むこと 一般社団法人 日本ALS協会 常務理事・事務局長 岸川 忠彦 氏		
11月30日 (水)	11:00~11:20	支援機器の開発と現在の課題、利用者への要望	
		8 ゴムの収縮力を筋肉に見立て、筋肉をサポートする歩行アシスト「e-foot」 株式会社YAMADA 代表取締役 山田 好洋 氏	
	11:30~11:50	9 「食べる力」を鍛える嚥下カトレーニングボトル「タン練くん」 株式会社リハートテック 取締役 笠原 直樹 氏	
11月30日 (水)	13:00~16:00	デザイン思考プロセスを用いた支援機器開発ワークショップ	
		10 株式会社ライフトゥデイ 代表取締役(医師) 原 陽介 氏 東京大学医学部附属病院トランスレーショナルリサーチセンター 特任助教(理学療法士) 柿花 隆昭 氏	

基調講演 & 特別講演

併催セミナー
プログラム

Web交流プラットフォームの紹介と
交流方法

大阪会場

東京会場

出展機器

障害当事者団体・
開発支援団体行政等

併催セミナープログラム

東京会場

令和4年12月14日(水)～16日(金) 3日間

●会場で聴講→東京都立産業貿易センター浜松町館(2階展示室)

●オンラインによる視聴→<https://us06web.zoom.us/j/81419433146?pwd=cF2eXM0NXpndVYzekE0KzNlUk1dz09>



セミナーの日時		内容等
12月14日 (水)	13:30～14:30	基調講演 1 支援機器の可能性と開発にあたって ～アクセシビリティとは?～ 東京慈恵会医科大学 先端医療情報技術研究部 准教授 高尾 洋之氏
	15:00～16:00	特別講演 2 歩けない私と支援機器 一般社団法人 日本パラ陸上競技連盟 常務理事 花岡 伸和氏
12月15日 (木)	10:00～10:40	基調報告 3 盲ろう者向け支援機器の開発に期待すること 全国盲ろう者団体連絡協議会 藤鹿 一之氏
	11:00～11:40	4 内部障害者とサポーターをつなぐスマホアプリ『心の輪』の開発(仮称)『見えない障がい者』に対する支援から まず 第一歩 株式会社自分楽 崎山 みゆき氏
	15:00～15:20	ニーズ・シーズマッチング地域交流会の成果(みんなで考えた支援機器) 5 (新潟市)「視覚障害者のITサポート支援機器を考える～地域支援体制の構築～」 新潟大学名誉教授 / 新潟市障がい者ITサポートセンター顧問 林 豊彦氏
	15:30～15:50	6 (下関市)「統合失調症など精神障害者の支援機器を考える～生活管理から就労継続～」 NPO法人障害者就労支援メッセージ花くじら 理事長 石田 眞氏
	16:00～16:20	7 (鹿児島市)「重度障害者の覚醒のタイミングを知らせる支援機器を考える」 鹿児島大学医学部保健学科 作業療法学専攻 助教 鹿児島県作業療法士協会 会長 吉満 孝二氏
12月16日 (金)	10:00～10:12	開発促進事業採択企業による成果報告 8 株式会社ソフトデバイス
	10:15～10:27	9 Qolo株式会社
	10:30～10:42	10 シスネット株式会社
	10:45～10:57	11 ダブル技研株式会社
	11:00～11:12	12 電制コムテック株式会社
	11:15～11:27	13 藤田医科大学
	14:00～14:15	特別シンポジウム「3Dプリンタで製作する自助具の今後の展望」 14 3Dプリンタを活用して製作する自助具情報の在り方に関する研究報告 テクノエイド協会 企画部 宇田川 竜吾
	14:15～14:35	15 3Dプリンタで製作する自助具とその可能性について 一般社団法人 ICTリハビリテーション研究会 / ファブラボ品川 林 園子氏
	14:35～14:55	16 当センターの取り組み、医療機関における自助具製作の可能性 国立病院機構北海道医療センター 神経筋/成育センター リハビリテーション室 田中 栄一氏
	14:55～15:10	17 TRF、TRF+Hの特長について ユニチカ株式会社 繊維資材営業部 木下 将克氏 自助具製作の展開について ユニチカトレーディング株式会社 新事業開発室 マーケティンググループ マネージャー 懸高 淳一氏
	15:10～15:30	対談(20分) (進行) テクノエイド協会 宇田川 竜吾



Web配信

令和4年10月1日(日)～令和5年1月31日(火) 4か月間



●オンラインによる視聴 → <http://www.techno-aids.or.jp/2022koryukai/web/hall/cms/#webseminar>

テーマ	内容等
ご挨拶	ご挨拶
	1 ニーズ・シーズマッチング交流会の目的、オンラインによる交流方法など 公益財団法人 テクノエイド協会 宇田川 竜吾
支援機器の開発促進 (厚生労働省の施策)	自立支援機器における現状と課題
	2 障害者自立支援機器開発促進事業の概要など 厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部 企画課自立支援振興室 福祉工学専門官 中村 美緒 氏
関係機関による取組み (公募・産学連携)	支援機器の開発支援
	3 NICT情報バリアフリー通信・放送役務提供・開発推進助成金制度のご案内 NICT情報バリアフリー推進室 室長 丸山 誠二 氏
関係機関による取組み (公募・産学連携)	4 JST産学連携事業と福祉機器開発事例について(仮称) JST企業支援室 下田 修 氏
	支援機器の開発・普及に係わる国家プロジェクト
厚生労働科学研究の動向 (研究の最新情報)	5 障害者の支援機器開発に携わる医療・福祉・工学分野の人材育成モデル構築に資する研究 東北大学大学院医工学研究科 教授 出江 紳一 氏
	6 障害者の支援機器開発におけるモニター評価手法の開発及びモニター評価を 実践する人材の育成プログラム開発のための研究 東京大学大学院新領域創成科学研究科 人間環境学専攻 人間支援環境学講座 准教授 二瓶 美里 氏
	7 リハビリテーション関連職等が支援機器の適切な選定・導入運用時に用いる ガイドラインの開発 国立障害者リハビリテーションセンター研究所 福祉機器開発部長 井上 剛伸 氏
	8 新技術を利用した支援機器の開発及び選定・導入時の指針作成のための調査研究 国立障害者リハビリテーションセンター研究所 福祉機器開発室長 硯川 潤 氏
	9 障害者の支援機器開発における開発支援体制ネットワークモデルの構築 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻 寄附講座 准教授 八木 雅和 氏
障害当事者団体ご訪問 インタビュー (ニーズとのマッチング)	支援機器に対する期待、企業に対して協力可能なこと
	10 特定非営利活動法人 日本失語症協議会 理事長 園田 尚美 氏
	11 公益社団法人 全国脊髄損傷者連合会 常務理事・事務局長 安藤 信哉 氏
	12 ポリオの会 代表 小山 万里子 氏
	13 ASD(自閉スペクトラム症)生活環境研究会 代表 増澤 高志 氏

基調講演 & 特別講演

併催セミナー
プログラム

Web交流プラットフォームの紹介と
交流方法

大阪会場

東京会場

出展機器

障害当事者団体・
開発支援団体行政等

Web交流プラットフォームの紹介と交流方法

Web 交流プラットフォーム

令和4年10月1日(日)～令和5年1月31日(火) 4カ月間

■ 出展機器を調べたり、交流したい企業等を探すことができます。



<http://www.techno-aids.or.jp/2022koryukai/web/hall/cms/#part20>

出展者及び当事者団体・開発支援機関と交流

こちらでは、出展機器を検索し交流することができます。

「会場」、
「カテゴリー」、
「フリーワード」
より検索が
できます。



Web交流プラットフォーム「出展機器を調べたり、交流したい企業等を探すことができます。」NEW

出展企業等と交流

こちらでは、出展企業を検索することができます。「もっと見る」をクリックすると出展者一覧を見ることも可能です。「会場」、「カテゴリー」、「フリーワード」より検索が可能です。製品名をクリックすると出展者・出展機器の詳細を見ることができます。

検索数 1770

会場： 東京会場に出展する機器 大阪会場に出展する機器
※それぞれの会場で検索を見ることができます。

カテゴリー： A.身体障害（肢体不自由） B.視覚障害
 C.聴覚障害 D.高度脳機能障害（失語症等）
 E.知的障害（身体介助が必要なケースを含む） F.精神障害（発達障害を含む）
 G.その他

フリーワード：

検索 クリア

ニーズ・サイズマッチング交流会2022 出展企業一覧 (PDF形式: 1.13MB)

Web開催のアンケートにご協力ください。(アンケートフォームに続きます)

出展者	製品名	製品概要	製品画像	カテゴリー	会場	掲示板	問合せ
株式会社 日本視覚障害者協会	視覚障害者用音声ナビゲーションシステム	本装置は当事者を対象とし、音声案内・音声案内に代替手段を提示し、音場・音源・音質をリアルタイムで制御する。音声案内・音場・音質をリアルタイムで制御する。音声案内・音場・音質をリアルタイムで制御する。		高度脳機能障害（失語症等）	東京	掲示板	問合せ

＋ もっと見る

当事者団体・開発支援機関等と交流

企業・団体名	交流したい内容	カテゴリー	会場	掲示板	問合せ
公益社団法人 日本視覚障害者協会	-	障害当事者向け	東京	掲示板	問合せ
公益社団法人 全国聴覚障害者協会	-	障害当事者向け	東京	掲示板	問合せ
一般社団法人 全日本聴覚障害者協会	聴に支ない、聴に支ない方の聴覚アクセシビリティテクノロジーに関する内容に限定される内容は多岐にわたります。交流の中心は私たちのニーズや課題を共有し、当事者向けです。	障害当事者向け	東京	掲示板	問合せ

＋ もっと見る

製品名を
クリックすると
出展者・出展
機器の詳細を
見ることが
できます。

「もっと見る」
をクリックすると
出展者一覧
を見ることが
できます。



交流方法

【出展者の詳細ページ】

「製品名」をクリックすると、出展者の詳細ページに移ります。こちらでは、出展者情報や機器情報を動画等で確認ができます。
また、「問い合わせ」又は「掲示板」を使って出展者へ連絡ができます。

問い合わせ

来場者が1対1で個別に出展者と交流したい場合に使用します。
問い合わせフォーム内の「問い合わせ種別」から電話やオンラインで交流等、交流内容を選択することができます。

掲示板

来場者がオープン（来場者に公開）で出展者と交流したい場合に使用します。匿名でも投稿は可能で、投稿内容は蓄積されます。

Web交流プラットフォームの詳しい説明は以下をご参照ください。



The screenshot shows a detailed product page for 'シスネット株式会社' (Sysnet Co., Ltd.) featuring a video player and contact details. Below the product information, there is a section for the 'Web交流プラットフォーム' (Web Exchange Platform) with two main options: 'この機器について、問い合わせする (交流を希望する)' (Contact about this device (I hope to exchange)) and 'この機器について、新しく投稿する (掲示板)' (Post new information about this device (Bulletin board)).

基調講演 & 特別講演

併催セミナー
プログラム

Web交流プラットフォームの紹介と
交流方法

大阪会場

東京会場

出展機器

障害当事者団体・
開発支援団体行政等

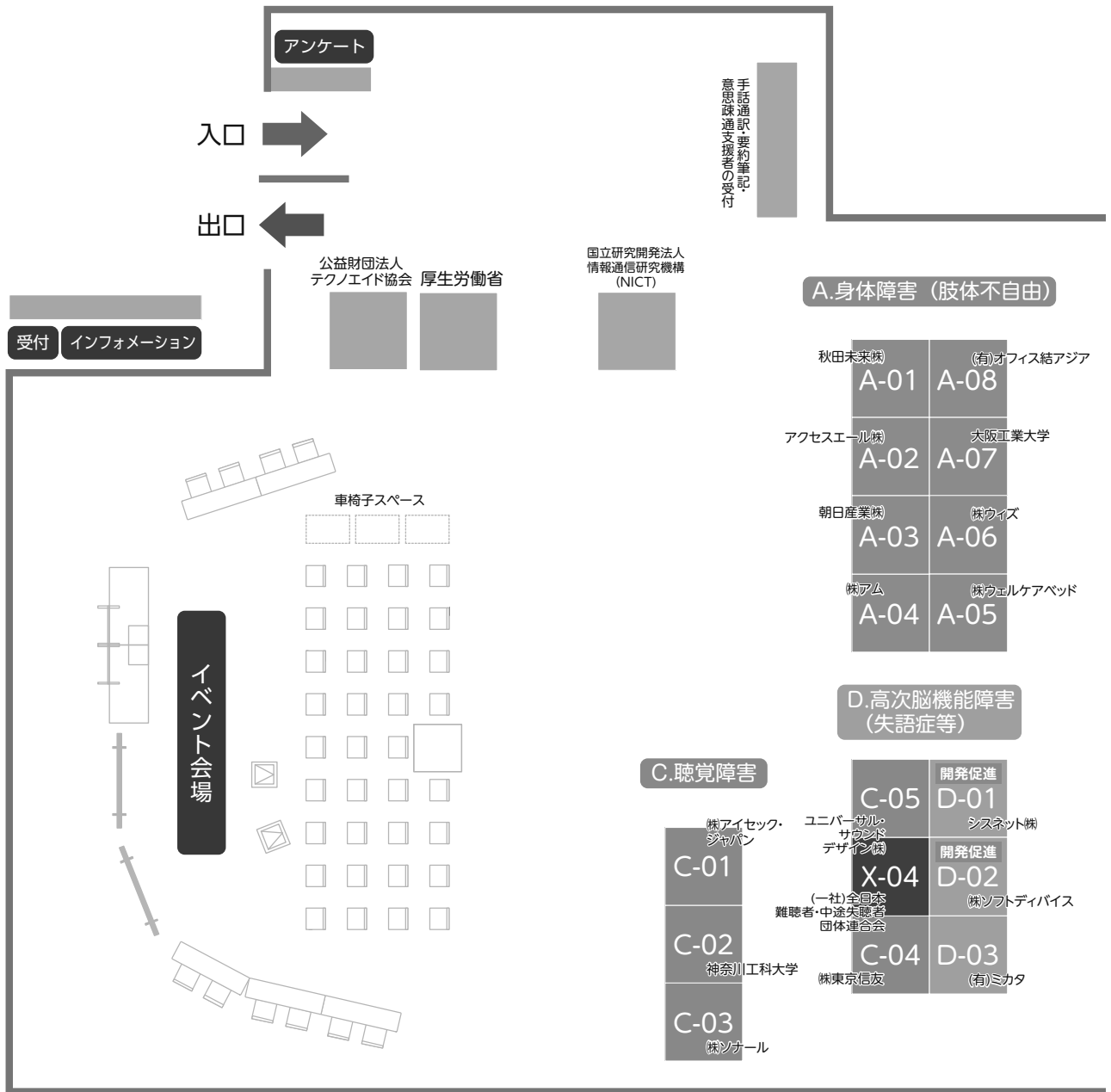
併催セミナーの視聴

The screenshot displays the seminar schedule. It includes a 'Web開催期間' (Web Seminar Period) from October 1st to November 3rd, 2024. Below that, it lists '大阪会場のセミナー開催リアルタイム配信' (Real-time streaming of seminars from the Osaka venue) on November 2nd and '東京会場のセミナー開催リアルタイム配信' (Real-time streaming of seminars from the Tokyo venue) on December 14th and 16th, 2024.

Web開催セミナーは常時配信しています。
また、大阪及び東京会場のリアルタイムのセミナーはそれぞれ定刻となりしだい視聴できます。
※スマートフォン、タブレット等の携帯端末でセミナーを視聴する場合には事前にZoomアプリのダウンロードをお勧めします。

大阪会場

OMM (2階展示Aホール)



分野別カテゴリ

- | | | |
|-----------------------|-------------------------|-------------------------|
| A 身体障害 (肢体不自由) | C 聴覚障害 | E 知的障害 |
| B 視覚障害 | D 高次脳機能障害 (失語症等) | F 精神障害 (発達障害を含む) |
| | | G その他 |



基調講演&特別講演

併催セミナー
プログラムの紹介

Web交流プラットフォームの紹介と交流方法

大阪会場

東京会場

出展機器

障害当事者団体・開発支援団体行政等

A.身体障害（肢体不自由）

A-09 オムロン太陽株式会社 九工大すく創る課	A-19 橋本エンジニアリング株式会社
A-10 株式会社オレンジアーチ	A-18 株式会社マト
A-11 株式会社パーレーション パールスター	A-17 東海エレクトロニクス株式会社
A-12 株式会社アイザック	X-01 （一社）日本ALS協会
A-13 J-Workout株式会社	A-16 株式会社テック
A-14 システムデザインラボ	A-15 （有）テクノム

B.視覚障害

A-20 株式会社立ケーイー システムズ	B-01 株式会社ネットドット	A-28 ベッドの上で 入浴企画株式会社
A-21 株式会社モリロー	X-03 （社福）全国 盲ろう者協会	
A-22 株式会社YAMADA	B-02 株式会社システム ギアビジョン	
X-02 ポリオの会	A-27 アイ・ソネックス株式会社	
A-23 ユニチカ トレーディング株式会社	A-26 株式会社リハビリソリューション	
A-24 ライフハック	A-25 株式会社リハートテック	

X.当事者団体

E.知的障害

E-01 株式会社アップイット	E-04 株式会社ラムロック
X-05 特定非営利活動法人 日本失語症協議会	E-03 ネクストシステム ラボラトリーズ(有)
D-04 （一社） 日本語聴覚士協会	E-02 アーバン警備保障株式会社

**F.精神障害
（発達障害を含む）**

F-01 アドブラス	F-04 株式会社マイクロブレイン
X-06 ASD(自閉スペクトラム症) 生活環境研究会	F-03 Zero To Infinity株式会社
F-02 国立研究開発法人 産業技術総合研究所	G-01 株式会社レバー ラウン

G.その他

G-03 株式会社ヒューマン テクノシステム
G-02 株式会社バイタルヴォイス



X 当事者団体

開発促進

令和4年度 開発促進事業の採択案件となります。
東京会場及びオンラインにおいて、成果報告を行います。

アクセス

< 公共交通機関のご案内 >

- Osaka Metro谷町線「天満橋」駅北改札口
- 京阪電車「天満橋」駅東改札口
⇒OMM地下2階に連絡(改札を出るとすぐに案内表示があります)

< 駐車場のご案内 >

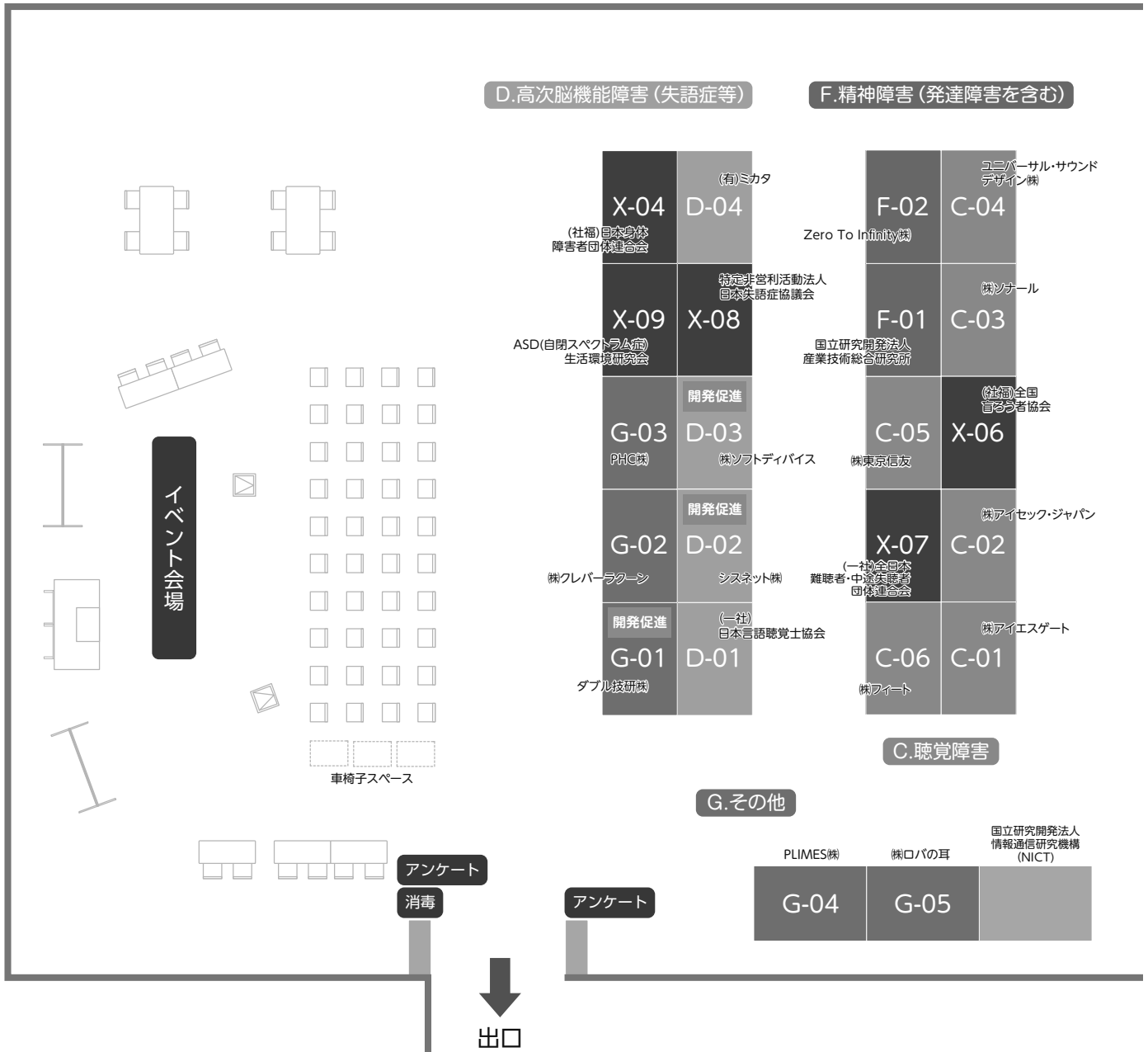
第一及び第二駐車場があります。なお、割引券の配布は行いませんのでご了承ください。



新型コロナウイルス感染症を予防するため、体温測定及びマスクの着用、密を避けるための配慮等にご協力ください。

東京会場

東京都立産業貿易センター浜松町館（2階展示室）



分野別カテゴリ

- 
A 身体障害（肢体不自由）
- 
C 聴覚障害
- 
E 知的障害
- 
B 視覚障害
- 
D 高次脳機能障害（失語症等）
- 
F 精神障害（発達障害を含む）
- 
G その他



A.身体障害（肢体不自由）

A-39 株アップビット	(有)ライフ スペース研究所 A-37	A-36 ライフハック	(有)ビューティフル ライフ A-28	A-27 ベッドの上で入浴企画株	開発促進 A-19 電制コムテック株	A-18 (有)テクノム	株オレンジアーチ A-10 (有)オフィス結アジア	A-09
B-04 認定特定非営利 活動法人 ことばの道案内	株リアム大塚 A-38	A-35 ユニチカ トレーディング株	フジホーム株 A-29	A-26 株日立ケーイー システムズ	株東海技研工業 A-20	A-17 株竹虎	開発促進 A-11 Qolo株	A-08 株エコテック
B-05 ViXion株	株システムギア ビジョン B-03	A-34 株YAMADA	和利の会 X-03	A-25 橋本エンジニア リング株	(一社)日本ALS協会 X-02	A-16 ダイヤ電機株	(公社)全国脊髄 損傷者連合会 X-01	A-07 株ウェルケアベッド
X-05 (社福)日本視覚 障害者団体連合	株エクシオテック B-02	A-33 株モリトー	FREE Bionics Japan株 A-30	A-24 株西川精機製作所	株トマト A-21	A-15 システムデザイン・ラボ	九州メディカル サービス株 A-12	A-06 株岩多屋
B-06 株Ubitone	株一心助け B-01	開発促進 A-32 藤田医科大学	株ミキ A-31	A-23 パラマウントベッド株	株エシエフ・徳山高専 A-22	A-14 SANEI株	株コーポレーション パールスター A-13	A-05 株INOWA

基調講演 & 特別講演

併催セミナー
プログラミング

Web交流プラットフォームの紹介と
交流方法

大阪会場

東京会場

出展機器

障害当事者団体・
開発支援団体行政等

B.視覚障害

手話通訳・要約筆記・公益財団法人
意思疎通支援者の受付 テクノエイド協会 厚生労働省

			受付
--	--	--	----

X.当事者団体

株14 za 秋田未来株 株アクアエコテック アクセスエール株

A-01	A-02	A-03	A-04
------	------	------	------



X 当事者団体

開発促進

令和4年度 開発促進事業の採択案件
となります。
東京会場及びオンラインにおいて、
成果報告を行います。

アクセス

< 公共交通機関のご案内 >

- JR浜松町駅（北口）から徒歩5分
- 東京モノレール 浜松町駅（北口）から徒歩5分
- ゆりかもめ 竹芝駅から徒歩2分
- 都営浅草線 大門駅から徒歩7分
- 都営大江戸線 大門駅から徒歩7分

車いすで来場される方は、ゆりかもめ「竹芝駅」
を利用してください。



新型コロナ
ウイルス感染症を
予防するため、体温測定
及びマスクの着用、密を
避けるための配慮等に
ご協力ください。

出展機器

A 身体障害(肢体不自由)

スカイリフト

移乗・移動支援機器。真っすぐ立つことができ、排泄ケアや立位訓練も可能なスタンディングリフトです。

アイ・ソネックス株式会社

岡山県岡山市中区江並100-7

機器紹介



Webプラットフォーム詳細ページ

希望する交流の内容

初号機の発売から25年以上経過しており、生活様式の変化などでご利用者様の実態やニーズと乖離していないかなど情報を収集の上、改良を検討しています。つきましては、下記の内容について意見交換させて頂きたいと思っております。

【意見交換内容】

- ・使いやすさの確認(操作性・小回り性・スリング装着の手間など)
- ・どんな場面で使用したいか(ベッド⇄車いすへの移乗・トイレへの移乗・立位訓練など)
- ・どんな人に適応するか、不適応な人はどんな人か(身長・体重・身体状況・疾患など)
- ・適応環境に対する要望(車いす、ベッドとの相性・床面・防水性のニーズ など)
- ・安全性に関する要望(転倒、転落防止・積み込み防止 など)

Web交流の連絡先

担当部署:販促企画
担当者氏名:片山 菜都子
TEL:086-200-1550 FAX:086-200-1553
E-Mail:katayama@nasent.net

大阪A-27

Keipu-Sb

後ろから乗るスタイルで、車いすの概念が変わります。

株式会社アイザック

福島県会津若松市山見町25-9

機器紹介



Webプラットフォーム詳細ページ

希望する交流の内容

従来、高齢者施設などを中心に活動して参りましたが、障害者の方、特に、歩行が困難な方への活動はしておりませんでした。実際には、歩行困難な方への利用が、施設や家庭で可能か否かの意見交換を頂戴したい。

Web交流の連絡先

担当部署:総務部
担当者氏名:薄 尚幸、ミヨシ
TEL:0242-93-5061 FAX:0242-85-8590
E-Mail:miyoshi@aizuk.jp, susuki@aizuk.jp

大阪A-12

動的座位バランス計測装置

座位姿勢での動的バランス計測

秋田未来株式会社

秋田県にかほ市院内字カナヤ16-2

機器紹介



Webプラットフォーム詳細ページ

希望する交流の内容

商品化間近となった装置の周知と使い勝手や今後の追加機能の参考意見。また安全性の確認。

Web交流の連絡先

担当者氏名:六平 澄人
TEL:0184-74-3090 FAX:0184-74-3091
E-Mail:musaka@a-mrj.jp

大阪A-01

東京A-02

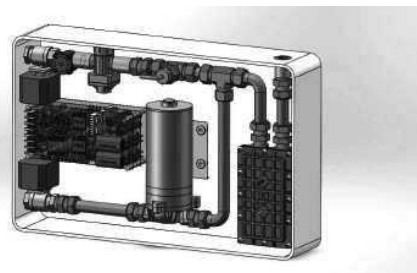
オゾン+ 電解微細気泡水床上入浴ユニット

運搬不要のオゾン+電解微細気泡水床上入浴ユニットは空気浴槽と震返補助器付きで体を運搬せずに入浴を実現する。

株式会社アクアエコテック

神奈川県横浜市中央区野毛町3-158 野毛山幸鈴ビル402

機器紹介



Webプラットフォーム詳細ページ

希望する交流の内容

身体不自由の方が移動や運搬なしで気持ちの良い入浴を、また今まで移動して入浴させるのに極めて苦勞した施設や居宅介護などの介助者の労力軽減の目的で考案いたしました。当機器は除菌消臭力と快適な癒し効果に優れ、オゾンと水素の微細気泡のダブルパワーで肌表面の汚れを何の刺激もなく分解でき、入浴の幸せ感を実感していただけます。急速リ補助器も用意し、浴槽空気充填・水温管理などもボタン操作で自動性能を搭載。水櫃は脱水機能も搭載し、入浴後下着の除菌消臭洗浄を脱水まで完了できるように工夫しています。ご体験頂き、当方が考案した機能がお役に立てるか、感想やご指摘などお伺いしたいと思います。

Web交流の連絡先

担当部署:広報課
担当者氏名:角野 哲
TEL:045-334-8984 FAX:045-334-8979
E-Mail:info@aquaeco.jp, mk2000@e01.itscom.net

東京A-03

※変更する場合があります。



意思伝達装置フィン・チャット

会話に加え、呼び出しブザー、家電リモコン、iPadの操作などを可能とする安定した意思伝達専用機です

アクセスール株式会社

大阪府茨木市西駅前町6-22-301

機器紹介



Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

本製品の今後の改良点およびそのタブレット版、PC版についてご意見を頂きたいと思っております。
特にタブレット版、PC版については従来の意思伝達装置の枠にとらわれない販売方法をとることで制度に縛られない機能を搭載し、上肢障害者がQOLの向上から仕事や趣味にまで広く活用できる製品を模索してまいります。

Web交流の連絡先

担当者氏名: 松尾 光晴
TEL: 080-7168-7123 FAX: 072-626-1113
E-Mail: matsuo_mitsu@accessell.co.jp

大阪A-02

東京A-04

男性用集尿器ユリナー

トイレを気にせず外出できる。車いす専用の男性用集尿器。

朝日産業株式会社

愛知県名古屋市中区四番1丁目11-22

機器紹介



Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

トイレ事情について、車いすユーザーとの情報交換。および関連団体様との情報交換。

Web交流の連絡先

担当部署: 医療機器事業部
担当者氏名: 辻本 研一
TEL: 052-671-5191 FAX: 052-671-5196
E-Mail: t.kenichi@asahi-sg.co.jp

大阪A-03

特別支援教育「COSMO」、 意思伝達装置「TCスキャン」

日本初上陸のICT療育/AACスイッチ。
五感や体幹の刺激や因果関係/社会性の療育ができ、
デバイス操作も可能。

株式会社アップイト

埼玉県川口市末広3-7-7 ロイヤルサンシティ104

機器紹介



Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

COSMOはイギリスのメーカーですが、弊社は日本の総輸入販売店として動いています。COSMOは去年日本に来たばかりでまだまだ改良の余地があると思っています。
トレーニングアプリの約20種のアクティビティは単純なものから複雑なものまであり、子供の障がいレベルに合わせて使用可能です。もっとこういったものがあれば、より子供の感覚を刺激できる等、交流ができればと思います。
設定アプリを使うとCOSMOを外入カススイッチとして使用でき、「押して決定/離して決定」や「感度を50g~500gに調整」等使用者毎に詳細設定が可能です。より使いやすいスイッチにするため、意見をいただければと思います。
メーカーとの会議の中で内容を伝えたいと思います。

Web交流の連絡先

担当部署: Caregiver事業部
担当者氏名: 長尾 徳之
TEL: 080-3292-0021 FAX: 03-6820-1545
E-Mail: caregiver.nagao@gmail.com

大阪E-01

東京A-39

水洗式ポータブルトイレ 「流せるポータくん3号」

ベッドサイドに設置出来る水洗式のトイレです。

株式会社アム

石川県河北郡津幡町竹橋西179-1

機器紹介



Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

福祉事業を営んでおられる方とのマッチングを希望しています。又、今後製品を改良していくに当たって利用者様目線の要望点をヒアリングしたいです。福祉事業を営んでおられる方の障害福祉に関する要望点をヒアリングしたいです。

Web交流の連絡先

担当部署: 福祉事業部
担当者氏名: 河口 泰範
TEL: 076-288-8655 FAX: 076-288-8656
E-Mail: kawaguchi@am-co.co.jp

大阪A-04

開発促進 令和4年度 開発促進事業の採択案件となります
東京会場及びオンラインにおいて、成果報告を行います

大阪出展 大阪会場に出展する機器

東京出展 東京会場に出展する機器

基調講演 & 特別講演

併催セミナー
プログラム

Web交流プラットフォームの紹介と
交流方法

大阪会場

東京会場

出展機器

障害当事者団体・
開発支援団体 行政等

出展機器

A

身体障害(肢体不自由)

体感型歩行自立支援システム Arbre(アルブル)

歩き方を自分で「体感」、パートナーと「共感」することで、健康的な毎日を。

機器紹介



株式会社INOWA

東京都港区麻布十番2-12-5-701



Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

機器の装着感等、機器の改良にかかわるご意見、ご要望。想定ユーザが理解し、楽しんで利用できそうか?指導者にとって使いやすいか?

Web交流の連絡先

担当者氏名:藤縄 清志
TEL:03-5730-0282 FAX:03-5730-0283
E-Mail:kiyoshi.fujinawa@requa.jp

東京A-05

医療的ケアにもやさしい、 お洒落も楽しめる大人サイズトップス

医療的ケアにもやさしい、お洒落も楽しめる大人サイズトップス

株式会社岩多屋

島根県浜田市浅井町87-2



Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

大人の衣服を制作する際に、子どもの衣服とは異なる留意点などをお聞きしたいです。また、自社でのモニターアンケートでは、レイヤード部分の副資材において意見が別れました。量産直前まで、マジックテープとスナップボタンのどちらを使用するかということをご悩んでおりましたので、実際に介助される方々に実物を手に取って頂きながらご意見を頂けると幸いです。今後、皆様に頂いたご意見をもとに改良していきたいと思っております。

Web交流の連絡先

担当部署:新規事業開発課
担当者氏名:諏訪園 春菜
TEL:080-2901-7694 FAX:0855-23-5843
E-Mail:h_suwazono@iwataya-net.co.jp

東京A-06

自動排泄処理装置 キュラコ

キュラコは排泄物を感知、吸引、洗浄、乾燥までの全ての過程を自動で処理する寝たまま排泄できる洗浄機能付きトイレです。

機器紹介



株式会社ウイズ

大阪府吹田市穂波町19-25



Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

レシーバーを陰部に長時間装着したままの姿勢を保つと、稀にシリコンクッションで接触している皮膚が赤くなる場合があります。夜間帯のみなど時間を限定しての使用を考えていますが、シリコンクッションの厚みや硬さなどに問題がないかどうかです。また、神経難病の方や脊椎損傷の方などの排泄支援に効果的かどうか意見を伺いたいです。

Web交流の連絡先

担当部署:AS事業部
担当者氏名:淵上 敬史
TEL:06-6310-9090 FAX:06-6310-9600
E-Mail:support@hello-with.com

大阪A-06

夢神楽ライト(仮称)

スライドリフト浴槽付き介護ベッドの改良で、手動で、ベッド部とリフト部を分割可能にします。

機器紹介



株式会社ウェルケアベッド

東京都新宿区神楽坂6-26-201



Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

更なる改善や要望を伺いたい。特に①浴槽部の形状やサイズ。②ハンモックの構造や形状および材質。③ハンモックの取り付け方法及び着脱方法。④電動を手動にした場合のご感想ご意見。⑤ベッド部とリフト部を分離させた場合の使いかた。等について意見交換をいたしたい。

Web交流の連絡先

担当者氏名:味岡 淳二
TEL:090-3241-0502 FAX:03-6734-0578
E-Mail:j_ajioka@wcb.co.jp

大阪A-05

東京A-07

※変更する場合があります。



らくらく介護椅子

介護する側、介護される側を思って生まれた「らくらく介護椅子」。

株式会社エコテクノ
東京都千代田区神田錦町1-14 立花日英ビル7階B



Webプラットフォーム詳細ページ

希望する交流の内容

利用者側の意見をお聞きしたいと思います。
特に介護する立場の方々のお聞きしたいと思います。

Web交流の連絡先

担当者氏名:川本 和男
TEL:03-5244-5253 FAX:03-5244-5254
E-Mail:kawamoto@poppy.ocn.ne.jp





東京A-08

小児用の前腕動力義手

本製品は、小型で軽量かつ動作スピードが速い小児用の動力義手です。

大阪工業大学
大阪府大阪市北区茶屋町1番45号 OIT梅田タワー12階



Webプラットフォーム詳細ページ

希望する交流の内容

交流会では、小児用義手の試作機を持参し、デモ展示を予定しています。特に、当事者であられる義手ユーザー様、ユーザーの保護者様との交流を期待します。試作機を試していただき、率直なご意見を頂戴したいです。また、義肢メカニクス、医療従事者様らとの交流も期待します。専門家からのご意見も頂戴し、さらに発展させていきたいと思います。

Web交流の連絡先

担当部署:ロボティクス&デザイン工学部ロボット工学科
担当者氏名:谷口 浩成
TEL:06-6147-7631 FAX:06-6147-7631
E-Mail:hironari.taniguchi@oit.ac.jp





大阪A-07

指伝話コミュニケーションパック

iPadで使用するコミュニケーションアプリ。簡単な操作で会話や機器操作を行う仕組みが用意されています。

有限会社オフィス結アジア
神奈川県藤沢市村岡東3-12-10



Webプラットフォーム詳細ページ

希望する交流の内容

個々の福祉機器ごとに機能を紹介し合うのではなく、実際の日常生活の中で様々な機器やサービスを使用する場面を想定し、その中で各々が提供する製品があるという見せ方をユーザーにする必要があると考えています。私たちのコミュニケーション機器は、単に用事を伝える機能を提供するのではなく、会話のきっかけを提供すること、自立した生活のための機器操作環境を提供します。これを使う場面は、ベッドの上や車椅子の上であつたりします。ベッドや車椅子抜きに弊社製品だけを語るのは現実の利用方法に則していません。シーズ側との交流を深め、協力してニーズ側へのソリューション提供を行う方法を構築するために、交流会での出会いを求めています。

Web交流の連絡先

担当者氏名:高橋 宜隼
TEL:0466-21-7448 FAX:0466-21-7996
E-Mail:info@yubidenwa.jp





大阪A-08
東京A-09

転倒防止椅子

既存のキャスター付き椅子に装着し、立ち上がり時のキャスター移動及び座面の回転を制動、転倒を防ぎます。

オムロン太陽株式会社×九工大すく創る課
福岡県北九州市若松区ひびきの2-5 情報技術高度化センター2階



Webプラットフォーム詳細ページ

希望する交流の内容

転倒防止椅子のプロトタイプを実際に、椅子からの立ち上がり時に不安を感じている人を利用してもらい、その使用感やニーズについて意見をいただきたい。また、我々が想定している対象者以外の方々にも広く意見を頂くことで、他の製品への技術転用等のアイデアを貰いたい。加えて、企業の方々にはプロトタイプを実用化・普及していくためのノウハウをご教示いただき、実際に試用したいという個人及び企業に対しては機器の貸し出し等を前向きに検討したい。

Web交流の連絡先

担当部署:すく創る課
担当者氏名:山崎 駆
TEL:080-278-50219
E-Mail:yamasaki586868@gmail.com





大阪A-09

基調講演 & 特別講演

併催セミナー
プログラム

Web交流プラットフォームの紹介と交流方法

大阪会場

東京会場

出展機器

障害当事者団体・
開発支援団体 行政等

出展機器

A 身体障害(肢体不自由)

重度障害者向け意思伝達装置「eyes」

神経性の難病により会話が困難な方をサポートする、目の動きなどの極小さい身体動作でも操作できる福祉機器

株式会社オレンジアーチ

東京都足立区千住一丁目11番2号 北千住Vビルディング7階

機器紹介



Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

重度障害者向け意思伝達装置「eyes」(アイアイズ)のご紹介やデモンストレーションを通じ、製品の機能や使い心地および製品開発のロードマップについて、ユーザー様ご自身やご支援をされる方からのご意見を頂き、製品へのフィードバックを行うと共に、視線による入力技術や画像解析技術を応用した製品に関するニーズについてご意見を頂き、新製品の開発に生かしていけたらと考えております。

Web交流の連絡先

担当部署:イノベーショングループ 研究開発室
担当者氏名:宇田 竹信
TEL:080-9160-5960 FAX:03-5817-4477
E-Mail:uda.takenobu@orangearch.co.jp

大阪A-10

東京A-10

ラバラバ2

履きやすく履かせやすい超弱圧の弾性ストッキング。

九州メディカルサービス株式会社

福岡県久留米市蜷川町4番地4

機器紹介



Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

本製品は履きやすく履かせやすい弾性ストッキングとして高齢者を中心に応用範囲が極めて広い製品と認識しているところです。肌に優しいという特色を生かし、装具の下履き用としての可能性、必要な改良点について、ご利用者、装具製造者と交流したいものです。

Web交流の連絡先

担当部署:ヘルスケア事業部
担当者氏名:谷本 博
TEL:03-3863-8028 FAX:03-3863-8029
E-Mail:h-tanimoto@kyushu-med.jp

東京A-12

ズレない・ムレない 楽しくクッション座面背面セットB

帝人ナノフロント使用の滑りにくい生地と、備長炭・ポリエチレンソフトパイプ材を入れたクッションで、快適姿勢保持。

株式会社コーポレーションパールスター

広島県東広島市安芸津町三津4424

機器紹介



Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

現在製造中のクッションが身体障害の方に快適に使用できるか、又、座位保持装置としての可能性や改良点、要望等を聞かせて頂き、今後の製品開発、改良の参考とさせていただきます。

Web交流の連絡先

担当部署:製造部
担当者氏名:大草 寛
TEL:084-645-0116 FAX:084-645-0150
E-Mail:parlstar@pastel.ocn.ne.jp

大阪A-11

東京A-13

Qoloモビリティモデル

立って移動できる乗り物です。自在な起立と小回りで、仕事や家事を簡単に、自然と立つ時間が確保できます。

Qolo株式会社

茨城県つくば市天王台1-1-1 産学リエゾン共同研究センター棟203室



Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

Qolo株式会社が開発し市販化を進める車椅子利用者向け起立移動支援機器について、対象ユーザーである下肢障害者のニーズ把握および課題に対する機能の適合性を評価するために、潜在ユーザーやその家族を対象とした試作機の展示、体験を通して声を頂きたい。

特に、仕事や家事などでの活用を念頭に置いた使い勝手や、市場投入に向けた販路、価格設定に関して意見交換したい。

Web交流の連絡先

担当者氏名:江口 洋丞
TEL:050-5211-5290
E-Mail:eguchi@qolo.jp

開発促進

東京A-11

※変更する場合があります。



AQUEASE(アクイーズ)

AQUEASE(アクイーズ)は、「今ある水栓をより使いやすく快適に」そんな思いが込められています。

SANEI株式会社

東京都江東区亀戸2丁目7番4号

機器紹介



Webプラットフォーム詳細ページ

希望する交流の内容

車いすや手足に麻痺がある方がキッチンや洗面の水栓操作にストレスを抱えていないか、また実際水回りでのようなことに不便を感じる人が多いのかなど、意見を交換させて頂き、本製品の改良、今後のラインナップなどの参考にさせて頂ければと思っています。

Web交流の連絡先

担当部署: マーケティング部
担当者氏名: 前野 英雄
TEL: 006-6972-5947 FAX: 06-6972-7060
E-Mail: promotion@san-ei-web.co.jp

東京A-14

Easy Stand

下肢障害者を立ち上げらせ上肢で下肢を動かすことで有酸素運動ができ、関節の可動性維持や褥瘡予防も可能。

J-Workout株式会社

東京都江東区木場2-17-13 第二亀井ビル3階

機器紹介



Webプラットフォーム詳細ページ

希望する交流の内容

立位に関する重要性についてユーザーとの交流を通して意見交換をさせて頂きたい。

Web交流の連絡先

担当部署: 営業部
担当者氏名: ワタナベマイ
TEL: 03-5809-9390 FAX: 03-5809-9391
E-Mail: mai@j-workout.com

大阪A-13

筋電位電動車いすコントローラ

テンプラーシステム使った重度の四肢障害者用筋電位電動車いすコントローラ WH1

システムデザイン・ラボ

奈良県奈良市西大寺小坊町4-5

機器紹介



Webプラットフォーム詳細ページ

希望する交流の内容

テンプラーシステムは顎の動きを筋電位で検出してモノを操作するシステムです。現在の筋電位は電極の配置も調整もラフでよく、また乾式電極でランニングコストもわずかです。現在、CPの2名がこのシステムで電動車いすの操作を練習しています。うち1名は緊張も入らずにこのシステムでパソコンやスマホを日常的に操作しています。このようにテンプラーシステムは優れたシステムですが筋電位を扱った支援者や経験した当事者が少ない状況です。多くの人に現在の筋電位を体験して筋電位がどのようなものかを知ってもらい、フィッティングができる支援者を増やしたいと思っています。昨年度、日本・イスラエルハッカソンでも1位をとりました。

Web交流の連絡先

担当者氏名: 杉本 義己
TEL: 0742-49-3990 FAX: 0742-47-0520
E-Mail: ac@sdl.to

大阪A-14

東京A-15

床頭台ディスプレイスタンド

モニターアーム使用可能な床頭台です。ベッドや車椅子でのテレビやパソコンの使用時に画面の向きや高さ、角度を自由に調節できます。

株式会社14za

東京都足立区竹の塚1-30-25-1102

機器紹介



Webプラットフォーム詳細ページ

希望する交流の内容

身体障害(肢体不自由)のある方が、IT機器を使用する際に困っている事や必要としていることについて意見交換、交流をさせて頂きたいと考えています。

Web交流の連絡先

担当者氏名: 加藤 英敏
TEL: 080-4131-1102
E-Mail: kato.hidetoshi@14za.co.jp

東京A-01

開発促進

令和4年度 開発促進事業の採択案件となります
東京会場及びオンラインにおいて、成果報告を行います

大阪出席

大阪会場に出展する機器

東京出席

東京会場に出展する機器

基調講演 & 特別講演

併催セミナー
プログラム

Web交流プラットフォームの紹介と交流方法

大阪会場

東京会場

出展機器

障害当事者団体・
開発支援団体行政等

出展機器

A 身体障害(肢体不自由)

バスリフト

ドイツ・ペーターマン社製「バスリフトPM58」を使えば簡単楽々の介助入浴が出来る。

ダイヤ電機株式会社

神奈川県横浜市都筑区川和町627番地

機器紹介



Webプラットフォーム詳細ページ

希望する交流の内容

高齢者や肢体不自由者の方の介助入浴に携わる企業、施設、個人の方との交流を希望

Web交流の連絡先

担当者氏名:加藤 卓郎
TEL:045-933-8811 FAX:045-934-3841
E-Mail:diaron-t-katou@mtg.biglobe.ne.jp

東京A-16

かるがるスリング

シートがスリングに早変わり。簡単動作で吊り上げられるシート型スリング。

株式会社竹虎

神奈川県横浜市中区港町2-6-8 横浜関内ビル10階

機器紹介



Webプラットフォーム詳細ページ

希望する交流の内容

リフトの使用状況と困りごと、スリングシートに対する要望。形状や素材、乗り心地など改善希望があれば伺いたい。利用者だけではなく介助者の意見も参考にしたい。

Web交流の連絡先

担当部署:ヒューマンケア事業部
担当者氏名:田畑 寛幸
TEL:080-5943-6516 FAX:045-680-0399
E-Mail:kktktr0002@gmail.com

東京A-17

インクルーシブテーブル

障害者の方が利用しやすく、支援する方、一緒に生活する方にも優しい昇降テーブル

有限会社テクノム

東京都青梅市長淵8-172-1

機器紹介



Webプラットフォーム詳細ページ

希望する交流の内容

テーブル天板のデザインや、テーブルを昇降させる上での操作性、誰が操作すべきかや、安全性等にどこまで配慮するか等障害を持つ方の具体的なご意見をお聞かせください。

Web交流の連絡先

担当者氏名:沼倉 正毅
TEL:0428-21-3611 FAX:0428-21-3614
E-Mail:info@rakurakutable.jp

大阪A-15

東京A-18

ゆびレコリハビリモデル

触ったという感覚を取り戻すためのリハビリ装置。「新しい中枢性神経障害の感覚運動機能回復システム」。

株式会社テック技販

京都府宇治市大久保町西ノ端1-22

機器紹介



Webプラットフォーム詳細ページ

希望する交流の内容

使用感のヒアリングの実施により最適なデザインへ転換し量産化に適したデザインへ再構築
ライフスタイルとの親和性の向上
未来志向の「リハビリ装置の実現
ユーザビリティの向上
壊れない機構を設計し、機構の強度試験・物性評価・品質管理に応用
対象者の実験データの装置機能の反映
実験データよりデータ解析と解釈から最適な振動フィードバックの実現
患者・利用者が一人で装着・脱着・操作などができる仕様
などの評価をヒアリングしたい

Web交流の連絡先

担当部署:営業推進部
担当者氏名:和田 潤
TEL:0774-48-2334
E-Mail:j.wada@tecgihan.co.jp

大阪A-16

※変更する場合があります。



AI制御による表現力豊かに歌える 歌唱型人工喉頭

事前の音符入力と呼気のAI制御により、好きな楽曲を表現力豊かに歌うことができる電気式人工喉頭

電制コムテック株式会社

北海道江別市工栄町8-13



Webプラットフォーム詳細ページ

希望する交流の内容

- ・歌唱型人工喉頭の使用感、操作感、実際に歌唱できるかどうか
- ・音符入力装置による音符入力方法に関するご意見、ご要望
- ・呼吸センサーと顎部へ固定するバンドの使用感
- ・呼吸による歌唱表現付与の操作性

Web交流の連絡先

担当部署: ブランド事業部
担当者氏名: 田森 雄介
TEL: 011-380-2102 FAX: 011-380-2123
E-Mail: yuusuke_tamori@dencom.co.jp

開発促進

東京A-19



おむつセンサ(Cagou-B)

におい検知でおむつの中をセンシング。安心安全
快適な介護ライフをご提供します。

東海エレクトロニクス株式会社

名古屋市中区栄三丁目34-14



Webプラットフォーム詳細ページ

希望する交流の内容

施設様では排泄に関して大変課題が多いということをお聞きしています。・放置による肌荒れ・ベッドからの転倒事故・見回りの負担上記を踏まえ、現場での困りごと(特に排泄に関して)を詳しくお聞きしたいです。おむつセンサの実地検証のご協力を頂ける施設様があればご評価頂けますと幸いです。評価の結果を通じ改善に向けて現場のご意見を頂きながら製品化に向けて進めさせて頂きたいと考えております。

Web交流の連絡先

担当部署: マーケティング本部 センサ&エレクトロニクス推進部 センサ課
担当者氏名: 木野瀬 さくら
TEL: 052-261-3219
E-Mail: sakura.kinose@tokai-ele.com

大阪A-17



ラ・クリップトイレ用

トイレでの立ち上がり・立位保持・移乗を支える自立支援のために
「理想のトイレ介助」を形にしました。

株式会社東海技研工業

岐阜県中津川市中津川932-325



Webプラットフォーム詳細ページ

希望する交流の内容

トイレだけは自分で!と思っている障害者の方の自立を支援し、介助する方の負担を軽減できる用具として考えました。障害者と健常者が共有できるユニバーサルデザインとしての機能も評価したいので、障害者施設をはじめ、学校や家庭などのトイレ介助にお困りの方々の交流を希望します。狭いトイレ内で健常者と共有でき、立ち上がり・立位保持・移乗ができることで、介護も容易になることを施設等で働く介護職員の方や医療・福祉関係の従事者の皆様に、実際に体験していただき感想やご意見をお伺いする機会になればと思っています。

Web交流の連絡先

担当部署: aidチーム
担当者氏名: 山口 三恵
TEL: 0573-65-6888 FAX: 0573-65-0162
E-Mail: m-yamaguchi@tokaigikenkogyo.co.jp

東京A-20



自立支援型電動昇降式トイレベッド わかば

ベッド面が電動で昇降し様々な高さの車いすから自立で
移乗でき長時間の長座位姿勢に適応したトイレベッドです

株式会社トマト

静岡県静岡市清水区渋川1-6-20



Webプラットフォーム詳細ページ

希望する交流の内容

様々な方に製品を試していただき、様々な要望に適応した製品として出来上がっていますが、ニーズ側から見た更なる改善点の情報やご意見を聞き取りたいです。実機を用いた会場では、製品に試乗いただき、情報交換など話し合いの交流をしていきたいです。また、シーズ側の方々と交流し、様々な意見交換をしたいです。人間の尊厳である当たり前の排泄を可能にするトイレ関連製品について情報交換や意見交換したいです。

Web交流の連絡先

担当部署: ケアサポート部
担当者氏名: 大瀧 尋由
TEL: 054-349-2180 FAX: 054-349-2182
E-Mail: otaki@tomato-miyabi.co.jp

大阪A-18

東京A-21



開発促進 令和4年度 開発促進事業の採択案件となります
東京会場及びオンラインにおいて、成果報告を行います

大阪出席 大阪会場に出展する機器

東京出席 東京会場に出展する機器

基調講演 & 特別講演

併催セミナー
プログラム

Web交流プラットフォームの紹介と交流方法

大阪会場

東京会場

出展機器

障害当事者団体・
開発支援団体 行政等

出展機器

A 身体障害(肢体不自由)

ボッチャ普及のための 国産FRP製軽量ランプと支援機器

重度障害者のボッチャ競技参加を可能とするランプ
取り付け型支援機器と、軽量で丈夫なFRP製ランプ。

株式会社ニシエフ・徳山高専

山口県下関市豊北町大字栗野4238番地



国産FRP製ランプ

支援機器

出展時は、FRP製ランプに支援機器を接続した状態で展示します。

Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

株式会社ニシエフは、軽量で耐食性があり劣化に強いFRP(繊維強化プラスチック)造形を得意とした企業で、造船業で培った技術力をボッチャランプに活用しました。福祉分野において「耐久性と軽さの両立が必要な製品」に関してのニーズをお持ちの方と交流したいと考えています。徳山高専は、工学系の高等専門学校の技術力を用いて社会の困り感の軽減に貢献するべく、就労支援、防災教室、漢字教材・プログラミング教材の開発に関して研究を行っております。ニーズ、シーズに関わらず「困り感」をお持ちの方と交流したいと考えています。

Web交流の連絡先

担当部署:営業部
担当者氏名:乾 智彦
TEL:0837-85-0126 FAX:0837-85-0356
E-Mail:tomohiko.inui@nishif-f.com

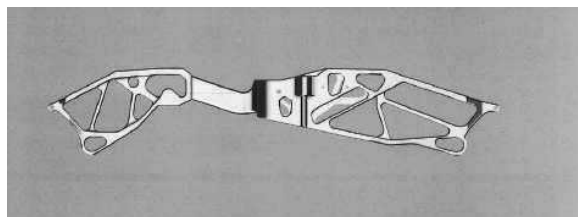
東京A-22

アーチェリー弓具(コンパウンドボウ)

パラリンピックアーチェリー競技のコンパウンドボウを日本で初めて開発・提供いたします。

株式会社西川精機製作所

東京都江戸川区中央1丁目16-23



Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

パラリンピックアーチェリー競技のコンパウンドボウを日本で初めて開発・提供いたします。障害者スポーツのルーツであるアーチェリー競技コンパウンドボウを通して、障害者関係機関の方々と、障害者スポーツ振興について意見交換を希望いたします。障害の状況によって、スポーツの実施が難しい方々もいらっしゃいますが、この話、どのような施策をほどこすことにより、多くの障害者の方にスポーツを体験していただくことが可能なのかといったことについて、広く情報収集を行い、さらなる研究開発・製品化につなげていきたいと考えています。

Web交流の連絡先

担当部署:営業部
担当者氏名:向井 規浩
TEL:03-3674-3232 FAX:03-3674-3236
E-Mail:info@nishikawa-seiki.co.jp

東京A-24

体幹保持プロテクター

体幹保持プロテクターは、車いす利用者の姿勢保持について安全面と快適性の両面から考えた安全福祉用具です。

橋本エンジニアリング株式会社

静岡県浜松市浜北区平口5559



Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

本製品を日常生活の中で使用した際、体幹を保持する上で改良して欲しい点や、追加して欲しい機能などを皆様からリクエストを頂き、改良に繋げていきたいと考えております。さらに本製品のもう一つの機能であるシートベルトプロテクター機能をご紹介し、福祉車両で起きている事故についても共有し、日頃の安全対策や自立支援にお役立て頂きたいです。

Web交流の連絡先

担当部署:企画開発部
担当者氏名:大城 徳彦
TEL:053-587-6508 FAX:053-587-2289
E-Mail:hashimoto10@za.tnc.ne.jp

大阪A-19

東京A-25

ベッド操作アプリと使用環境のご提案

電動ベッドを「音声」や「入力スイッチ」で安全に操作できるiPad・iPhone用アプリとその使用環境のご提案です。

パラマウントベッド株式会社

東京都江東区東砂2-14-5



Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

電動ベッドを使用している・使用したいというご利用者様に、現在の寝室環境に対するお困りごと・要望をヒアリングさせていただくとともに、「音声」や「入力スイッチ」でのベッド操作を実際にお試しいただき、ご評価・改善点に関して意見交換させていただきたいと思っております。

Web交流の連絡先

担当部署:技術開発本部要素技術部
担当者氏名:小林 宿華
TEL:03-3648-2700 FAX:03-3648-1110
E-Mail:app_support@paramount.co.jp

東京A-23

※変更する場合があります。



伝の心

視線や瞬き、身体の一部をわずかに動かしてセンサー・スイッチを操作することで自分の意思を伝えられます。

株式会社日立ケーイーシステムズ
千葉県習志野市東習志野7-1-1

機器紹介



Webプラットフォーム詳細ページ

希望する交流の内容

視線入力やその他の機能を改良した、新しい「伝の心」デモ機を展示し、ご利用者様や支援者、福祉・医療関係者の方々に気軽に触って、体験していただきたい。実際に使用していただいた感想やご意見から、今後の製品への反映を行いたい。

Web交流の連絡先

担当部署: 組込エンジニアリング部
担当者氏名: 廣瀬 貴裕
TEL: 080-6764-2736 FAX: 047-472-6551
E-Mail: hirose@hke.jp

大阪A-20

東京A-26

フォーケアウォッシュサポートII (頭・手・足洗浄器)

持ち運べる昇降可動式洗浄器 施設や訪問(看護・介護・美容)ケア 家族による四肢洗浄～洗髪等の衛生保持器

有限会社ビューティフルライフ

大分県大分市椎迫4-2

機器紹介



Webプラットフォーム詳細ページ

希望する交流の内容

「モノが人に合わせる」がコンセプトのウォッシュサポート(洗髪・四肢洗浄器)は、訪問美容の洗髪や形成外科等でフットケア(足洗浄・足浴・治療)や手浴を目的に導入されています。現在、在宅でのケアにおける四肢洗浄や洗髪等の活用を目的に再開発中。在宅での必要性や需要、利用者の要望等の意見交換を希望します。

新製品は、態勢にあわせて様々な洗髪方法を選べる洗髪主体タイプと足洗浄やフットケア等主体の2タイプに分けて開発中です。昇降、首振り機能を有し、商製品共に移動式洗面台としての使用も可能。在宅ケア時、家族による利用者の衛生保持器として希望する点や価格など具体的な要望や意見をお聞かせください。

Web交流の連絡先

担当部署: 管理部
担当者氏名: 加嶋 忍
TEL: 097-546-0666 FAX: 097-546-6999
E-Mail: info@be-life.info

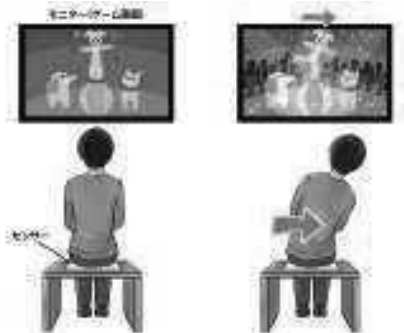
東京A-28

座位バランスの定量的評価と効果的トレーニングを可能にする “The e(座位)-balance trainer”

対象者が能動的に、また効率的かつ効果的に座位バランスを評価・練習できるゲーム型エクササイズシステム。

藤田医科大学

愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1-98



Webプラットフォーム詳細ページ

希望する交流の内容

当該製品に対するご意見を肢体不自由者ご本人や関係者の方々から広く頂戴したい。

Web交流の連絡先

担当部署: 保健衛生学部リハビリテーション学科
担当者氏名: 太田 皓文
TEL: 080-9543-6177
E-Mail: npnmlab@gmail.com

開発促進

東京A-32

室内用自立歩行補助用品

室内での転倒を防止し、自立生活に役立つ歩行補助用品です。

フジホーム株式会社

東京都中央区新川2-12-15 ヒューリック八丁堀ビル7F



Webプラットフォーム詳細ページ

希望する交流の内容

在宅介護に携わる方のご意見を取り入れて商品開発を目指したい。

Web交流の連絡先

担当者氏名: 岡野 健
TEL: 03-3523-1631
E-Mail: okano-ta@fujihome.toso.co.jp

東京A-29

開発促進

令和4年度 開発促進事業の採択案件となります
東京会場及びオンラインにおいて、成果報告を行います

大阪出席

大阪会場に出展する機器

東京出席

東京会場に出展する機器

基調講演 & 特別講演

併催セミナー
プログラムの紹介

Web交流プラットフォームの紹介と交流方法

大阪会場

東京会場

出展機器

障害当事者団体・
開発支援団体行政等

出展機器

A

身体障害(肢体不自由)

FREE Walk歩行支援ロボット

「FREE Walk歩行支援ロボット」とは、下半身に装着し、股、膝関節をサポートする歩行支援ロボットです。使用者自身の動作を感知してその動作を自然な形でサポートすることが可能な前駆AIを搭載されています。

FREE Bionics Japan株式会社

東京都港区南青山2-4-15 天翔南青山ビル3階S308

機器紹介



Webプラットフォーム詳細ページ

希望する交流の内容

利用側の意見をヒアリングさせていただきたいです。

Web交流の連絡先

担当部署:営業本部
担当者氏名:コウユウケン
TEL:070-2665-6251
E-Mail:billy1226@freebionics.com.tw



東京A-30

介護用“ベッドの上で入浴”機器

ベッドの上で、寝たままでも移乗せずに何時でも入浴。
2分で浴槽に2分で給排水。1人の介護者(家族)で入浴

ベッドの上で入浴企画株式会社

東京都稲城市向陽台1-5-3

機器紹介



Webプラットフォーム詳細ページ

希望する交流の内容

- ①障害者・介護者の方々実際にベッド上で入浴者・介護者となり入浴機器の取扱いをして頂き、感想についての意見交換をお願いしたい。
- ②浴槽シートの清掃負担の軽減としての肌用シート「使い捨てシート(極薄い0.03mmシート)」を重ねて敷き使用することについて。
- ③リユクで持運び(高層階、狭い道、避難所、雪国の交通不能時)しての入浴について。
- ④新型コロナウイルス接触感染のリスク回避として使用できる場面(在宅、障害者施設、病院)について。
- ⑤災害時(電気・ガス・水道・交通不能時)の限られた使用量での避難所・障害者施設での入浴(少ない湯量40ℓ・電気ポット6台など)について。
- ⑥入浴回数が増える(訪問入浴との併用使用・1回おき)。

Web交流の連絡先

担当者氏名:夏目 三郎
TEL:042-379-3533 FAX:042-379-3533
E-Mail:nyuyoku.kikaku@gmail.com



大阪A-28

東京A-27

NOVA_RiseActive

これからはライフシーンに合わせて、最適な視点で活動しよう。軽快コンパクトなスタンディングチェア。

株式会社ミキ

愛知県名古屋南区豊3-38-10

機器紹介



Webプラットフォーム詳細ページ

希望する交流の内容

会場にお越しの車椅子ユーザーの方にNOVA_RiseActiveを試乗して頂き、本製品の必要性、有効性についてご意見を伺いたい。・立位姿勢での不安感、恐怖感はないか? ・中立位姿勢での車椅子の操作性はどうか? 視点が上がることの有効性はどのようなことがあるか? ・中立位姿勢での姿勢の安定感はどうか? ・リフトアップ機構の操作性はどうか? ・どのような生活シーンで使えそうか? ・サイズ感はどうか? ・価格は相応か? ・デザインはどうか?

Web交流の連絡先

担当部署:FORCE事業部
担当者氏名:芝崎 泰造
TEL:090-7957-3269 FAX:0568-66-6335
E-Mail:shibasaki@miki-force.jp



東京A-31

歩けるスリング ぶらん歩

わずかな力で安全な座位移動が可能になり、見守り下
であればご使用者一人で操作できる歩けるスリング。

株式会社モリト

愛知県一宮市東島町3-36

機器紹介



Webプラットフォーム詳細ページ

希望する交流の内容

ぶらん歩の使用感は個々によって異なり、どの程度の乗り心地が要求されるのか、改良したクッションで試していただきたい。また様々な容態に応じて、一日何時間、何回、使用されるのか?ぶらん歩に乗ったまま、車いすへ移乗することについて使用者の意見をお聞かせください。重さの方への装着の方法、手順についてこれまでの吊り具との比較、適合するサイズの基本設定についてもご意見を伺いたい。

Web交流の連絡先

担当部署:営業部
担当者氏名:加藤 良治
TEL:058-671-6151 FAX:058-672-4555
E-Mail:kato@moritoh.co.jp



大阪A-21

東京A-33

※変更する場合があります。



e-foot

世界初ゴムのかたで歩行支援
歩行補助具e-foot

株式会社YAMADA

静岡県浜松市南区若林町75-1

機器紹介



Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

- ①歩行に問題をかかえる方に、歩行補助具が開発されたことを紹介させて頂きたい。
- ②パラアシートの体を守りながらトレーニングをする道具として紹介させて頂きたい。
- ③歩けるだけでなく転倒予防をし、生活の質を高める道具を紹介させて頂きたい。
- ④医療費・介護費の削減

Web交流の連絡先

担当者氏名: 山田 好洋
TEL: 053-447-4970 FAX: 053-555-6310
E-Mail: efootyamada@gmail.com

大阪A-22

東京A-34

形状変形可能な自助具(仮称)

感温性フィラメントを使用し3Dプリンターで製作した使用する人に合わせて形状変形可能な自助具。

ユニチカトレーディング株式会社

東京都中央区日本橋室町4-1-5 共同ビル7階

機器紹介



Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

- ①(介護する人のご意見)自助具を製作している方が、使用する人に適合するよう試作と評価を繰り返す場合が多いと思いますが、その人に合わせて形状変形できることでの改善されるか、またデメリットを伺いたい。
- ②(介護現場の3Dプリンターについて)3Dプリンターで製作できるので、データを送れば介護現場での製作が可能になります。今後、必要な時に3Dプリンター製作することも可能になると思いますがそれに対するご意見。
- ③(色について)現状は白色のみになります。白色についてのご意見。
- ④(自助具のニーズについて)介護現場で必要とされる自助具は何か。

Web交流の連絡先

担当部署: 新事業開発室
担当者氏名: 懸高 淳一
TEL: 03-3246-7687 FAX: 03-3246-7790
E-Mail: j-kaketaka@unitika.co.jp

大阪A-23

東京A-35

改良型・片手でも走行できる6輪車いす

片手でも車輪を選択的に駆動できる車いすの改良型・6輪タイプです。走行時に他方の片手が自由になります。

合同会社ライフスペース研究所

北海道札幌市南区川治4条5丁目7-23

機器紹介



Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

当社は、車いすユーザーのQOL向上に役立ち、片手でも使いやすい車いすの開発に取り組んでいます。片手でもって移動したいという、ごく普通のニーズの実現を提案したい。両手駆動の制約から解放されて、人としての尊厳を取り戻す一助になりうるのではないかと期待されています。どんな片手走行シーンがあるか、簡単な振り方ができるハンドリムの形状、駆動のスレ、機器の重量など、どこまでの水準が求められるのか、どのような製品になれば普段使いしたいと思われるかについて、ユーザーとの交流でアドバイスをいただきたい。昨年の当交流会でいただいたアドバイスをもとに、4輪タイプを使いやすい6輪タイプに改良した試作機を出展します。

Web交流の連絡先

担当者氏名: 齊藤 徹
TEL: 011-571-2585 FAX: 011-571-2585
E-Mail: tsaitoh@ri-lifespace.com

東京A-37

TCスキャン

重度障害で今まで出来なかった主体的なコミュニケーションが、TCスキャン/視線入力により可能となります。

ライフハック

埼玉県川口市元郷2-13-1



Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

重度身体障害の方々にとって意思伝達は難しいものですが、一度意思伝達装置を使った方には生活に欠かせない一部となります。TCスキャンは私が開発した製品なのですが、よりQOLを向上できる製品にすべく、意見をいただければと思います。視線入力はコミュニケーションやゲーム等様々な用途で使用できますが、こういったゲームがあれば因果関係や興味を引ける、こんな機能があればより安心して使える等、意見交換ができればと思います。

Web交流の連絡先

担当者氏名: 伊藤 直弥
TEL: 090-5316-4667
E-Mail: ito.lifehack@gmail.com

大阪A-24

東京A-36

開発促進 令和4年度 開発促進事業の採択案件となります
東京会場及びオンラインにおいて、成果報告を行います

大阪出席 大阪会場に出展する機器

東京出席 東京会場に出展する機器

基調講演 & 特別講演

併催セミナー
プログラムの紹介

Web交流プラットフォームの紹介と交流方法

大阪会場

東京会場

出展機器

障害当事者団体・
開発支援団体行政等

出展機器

A

身体障害(肢体不自由)

タン練くん

「食べる力」を鍛える嚥下カトレーニングボトル
「タン練くん」、一般医療器具取得

株式会社リハートテック

和歌山県和歌山市新庄490番地

機器紹介



Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

身体障害者は一般人に比べて誤嚥性肺炎による短命が多いため嚥下障害を予防するための商品として活用して欲しい。

Web交流の連絡先

担当者氏名: 笠原 直樹
TEL: 090-7480-2905 FAX: 073-460-3242
E-Mail: ikoien.kasahara@gmail.com

大阪A-25

リバティデカルト

“サヨナラオムツ”自動排泄処理装置リバティデカルト
は排泄物を自動で吸引、洗浄、乾燥を行います。

株式会社リバティソリューション

島根県松江市西嫁島一丁目2番7号

機器紹介



Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

自社で新たに開発した「リバティデカルト」の展示会出展は初めての試みで、本交流会を通じて医療法人や施設及びユーザーへ本製品を紹介し、ニーズの聞き取りや意見交換を行う。
会場にてデモンストレーションを行い、性能を実感していただき、モニター評価の機会を設け、今後の開発・改良を推進したい。

Web交流の連絡先

担当部署: 経理部
担当者氏名: 福岡 英夫
TEL: 0852-61-3999 FAX: 0852-61-2399
E-Mail: carerobot@liberty-s.co.jp

大阪A-26

リアムスポット 2

膀胱内の尿のたまり具合の目安を確認し、本人または
介護者がトイレ(誘導)のタイミングかどうか判断可能。

株式会社リアム大塚

神奈川県相模原市中央区中央1-1-1 ジブラルタ生命相模原ビル3階

機器紹介



Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

超音波により、非侵襲的に膀胱内の尿のたまり具合の目安を確認できる製品(非医療機器)として排尿タイミング予測支援デバイス「リアムスポット 2」を販売しています。本交流会における機器展示を通して、障害者自立支援における排尿ケアに具体的にどのように活用することが出来るのか弊社からのご提案、また参加者の方からのご意見・ご要望等を数多く伺うことにより、より良い製品開発および製品改良につなげることを目指しています。

Web交流の連絡先

担当部署: 事業開発部
担当者氏名: 篠原 敬明
TEL: 042-707-4258
E-Mail: shinoharat@otsuka.jp

東京A-38

※変更する場合があります。





基調講演 & 特別講演

併催セミナー
プログラム

Web交流プラットフォームの紹介と
交流方法

大阪会場

東京会場

出展機器

障害当事者団体・
開発支援団体 行政等

B 視覚障害

障害者がホームや段差・障害物を検知し誘導方法・装置

自動走行特許公報。

株式会社一心助け

千葉県柏市みどり台4-23-3



Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

白杖に装着した平面画像の立体認識検知機器に知見や技術・製品をお持ちの該当者及びこの方法製品にご興味を持たれた方及び企業や施設。

Web交流の連絡先

担当部署: 代表取締役
担当者氏名: 鈴木 英雄
TEL: 04-7132-2415 FAX: 04-7132-2415
E-Mail: yq@jade.plala.or.jp

東京B-01

暗所視支援眼鏡

暗所視支援眼鏡は夜盲症でお困りの方々により明るい視界を提供することを目的として開発した装用型機器です

Vixion株式会社

東京都新宿区高田馬場2丁目14番2号 新陽ビル1001



Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

夜盲症など暗いところの見え方でお困りの方に暗所視支援眼鏡をお試しいただきご意見を伺いたい。

Web交流の連絡先

担当部署: 技術管理部
担当者氏名: 滝沢
TEL: 03-6205-9548 FAX: 03-6205-956
E-Mail: shigeru.takizawa@vixion.jp

東京B-05

- ①音声標識ガイドシステムとシグナルエイド(歩行時間延長信号機用小型送信機)
- ②多目的・多機能トイレ用音声案内装置「M.F.T. DUO(ユニットA・ユニットB)」
- ③緊急情報システム「EIS(Emergency information system for Deaf people)」

- ①②視覚障がい者向け音声誘導システム(入口、エレベータ、トイレ等)
- ③聴覚障がい者向け緊急情報システム

機器紹介



株式会社エクシオテック

東京都北区十条台1-6-38



Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

視覚障がい者向けおよび聴覚障がい者向けの様々な支援システムを取り揃え、自治体関連、交通機関、金融機関など全国 約3,900施設へ導入しておりますが、視覚および聴覚に障がいをお持ちの方、また幅広い施主様、事業者様の理想にまだまだお応えできていないかもしれません。現行製品の高性能化や新製品の開発に繋がるきっかけなど、皆さまの忌憚の無いご意見、ご要望をお待ちしております。

Web交流の連絡先

担当部署: 情報通信事業本部 営業本部 ソリューション営業部 福祉グループ
担当者氏名: 鈴木 智志
TEL: 03-5948-4205 FAX: 03-3909-7574
E-Mail: tomoyuki.suzuki@exeo-tech.co.jp

東京B-02

ことばの道案内アプリ、言葉でわかる駅情報アプリ

視覚障害者当事者団体が開発した視覚障害者及び目の見えづらくなった高齢者向け外出支援アプリです。

認定特定非営利活動法人ことばの道案内

東京都北区滝野川7丁目2番7-105号



Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

アプリを紹介してご意見を頂く機会を得たい。また体験をしてほしい。開発について様々な団体とリレーションしたい。

Web交流の連絡先

担当者氏名: 市川 浩明
TEL: 03-3916-6160
E-Mail: info@kotonavi.jp

東京B-04

開発促進 令和4年度 開発促進事業の採択案件となります
東京会場及びオンラインにおいて、成果報告を行います

大阪出展 大阪会場に出展する機器

東京出展 東京会場に出展する機器

出展機器

B 視覚障害

ものタグアプリ

ものタグアプリは、ものにICタグを貼って、視覚障害者が音声でものを識別するためのアプリです。

機器紹介



株式会社コネクトドット

京都市中京区西瓦寺町160-2 船越メディカルビル



Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

ICタグを階層的に構成することによって、視覚障害者に効率的に情報を伝えることができます。視覚障害者への情報発信を検討されている自治体や製品パッケージ、広告宣伝担当者の方と意見交換をしたいと思っています。
そのような場面では、大量の視覚障害者向けデータの作成と入力がか課題になりますが、読み仮名を定義する書式やデータ変換を行うExcelマクロを準備しております。
また、実体のない「仮想タグ」をリリースし、スマホのキーボード入力に苦手な方にも音声キーボードで使って頂けるようにしました。実際の視覚障害者の方に体験して頂きたいと思っております。

Web交流の連絡先

担当者氏名: 星野 寛
TEL: 075-746-3550 FAX: 075-746-3551
E-Mail: hoshino@connectdot.jp

大阪B-01

バリアフリー-KIOSK

視覚・聴覚・肢体などに障がいのある方だけでなく、小さな子供連れの方、外国の方など、どなたにも優しい情報端末(KIOSK)。

機器紹介



株式会社システムギアビジョン

兵庫県宝塚市高司1-6-11 K's Cube 1F



Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

同製品は既に韓国では公共施設などに導入されており、日本にて展開するにあたり、多くの方のご意見を伺いたい。現在外出先での情報入手において困ることはどんなことか? どんな場所でどんな情報が知りたいか? どのような使い方が出来れば便利か? など、韓国での導入事例を基に利用想定者と意見交換を行いたい。

Web交流の連絡先

担当部署: 企画課
担当者氏名: Natalie Baron
TEL: 0797-74-2206 FAX: 0797-73-8894
E-Mail: sgv-info@systemgear.com

大阪B-02

東京B-03

Ubitone

手指装着デバイスUbitoneは、チャット、ニュース、文字読取りなど盲ろう者の皆さんの対話と情報取得を支援します。

機器紹介



株式会社Ubitone

東京都目黒区大岡山1-23-10



Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

盲ろう者や視覚障害者の皆様に実際にUbitoneを手に装着頂き、使い勝手を確認して頂きたいと考えています。具体的には以下の項目について関心があります。
①指点字法は盲ろう者、視覚障害者の方々の中でどの程度の割合で普及しているでしょうか。
②Ubitoneと連携する複数のデバイスも開発中です。これらのデバイスについても使い勝手を確認したいと考えています。
③展示製品の事業化の可能性について売価も含めて率直なご意見を伺いたいと考えています。
④展示製品が市場に認知されるために必要な改善点について忌憚りなく意見を頂きたいと考えています。

Web交流の連絡先

担当者氏名: 佐藤 光司
TEL: 090-8064-3306
E-Mail: koji.sato@ubitone.com

東京B-06

※変更場合があります。



基調講演 & 特別講演

併催セミナー
プログラム

Web交流プラットフォームの紹介と交流方法

大阪会場

東京会場

出展機器

障害当事者団体・
開発支援団体行政等

C 聴覚障害

**(仮称)がん・がん検診に関する
聴覚障害者向け情報提供システム**

聴覚障害者の方々に、がんやがん検診に関する有益な情報を届けるためのシステムです。

株式会社アイエスゲート

東京都押上二丁目20番2-401号

機器紹介



**がん検診（X線検査）における
言葉のバリアフリーを実現する**



Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

聴覚障害者の方々に、がんやがん検診に関する有益な情報を届けるためのシステムの事を多くの方々に知っていただければ幸いです。

Web交流の連絡先

担当者氏名: 宮田 充
TEL: 03-5879-4527
E-Mail: needs-seeds_info@isgate.co.jp

東京C-01

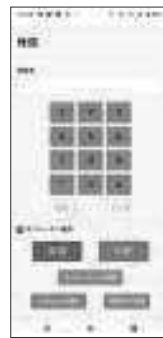
字幕電話「シーコミュ」

聴覚障害者向け字幕電話サービス

株式会社アイセック・ジャパン

沖縄県うるま市宇川崎468番地 いちゅい貝志川じんぶん館1F

機器紹介



Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

聴覚障害者から利用していただいた率直な感想をいただき、製品の改善につなげたい。

Web交流の連絡先

担当者氏名: 一瀬 宗也
TEL: 098-972-6888 FAX: 098-987-5627
E-Mail: m.ichise@iscecj.co.jp

大阪C-01

東京C-02

読話トレーニングアプリ

発話動画を見ながら口の動きを学習し、読話技能修得を目指すスマートフォンやタブレット用アプリです。

神奈川工科大学

神奈川県厚木市下荻野1030

機器紹介



Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

・実際にどのような読話訓練をされているのか、困り事はないか、どういった場面や相手に読話が必要としているか
・アプリを使用した上での感想や求める機能、画面の構成などについての意見や要望
・将来的な、アプリによる読話技能修得効果の測定

Web交流の連絡先

担当部署: 情報学部情報工学科
担当者氏名: 宮崎 剛
TEL: 046-291-3164 FAX: 046-242-8490
E-Mail: miyazaki@ic.kanagawa-it.ac.jp

大阪C-02

車載型ヒアリングループシステム

バスや移動体にヒアリングループを設備することで、難聴者の聞こえを支援し社会参加を促進する。

株式会社ソナール

京都府京都市下京区中堂寺栗田町93 京都リサーチパーク6号館302

機器紹介



Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

難聴者・聴覚障害者への聞こえの支援に関しては日本はまだ遅れています。交流会を通じてヒアリングループの特性を説明し、聞こえ支援への必要性を幅広く多くの方々に理解していただき、普及、拡大につなげたい。

Web交流の連絡先

担当部署: 営業技術
担当者氏名: 緒方 正平
TEL: 075-315-5561 FAX: 075-315-5625
E-Mail: ogata@sonar-loop.jp

大阪C-03

東京C-03

開発促進 令和4年度 開発促進事業の採択案件となります
東京会場及びオンラインにおいて、成果報告を行います

大阪出展 大阪会場に出展する機器

東京出展 東京会場に出展する機器

出展機器

C 聴覚障害

特定小電力無線通信機器 シルウォッチシステム

当該屋内信号装置「シルウォッチシステム」は聴覚障がい者に日常生活で重要な情報を無線で文字と振動で通知。

株式会社東京信友

東京都新宿区富久町16-15 新宿MYビル



Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

聴覚障害者の方々に「シルウォッチシステム」による情報通知を体感していただき、商品を知っていただくこと、他、様々な意見をお聞きして今後の製品改良に役立てます。

Web交流の連絡先

担当部署:営業部
担当者氏名:二木 貴津
TEL:03-3358-8000 FAX:03-3358-6330
E-Mail:futatsuki@shinyu.co.jp

大阪C-04

東京C-05

「こえとら」アプリ

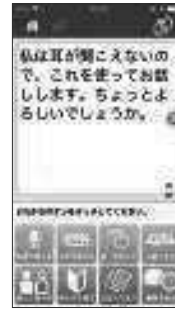
「きこえない・きこえにくい人」の「きこえる人」とのコミュニケーションを音声技術で支援するアプリです。

機器紹介



株式会社フィート

東京都新宿区大久保1-1-7 高木ビル4F



Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

「きこえない・きこえにくい人」の生活範囲を広げるためには、アプリにおけるコミュニケーションを支援する役割のほか、近年の生活に密着した社会課題に対して補完する機能が必要だと考えます。家庭、学校、および仕事などの日常生活でのコミュニケーションのほか、旅行、文化芸術、スポーツ分野などの新しい実証先の探索と、他社サービス・機器との連携により新しい可能性が広がります。

Web交流の連絡先

担当者氏名:有光 哲彦
TEL:03-5287-7391 FAX:03-3204-5984
E-Mail:akihiko.arimitsu@feat-ltd.jp

東京C-06

comuoon mobile type WSG

comuoon(コミュニケーション)は、話す側から聴こえの支援ができる全く新しいカタチの対話支援機器です。

機器紹介



ユニバーサル・サウンドデザイン株式会社

東京都港区海岸1-9-11 マリンクス・タワー2F



Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

高齢者とコミュニケーションをとる機会が多い方や、ご自身やご家族の間こえが不安な方など、聞こえに悩むすべての方々とお話ができればと思います。
昨今「ヒアリングフレイル(聴覚機能の衰え)」という新たなフレイルに注目が集まっています。コミュニケーションにとって大切な聴覚の機能の低下により、コミュニケーションがうまく行かず、それがきっかけで「作業記憶の低下」「言語理解性の低下」「聴力低下の自身の無自覚」といったことが顕在化しています。私たちユニバーサル・サウンドデザインは「音声によるコミュニケーション」を諦めません。ヒアリングフレイルの早期発見と対策、予防に関してご興味ある方はぜひお越しください!

Web交流の連絡先

担当部署:マーケティング本部 東日本エリア インサイドセールスグループ
担当者氏名:平島 柚衣
TEL:03-6435-9336 FAX:03-6745-3329
E-Mail:y-hirashima@u-s-d.co.jp

大阪C-05

東京C-04

※変更する場合があります。





基調講演 & 特別講演

併催セミナー
プログラム

Web交流プラットフォームの紹介と交流方法

大阪会場

東京会場

出展機器

障害当事者団体・
開発支援団体行政等

D 高次脳機能障害 (失語症等)

聴覚視覚発話刺激システム SAT(仮称)

□型動画・音声並びに絵カードを掲示し、斉唱、復唱、独唱を行い、訓練としての利用の他に、「ことばづくり機能」を搭載、搭載言語数は約2000語となります。

機器紹介



シズネット株式会社

大阪府大阪市北区太融寺町2-18 9F



Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

失語症当事者との交流や意見交換並びに、言語聴覚士等の医療従事者との意見交換などの実施を行いたいです。

Web交流の連絡先

担当部署:ヘルスケア事業部
担当者氏名: 諸藤 久和
TEL:080-2534-6090 FAX:06-6364-2759
E-Mail: morofuji.hisakazu@sysnet.co.jp

開発促進

大阪D-01

東京D-02

時間見当識を支援する電子カレンダー

認知症者の時間見当識を支援する電子カレンダー(iOS/android対応アプリケーション)

株式会社ソフトデバイス

京都府京都市北区上賀茂岩ヶ垣内町41 B-LOCK KITAYAMA



Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

MCI、または認知症の初期の方など、時間見当識の症状が出てきた方を対象としています。必要とされる方に、適切なタイミングで使っていただくことで価値があると考えてますので、交流会では、広くこの電子カレンダーの存在を知っていただくことができると考えています。

Web交流の連絡先

担当者氏名: 佐々木 麻美
TEL:050-1700-0101
E-Mail: sasaki@softdevice.co.jp

開発促進

大阪D-02

東京D-03

職能団体のブース出展 (2017年、2018年、2019年、2021年に出演)

障害者自立支援機器の開発側と使用する方々の情報交換の橋渡し。支援機器開発に向けた企業側との情報交換。

機器紹介



一般社団法人日本言語聴覚士協会

東京都新宿区新小川町6-29 アクロポリス東京9階



Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

自立支援機器を使用される方々と開発される企業との橋渡しを担います。コミュニケーション障害による生活のしづらさの解消についての相談や具体的なアドバイスをを行います。

Web交流の連絡先

担当部署: 広報職能部門総括
担当者氏名: 内山 量史
TEL: 090-3913-7319 FAX: 03-6280-7629
E-Mail: uchiyama@kasugai-reha.com

大阪D-04

東京D-01

ロボットと言葉のリハビリ

スクリーンに映した言語リハビリ教材(脳楽習)でロボットの司会により楽しく学べます。

機器紹介



有限会社ミカタ

千葉県松戸市小金原3-4-15



Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

失語症など言語の障害や、高次脳機能障害によるコミュニケーションに困難を持つ方、言語のリハビリを楽しく継続したい方、お仲間と交流したい方、知的障害や自閉症スペクトラム症のある方や関係者の方に実際に使っていただき、リハビリやレクリエーション企画・運営・実施する際の課題や要望について意見交換したいと考えています。

Web交流の連絡先

担当者氏名: 松本 真紀
TEL: 047-342-0575 FAX: 047-3425-560
E-Mail: matsumoto.mikata@outlook.jp

大阪D-03

東京D-04

開発促進 令和4年度 開発促進事業の採択案件となります
東京会場及びオンラインにおいて、成果報告を行います

大阪出展 大阪会場に出展する機器

東京出展 東京会場に出展する機器

出展機器

E 知的障害

iTSUMO2

GPSで居場所がわかります。

アーバン警備保障株式会社

奈良県橿原市四条町277-1-101



Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

GPS端末を所持してもらう工夫について、意見交換ができればありがたいです。

Web交流の連絡先

担当部署:アーバンテック
担当者氏名:辻 和宏
TEL:0744-23-1260 FAX:0744-23-1270
E-Mail:tsuji@itsumo-w.jp

大阪E-02

i-coco home(アイココ ホーム)

置くだけ簡単! すぐに利用できる安心センサー
『i-coco home(アイココ ホーム)』

ネクストシステムラボラトリーズ株式会社

大阪府大阪市中央区徳井町1-2-9 ZERO ONE谷町302



Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

障がい者施設の方に困っている事や解決したい問題などを重点的にお聞きしたいです。
弊社商品の改善点などもお聞きし、今後の開発に活かしていきたいと考えております。

Web交流の連絡先

担当部署:IoTみまもり支援事業部
担当者氏名:本永 尚美
TEL:06-4791-2002 FAX:06-4791-2012
E-Mail:i-coco@nsl-net.co.jp

大阪E-03

みまもりCUBE

独自の映像解析ソフトウェアにて、ドアの出入りやベッドからの離床をお知らせ(画像付きメール)する事が出来ます。

株式会社ラムロック

福岡県飯塚市勢田1950-1

機器紹介



Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

実際に「みまもりCUBE」(在宅向け商材)を飛び出し通知用途及びみまもり用途(スピーカー・マイク機能を用いたコミュニケーション用途含む)でご利用いただいているが、その他どのようなシチュエーションでの利用用途が考えられるか。
また施設向け「みまもりCUBE-システムLight-J」(見守り支援機器)も施設からの飛び出し及び離床通知用途以外での活用方法を模索している為、在宅と同じく利用用途や開発の必要性を意見交換で聞き取りをおこないたい。
必要に応じて実機をご利用いただいていたからの聞き取りも検討しております。

Web交流の連絡先

担当部署:サービス事業本部
担当者氏名:獅子堂 正哉
TEL:090-5884-5251 FAX:0948-92-3157
E-Mail:shishidou@ramrock.co.jp

大阪E-04

※変更する場合があります。



F 精神障害 (発達障害を含む)

タイムスケジュールボード (仮称)

時間が読めない知的障害の方でも、時間の分量が感覚的にわかるカードで一日の予定を表示するスケジュール。

アドプラス

大阪府東大阪市花園西町2-6-14



Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

時間の管理についてどのような困りごとがあるのか。どのような行動に時間がかかり、時間に追われるのはどんな時かなど、他、困り感のある方がどのくらいおられるのかも聞き取りをしたい。また、発達障害の方の日常の行動とそれに係る時間などもなるべく多くの方に聞き取りしたい。

Web交流の連絡先

担当者氏名: 中井 美恵
TEL: 080-3834-0011 FAX: 072-965-4608
E-Mail: addplus@me.com

大阪F-01

アザラシ型ロボット・パロ

人の心を豊かにするアザラシ型ロボット・パロ

機器紹介



国立研究開発法人産業技術総合研究所

茨城県つくば市梅園1-1-1



Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

様々な障害者の方々や、その関係者の方々に、パロとふれあって頂き、目的に合わせてパロの効果を最大にするためのパロの機能や性格等について意見交換を行う。

Web交流の連絡先

担当部署: 人間情報インタラクション研究部門
担当者氏名: 柴田 崇徳
TEL: 029-862-6586
E-Mail: shibata-takanori@aist.go.jp

大阪F-02

東京F-01

障害者の体調悪化兆候検知 Hacha

HaChaは体調悪化兆候をセンサーとAIを使って検出し、休まず働ける日々実現をサポートします。

機器紹介



Zero To Infinity株式会社

東京都新宿区新宿2丁目12番13号 新宿アントレサロンビル2階



Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

障害者就労移行支援様、精神科様、障害者就労継続支援様、定着支援様と交流し、現場に即した使い方、ユーザーニーズをお聞きし、より使いやすい製品にしたい。

Web交流の連絡先

担当者氏名: 佐川 亜希
TEL: 090-9112-3419
E-Mail: sagawa@zti.co.jp

大阪F-03

東京F-02

口腔ケア支援ソフト 「はっするでんたー PRO」

イラストや動画を用いて視覚的な支援により心理的負担を減らすことを目的とした口腔ケア支援ソフト

株式会社マイクロブレイン

埼玉県さいたま市見沼区大和田町1-958-1 KCC3ビル3階



Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

生活支援の中で口腔ケアやスケジュールによる資格支援を行っているような施設や、歯科病院、支援学校等の利用者に関わりたくです。

Web交流の連絡先

担当者氏名: 金子 訓隆
TEL: 048-687-9841 FAX: 048-687-9716
E-Mail: noritaka@microbrain.jp

大阪F-04

開発促進 令和4年度 開発促進事業の採択案件となります
東京会場及びオンラインにおいて、成果報告を行います

大阪出席 大阪会場に出展する機器

東京出席 東京会場に出展する機器

基調講演 & 特別講演

併催セミナー
プログラム

Web交流プラットフォームの紹介と交流方法

大阪会場

東京会場

出展機器

障害当事者団体・
開発支援団体行政等

出展機器

G その他

マゴスピーカー

スマホの操作が苦手な方も3つのボタンで簡単にお使いいただける双方向通信が可能なIP情報端末です。

株式会社クレバーラクーン

茨城県下妻市長塚264-2

機器紹介



Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

災害時の情報伝達手段と安否確認、平時の高齢者や障害者の見守りなどのシステムをお求めになられている自治体や団体や医療機関の皆様は、弊社のシステムやデバイスの概要を説明させていただくと共に、様々なニーズやシーズやアイデアをお教えいただき、今後のシステム拡張や新規デバイス開発などの参考にさせていただきたいと考えております。

Web交流の連絡先

担当者氏名: 増田 和順
TEL: 050-5370-2877
E-Mail: ricmania@gmail.com

大阪G-01

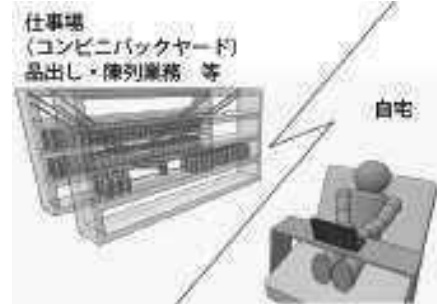
東京G-02

障害者向けの空間移動ロボットを用いた遠隔就労システム

自宅にいながら人の役に立つ。生きがいを見つける。障害者の就労選択肢・可能性を広げる空間移動ロボット

ダブル技研株式会社

神奈川県座間市栗原920-7



Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

障害者の「就労」に対する意欲や要望・生活スタイル・職務に対する期待や希望・勤務時間等々、就労における全てにおいて、障害者特性に応じたニーズを収集したいです。

Web交流の連絡先

担当部署: 経営企画室
担当者氏名: 和田 始竜
TEL: 046-206-5611 FAX: 046-253-7711
E-Mail: ml-communication@j-d.co.jp

開発促進

東京G-01

vitalvoice 及び つながるくん

本製品はバイタルウォッチを通じ、4つのバイタルを24時間自動計測、第3者通知できるシステムデバイスです。

株式会社バイタルヴォイス

岡山県総社市泉15-44 2F



Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

医療・介護現場で弊社製品における現場のニーズリサーチ及び、活用が予想される現場での有効的な製品活用方法等

Web交流の連絡先

担当者氏名: 安原 大輔
TEL: 0866-31-5775 FAX: 050-3145-2227
E-Mail: d.yasuhara@vitalvoice.jp

大阪G-02

TeladocHealth

TeladocHEALTHは、遠隔地にいる医療従事者をオンラインでつなぐ、リモート操作可能なリアルタイム遠隔医療システムです。

PHC株式会社

東京都渋谷区渋谷3-9-9 東京建物渋谷ビル7階



Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

障がい者施設の職員や施設看護師や医療従事者との交流を通し、医療連携というテーマで現場の課題やニーズを知りたいです。

Web交流の連絡先

担当者氏名: 吉田 力
TEL: 070-1503-6673
E-Mail: chikara.yoshida@phchd.com

東京G-03

※変更する場合があります。

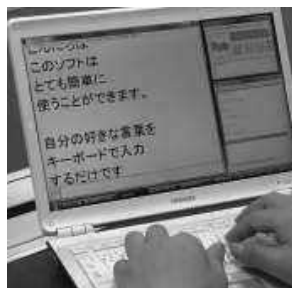


自分の声ソフトウェア「ボイスター」

ボイスターは、声を失われる人に向けた「自分の声」で語り掛けるための音声合成ソフトウェアです。

株式会社ヒューマンテクノシステム

愛知県名古屋市中区錦3-7-9 太陽生命名古屋第2ビル6階 ユニコム人形町ビル2階



Webプラットフォーム
詳細ページ



希望する交流の内容

- ・ALSや喉頭がんをはじめ、様々な発話障がいを伴う当事者に対して本製品を紹介し、個別のニーズに関するヒアリング・意見交換を行う。
- ・医療・リハビリ介護スタッフの方に対し、現場におけるニーズ等に関するヒアリング・意見交換を行う。
- ・現状製品について、製作過程やデモンストレーション、利用事例等を交えた紹介を行い、改善要望やその実現性について意見交換を行う。
- ・障害補正技術について、構音障害をお持ちの方のニーズに沿うものか、デモ音声の聴取を通してヒアリングを行う。
- ・収録システムで声を収録するにあたって、収録するスタッフの立場や、収録される障害者の立場での要望について意見交換を行う。

Web交流の連絡先

担当部署: プロダクツ事業部
 担当者氏名: 渡辺
 TEL: 03-5847-1206(代表) 052-684-7451(富田直通)
 FAX: 03-5847-1207
 E-Mail: voistar@kkhts.com

大阪G-03

ウェアラブル嚔下計 / 摂食嚔下モニタリング解析サービス「GOKURI」

誤嚥性肺炎のリスクを管理し、共に見守る、ウェアラブル嚔下計 / 摂食嚔下モニタリング解析サービス

機器紹介



PLIMES株式会社

茨城県つくば市天王台1-1-1 ILC 201



Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

デバイスの装着感・形状、アプリの操作性
 自宅、デイサービス等施設で誤嚥リスクの経験とその対応
 食事に関わる内容について医療連携、見守りの状況

Web交流の連絡先

担当部署: 広報
 担当者氏名: 松田 佐保
 TEL: 029-853-5818
 E-Mail: pr@plimes.com

東京G-04

To walk

ハンマートゥーに代表される足趾屈曲障害の補正具

株式会社ロバの耳

宮城県仙台市青葉区木町通1-2-32 清菱ハイツ303



機器紹介



Webプラットフォーム詳細ページ



希望する交流の内容

医療関係者による製品評価(感想やご意見)・麻痺や様々な原因による足趾の変形の現状に関する意見交換(推定患者数が把握されていない事や、現行の医療保険制度では、足趾の矯正(補正)器具に対して適応する一般的な名称が存在しない事について、等)、当該製品のモニター評価(生活動作の改善状況、等)のご報告、その他。

Web交流の連絡先

担当者氏名: 菅原 亮
 TEL: 022-346-6117 FAX: 022-346-6118
 E-Mail: ktcqx748@yahoo.co.jp

東京G-05

福祉機器コンテスト2022 受賞作品展示コーナー



お問い合わせ先

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会



大阪出張

開発促進

令和4年度 開発促進事業の採択案件となります
東京会場及びオンラインにおいて、成果報告を行います

大阪出張

大阪会場に出展する機器

東京出張

東京会場に出展する機器

基調講演 & 特別講演

併催セミナー
プログラム

Web交流プラットフォームの紹介と交流方法

大阪会場

東京会場

出展機器

障害当事者団体・
開発支援団体行政等

障害当事者団体・開発支援団体・行政等

一般社団法人 日本ALS協会

東京都千代田区九段北1丁目1番7号 カーサ九段405
担当部署:本部事務局
担当者氏名:岸川 忠彦
TEL:03-3234-9155 FAX:03-3234-9156
E-Mail:jalsa@alsjapan.org



大阪X-01

東京X-02

一般社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会

東京都新宿区市谷台町14-5 MSビル1階
担当部署:情報文化部
担当者氏名:小川 光彦
TEL:03-3225-5600(※極力メールまたはFAXにてお願いします)
FAX:03-3354-0046
E-Mail:zennancho@zennancho.or.jp



大阪X-04

東京X-07

ASD(自閉スペクトラム症)生活環境研究会

大阪府和泉市箕形町6丁目7-40(増澤気付)
担当部署:事務局
担当者氏名:増澤 高志
TEL:072-444-8814 FAX:0725-54-1283
E-Mail:JZA00265@nifty.ne.jp



大阪X-06

東京X-09

公益社団法人 全国脊髄損傷者連合会

東京都目黒区緑が丘2-15-14 村上ビル102
担当部署:事務局
担当者氏名:吉谷 香織
TEL:03-6421-4588 FAX:03-6421-4665
E-Mail:yoshitani@zensekiren.jp



東京X-01

社会福祉法人 全国盲ろう者協会

東京都新宿区早稲田町67番地 早稲田クローバービル3階
担当部署:事務局
担当者氏名:橋間 信市
TEL:03-5287-1140 FAX:03-5287-1141
E-Mail:info@jdba.or.jp



大阪X-03

東京X-06

社会福祉法人 日本視覚障害者団体連合

東京都新宿区西早稲田2-18-2
担当部署:事業部
担当者氏名:逢坂 忠
TEL:03-3200-0011(ガイダンス1) FAX:03-3200-7755(代表)
E-Mail:aisaka-t@jfb.jp



東京X-05

社会福祉法人 日本身体障害者団体連合会

東京都豊島区目白3-4-3
担当者氏名:佐藤 加奈
TEL:03-3565-3399 FAX:03-3565-3349
E-Mail:kana.sato@nissinren.or.jp



東京X-04

特定非営利活動法人 日本失語症協議会

東京都杉並区久我山2-10-23
担当部署:事務局
担当者氏名:園田 尚美
TEL:03-5335-9756 FAX:03-5335-9757
E-Mail:sonoda@japc.info



大阪X-05

東京X-08

ポリオの会

東京都台東区三ノ輪1-6-5-602 小山方
担当部署:世話役
担当者氏名:小山 万里子、丸橋 達也
TEL:03-3872-7359 FAX:03-3872-7359
E-Mail:koyama@mrg.biglobe.ne.jp



大阪X-02

東京X-03

国立研究開発法人 科学技術振興機構(JST)

東京都千代田区五番町7 K's五番町 JST東京本部別館
担当部署:起業支援室
担当者氏名:下田 修
TEL:03-6380-9014 FAX:03-5214-0017
E-Mail:entre@jst.go.jp



国立研究開発法人 情報通信研究機構(NICT)

東京都小金井市貫井北町4-2-1
担当部署:デプロイメント推進部門 情報バリアフリー推進室
担当者氏名:武井 康人
TEL:042-327-6022 FAX:042-327-5706
E-Mail:kakusa@ml.nict.go.jp



大阪会場

東京会場

厚生労働省 社会・援護局障害保険福祉部 企画課自立支援振興室

東京都千代田区霞が関1-2-2
TEL:03-5253-1111



大阪会場

東京会場

公益財団法人 テクノエイド協会

東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ4F
担当部署:企画部
担当者氏名:宇田川、根石、五島
TEL:03-3266-6883 FAX:03-3266-6885
E-Mail:shogai-kiki2@techno-aids.or.jp



大阪会場

東京会場

障害者自立支援機器

ニーズ・シーズマッチング 交流会 2022

使う人と作る人の交流会



みんなで考えよう!



Web 交流プラットフォーム

令和4年10月1日(日)～令和5年1月31日(火) 4か月間

■ 出展機器を調べたり、交流したい企業等を探すことができます。



<http://www.techno-aids.or.jp/2022koryukai/web/hall/cms/#part20>

大阪会場

令和4年11月28日(月)～30日(水) 3日間

● 会場で聴講→OMM (2階展示Aホール)

● オンラインによる視聴→<https://us06web.zoom.us/j/83295180896?pwd=dyttMmRoQWWhoY0l0cXVuMnIndHRlUT09>



東京会場

令和4年12月14日(水)～16日(金) 3日間

● 会場で聴講→東京都立産業貿易センター浜松町館 (2階展示室)

● オンラインによる視聴→<https://us06web.zoom.us/j/81419433146?pwd=clF2eXM0NXpndVYzEkE0KzNlcUk1dz09>



Web開催
セミナー配信

令和4年10月1日(日)～令和5年1月31日(火) 4か月間

● オンラインによる視聴→<http://www.techno-aids.or.jp/2022koryukai/web/hall/cms/#webseminar>



Webコンテンツの紹介と交流方法

本誌P.5～P.6をご参照ください。

※オンラインによる交流は令和5年1月31日(火)までとさせていただきます。

併催セミナープログラム

本誌P.2～P.4をご参照ください。

出展機器

本誌P.11～P.32をご参照ください。

Web交流やセミナー視聴に関する問い合わせ

ニーズ・シーズマッチング交流会2022事務局

公益財団法人テクノエイド協会 企画部 宇田川・根石・五島

受付時間：平日9時～12時、13時～17時

TEL:03(3266)6883 メールアドレス:shogai-kiki2@techno-aids.or.jp

※最新版は、
協会ホームページを
ご確認ください。

202211-ver.05

みんなで考えよう！ 障害者自立支援機器
「ニーズ・シーズマッチング交流会 2022」
 ～ 使う人と作る人の交流会 ～
「出展企業等」募集要項

障害者及び障害児（以下「障害者」。）の自立を支援する「障害者自立支援機器（以下「支援機器」。）」は、障害者の活動や参加を促すものとして、極めて重要な役割を果たすものです。

一方、障害者福祉の現場において、真に必要とされる支援機器を開発するためには、開発の早い段階からユーザや支援者の「ニーズ」と、開発や研究者等の「シーズ」をマッチングすることが大切であり、開発者はシーズ志向型にならないよう、障害者の置かれている状態は勿論のこと、障害福祉現場の課題やニーズを的確に捉えて、支援機器を開発することが重要となります。

この交流会では、ユーザ側が持つ「ニーズ」と開発側が持つ「シーズ」のマッチングを目的とした支援機器に関する交流会を企画・開催し、実用的な支援機器が開発されるよう、試作器等（既に実用化した機器も可。）を用いて想定するユーザと開発側が膝を交えて意見交換できる場を設けるとともに、効果的なモニター評価等を行う機会を創出することといたします。

交流会へ出展（無料）を希望する方は、本募集要項をご留意いただき、所定の期日までに「出展申込」を行ってください。

なお、出展希望が多数の場合には、申請内容及び、障害の種別や機器の分野等、全体のバランスを勘案することとし、出展をお断りする場合があります。予めご了承ください。

- ※ニーズ側：障害者、家族、在宅・施設等の介護職員、医療・福祉の業務に従事し障害者の福祉や訓練に係わる者 等
- ※シーズ側：開発メーカー、地域の産業振興団体、新規参入を検討する企業・研究者、大学・研究機関 等

< Web開催(4カ月) >

- 開催日 令和4年10月1日(土)～令和5年1月31日(火)
- サイト テクノエイド協会HP内「Web交流プラットフォーム」

※動画等の発信とオンライン上の交流

< 大阪会場(3日間) >

- 開催日 令和4年11月28日(月)～30日(水)
- 時間 初日13:00～17:00 / 9:00～17:00（最終日のみ16:00）
- 会場 OMM(2階展示Aホール)

< 東京会場(3日間) >

- 開催日 令和4年12月14日(水)～16日(金)
- 時間 初日13:00～17:00 / 9:00～17:00（最終日のみ16:00）
- 会場 東京都立産業貿易センター浜松町館(2階展示室)

※ 新型コロナウイルス感染症の今後の動向により、イベント開催の自粛が予測される場合には、無来場者開催（Web）に切り替えることといたします。

目次

I. 交流会の目的と概要.....	2
II. 出展申込の方法及び募集する数、申込期限.....	3
III. 出展対象者と機器の条件等.....	5
IV. 出展小間の仕様、備品等.....	6
V. 新型コロナ対策等について.....	7
VI. WEB開催時における出展者の個人ページ.....	8
VII. 会場までのアクセス方法.....	9
VIII. 出展にあたっての注意事項.....	11
IX. 招待する関係団体等、問い合わせ先.....	13
◆昨年度の開催状況について(参考).....	14

1. 交流会の目的と概要

1. 交流会の目的

本交流会は、自立支援機器の開発を促進することを目的に、障害当事者をはじめ、ご家族や福祉・医療従事者などの「機器を使う側(ニーズ)」の方々と、開発企業や大学、研究機関、産学官交流振興組織などの「機器を作る側(シーズ)」の方々が、じっくり膝を交えて交流することを目的とするものです。

- ※ニーズ側：障害者、家族、在宅・施設等の介護職員、医療・福祉の業務に従事し障害者の福祉や訓練に係わる者 等
- ※シーズ側：開発メーカー、地域の産業振興団体、新規参入を検討する企業・研究者、大学・研究機関 等

2. 開催概要

①イベント名称：**障害者自立支援機器「ニーズ・シーズマッチング交流会 2022」**

②開催日程・場所：

<Web開催>

- 開催日 / 令和4年10月1日(土)～令和5年1月31日(火)
- サイト / テクノエイド協会HP内「Web交流プラットフォーム」

<大阪会場>

- 開催日 / 令和4年11月28日(月)～30日(水)
- 会場 / OMM(2階展示Aホール)

<東京会場>

- 開催日 / 令和4年12月14日(水)～16日(金)
- 会場 / 東京都立産業貿易センター浜松町館(2階展示室)



※新型コロナウイルス感染症の今後の動向により、イベント開催の自粛が予測される場合には、無来場者開催（Web）に切り替えることとします。

③期間中：**支援機器の展示・相談、デモンストレーション、意見交換等の実施**

Web開催では、動画やテキスト情報を掲載し、掲示板や個別の問い合わせフォームを利用して交流を深めることとします。

④併催イベントの概要（予定）： ※プログラムは変更する場合があります。

（Web開催）※期間中の視聴が可能

1. 交流会の実施について（Webを活用した交流の進め方）
2. 厚生労働省 調査研究事業報告
3. その他



（大阪・東京会場）※オンラインにて配信予定

1. 基調講演
2. 特別講演
3. 特別イベント
4. 支援機器開発企業の発表
5. 出展企業等の発表
6. 開発促進事業の成果報告 他



⑤出展料：「**無料**」（但し、動画等の作成や搬出入に係る費用は自己負担となります。）

II. 出展申込の方法及び募集する数、申込期限

1. 申込方法

出展を希望する方は、下記の「**出展申込専用ページ**（Google forms）」より、必ず所定の期日までにお申し込みください。なお、申請にあたってはGoogleのアカウントが必要となります。

この原稿はパンレット等にも活用します。入力内容に漏れや誤植が無いようお願いいたします。

- 公益財団法人テクノエイド協会 → <http://www.techno-aids.or.jp/>
- 出展申込専用ページ → <https://forms.gle/VbCPSupfhQ9z5DzJ7>



2. 出展募集する数

大阪会場、東京会場共に**60社**を募集します。
下記のいずれから選択してください。

- ◆大阪会場と東京会場、Web開催
- ◆大阪会場とWeb開催
- ◆東京会場とWeb開催

※会場開催のみ又は、Web開催のみの出展は認められません。

3. 申込期限

令和4年6月30日(木)16:00必着

※締切りを過ぎた後の申込みは受付いたしません。

4. 出展者の決定

申請された内容に不備がないか、過去の出展状況等を勘案し、当協会にて決定します。
出展希望が多数の場合には、申請内容及び、障害の種別や機器の分野等、全体のバランスを勘案することとし、出展をお断りする場合があります。予めご了承ください。
出展の可否につきましては、協会より通知します。

5. 出展料金

無料（但し、動画等の作成及び出展に伴う駐車料金や搬出入等に伴う費用は自己負担。）

6. 出展申込に関する問い合わせ

公益財団法人テクノエイド協会 企画部 担当者 宇田川、根石（ねいし）、五島

電話番号 03-3266-6883

電子メールアドレス shogai-kiki2@techno-aids.or.jp

※現在、新型コロナウイルスを予防するため、就業時間を8時～16時としております。

本交流会の業務の一部を委託する予定です。本年度の委託先が決定しだい委託先から直接ご連絡がありますので、ご対応ください。



Ⅲ. 出展対象者と機器の条件等

1. 出展対象者

以下のすべての事項を満たす方とします。

- 障害者向けの支援機器を開発中の企業等で、かつ試作器を出展できる企業・個人等
※但し、既に商品化した支援機器であっても、ニーズを踏まえた改良の意向がある場合は参加を認めることといたします。
- 障害当事者等と交流を深めてニーズをくみ取り、良質な支援機器の開発や改良を目指している企業・個人等

開発企業以外で出展ご希望の際は、協会までお問い合わせください。

2. 出展機器の条件

- 開発や改良を目的とした機器であること。
- 障害当事者等のニーズを聞き取り、開発や改良、改善を目的とする機器であること。
- 障害者の活動や参加を支援する要素技術等であること。
- 高齢者向けの機器は除きます。
- 営業や販売を目的とする機器の出展は除きます。
- 1企業、原則1機器とします。

3. 出展にあつての留意事項

(1) Web開催

- ・ 交流を深める方策として、10分以内の動画又は、音声や動画が入った PowerPoint（以下「動画等」）を出展者自身で作成いただきます。（作成は任意とします）
- ・ 動画等には、開発中の製品紹介をはじめ、対象者、機器の使用法、活用方法等の内容を盛り込んでいただきます。
- ・ 障害者に対する情報保障は、各社にてお願いいたします。
- ・ 作成した動画等は、当協会の Youtube アカウントで公開することといたします。
◆参考 昨年度の動画
<https://www.youtube.com/channel/UCIFv-6yXArnXyAwQM8rq17A/videos>
- ・ 本交流会は、ニーズとシーズのマッチングを目的としているため、販売を促進する内容の動画等は認められません。

- ・ 出展者を対象に、令和4年7月11日（月）13時30分より、オンライン説明会を開催します。必ず参加してください。

(2) 大阪及び東京会場

- ・ 出展申込をしないで、会場へ支援機器を持ち込むことはできません。
- ・ 交流会では販売活動は禁止です。
- ・ 会場にて来場者や他の出展者等に迷惑行為を行った場合には即時退場を命じます。協会の指示に従ってください。

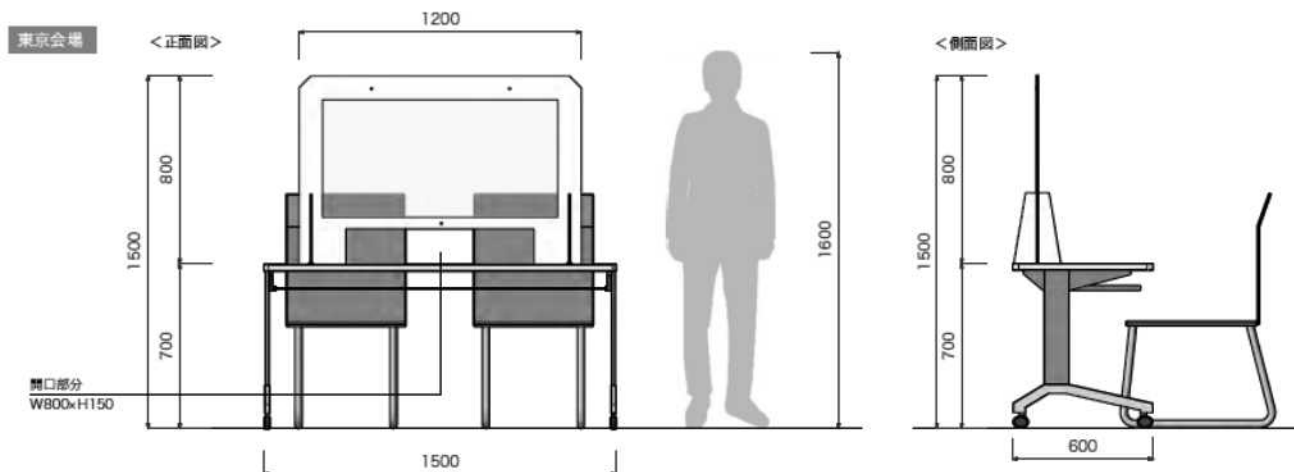
IV. 出展小間の仕様、備品等

1. 出展小間イメージ

下図の備品は、基本設備となります。

背面に壁やバックパネルの用意はありませんので、各自で準備をお願いします。
但し、新型コロナ対策の一環として、感染防止パネルは事務局で用意いたします。

東京会場のブースのイメージ



2. 仕様・備品等

(1) 小間の仕様

- ・展示スペース：3,000mm×2,000mm
※昨年度の展示スペースであり、変更となる場合があります

(2) 基本の設備

- ・テーブル1台（W1,500mm×D600mm×H700mm）
- ・椅子2脚

(3) 追加備品の取り扱い

- ・パネルを貼るスタンドやカタログスタンド、電源の延長ケーブル等は、必要に応じて自社で用意してください。
- ・電源（100V）が必要な場合には、出展申込時に必ず記載してください。

(留意事項)

各会場では、会場設営において施工及び電気工事業者が入る予定ですが、基本的に自社にてご準備いただきますようお願いいたします。
ご不明な点は、事務局までお問い合わせください。

V. 新型コロナ対策等について

1. 会場開催の留意事項

新型コロナウイルス感染症の今後の動向により、イベント開催の自粛が予測される場合には、無来場者開催（Web）に切り替えることといたします。

会場では、以下の事項を徹底することとし、協会及び委託事業者にて以下の感染予防対策を徹底いたします。

①三密を避けること。

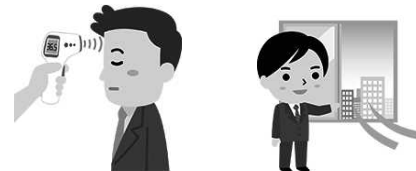
- 会場内の換気を定期的に行うこと。
- 出展者の間隔を十分にあけること。
- 参加者の座席の間隔を十分にあけること。



②来場者等へ手指の消毒やマスクの着用を要請すること。

③参加者を特定できるよう、来場者の連絡先を記載した名簿を作成すること。

④出展者及び来場者の体温検査を行うこと。



また、出展者の皆様、来場される方々におかれましては、以下の感染予防対策をお願いいたします。

①開催日に自宅等での検温

- 来場いただく前に自宅等で検温をお願いします。
- 37.5度以上の発熱、頻回に咳が出る、あるいは少しでも体調に異変を感じる場合は来場をお控えください。

②マスクの着用、手指の消毒

- マスクは自社・自身で用意してください。
- ブースなどで使用される消毒液は出展者にてご用意ください。



③飛沫感染予防を前提とした交流

- マスクを外したまま来場者と会話する等、飛沫感染が発生し得るような交流は控えください。
- 出展機器について、随時消毒をするなど、自社・自身で感染症予防を行ってください。



VI. Web開催時における出展者の個人ページ

1. 出展者個人ページ（昨年度のメージ）

出展者ごとの個人ページを設け、来場者は出展者のページに入ること、製品動画の視聴や掲示板や個別の問合せフォームを使って意見交換や交流を行うことを想定しています。

● 身体障害（肢体不自由）
ページの先頭へ

公益財団法人テクノエイド協会

生活利用用具（自助具）データベースシステム

今までの閲覧数

298

出展者情報

東京会場に出展

会場では実機を見ることができます。

生活利用用具（自助具）データベース



住所： 〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ4F

担当部署： 企画部

TEL： 03-3266-6883

FAX： 03-3266-6885

メールアドレス： shogai-kiki2@techno-aids.or.jp

HP： http://www.techno-aids.or.jp

その他：

出展機器

出展機器	生活利用用具（自助具）データベースシステム
型番	
障害種別	身体障害（肢体不自由）
機器の概要	自助具製作に活用できる素材や材料、工作方法等に関する情報提供を通じ、適切かつ効果的な自助具製作等に係る普及啓発を行う。

交流したい内容

当システムの使い勝手、より良いシステム作りへのご意見について

この機器について、問い合わせする
(交流を希望する)

交流を希望するの活用方法

当該機器について、メーカーにうかがったこと、意見交換や交流したことがあれば、連絡をして電話やオンラインで交流してください。クリックすることにより、問い合わせフォームが開きます。

[シーズ・ニーズマッチング交流会 公式パンフレットPDF](#)

[シーズ・ニーズマッチング交流会 パンフレット \(1枚もの\)](#)

[交流会開催期間中の併催セミナーを視聴](#)

掲示板

この機器について、新しく投稿する
(掲示板)

掲示板の活用方法

二側制は、当該機器に対する要望やアイデア、課題を、シーズ側（出展者を含む）は、交流したい具体的な内容や機器の特長、会場出展に向けてのPRをそれぞれ記載してください。

※上記はあくまでイメージであり、実際の画面と異なる場合があります。

8
- 190 -

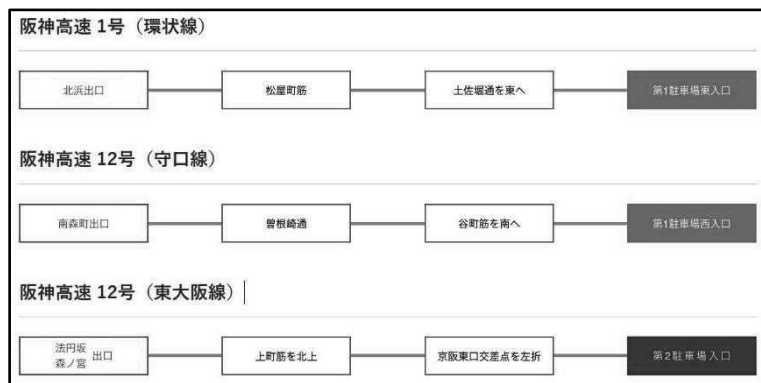
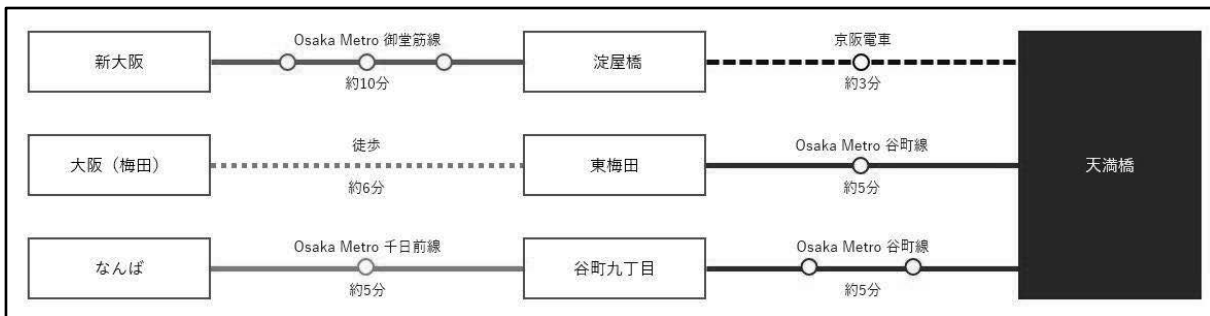
VII. 会場までのアクセス方法

1. 大阪会場 OMM (2階展示Aホール)



住所 大阪府大阪市中央区大手前 1-7-31

ホームページ <https://www.omm.co.jp/access/>



< 公共交通機関のご案内 >

- Osaka Metro 谷町線「天満橋」駅北改札口
- 京阪電車「天満橋」駅東改札口
- ⇒ OMM地下2階に連絡(改札を出るとすぐに案内表示があります)

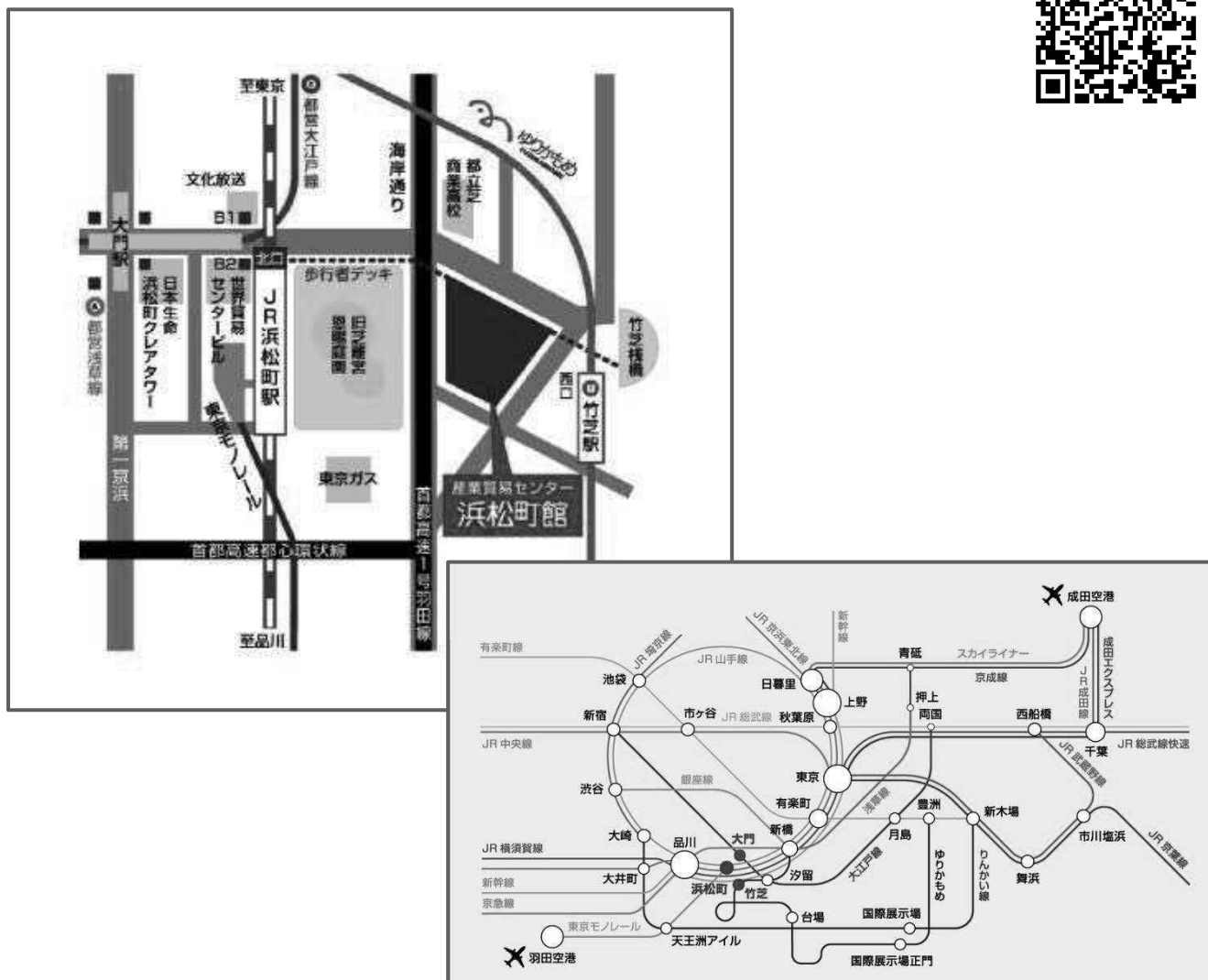
< 駐車場のご案内 >

第一及び第二駐車場があります。なお、割引券の配布は行いませんのでご了承ください。

2. 東京会場 東京都立産業貿易センター浜松町館（2階展示室）

住所 東京都港区海岸1-7-1

ホームページ <https://www.sanbo.metro.tokyo.lg.jp/hamamatsucho/access/>



< 公共交通機関のご案内 >

- JR 浜松町駅（北口）から徒歩5分
- 東京モノレール 浜松町駅（北口）から徒歩5分
- ゆりかもめ 竹芝駅から徒歩2分
- 都営浅草線 大門駅から徒歩7分
- 都営大江戸線 大門駅から徒歩7分

車いすで来場される方は、ゆりかもめ「竹芝駅」を利用してください。

< 車でお越しの場合 >

- 都心環状線「芝公園IC」出口より約10分、「汐留IC」出口より約10分
- 羽田線「芝浦IC」出口より約10分

< 駐車場のご案内 >

地下1階にビル共有の有料駐車場があります。（産業貿易センター専用の駐車場ではありません）

なお、割引券の配布は行いませんのでご了承ください。

VIII. 出展にあたっての注意事項

1. 出展申込

- 本出展要項をご確認いただき、期日までに必ずお申込みください。
- 期限を過ぎた申込は受付いたしません。
- 出展内容が交流会の趣旨に合わないと協会が判断した場合、出展をお断りします。これにより生ずる損害に対し、協会は一切の責任を負いません。

2. 出展の取りやめ

- 出展の取りやめは出展の決定から原則10日以内とし、協会に申し出てください。
- 協会の判断により正式な取りやめを決定します。（なお、パンフレット等の作成状況によっては、出展取りやめの依頼をいただいても、情報が掲載されたままとなる場合があります）
- 協会に断りなく無断で出展取りやめをした場合には、今後の交流会の出展を認めない場合があります。

3. 提出物について

- パンフレットやWeb交流プラットフォーム作成のため、出展者情報や出展機器情報のご提出をお願いいたします。その他、事務局より資料等の請求があった場合には事務局の指示に従うようお願いいたします。

4. 出展の可否、小間位置の決定

- 障害の種別や支援機器の分野等、全体のバランスを勘案し、最終的には協会にて出展の可否を決定することといたします。また、小間位置の割り当ても協会にて行います。

5. 会場内の行為の制限

- 出展者は協会の承諾なしに、通路、休憩所など自らの出展スペース以外での展示・宣伝を行うことはできません。
- 来場者や他の展示者に迷惑を与えるような音、光、熱、臭気を伴う行為や危険と認められる実演はできません。

6. 駐車場

- 会場によって車での搬出入の利用方法は異なるため、事務局の指示に従ってください。
- 期間中の駐車場は出展者で確保してください。なお、割引券は協会では発行しません。

7. 管理保全

- 協会は管理者としての注意をもって会場全般の管理にあたります。ただし、各出展物の管理は出展者が自己の責任と費用にて行ってください。協会は出展物の損害に対しての一切の保証を負いません。

8. 損害賠償

- 出展者及びその代理人が他社の小間、協会の運営設備又は展示会場の設備及び人身等に損害を与えた場合、また、搬出入時や交流会開催期間中に発生した出展物の損傷・紛失等について、その補償は出展者の責任において行うものとし、協会は一切の責任を負いません。

- 出展物の輸送及び展示中の保護については、必要に応じて保険をかけるなど適切な対策を講じてください。

9. 消防・安全

- 出展者は、会場に適用される消防及び安全に係わる全ての法規、規則を厳守しなければなりません。

10. 交流会の中止

- 協会は天災などの不可抗力により、交流会の開催が困難と判断した場合、延期又は中止することがあります。また、その際に生じた損害について協会は責任を負わないものとします。
- 新型コロナウイルス感染症の今後の動向により、イベント開催の自粛が予測される場合には、会場開催を中止しWeb開催に切り替えることとします。

11. 法的保護等

- 交流会におけるアイデアの模倣及び交流時等に関するトラブルについて、協会は一切の責任を負いません。特許など特別なノウハウ等についての知的財産権は出展者の責任において対応してください。

12. 法令、規約の厳守

- 出展者は、日本国内の各種法令を遵守するとともに、協会が定める一連の規約（募集要項、出展マニュアル等）を本契約の一部とし、これを遵守することに同意するものとします。
- 万一、法令、規約に違反した場合、協会は理由の如何にかかわらず出展を拒否もしくは取り消すことがあります。これによって生ずる損害に対し、協会は一切の責任を負わないものとします。

13. アンケート調査、ご協力をお願い

- 交流会は国庫補助事業により開催するものです。
- 交流会参加の目的を明確化するとともに、その成果を評価する必要があります。事務局から依頼のあったアンケート調査には必ずご回答ください。

14. 写真等の撮影について

- 報道を含めた関係者を除き、会場開催、Web開催共に講演中の撮影・録音・録画の行為は一切禁止とします。
- 交流会では、開発途中の機器等が出展されています。写真や動画を撮影する場合には、必ず協会と撮影する企業等の許可を得てください。
- 協会では交流会の様子を各方面へ広報するため、交流会の期間中、機器やシンポジウム等の様子を写真や動画で撮影しますので、予めご了承ください。なお、写真や動画の撮影を拒否する場合には予め申し出ください。

IX. 招待する関係団体等、問い合わせ先

1. 関係団体等（予定）

（1）障害当事者団体

- ・ 公益社団法人 全国脊髄損傷者連合会
- ・ 一般社団法人 日本ALS協会
- ・ 社会福祉法人 日本視覚障害者団体連合
- ・ 一般社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会
- ・ ポリオの会
- ・ ASD（自閉スペクトラム症）生活環境研究会
- ・ 特定非営利活動法人 日本失語症協議会
- ・ 社会福祉法人 日本身体障害者団体連合会
- ・ 社会福祉法人 全国盲ろう者協会

（2）開発支援機関等

- ・ 国立研究開発法人 情報通信研究機構（NICT）
- ・ 国立研究開発法人 科学技術振興機構（JST）

2. 交流会に関するお問い合わせ

公益財団法人テクノエイド協会 企画部 担当者 宇田川、根石（ねいし）、五島
電話番号 03-3266-6883
電子メールアドレス shogai-kiki2@techno-aids.or.jp

※現在、新型コロナウイルスを予防するため、就業時間を8時～16時としております。

本交流会の業務の一部を委託する予定です。本年度の委託先が決定しだい委託先から直接ご連絡がありますので、ご対応ください。

◆昨年度の開催状況について(参考)

令和3年度の交流会の開催状況は、以下のとおりです。

- 専用ホームページ <http://www.techno-aids.or.jp/needsmatch/2021index.shtml>
- 開催結果の報告書 http://www.techno-aids.or.jp/needsmatch/202203needs_report.pdf

1. 東京会場 事前登録者 ※登録重複者は除く

	合計
東京会場事前登録（出展者も含める）	419名

2. 東京会場 来場者

会場	使う人	作る人	一般来場者・出展者
東京会場（12月7日～8日）	134名	125名	259名

※ 山口会場は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、会場開催を中止とさせていただきます。
※

3. Web交流プラットフォーム アクセス数

	合計
Web交流プラットフォームトップ画面 総アクセス数 （令和3年10月1日～令和4年1月31日の期間）	9,781回

〈東京会場 交流風景〉



ニーズ・シーズマッチング交流会2022 ご来場者様アンケート

この度は交流会にご来場いただき、誠にありがとうございます。このアンケートは、来場された皆様からご感想・ご意見をうかがい、今後のマッチングに役立てるものです。ぜひご協力ください。代筆などの支援をご希望される方は、受付までお越しください。

I. あなたご自身について	
あてはまる項目に○をつけてください。(ひとつに○)	1. 障害者 2. 障害者家族 3. 施設関係者 4. 医療関係者 5. 支援機器開発企業 6. 行政 7. 研究機関・団体 8. 学校・教育関係者 9. 一般企業(今後、支援機器の開発を目指す企業を含む) 10. その他()
ご参加いただいた日数について教えてください(ひとつに○)	1. 1日のみ(1日目・2日目・3日目のいずれか一つに○) 2. 2日間 3. 3日間
II. 交流会について	
この交流会のことをどのように知りましたか	1. テクノエイド協会からの案内 2. テクノエイド協会のホームページ 3. 所属する障害団体からの案内 4. 経済振興団体からの案内 5. 所属する職能団体からの案内 6. 自治体からの案内・広報誌など 7. 友人・知人からの紹介 8. 新聞・テレビ・ラジオなど 9. その他()
(上記で3, 4, 5を選んだ方) 団体名	
どのような目的で交流会へご来場いただきましたか	1. 具体的に作って欲しい要望やアイデアがあり、企業に伝えたかった 2. 機器の閲覧や体験をしながら意見交換を行いたかった 3. 特定の企業または団体に対して直接伝えたいことがあった 4. 普段困っていることについて相談したかった 5. その他()
どのような交流ができましたか	
会場の立地や利便性はいかがでしたか	1. 大変満足している 2. ある程度満足している 3. どちらとも言えない 4. あまり満足していない 5. 全く満足していない
会場内の配置や展示はいかがでしたか	1. 大変満足している 2. ある程度満足している 3. どちらとも言えない 4. あまり満足していない 5. 全く満足していない
来年も参加したいと思えますか	1. ぜひ参加したい 2. 参加したい 3. どちらともいえない 4. 参加したくない 5. 全く参加したくない
III. 運営・交流会全般について	
交流会全般に関するご意見・感想があれば記載してください(自由記述)	

ご協力ありがとうございました。お帰りの際、アンケート回収箱にご提出ください。

意見交換会、アドバイス支援の実施について

1. 開催のねらい、目的

交流会の成果を着実に支援機器の開発に繋げるため、開発企業の希望に応じて、相談やアドバイス等の開発支援を行うこととする。

具体的には、企業等から要望を個別にうかがい、関係する障害者等との意見交換会やアドバイス支援等の機会を設ける。

また、その成果については、協会のHP等を通じて広く周知し、ニーズとシーズのマッチングを活性化するとともに、来年度以降の開発促進事業の応募を喚起することとする。

意見交換等の具体的な内容は、開発改良中の支援機器について、コンセプトや利活用の場面、想定利用者の適用範囲、機能・性能等の在り方について、ニーズ・シーズ対等の立場にたつて自由な意見交換等を行い、もって障害者現場のニーズに即した開発改良を推進することとする。

2. 期間

令和4年10月24日～

3. 実施方法

交流会の出展企業等に対して、開発改良中の機器について、意見交換会やアドバイスしてほしい内容等を個別にうかがい、想定するユーザの団体等へ繋ぐこととする。

実施は、訪問又は状況に応じてオンライン会議にて行うこととし、意見交換会等への参加については、地域を限定しないこととする。

(1) 実施予定数

5件程度

原則、先着順とする。応募内容が本事業の趣旨に合致するものか、当協会にて確認のうえ実施の可否を決定する。

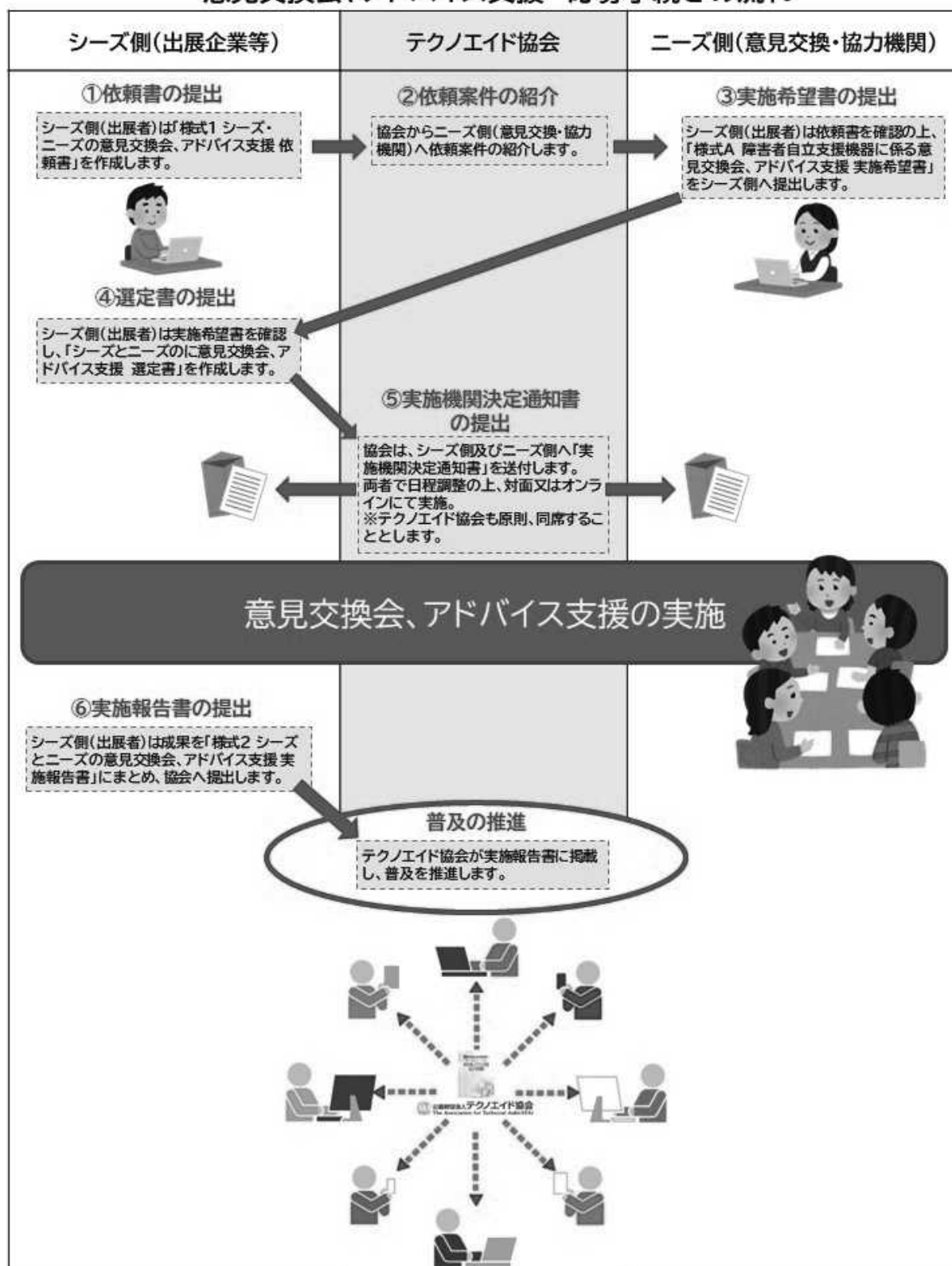
不明瞭な記載や内容に不備がある場合、本事業の趣旨に反する案件等については、受付しないこととする。

(2) ニーズとシーズのマッチング

企業からの個別の要望に対し、ご協力いただく障害者等の団体については、企画委員会のメンバーが所属する団体又は当該団体が紹介する団体等を基本とすることとし、適切な団体等が見当たらない場合には、当協会において関係機関・有識者等と協議のうえ、マッチング先を探すこととする。(但し、どうしてもマッチング先が見つからない場合もあり得ることとする。)

(3) 応募手続きの流れについて

意見交換会、アドバイス支援 応募手続きの流れ



4. 応募の書類及び提出方法

(1) 提出書類

申込に必要な様式は、当協会ホームページよりダウンロードできます。

当協会ホームページ <http://www.techno-aids.or.jp/needsmatch/>

障害者自立支援機器 ニーズ・シーズマッチング強化事業 | 公益財団法人テクノエイド協会 (techno-aids.or.jp)

【提出書類】

- 様式1 シーズ・ニーズの意見交換会、アドバイス支援 依頼書
- 様式2 シーズとニーズの意見交換会、アドバイス支援 実施報告書

(2) 提出方法

電子メールにて受付することとする。(FAXによる提出は不可)

公益財団法人テクノエイド協会 企画部 宇田川、根石(ねいし)、五島

電話番号 03-3266-6883 電子メール shogai-kiki2@techno-aids.or.jp

実施報告のイメージは、以下のとおりである。

<昨年度の例>



〈昨年度の意見交換会、アドバイス支援の様子〉



東京中日新聞 令和4年1月19日 朝刊一面

<https://www.chunichi.co.jp/article/402661>

点字ブロック 声で導く 金沢出身 視覚障害ある芝田さん アプリ開発

2022年1月19日 09時00分 (1月19日 10時16分更新)



黒いリングを付けた点字ブロックを示す芝田さん＝甲府市内で



突起にリング、スマホで読み取り

視覚障害がある元エンジニアで、金沢市出身の芝田真さん（74）＝山梨県北杜市＝が、点字ブロックを活用した独自の音声案内アプリを開発した。ブロックの突起にはめ込んだ黒いリングの配置パターンをスマートフォンで読み取って、現在地や自分が向く方向に何が何かなどを音声で案内する仕組み。屋内など衛星利用測位システム（GPS）が働かない場所でも使え、外国語で音声データを入力すれば外国人の案内も可能。「障害の有無にかかわらず世界中の人に役立つ」という。（五十住和樹）

「ここは」R東京駅中央線ホーム、前は行き止まり、後ろは改札方面下り階段、右は二番線、左は一番線」。電車を降りると、ブロックを検知したスマホから音声案内が流れた。体の向きを百八十度変えると「前は改札方面下り階段、後ろは行き止まり」と案内も変わる。芝田さんが開発したアプリは、こんなイメージで使うことができる。

仕組みはこうだ＝図。分岐点や下り階段など注意すべき場所を知らせる正方形の「警告ブロック」の丸い突起に、八個の黒いリング（直径五センチ）をはめ込む。場所ごとにリングの配置パターンを変え、現在地と前後左右四方の案内文をタブレット端末などでサーバーに登録。ホームドアの有無なども入力できる。

ユーザーは、アプリを入れたスマホのカメラが足先を向く角度に、リュックサックの肩ベルトなどに留める。スマホが配置パターンを認識するたび、入力された案内文が流れる。

15規格では、警告ブロックの突起は最低で二十五個。芝田さんによると、八個のリングで四百五十五のパターンをつくり、それぞれに異なる情報を登録できるようにした。仮に同じパターンのブロックが別の駅にあって、GPSで区別して認識できる仕組みだ。

芝田さんは、長野県諏訪市の精密機器メーカー「セイコーエプソン」で研究開発に携わった、進行性の網膜色素変性症で、視力を徐々に失い、今は道路の白線が辛うじて見える程度だ。

五十六歳で早期退職し、北杜市に移住。「視力を失って自由に出歩きたい」と、既に視覚障害者のインフラとなってい

様式1（ニーズとシーズの意見交換会、アドバイス支援 依頼書）

令和 年 月 日

公益財団法人テクノエイド協会 殿

（依頼者）

〒

住所

事業者名

担当者所属

担当者名

電話番号

電子メールアドレス

ニーズとシーズの意見交換会、アドバイス支援 依頼書

貴法人がニーズ・シーズマッチング強化事業の一環として行う、障害者自立支援機器に係る意見交換会、アドバイス支援の実施について、下記の書類を提出して依頼します。

記

1. 別添「ニーズとシーズの意見交換会、アドバイス支援 依頼概要書」

2. 会社概要（任意様式）

※）会社の概要が簡易なもの

3. これまでの福祉機器に関する実績（任意様式）

※）実績がない場合は、提出不要

（本書類の取扱いと留意事項について）

- ご提出いただく「ニーズとシーズの意見交換会、アドバイス支援 依頼概要書」は、ニーズ側とマッチングする際に利用します。
従って、記載内容は、公開可能な範囲で差し支えありませんが、具体的な記載がない場合には、マッチング先が現れない場合もあり得ることをご了承ください。
- 適切にご協力が得られる障害当事者団体等とマッチングするためにも、記載内容は技術的な事に偏らず理解しやすいものとしてください。
- 協会では記載内容や本事業に関わる各種の相談を受けております。
- 案件によっては、マッチング先が現れない場合もあり得ることをご注意ください。

別添

令和 年 月 日

ニーズとシーズの意見交換会、アドバイス支援 依頼概要書

1. 依頼者（企業）の概要

企業名			
担当者名	部署		氏名
担当者連絡先	住所	〒	
	電話		
	電子メールアドレス		
主たる業種			
主要な製品			
希望する団体や障害等の種別等	(希望する団体) <input type="checkbox"/> 公益社団法人 全国脊髄損傷者連合会 <input type="checkbox"/> 一般社団法人 日本ALS協会 <input type="checkbox"/> 社会福祉法人 日本視覚障害者団体連合 <input type="checkbox"/> 一般社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会 <input type="checkbox"/> ポリオの会 <input type="checkbox"/> ASD（自閉スペクトラム症）生活環境研究会 <input type="checkbox"/> 特定非営利活動法人 日本失語症協議会 <input type="checkbox"/> 社会福祉法人 日本身体障害者団体連合会 <input type="checkbox"/> 社会福祉法人 全国盲ろう者協会 <input type="checkbox"/> その他：（ ）		
希望するものに☑を入れてください 複数選択可	(障害の種別) <input type="checkbox"/> 身体障害（肢体不自由） <input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 高次脳機能障害（失語症等） <input type="checkbox"/> 知的障害（身体介護が必要ないケースを含む） <input type="checkbox"/> 精神障害（発達障害を含む） <input type="checkbox"/> その他（ ）		
特記事項			

2. 当該機器の開発コンセプト又は試作機器等の概要（可能な限り詳しく記入してください。）

機器名称（仮称可）		
試作機器の有無 機器のコンセプト （写真添付）	試作機器の有無	1. 有 ・ 2. 無
	機器の目的及び特徴	

<p>想定する障害者及び使用方法、使用場面</p>	<p>①想定する障害者（又は支援者）</p> <p>②想定する使用場面</p> <p>③想定する使用方法</p>
<p>開発状況及び主な課題</p>	<p>①開発状況</p> <p>②現在の課題</p>
<p>特に意見交換やアドバイスを希望する内容</p>	
<p>特記事項</p>	

(注) 必要に応じて記載欄を増やしてください。

様式2（ニーズとシーズの意見交換会、アドバイス支援 実施報告書）

令和 年 月 日

ニーズとシーズの意見交換会、アドバイス支援 実施報告書

1. 実施概要

障害種別			
機器名称（仮称可）			
型番			
企業名			
連絡先	電話		メールアドレス
交流先			
意見交換やアドバイスに係わった担当者（ <u>全ての方を記載してください。</u> ）	所 属		氏名

2. 実施結果

	実 施 日	実 施 方 法 等
意見交換会やアドバイスの実施		
交流のねらい		
交流の成果 （写真添付）		
開発等、今後の見通し		
その他		

（注）必要に応じて記載欄を増やしてください。

障害者自立支援機器に係る意見交換会、アドバイス支援 実施希望書

1. 希望する案件・機器の名称

案件番号	04-〇〇
企業名	
機器名称(仮称)	

2. 実施体制

実施機関名等			
実施責任者名			
主担当者名			
主担当者連絡先	住所	〒	
	電話		
	電子メールアドレス		
主担当者の職種と 日常業務			
アドバイス(意見交換)に係わる者 (アドバイス等に係わる全ての方を記載してください。)	氏名	所属	資格及び業務経験等、経験年数
			年
			年
意見交換やアドバイスの実績(あれば記載してください)			
その他			

3. 実施機関等の状況

現状の課題	
当案件を希望する理由	

4. 意見交換、アドバイス支援の具体的な実施方法等

具体的な実施方法	訪問可 <input type="checkbox"/>	オンライン <input type="checkbox"/>	相談のうえ決定 <input type="checkbox"/>
----------	------------------------------	--------------------------------	----------------------------------

及び内容等	<p>◆実施を希望する日時等</p> <p>(1)日時 令和〇年〇月〇日(〇)</p> <p>(2)場所</p> <p>(3)テクノエイド協会の同席</p>
	<p>◆実施方法等</p>
	<p>◆実施にあつての留意等</p>

(注)必要に応じて記載欄を増やしてください。

障害者自立支援機器 ニーズとシーズの 意見交換会、アドバイス支援



公益財団法人テクノエイド協会
<http://www.techno-aids.or.jp>

障害者自立支援機器のニーズとシーズの意見交換、アドバイス支援

公益財団法人テクノエイド協会

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1セントラルプラザ4F

HP : <http://www.techno-aids.or.jp>

TEL : 03-3266-6883

本事業は「令和4年度ニーズ・シーズマッチング強化事業」の一環として行うものです。

目次

障害種別 視覚障害

- 機器名称
平面画像の立体認識技術・製品
- 開発企業等
株式会社一心助け
- 協力機関
社会福祉法人 日本視覚障害者団体連合
社会福祉法人 日本視覚障害者団体連合

障害種別 身体障害

- 機器名称
To walk
- 開発企業等
株式会社ロボの耳
- 協力機関
川崎市社会福祉事業団 れいんぼう川崎

障害種別 身体障害

- 機器名称
オゾン⁺電解水生成器-移動式オゾン⁺
電解微細気泡水床上入浴ユニット
- 開発企業等
株式会社アクアエコテック
- 協力機関
一般社団法人 日本ALS協会
公益社団法人 全国青髄損傷者連合会

はじめに

障害者及び障害児(以下「障害者」。)の自立を支援する「障害者自立支援機器(以下「支援機器」)は、障害者の活動や参加を促すものとして、大変重要な役割を果たすものです。

一方、障害者福祉の現場において、真に必要とされる支援機器を開発するためには、機器開発の着想段階からユーザーや支援者の「ニーズ」と、開発や研究者等の「シーズ」をマッチングすることが大切であり、シーズ志向の開発とならないよう、障害者の置かれている状態は勿論のこと、現場の課題やニーズを的確に捉えた支援機器の開発に繋げる取り組みが重要となります。

このような背景のもと、当協会では、「ニーズ・シーズ・マッチング交流会」を開催し、実用的な支援機器が開発されるよう、試作機等を用いて想定するユーザーと開発側が膝を交えて意見交換できる場を設けるとともに、当協会のホームページ上に「Web交流プラットフォーム」を設置し、オンラインによる交流を推進したところですが、本年度は、さらに交流の成果を着実に支援機器の開発に繋げるため、開発企業から個別に希望を募り、障害当事者団体等にもご協力を頂き、障害者自立支援機器に係る意見交換会、アドバイス支援を実施しました。

この実施報告は、その成果概要を取り纏めたものです。今後の支援機器の開発にあたり、ニーズとシーズが互いの立場を理解しあい、真に必要とされる支援機器の開発・普及に繋がれば幸いです。

令和5年3月

公益財団法人テクノエイド協会

障害者自立支援機器に係る意見交換会、アドバイス支援の実施について

01 | 目的

交流会の成果を着実に支援機器の開発に繋げるため、開発企業の希望に応じて、相談やアドバイスの開発支援を行った。
具体的には、企業等から要望を個別にうかがい、関係する障害者等との意見交換会やアドバイス支援等の機会を設けた。

また、その成果については、協会のHP等を通じて広く周知し、ニーズとシーズのマッチングを活性化するとともに、来年度以降の開発促進事業の応募を喚起することとした。

意見交換等の具体的な内容は、開発改良中の支援機器については、コンセプトや利活用の場面、想定利用者の適用範囲、機能・性能等の在り方について、ニーズ・シーズ対等の立場にたつて自由な意見交換等を行い、もって障害者現場のニーズに即した開発改良を推進することとした。

02 | 期間

令和4年10月24日～

03 | 実施方法

交流会の出展企業等に対して、開発改良中の機器について、意見交換会やアドバイスしてほしい内容を個別にうかがい、想定するユーザーの団体等へ繋ぐこととした。

実施は、訪問又は状況に応じてオンライン会議にて行うこととし、意見交換会等への参加については、地域を限定しないこととする。また、大阪会場や東京会場についても積極的に活用することとした。

(1) 実施予定数

5件程度

原則、先着順とした。応募内容が本事業の趣旨に合致するものか、当協会にて確認のうえ実施の可否を決定した。

不明瞭な記載や内容に不備がある場合、本事業の趣旨に反する案件等については、受付しないこととした。

(2) ニーズとシーズのマッチング

企業からの個別の要望に対し、ご協力いただく障害者等の団体については、企画委員会のメンバーが所属する団体又は当該団体が紹介する団体等を基本とすることとし、適切な団体等が見当たらない場合には、当協会において関係機関・有識者等と協議のうえ、マッチング先を探ることとした。(但し、どうしてもマッチング先が見つからない場合もあり得ることとした。)

(3) 応募の書類及び方法について

● 提出書類

- 様式1 ニーズ・シーズの意見交換会、アドバイス支援 依頼書
 - 様式2 ニーズ・シーズの意見交換会、アドバイス支援 実施報告書
- 関係書類:<http://www.techno-aids.or.jp/needsmatch/>

● 提出方法

電子メールにて受け付けることとする。(FAXによる提出は不可)
公益財団法人テクノエイド協会 企画部 担当者 宇田川、榎石、五島
電話番号 03-3266-6883
電子メールアドレス shogai-kiki2@techno-aids.or.jp

● 提出期限

先着順とするため、応募件数に達し次第、受付を終了することとした。
また、マッチングが成立しない場合もあり得ることをご留意ください。

04 | 問い合わせ先

公益財団法人テクノエイド協会 企画部

担当者 宇田川、榎石、五島
電話番号 03-3266-6883
電子メールアドレス shogai-kiki2@techno-aids.or.jp

05 | 実施結果

案件番号	障害種別	機器名称	開発企業等	協力機関
04-01	視覚障害	平面画像の立体認識技術・製品	株式会社一心助け	社会福祉法人 日本視覚障害者団体連合
04-02	身体障害	To walk	株式会社ロバの耳	川崎市社会福祉事業団 れいんほう川崎
04-03	身体障害	オゾン・電解水生 成器-移動式オ ゾン・電解微細気 泡水床上入浴工 ネット	株式会社 アクアエコテック	一般社団法人 日本ALS協会 公益社団法人 全国脊髄損傷者連合会

平面画像の立体認識技術・製品

株式会社 一心助け

電話 04-7132-2415

社会福祉法人 日本視覚障害者団体連合

社会福祉法人 全国盲ろう者協会

社会福祉法人 鷹見会

徳山工業高等専門学校 機械電気工学科

事業部 部長 達坂 忠

事務局 村岡 美和

理事長 松本 真紀

博士 三浦 靖一郎

実施結果

2022年12月15日	交流会場にて意見交換を実施(全国盲ろう者協会、鷹見会)
2022年12月16日	交流会場にて意見交換を実施(日本視覚障害者団体連合)
2022年12月16日	交流会場にて意見交換を実施(徳山工業高等専門学校)

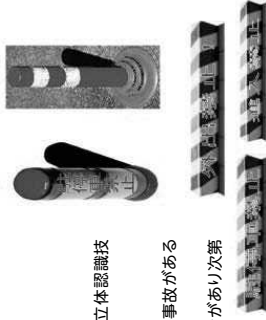
交流のねらい

障害者の要望や改善してほしい機器等について、歩道、商業施設などで走行時の問題点について、平面画像の立体認識技術・製品の張付効果と希望について、開発案件機器について。

歩道、商業施設などで走行時の問題点について、また、弊社平面画像の立体認識技術・製品の貼付効果と希望についてお聞きしたい。

上記意見交換内容
東京都内などの歩道で障害者に自転車や歩行者がぶつかり転倒などの事故がある
ので、該当歩道等に施工してほしいことについて。

皆様から市役所などに要望を出され、弊社も折を見て同方が先方から打診があり次第
先方と協議する。



施工予定の平面画像の立体視シート

交流の成果

① 流山市内での施工の成果

12月15日に交流会場で日本視覚障害者団体連合と意見交換を実施したことを踏まえ、柏市チャレンジ支援事業補助金を利用して下記の場所へ平面画像の立体視シートを貼付した。

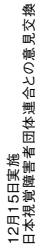
流山市での実証実験の際には障害者などへの効果検証してほしいことについて
実証検証施工し、近隣・歩行者・障害者・車椅子通行者などに効果などを聞き取りました結果、大変喜ばれたので機会を見て市役所等に要望し、意見交換者とも共有する。

【施工年月】

令和4年12月24日(土)・25日(日)

【施工場所】

流山市5丁目・流山市向小金福祉会館入り口信号交差点から向小金ふれあい公園まで約200m・流山市野々毛3丁目バス停中心とした約200m歩道 左側(コンピ二側)・流山市麓ヶ崎歩道方側(右側)



12月15日車座
日本視覚障害者団体連合との意見交換

交流の成果

【千葉県流山市土木部道路管理課からのご要望】

狭い道(流山5丁目)から道路の出入り口はボールの設置が困難であり、施工して安全対策をしたい。また、近くにも小学校があり、白線上に三角コーンを臨時設置しているが、それに代わって平面画像の立体視シート(ボール)を貼付して安全強化を図りたい。また、急坂で自転車が出して歩道を行くのを徐行注意喚起し、歩行者などの安全を図りたい。(野々毛・麓ヶ崎共に)

【施工状況】

流山市5丁目:対向車相互と大型車とオートバイも施工画像シートを避けて走行。(図1,2)

小学生通学道路:通学安全確保と自動車走行と安全性問題なし(整理員:非常に良いとのこと)お年寄り・車椅子走行・ベビーカー・障害者にも喜ばれる。(図3,4)

歩行者安全確保と自動車走行と安全性問題なし(通行人(主婦)。施工してから自転車の激走がなくなり安心して歩道走行できる)。この歩道から側道(自動車道路白線歩道寄り)を自転車が行き交う。お年寄り・車椅子走行・ベビーカー・障害者にも喜ばれる。(野々毛地区)(図5,6)

走行する自転車はみながすぐに、徐行により坂を走行して、歩行者との安全は保たれていた。画像上を歩行したり、自転車で行く問題なし。お年寄り・車椅子走行・ベビーカー・障害者にも喜ばれる。(麓ヶ崎地区)



【図1】



【図2】



【図3】



【図4】



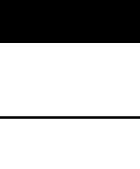
【図5】



【図6】



【図7】



【図8】

② 社会福祉法人 鷹見会での施工の成果

社会福祉法人 鷹見会要望のディスプレイビス該者の無断外出・送迎車駐車場外部無断駐停車の減少の為の施工は当初施工日雪の為2月2日に行うこととした。

1月初旬に現場にて適合・要望平面画像を聞き、業者に発注し準備が出来上がった。

【施工予定日】

令和5年2月2日(木)天候不順により1月施工予定延びる。

【施工場所】 社会福祉法人 鷹見会

【施工目的】

ディスプレイビス該者の無断外出・送迎車駐車場外部無断駐停車の減少

※今回は場所決めのため、貼付けせずにシートを置くこととした。(図7,8)

③ 徳山工業高等専門学校との助成金活用による機器開発について

徳山工業高等専門学校 機械電気工学科 博士 三浦 靖一郎氏より弊社の知財をICT活用により社会実装へとつなげるための情報交換をした。中でも、助成金を活用した機器開発や共同事業化に向けて今後も情報交換をすることにいった。

上記は流山市とこの意見交換内容を反映したものでの施工をした。

意見交換等を踏まえ、障害者などの歩行や移動の為に貴機関をはじめ関係各位による都道府県・各市町村などの自治体・商業施設などへ(弊社でも積極的に開発します)安心安全なこの技術製品の活用及び採用を是非ともお願いしていただきたい。白紙による安全安心走行機器開発を進めます。Android等でのプログラミング等研究開発中である。

会場での日本視覚障害者団体連合様との意見交換で千葉県の支部の方々をご紹介いただいたとのことでしたが、現在まで連絡が見られていない。

To walk
 株式会社ロボの耳
 定形型・カスタム型
 電話 022-346-6117

川崎市社会福祉事業団
 れいんぼう川崎

理学療法士 小磯 さおり様
 理学療法士 安本 弥生様
 理学療法士 呂本 麻美様
 理学療法士 山岸 保則様
 リハビリテーション科医師 齋藤 薫様
 被検者の方 3名
 川崎市リハビリテーションセンター 南部・中部・北部センターの皆様

実施結果

12月12日	訪問対面及び、Web参加
1月10日	訪問対面
1月31日	訪問対面・予定

交流のねらい

当社の足底支持具「To walk」は、麻痺等により足の指が変形した方の動作改善を目的として開発された自動具です。2次的な障害として取り扱われるケースも多く、リハビリの専門機関に於いて、製品評価を実施して頂く事が非常に困難な状況でした。
 今回、多くのリハビリテーションに携わる専門の職員の皆様、実際に足の指が変形している皆様のご意見やアドバイスを頂く機会を得た事に感謝申し上げます。
 被検者の方、3名のうち、2名の方が「To walk」を装着した状態で、従前よりも立位や歩行時の安定感を得るというご評価を頂きました。
 また、1名の方は、カスタム型のモニター希望を頂き、現在、フィッティング調整を行っております。

交流の成果

カスタム型のモニター希望を申し出て頂いた方のフィッティング調整を通じて、足の指を同一の高さで支持するのではなく、高さを調整する必要が存在する事を確認できました。
 足の指の親指～薬指(第一指～第四指)は、高さ10mm、小指(第五指)は7mmでデザインした製品をご提供する予定です。
 技術的に可能なデザイン変更で、より皆様に効果の高い製品をお届けする事が可能となる事に気づかされる貴重な機会となりました。
 関係各所の皆様に深く御礼申し上げます。

様々なご意見を伺いする事により、To walkを必要とされる皆様の生活動作の改善に寄与する製品として開発を進めて参りたいと考えております。

当日は、テクノエイト協会企画部 宇田川 電吾様にご同席頂きました。



オゾン+電解水生成器-移動式オゾン+
 電解微細気泡水床入浴ユニット
 株式会社アコアエコテック
 AQUA-BBU50
 電話 045-334-8984

一般社団法人 日本ALS協会
 協会本部 常務理事
 ALSの患者様
 岸川 忠彦
 非会員の方

実施結果

令和4年12月12日	日本ALS協会事務局をご訪問して対面交流
令和4年12月15日	ニース・シース・スマッシング交流会にて足浴を体験実施

交流のねらい

ALSという疾患の特性や日常生活の状況の理解も含めて支援機器についてアドバイスや意見を頂きたい。また、ALS患者や介護者のおかれた現状などを理解した上で、どのような製品を開発すればお役に立つのかを確認したい。

交流の成果

- ALSは中途障害がほとんどであり、長い期間を経て手足や口の不自由から全身へ病気が進行していく。
- 寝たきりの患者さんはそのほとんどが高齢者ということだ。
- ベッド浴よりかは浴室にて湯船に浸かりたいというニーズが高い。
- 現状は、週2回ほど休養制度で訪問入浴サービスを利用している。
- ベッド入浴は、寝たきりになると全身を動かすことが困難であり、気管切開口に菌が入らないように浴槽内の頭の高さも重要である。
- 訪問入浴回数を増やしたいが、訪問入浴を行うサービス会社が少ないのが現状であり、気軽に入浴を利用できるとよい。



オゾン+電解水生成器-移動式オゾン+電解微細気泡水床入浴ユニット



会場では移動式電解オゾン微細気泡水床入浴ユニットから生成した電解水湯を容器に移してALS患者様に足浴を体験していただいた。

患者様からは「昨年からは「昨年からは車いす生活になって足が冷たくてむくんでとても辛かった。足浴後、ポカポカになってとても気持ちよかったです」とご意見を頂戴しました。また、右図の通り、電解水湯の効果により汚れが浮き上がるのを見てびっくりしていました。足浴後、展示中のエア浴槽(全身入浴用)を見て「できればこのお風呂に入りたい」という感想をいただきました。

ニース・シース・スマッシング交流会での体験実施を通して、車いす生活まで病状が進行されてしまった患者様に足浴ができる小型機が非常に役に立つことがわかりました。今後協会のイベント等にてより多くの方に体験して頂き、より具体的なご意見とアドバイスを伺いできればと思います。

オゾン+電解水生成器-移動式オゾン+
電解微細気泡水床入浴ユニット AQUA-8BU50
株式会社アコアエコテック
電話 045-334-8984

公益社団法人 全国脊髄損傷者連合会

常務理事 事務局長

事務局

安藤 信哉

吉谷 香織

交流会に来場された脊髄損傷者の皆様

実施結果

令和4年12月9日	ZOOMにて交流と意見交換
令和4年12月14日	ニース・シズマツチング交流会にて足浴を体験実施
令和4年12月16日	ニース・シズマツチング交流会にて足浴を体験実施

交流のねらい

交流を通してメーカーとしてご提案したオゾン+電解水生成器-移動式オゾン+電解気泡水床入浴ユニットの狙いと機能についてニース側のご意見をお伺いしたい。

主に以下の2点について確認したい。

- ①デモ機についてのアドバイザー
- ②メーカーへのご希望

交流の成果

- 出展の試作機について、個人での在宅利用は価格的に厳しいのではないか。
- 訪問入浴や災害時では非常に役に立つのではないかと。
- 体験して足浴での効果を知り、オゾン+電解水生成の小型機でも試してみたくなくなった。
- また、足浴と陰部・褥瘡の部位の除菌洗浄は重要と思う。
- 機器の可能性を感じる。用途についてさらに考えてみてはどうか。

①12月14日

脱損傷による全身不随の方に試していただいた。



交流の成果

足のむくみが酷く皮膚の表面が硬く、ガザガザした状態の箇所があった。

また、足指近くに淤血おけつが見受けられた。

※ 淤血とは、血の流れが悪くなって滞っている状態を指す



移動式電解オゾン微細気泡水床入浴ユニットから生成した電解水湯を容器に移し、計27分間ほど足浴をしていただき、2回水を取り替えた。

体験者からは「車イスにずっと乗っているとどうしても足のむくみがとれず辛い。いつも皮膚が乾燥しており、くるぶしのところはガサガサ状態で硬くなったままであきらめていました。足浴させていただきこのガサガサがすっかりとれてつるつるになったのは驚いた。また足指部分の黒ずんだ淤血皮膚がだんだん色も薄くなってむくみの解消とともに健康な皮膚の色になったのがうれしかった」とコメントをいただいた。

②12月16日

車イスをご使用されている脊髄損傷により半身不随の方に試していただいた。

ご本人は足の感覚がなく、足湯をする前は足が凍っているように冷たかった。

足浴の経過や結果の実感をつかえなかったが、水面に浮き上がってくる汚れにご本人はビックリされていた。オゾン+電解水生成の除菌消臭効果の仕組みをご説明して興味をもっていただいた。薬剤など一切使わず水道水を電気分解するだけで生成する電解オゾン微細気泡水による入浴、足浴、清拭の効果を一人でも多くの方に実感していただきたいと思う。



- ①デモ機に対してのアドバイザーを設計・修正に反映してより障害者方が使いやすいように仕上げたいと考えております。
- ②ご希望の小型機について、近々デモ機を作り、足浴などで効果を確かめて頂きたいと考えております。

ニース・シズマツチング交流会のアンケートに小型機の試用をご希望されましたので、令和5年2月ごろ、小型機を数機連合会側に提出し、更に体験して頂いてより具体的にのご意見とアドバイザーをお伺いする予定です。

令和4年度
ニーズ・シーズマッチング強化事業

令和5年3月	発行
発 行 者	公益財団法人テクノエイド協会
	〒162-0823
	東京都新宿区神楽河岸1番1号 セントラルプラザ4階
	TEL 03-3266-6883 FAX 03-3266-6885

この事業は、厚生労働省から令和4年度障害者総合支援事業費補助金の交付を受けて実施したものである。